

拝 東 遺 跡

—緊急地方道路整備事業（鳴門池田線）関連埋蔵文化財発掘調査報告書—

《第1分冊》

2016

徳 島 県 教 育 委 員 会
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



2区竪穴住居 (SB1003) 内の鍛冶炉



2区竪穴住居 (SB1003) 内出土遺物

序 文

この度、緊急地方道路整備事業（鳴門池田線）関連埋蔵文化財発掘調査の正式報告書がまとまりましたのでここに刊行いたします。県道鳴門・池田線は吉野川北岸の鳴門市から三好市を東西にほぼ一直線に結ぶ主要地方道です。その路線のほぼ中間地点にあたる美馬市脇町地区においてバイパス工事が行われることになり、その事前発掘調査として実施されたのが伴東遺跡発掘調査です。当調査は、用地取得状況に合わせて平成16年度から平成19年度にかけて、延べ23ヶ月間、断続的に実施いたしました。

今回の発掘調査では、弥生時代前期、後期の集落遺跡や鎌倉時代から室町時代にかけての中世の集落遺跡などが検出され、数多くの遺構・遺物が発見されました。これらの遺構・遺物は当該地域の歴史を明らかにする上で貴重な資料となるものです。今後、本書が当該地域及び本県の歴史を解明する上で貴重な資料として活用され、広く文化財保護の一助となることを期待したいと思います。

末尾ではありますが、この度の発掘調査の実施により、貴重な成果を上げることができましたのも、関係諸機関ならびに地元の皆様の多大な御理解、御協力のお陰であり、心から感謝申し上げます。また、発掘調査及び報告書作成等に当たっては、徳島県教育委員会をはじめ関係各位から貴重な御指導・御教示を賜りました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後も、当センターの事業について一層御支援下さるようお願い申し上げます。

平成28年3月

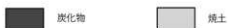
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
理事長 福 家 清 司

例 言

- 1 本書は緊急地方道路（鳴門池田線）整備事業に伴い、平成 16（2004）年度から平成 19（2007）年度にかけて実施した拝東遺跡（美馬市脇町 所在）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、徳島県からの委託により公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査及び報告書作成期間は次の通りである。
 - ・発掘調査期間
平成 16 年度：平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日
平成 17 年度：平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 7 月 31 日
平成 18 年度：平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 4 月 30 日
平成 19 年度：平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日
 - ・整理作業・報告書作成期間
平成 20 年度：平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日
平成 21 年度：平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
平成 22 年度：平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
平成 25 年度：平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
平成 26 年度：平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 5 月 31 日
平成 27 年度：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 1 月 31 日
- 4 遺構番号は調査時のものを基本的に踏襲し、調査区毎に付与している。遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・観察表・図版と一致する。
- 5 第 2 図は、国土地理院発行の 1：50,000 の地形図「脇町」を転載・改変したものである。第 7 図は国土地理院発行の 1：50,000 の地形図「脇町」を転載・改変した徳島県教育委員会発行の『徳島県遺跡地図』を転載・改変したものである。
- 6 本書の執筆は I-1 を県教育委員会が行い、それ以外の執筆と編集は氏家敏之が行った。遺構写真は調査担当者が、遺物写真は氏家敏之が担当した。
- 7 本書に収録した遺物及び写真・図版などの記録の一切は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86 番 2 に所在する徳島県立埋蔵文化財総合センターに保管している。

凡 例

- 1 遺構の表示は徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による記号を用いた。
SA：掘立柱建物 SB：竪穴住居 SD：溝 SI：水田 SK：土坑 SO：炭窯
SP：柱穴 SR：自然流路 SU：集石遺構 SX：性格不明不定形遺構
遺構番号は、基本的に4桁で表示している。4桁目の番号は遺構面数を表し、以下の3桁が遺構の
通し番号を表す。
遺構の掲載サイズは、SKは1/40、SPは1/20、大形遺構は1/50～1/600で掲載し、各スケールに
縮尺を表示している。
- 2 方位、座標は旧日本測地系（第IV座標系）に、高さは東京湾標準潮位（T.P.）に準拠する。
- 3 本書で用いた土層及び土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帳』2011年度版、およ
び細野尚志編『標準色彩図表A』に準拠する。遺構平面図中の焼土、炭化物の範囲は以下のスクリー
ントーンで表現している。



また遺構断面図中の土器、石、金属製品、骨については、以下のドットを用いて表示している。

土器・土製品 ● 石・石製品 ■ 銭貨・金属製品 ▲ 骨 ○

- 4 遺物の掲載サイズは、原則下記のものに統一した。
土器・土製品：1/3（一部1/2・1/4） 石器・鉄器：1/2（一部1/3）
- 5 図版及び表は基本的に通し番号である。
- 6 観察表中の弥生土器、中世の搬入土器、輸入磁器の分類に関しては以下の文献を参考にして記載し
ている。
森田 勉 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4集 九州歴
史資料館
森田 勉 1981「鎌倉出土の中国陶磁器に関して」『貿易陶磁』No.1日本貿易陶磁研究会
上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁』No.2日本貿易陶磁研究会
小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁』No.2日本貿易陶磁研究会
古代の土器研究会編 1994『古代の土器3 都城の土器集成Ⅲ』真陽社
中世土器研究会編 1995『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
『南蔵本遺跡 — 県立中央病院改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書—』2014（公財）徳島県埋蔵
文化財センター
近藤 玲「阿波東部地域における古墳時代前期の土器編年」2014『古式土師器の編年の研究』四国

考古学研究会

田川 憲「阿波・吉野川上・中流域の古式土師器」2014『古式土師器の編年的研究』四国考古学研究会

- 7 土器観察表中の胎土（含有物）の略号は石（石英）、結（結晶片岩）、長（長石）、雲（雲母）、赤（赤色粒）、黒（黒色粒）、泥（泥岩）、砂（砂岩）、角（角閃石）、チャ（チャート）を表している。

本文目次

《第1分冊》

I	調査及び整理の経緯	1
1	発掘調査の経緯と経過	3
2	発掘調査の方法	4
3	整理業務の経過	6
4	発掘調査・整理業務の体制	8
5	調査日誌抄	11
II	遺跡の立地と歴史的環境	15
1	遺跡の立地	17
2	歴史的環境	18
III	調査成果	21
1	基本層序	23
①	調査区の微地形	23
②	遺構面	23
③	基本層序	23
2	遺構と遺物	23
(1)	0-1区	23
(2)	0-2区	29
①	第1遺構面	29
②	第2遺構面	49
(3)	1-0区	61
①	第1遺構面	61
②	第2遺構面	66
(4)	1-1区西	85
(5)	1-1区東	126
(6)	1-2区	158
(7)	2区	202
(8)	3-1区	265
(9)	3-2区	307
IV	まとめ	335
1	弥生時代	337
2	中世	343

《第2分冊》

遺構観察表	347
遺物観察表	437
写真図版	533

挿図目次

《第1分冊》

第1図 拜東遺跡の位置① (1/2,000,000)	3	第27図 0-2区SK1007出土遺物	38
第2図 拜東遺跡の位置② (1/50,000)	4	第28図 0-2区SO1001平断面図 (1/40)	39
第3図 拜東遺跡の位置と調査状況 (1/2,500)	5	第29図 0-2区SO1001出土遺物	40
第4図 グリッドの配置方法 (1/1,250)	6	第30図 0-2区SO1002 (旧1b面SO1001)平断面図 (1/40)	40
第5図 拜東遺跡の調査区の名称とグリッドの配置 (1/2,500)	7	第31図 0-2区SX1001平断面図 (1/40)	41
第6図 明治34年発行の地形図からみた拜東遺跡の位置 (1/50,000)	17	第32図 0-2区SX1001出土遺物	42
第7図 拜東遺跡とその周辺の遺跡 (1/50,000)	18	第33図 0-2区第2遺構面平面図 (1/200)	43
第8図 調査区の位置と土層観察地点 (1/2,500)	24	第34図 0-2区SB2001平面図 (1/50)	44
第9図 土層柱状図①	25	第35図 0-2区SB2001平断面図 (1/50)	45
第10図 土層柱状図②	26	第36図 0-2区SB2001EH・EP断面図 (1/20)	46
第11図 土層柱状図③	27	第37図 0-2区SB2001出土遺物	47
第12図 0-1区平面図 (1/150)	28	第38図 0-2区SK2015平断面図 (1/40)	48
第13図 0-1区SK1001平断面図 (1/40)	29	第39図 0-2区SK2015出土遺物	48
第14図 0-1区包含層出土遺物	29	第40図 0-2区SK2031平断面図 (1/40)	49
第15図 0-2区第1遺構面平面図 (1/200)	30	第41図 0-2区SK2031出土遺物	49
第16図 0-2区SD1001平面図 (1/80)	31	第42図 0-2区SK2044・SK2049・SK2051平断面図 (1/40)	50
第17図 0-2区SD1001断面図 (1/40)	31	第43図 0-2区SK2044出土遺物	51
第18図 0-2区SI出土遺物	32	第44図 0-2区SK2049出土遺物	51
第19図 0-2区SK1001平断面図 (1/40)	32	第45図 0-2区SK2051出土遺物	51
第20図 0-2区SK1001出土遺物	33	第46図 0-2区SU2001平断面図 (1/40)	52
第21図 0-2区SK1003平断面図 (1/40)	34	第47図 0-2区SU2001出土遺物	53
第22図 0-2区SK1003出土遺物	35	第48図 0-2区SU2002平断面図 (1/40)	54
第23図 0-2区SK1004平断面図 (1/40)	36	第49図 0-2区SU2002出土遺物	54
第24図 0-2区SK1006平断面図 (1/40)	37	第50図 0-2区SU2003平断面図 (1/40)	54
第25図 0-2区SK1006出土遺物	37	第51図 0-2区SX2002平断面図 (1/40)	55
第26図 0-2区SK1007平断面図 (1/40)	38	第52図 0-2区SX2002出土遺物	56

第 53 图	0-2 区包含层出土遗物①	57	第 89 图	1-0 区 SK2036 出土遗物	79
第 54 图	0-2 区包含层出土遗物②	58	第 90 图	1-0 区 SK2037 平断面图 (1/40)	80
第 55 图	0-2 区包含层出土遗物③	59	第 91 图	1-0 区 SK2037 出土遗物	80
第 56 图	1-0 区第 1 道横面平面图 (1/200)	60	第 92 图	1-0 区 SK2044 平断面图 (1/40)	80
第 57 图	1-0 区 SD1001 平断面图 (1/40)	61	第 93 图	1-0 区 SK2044 出土遗物	81
第 58 图	1-0 区 SD1001 出土遗物	61	第 94 图	1-0 区 SU2002 平断面图 (1/40)	81
第 59 图	1-0 区 SI 畦平断面图 (1/80 · 1/40)	62	第 95 图	1-0 区 SU2002 出土遗物	81
第 60 图	1-0 区 SI 出土遗物	63	第 96 图	1-0 区 SU2003 平断面图 (1/40)	81
第 61 图	1-0 区 SK1002 平断面图 (1/40)	64	第 97 图	1-0 区 SU2003 出土遗物	81
第 62 图	1-0 区 SK1002 出土遗物	64	第 98 图	1-0 区包含层出土遗物①	82
第 63 图	1-0 区 SK1004 平断面图 (1/40)	64	第 99 图	1-0 区包含层出土遗物②	83
第 64 图	1-0 区 SK1004 出土遗物	64	第 100 图	1-1 区西平面图 (1/250)	84
第 65 图	1-0 区 SK1006 平断面图 (1/40)	65	第 101 图	1-1 区西 SA1001 平断面图 (1/50)	85
第 66 图	1-0 区 SK1006 出土遗物	65	第 102 图	1-1 区西 SA1002 平断面图 (1/50)	86
第 67 图	1-0 区 SK1013 平断面图 (1/40)	65	第 103 图	1-1 区西 SA1003 平断面图 (1/50)	87
第 68 图	1-0 区 SK1014 平断面图 (1/40)	66	第 104 图	1-1 区西 SA1004 平断面图 (1/50)	88
第 69 图	1-0 区 SK1014 出土遗物	66	第 105 图	1-1 区西 SA1005 平断面图 (1/50)	89
第 70 图	1-0 区第 2 道横面平面图 (1/200)	67	第 106 图	1-1 区西 SA1006 平断面图 (1/50)	90
第 71 图	1-0 区 SB2001 平断面图 (1/50)	68	第 107 图	1-1 区西 SA1007 平断面图 (1/50)	91
第 72 图	1-0 区 SB2001 出土遗物	69	第 108 图	1-1 区西 SA1008 平断面图 (1/50)	92
第 73 图	1-0 区 SB2002 · SB2003 平断面图① (1/50)	70	第 109 图	1-1 区西 SD1001 平断面图 (1/80 · 1/40)	93
第 74 图	1-0 区 SB2002 · SB2003 平断面图② (1/50)	71	第 110 图	1-1 区西 SD1001 出土遗物	94
第 75 图	1-0 区 SB2002 · SB2003 平断面图③ (1/50)	72	第 111 图	1-1 区西 SK1003 平断面图 (1/40)	95
第 76 图	1-0 区 SB2003 出土遗物	73	第 112 图	1-1 区西 SK1007 平断面图 (1/40)	95
第 77 图	1-0 区 SK2004 平断面图 (1/40)	74	第 113 图	1-1 区西 SK1007 出土遗物	95
第 78 图	1-0 区 SK2004 出土遗物	74	第 114 图	1-1 区西 SK1012 平断面图 (1/40)	96
第 79 图	1-0 区 SK2019 · SK2020 平断面图 (1/40)	75	第 115 图	1-1 区西 SK1012 出土遗物	96
第 80 图	1-0 区 SK2019 出土遗物	75	第 116 图	1-1 区西 SK1016 平断面图 (1/40)	96
第 81 图	1-0 区 SK2023 平断面图 (1/40)	76	第 117 图	1-1 区西 SK1016 出土遗物	96
第 82 图	1-0 区 SK2023 出土遗物	76	第 118 图	1-1 区西 SK1017 平断面图 (1/40)	97
第 83 图	1-0 区 SK2027 · SK2028 平断面图 (1/40)	77	第 119 图	1-1 区西 SK1017 出土遗物	97
第 84 图	1-0 区 SK2027 出土遗物	77	第 120 图	1-1 区西 SK1019 平断面图 (1/40)	97
第 85 图	1-0 区 SK2028 出土遗物	78	第 121 图	1-1 区西 SK1024 平断面图 (1/40)	98
第 86 图	1-0 区 SK2034 平断面图 (1/40)	79	第 122 图	1-1 区西 SK1024 出土遗物	98
第 87 图	1-0 区 SK2034 出土遗物	79	第 123 图	1-1 区西 SK1025 平断面图 (1/40)	98
第 88 图	1-0 区 SK2036 平断面图 (1/40)	79	第 124 图	1-1 区西 SK1028 平断面图 (1/40)	99
			第 125 图	1-1 区西 SK1028 出土遗物	99
			第 126 图	1-1 区西 SK1029 平断面图 (1/40)	99
			第 127 图	1-1 区西 SK1029 出土遗物	99
			第 128 图	1-1 区西 SK1031 · SK1032 平断面图	

(1/40)-----	100	第169图	1-1区西SP1350平断面图 (1/20)-----	111
第129图	1-1区西SK1031出土遗物-----	第170图	1-1区西SP1350出土遗物-----	111
第130图	1-1区西SK1032出土遗物-----	第171图	1-1区西SP1351平断面图 (1/20)-----	111
第131图	1-1区西SP1112平断面图 (1/20)-----	第172图	1-1区西SP1351出土遗物-----	111
第132图	1-1区西SP1112出土遗物-----	第173图	1-1区西SP1355平断面图 (1/20)-----	112
第133图	1-1区西SP1141平断面图 (1/20)-----	第174图	1-1区西SP1355出土遗物-----	112
第134图	1-1区西SP1141出土遗物-----	第175图	1-1区西SP1358平断面图 (1/20)-----	112
第135图	1-1区西SP1198平断面图 (1/20)-----	第176图	1-1区西SP1358出土遗物-----	112
第136图	1-1区西SP1198出土遗物-----	第177图	1-1区西SP1370平断面图 (1/20)-----	114
第137图	1-1区西SP1204平断面图 (1/20)-----	第178图	1-1区西SP1370出土遗物-----	114
第138图	1-1区西SP1204出土遗物-----	第179图	1-1区西SP1389平断面图 (1/20)-----	114
第139图	1-1区西SP1210平断面图 (1/20)-----	第180图	1-1区西SP1389出土遗物-----	114
第140图	1-1区西SP1210出土遗物-----	第181图	1-1区西SP1392平断面图 (1/20)-----	115
第141图	1-1区西SP1216平断面图 (1/20)-----	第182图	1-1区西SP1392出土遗物-----	115
第142图	1-1区西SP1216出土遗物-----	第183图	1-1区西SP1402平断面图 (1/20)-----	115
第143图	1-1区西SP1221平断面图 (1/20)-----	第184图	1-1区西SP1402出土遗物-----	115
第144图	1-1区西SP1221出土遗物-----	第185图	1-1区西SP1408平断面图 (1/20)-----	116
第145图	1-1区西SP1250平断面图 (1/20)-----	第186图	1-1区西SP1408出土遗物-----	116
第146图	1-1区西SP1250出土遗物-----	第187图	1-1区西SP1409平断面图 (1/20)-----	116
第147图	1-1区西SP1252平断面图 (1/20)-----	第188图	1-1区西SP1409出土遗物-----	116
第148图	1-1区西SP1252出土遗物-----	第189图	1-1区西SP1413平断面图 (1/20)-----	116
第149图	1-1区西SP1258平断面图 (1/20)-----	第190图	1-1区西SP1413出土遗物-----	116
第150图	1-1区西SP1258出土遗物-----	第191图	1-1区西SP1416·SP1417平断面图 (1/20)-----	117
第151图	1-1区西SP1264平断面图 (1/20)-----	第192图	1-1区西SP1416出土遗物-----	117
第152图	1-1区西SP1264出土遗物-----	第193图	1-1区西SP1417出土遗物-----	117
第153图	1-1区西SP1272平断面图 (1/20)-----	第194图	1-1区西SP1418平断面图 (1/20)-----	118
第154图	1-1区西SP1272出土遗物-----	第195图	1-1区西SP1418出土遗物-----	118
第155图	1-1区西SP1276平断面图 (1/20)-----	第196图	1-1区西SP1419平断面图 (1/20)-----	118
第156图	1-1区西SP1276出土遗物-----	第197图	1-1区西SP1419出土遗物-----	118
第157图	1-1区西SP1279平断面图 (1/20)-----	第198图	1-1区西SP1423平断面图 (1/20)-----	120
第158图	1-1区西SP1279出土遗物-----	第199图	1-1区西SP1423出土遗物-----	120
第159图	1-1区西SP1292平断面图 (1/20)-----	第200图	1-1区西SP1430平断面图 (1/20)-----	120
第160图	1-1区西SP1292出土遗物-----	第201图	1-1区西SP1430出土遗物-----	120
第161图	1-1区西SP1294平断面图 (1/20)-----	第202图	1-1区西SP1434平断面图 (1/20)-----	121
第162图	1-1区西SP1294出土遗物-----	第203图	1-1区西SP1434出土遗物-----	121
第163图	1-1区西SP1306平断面图 (1/20)-----	第204图	1-1区西SP1438平断面图 (1/20)-----	121
第164图	1-1区西SP1306出土遗物-----	第205图	1-1区西SP1438出土遗物-----	121
第165图	1-1区西SP1329平断面图 (1/20)-----	第206图	1-1区西SP1442平断面图 (1/20)-----	122
第166图	1-1区西SP1329出土遗物-----	第207图	1-1区西SP1442出土遗物-----	122
第167图	1-1区西SP1342平断面图 (1/20)-----	第208图	1-1区西SP1459平断面图 (1/20)-----	122
第168图	1-1区西SP1342出土遗物-----			

第209图	1-1区西 SP1459 出土遗物	122	第247图	1-1区東 SP1064 出土遗物	137
第210图	1-1区西 SP1474 平断面图 (1/20)	123	第248图	1-1区東 SP1066 平断面图 (1/20)	138
第211图	1-1区西 SP1474 出土遗物	123	第249图	1-1区東 SP1066 出土遗物	138
第212图	1-1区西 SP1479 平断面图 (1/20)	124	第250图	1-1区東 SP1067 平断面图 (1/20)	139
第213图	1-1区西 SP1479 出土遗物	124	第251图	1-1区東 SP1067 出土遗物	139
第214图	1-1区西 SP1480 平断面图 (1/20)	124	第252图	1-1区東 SP1069 平断面图 (1/20)	139
第215图	1-1区西 SP1480 出土遗物	124	第253图	1-1区東 SP1069 出土遗物	139
第216图	1-1区西 SP1483 平断面图 (1/20)	126	第254图	1-1区東 SP1074 平断面图 (1/20)	140
第217图	1-1区西 SP1483 出土遗物	126	第255图	1-1区東 SP1074 出土遗物	140
第218图	1-1区西 SP1489 平断面图 (1/20)	126	第256图	1-1区東 SP1075 平断面图 (1/20)	140
第219图	1-1区西 SP1489 出土遗物	126	第257图	1-1区東 SP1075 出土遗物	140
第220图	1-1区東 平断面图 (1/250)	127	第258图	1-1区東 SP1080 · SP1081 平断面图 (1/20)	141
第221图	1-1区東 SK1003 平断面图 (1/40)	128	第259图	1-1区東 SP1080 出土遗物	141
第222图	1-1区東 SK1003 出土遗物	128	第260图	1-1区東 SP1081 出土遗物	141
第223图	1-1区東 SK1004 平断面图 (1/40)	129	第261图	1-1区東 SP1083 平断面图 (1/20)	142
第224图	1-1区東 SK1004 出土遗物	129	第262图	1-1区東 SP1083 出土遗物	142
第225图	1-1区東 SK1005 · SK1006 平断面图 (1/40)	130	第263图	1-1区東 SP1084 平断面图 (1/20)	142
第226图	1-1区東 SK1005 出土遗物	130	第264图	1-1区東 SP1084 出土遗物	142
第227图	1-1区東 SK1006 出土遗物	130	第265图	1-1区東 SP1094 平断面图 (1/20)	144
第228图	1-1区東 SK1009 平断面图 (1/40)	131	第266图	1-1区東 SP1094 出土遗物	144
第229图	1-1区東 SK1009 出土遗物	131	第267图	1-1区東 SP1101 平断面图 (1/20)	144
第230图	1-1区東 SP1004 平断面图 (1/20)	132	第268图	1-1区東 SP1101 出土遗物	144
第231图	1-1区東 SP1004 出土遗物	132	第269图	1-1区東 SP1106 平断面图 (1/20)	145
第232图	1-1区東 SP1012 平断面图 (1/20)	132	第270图	1-1区東 SP1106 出土遗物	145
第233图	1-1区東 SP1012 出土遗物	132	第271图	1-1区東 SP1116 · SP1117 平断面图 (1/20)	145
第234图	1-1区東 SP1013 · SP1144 平断面图 (1/20)	133	第272图	1-1区東 SP1116 出土遗物	145
第235图	1-1区東 SP1144 出土遗物	133	第273图	1-1区東 SP1121 平断面图 (1/20)	146
第236图	1-1区東 SP1042 平断面图 (1/20)	134	第274图	1-1区東 SP1121 出土遗物	146
第237图	1-1区東 SP1042 出土遗物	134	第275图	1-1区東 SP1122 平断面图 (1/20)	146
第238图	1-1区東 SP1046 平断面图 (1/20)	134	第276图	1-1区東 SP1122 出土遗物	146
第239图	1-1区東 SP1046 出土遗物	134	第277图	1-1区東 SP1127 平断面图 (1/20)	148
第240图	1-1区東 SP1047 · SP1048 平断面图 (1/20)	135	第278图	1-1区東 SP1127 出土遗物	148
第241图	1-1区東 SP1048 出土遗物	135	第279图	1-1区東 SP1132 平断面图 (1/20)	148
第242图	1-1区東 SP1055 平断面图 (1/20)	136	第280图	1-1区東 SP1132 出土遗物	148
第243图	1-1区東 SP1055 出土遗物	136	第281图	1-1区東 SP1139 平断面图 (1/20)	149
第244图	1-1区東 SP1060 平断面图 (1/20)	136	第282图	1-1区東 SP1139 出土遗物	149
第245图	1-1区東 SP1060 出土遗物	136	第283图	1-1区東 SP1150 平断面图 (1/20)	149
第246图	1-1区東 SP1064 平断面图 (1/20)	137	第284图	1-1区東 SP1150 出土遗物	149
			第285图	1-1区東 SP1154 平断面图 (1/20)	150

第286图	1-1区東SP1154出土遺物	150
第287图	1-1区東SP1155平断面图(1/20)	150
第288图	1-1区東SP1155出土遺物	150
第289图	1-1区東SP1161平断面图(1/20)	151
第290图	1-1区東SP1161出土遺物	151
第291图	1-1区東SP1166平断面图(1/20)	151
第292图	1-1区東SP1166出土遺物	151
第293图	1-1区東SP1170平断面图(1/20)	152
第294图	1-1区東SP1170出土遺物	152
第295图	1-1区東SP1175平断面图(1/20)	152
第296图	1-1区東SP1175出土遺物	152
第297图	1-1区東SP1193平断面图(1/20)	153
第298图	1-1区東SP1193出土遺物	153
第299图	1-1区東SP1208平断面图(1/20)	153
第300图	1-1区東SP1208出土遺物	153
第301图	1-1区東SX1001平断面图(1/40)	154
第302图	1-1区東SX1001出土遺物	155
第303图	1-1区包含層出土遺物	155
第304图	1-2区平面図①(1/250)	157
第305图	1-2区平面図②(1/250)	158
第306图	1-2区SA1001平断面图(1/50)	159
第307图	1-2区SA1002平断面图(1/50)	160
第308图	1-2区SB1001平面図①(1/50)	161
第309图	1-2区SB1001平面図②(1/50)	162
第310图	1-2区SB1001断面图(1/50)	163
第311图	1-2区SB1001EH1平断面图(1/40)	164
第312图	1-2区SB1001ED·EP断面图(1/20)	165
第313图	1-2区SB1001出土遺物①	166
第314图	1-2区SB1001出土遺物②	167
第315图	1-2区SB1001出土遺物③	168
第316图	1-2区SB1001出土遺物④	169
第317图	1-2区SB1001出土遺物⑤	170
第318图	1-2区SB1001出土遺物⑥	171
第319图	1-2区SB1001出土遺物⑦	172
第320图	1-2区SB1001出土遺物⑧	173
第321图	1-2区SB1001出土遺物⑨	174
第322图	1-2区SB1001出土遺物⑩	175
第323图	1-2区SB1001出土遺物⑪	176
第324图	1-2区SB1002平面图(1/50)	177
第325图	1-2区SB1002平断面图(1/50)	178
第326图	1-2区SB1002EK1断面图(1/40)	179

第327图	1-2区SB1002EH1平断面图(1/40)	179
第328图	1-2区SB1002出土遺物①	180
第329图	1-2区SB1002出土遺物②	181
第330图	1-2区SK1002平断面图(1/40)	182
第331图	1-2区SK1002出土遺物	182
第332图	1-2区SK1007平断面图(1/40)	182
第333图	1-2区SK1007出土遺物	182
第334图	1-2区SK1010平断面图(1/40)	183
第335图	1-2区SK1010出土遺物	183
第336图	1-2区SK1015平断面图(1/40)	184
第337图	1-2区SK1015出土遺物	184
第338图	1-2区SK1016平断面图(1/40)	184
第339图	1-2区SK1016出土遺物	184
第340图	1-2区SK1027平断面图(1/40)	185
第341图	1-2区SK1027出土遺物	186
第342图	1-2区SP1007平断面图(1/20)	187
第343图	1-2区SP1007出土遺物	187
第344图	1-2区SP1011平断面图(1/20)	187
第345图	1-2区SP1011出土遺物	187
第346图	1-2区SP1012平断面图(1/20)	188
第347图	1-2区SP1012出土遺物	188
第348图	1-2区SP1016平断面图(1/20)	188
第349图	1-2区SP1016出土遺物	188
第350图	1-2区SP1031平断面图(1/20)	189
第351图	1-2区SP1031出土遺物	189
第352图	1-2区SP1067平断面图(1/20)	189
第353图	1-2区SP1067出土遺物	189
第354图	1-2区SP1078平断面图(1/20)	190
第355图	1-2区SP1078出土遺物	190
第356图	1-2区SP1130平断面图(1/20)	191
第357图	1-2区SP1130出土遺物	191
第358图	1-2区SP1170平断面图(1/20)	191
第359图	1-2区SP1170出土遺物	191
第360图	1-2区SP1171平断面图(1/20)	192
第361图	1-2区SP1171出土遺物	192
第362图	1-2区SP1179平断面图(1/20)	192
第363图	1-2区SP1179出土遺物	192
第364图	1-2区SP1210平断面图(1/20)	193
第365图	1-2区SP1210出土遺物	193
第366图	1-2区SP1212平断面图(1/20)	193
第367图	1-2区SP1212出土遺物	193

第368图	1-2区SP1248 平断面图 (1/20)	194
第369图	1-2区SP1248 出土遗物	194
第370图	1-2区SP1323 平断面图 (1/20)	194
第371图	1-2区SP1323 出土遗物	194
第372图	1-2区SP1345 平断面图 (1/20)	195
第373图	1-2区SP1345 出土遗物	195
第374图	1-2区SP1371 平断面图 (1/20)	196
第375图	1-2区SP1371 出土遗物	196
第376图	1-2区SP1391 平断面图 (1/20)	197
第377图	1-2区SP1391 出土遗物	197
第378图	1-2区包含层出土遗物①	198
第379图	1-2区包含层出土遗物②	199
第380图	2区1a 遗構面平面図 (1/250)	200
第381图	2区1b 遗構面平面図 (1/250)	201
第382图	2区SA1001 平断面图 (1/50)	202
第383图	2区SA1002 平断面图 (1/50)	203
第384图	2区SA1003 平断面图 (1/50)	204
第385图	2区SA1004 平断面图 (1/50)	205
第386图	2区SA1005 平断面图 (1/50)	206
第387图	2区SB1001 平面図 (1/50)	207
第388图	2区SB1001 平断面图 (1/50)	208
第389图	2区SB1001ED・EK 断面图 (1/20)	209
第390图	2区SB1001 出土遗物	209
第391图	2区SB1002 平面図 (1/50)	210
第392图	2区SB1002 平断面图① (1/50)	211
第393图	2区SB1002 平断面图② (1/50)	212
第394图	2区SB1002EH1 平断面图 (1/40)	212
第395图	2区SB1002ED・EP 断面图 (1/20)	213
第396图	2区SB1002 出土遗物①	214
第397图	2区SB1002 出土遗物②	215
第398图	2区SB1002 出土遗物③	216
第399图	2区SB1002 出土遗物④	217
第400图	2区SB1002 出土遗物⑤	218
第401图	2区SB1002 出土遗物⑥	219
第402图	2区SB1002 出土遗物⑦	220
第403图	2区SB1003 平断面图① (1/50)	221
第404图	2区SB1003 平断面图② (1/50)	222
第405图	2区SB1003EH1 平断面图 (1/40)	223
第406图	2区SB1003EH2 平断面图 (1/40)	224
第407图	2区SB1003EP 断面图 (1/20)	225
第408图	2区SB1003 出土遗物①	226

第409图	2区SB1003 出土遗物②	227
第410图	2区SB1003 出土遗物③	228
第411图	2区SB1003 出土遗物④	229
第412图	2区SB1003 出土遗物⑤	230
第413图	2区SB1003 出土遗物⑥	231
第414图	2区SB1004 平断面图 (1/50)	232
第415图	2区SB1004EH1 平断面图 (1/40)	233
第416图	2区SB1004ED・EP 断面图 (1/20)	234
第417图	2区SB1004 出土遗物①	235
第418图	2区SB1004 出土遗物②	236
第419图	2区SB1004 出土遗物③	237
第420图	2区SD1002 平断面图 (1/40)	238
第421图	2区SD1002 出土遗物	238
第422图	2区SD1003 平断面图 (1/40)	239
第423图	2区SD1003 出土遗物	240
第424图	2区SD1004・SD1005 平断面图 (1/80・1/40)	241
第425图	2区SK1002 平断面图 (1/40)	242
第426图	2区SK1004 平断面图 (1/40)	242
第427图	2区SK1004 出土遗物	242
第428图	2区SK1011 平断面图 (1/40)	243
第429图	2区SK1011 出土遗物	243
第430图	2区SK1015 平断面图 (1/40)	243
第431图	2区SK1015 出土遗物	243
第432图	2区SK1017 平断面图 (1/40)	244
第433图	2区SK1017 出土遗物	244
第434图	2区SK1021 平断面图 (1/40)	245
第435图	2区SK1030 平断面图 (1/40)	245
第436图	2区SK1030 出土遗物	245
第437图	2区SK1039 平断面图 (1/40)	246
第438图	2区SK1039 出土遗物	247
第439图	2区SP1014 平断面图 (1/20)	248
第440图	2区SP1014 出土遗物	248
第441图	2区SP1015 平断面图 (1/20)	248
第442图	2区SP1015 出土遗物	248
第443图	2区SP1027 平断面图 (1/20)	249
第444图	2区SP1027 出土遗物	249
第445图	2区SP1029 平断面图 (1/20)	250
第446图	2区SP1029 出土遗物	250
第447图	2区SP1040 平断面图 (1/20)	250
第448图	2区SP1040 出土遗物	250

第449图	2区SP1045平断面图(1/20)	251	第490图	3-1区SB1001出土器物⑤	274
第450图	2区SP1045出土器物	251	第491图	3-1区SB1001出土器物⑥	275
第451图	2区SP1050平断面图(1/20)	251	第492图	3-1区SD1001平断面图(1/40)	275
第452图	2区SP1050出土器物	251	第493图	3-1区SI出土器物	276
第453图	2区SP1116平断面图(1/20)	252	第494图	3-1区SK1004平断面图(1/40)	277
第454图	2区SP1116出土器物	252	第495图	3-1区SK1004出土器物	277
第455图	2区SP1159平断面图(1/20)	252	第496图	3-1区SK1007平断面图(1/40)	278
第456图	2区SP1159出土器物	252	第497图	3-1区SK1007出土器物	278
第457图	2区SP1206平断面图(1/20)	253	第498图	3-1区SK1013平断面图(1/40)	279
第458图	2区SP1206出土器物	253	第499图	3-1区SK1013出土器物	279
第459图	2区SP1235平断面图(1/20)	253	第500图	3-1区SK1017平断面图(1/40)	279
第460图	2区SP1235出土器物	253	第501图	3-1区SK1017出土器物	279
第461图	2区SP1236平断面图(1/20)	254	第502图	3-1区SP1031平断面图(1/20)	280
第462图	2区SP1236出土器物	254	第503图	3-1区SP1031出土器物	280
第463图	2区SP1237平断面图(1/20)	255	第504图	3-1区SP1060平断面图(1/20)	280
第464图	2区SP1237出土器物	255	第505图	3-1区SP1060出土器物	280
第465图	2区SP1241平断面图(1/20)	256	第506图	3-1区SP1173平断面图(1/20)	281
第466图	2区SP1241出土器物	256	第507图	3-1区SP1173出土器物	281
第467图	2区SP1254平断面图(1/20)	257	第508图	3-1区SP1177平断面图(1/20)	282
第468图	2区SP1254出土器物	257	第509图	3-1区SP1177出土器物	282
第469图	2区SP1256平断面图(1/20)	257	第510图	3-1区SP1234平断面图(1/20)	282
第470图	2区SP1256出土器物	257	第511图	3-1区SP1234出土器物	282
第471图	2区SX1001平断面图(1/40)	258	第512图	3-1区SR1001平面图(1/100)	283
第472图	2区SX1001出土器物	258	第513图	3-1区SR1001断面图(1/100)	284
第473图	2区SX1002平断面图(1/40)	259	第514图	3-1区SR1001石積み平面图①(1/40)	285
第474图	2区SX1002出土器物	259	第515图	3-1区SR1001石積み平面图②(1/40)	286
第475图	2区SX1003平断面图(1/40)	260	第516图	3-1区SR1001石積み平面图③(1/40)	287
第476图	2区SX1003出土器物	261	第517图	3-1区SR1001石積み断面图(1/40)	288
第477图	2区包含層出土器物①	262	第518图	3-1区SR1001出土器物①	288
第478图	2区包含層出土器物②	263	第519图	3-1区SR1001出土器物②	289
第479图	3-1区平面图(1/250)	264	第520图	3-1区SR1001出土器物③	290
第480图	3-1区SA1001平断面图(1/50)	265	第521图	3-1区SR1001出土器物④	291
第481图	3-1区SA1002平断面图(1/50)	266	第522图	3-1区SR1001出土器物⑤	292
第482图	3-1区SB1001平断面图①(1/50)	267	第523图	3-1区SR1001出土器物⑥	293
第483图	3-1区SB1001平断面图②(1/50)	268	第524图	3-1区SR1001出土器物⑦	294
第484图	3-1区SB1001EH1平断面图(1/40)	268	第525图	3-1区SR1001出土器物⑧	295
第485图	3-1区SB1001ED·EP断面图(1/20)	269	第526图	3-1区SR1001出土器物⑨	296
第486图	3-1区SB1001出土器物①	270	第527图	3-1区SR1001出土器物⑩	297
第487图	3-1区SB1001出土器物②	271	第528图	3-1区SR1001出土器物⑪	298
第488图	3-1区SB1001出土器物③	272	第529图	3-1区SR1001出土器物⑫	299
第489图	3-1区SB1001出土器物④	273	第530图	3-1区SR1001出土器物⑬	300

第531図	3-1区SR1001出土遺物④	301
第532図	3-1区SR1001出土遺物⑤	302
第533図	3-1区SR1001出土遺物⑥	303
第534図	3-1区SX1004平断面図(1/40)	304
第535図	3-1区SX1004出土遺物	304
第536図	3-1区SX1005平断面図(1/40)	304
第537図	3-1区SX1007平断面図(1/40)	305
第538図	3-1区SX1007出土遺物	305
第539図	3-2区平面図(1/300)	306
第540図	3-2区SA1001平断面図(1/50)	307
第541図	3-2区SA1002平断面図(1/50)	308
第542図	3-2区SA1003平断面図(1/50)	309
第543図	3-2区SA1004平断面図(1/50)	310
第544図	3-2区SA1005平断面図(1/50)	311
第545図	3-2区SA1006平断面図(1/50)	312
第546図	3-2区SA1007平断面図(1/50)	313
第547図	3-2区SA1008平断面図(1/50)	314
第548図	3-2区SD1001～SD1004平断面図(1/80・1/40)	315
第549図	3-2区SD1003・SD1004断面図(1/40)	316
第550図	3-2区SD1002出土遺物	316
第551図	3-2区SD1003出土遺物	317
第552図	3-2区SD1004出土遺物	317
第553図	3-2区SK1028平断面図(1/40)	318
第554図	3-2区SK1028出土遺物	318
第555図	3-2区SK1031平断面図(1/40)	319
第556図	3-2区SK1033平断面図(1/40)	319
第557図	3-2区SK1033出土遺物	319
第558図	3-2区SK1048平断面図(1/40)	320
第559図	3-2区SK1053平断面図(1/40)	320
第560図	3-2区SK1053出土遺物	320
第561図	3-2区SK1057平断面図(1/40)	321
第562図	3-2区SK1057出土遺物	321
第563図	3-2区SK1062平断面図(1/40)	322
第564図	3-2区SK1063平断面図(1/40)	322
第565図	3-2区SK1063出土遺物	322
第566図	3-2区SK1068平断面図(1/40)	323
第567図	3-2区SK1068出土遺物	323
第568図	3-2区SK1077平断面図(1/40)	324
第569図	3-2区SK1077出土遺物	324

第570図	3-2区SP1069平断面図(1/20)	325
第571図	3-2区SP1069出土遺物	325
第572図	3-2区SP1099平断面図(1/20)	325
第573図	3-2区SP1099出土遺物	325
第574図	3-2区SP1109平断面図(1/20)	326
第575図	3-2区SP1109出土遺物	326
第576図	3-2区SP1113平断面図(1/20)	327
第577図	3-2区SP1113出土遺物	327
第578図	3-2区SP1124平断面図(1/20)	328
第579図	3-2区SP1124出土遺物	328
第580図	3-2区SP1168平断面図(1/20)	328
第581図	3-2区SP1168出土遺物	328
第582図	3-2区SP1201平断面図(1/20)	329
第583図	3-2区SP1201出土遺物	329
第584図	3-2区SP1236平断面図(1/20)	329
第585図	3-2区SP1236出土遺物	329
第586図	3-2区SP1237平断面図(1/20)	330
第587図	3-2区SP1237出土遺物	330
第588図	3-2区SP1248平断面図(1/20)	331
第589図	3-2区SP1248出土遺物	331
第590図	3-2区SP1366平断面図(1/20)	331
第591図	3-2区SP1366出土遺物	331
第592図	3-2区SP1481平断面図(1/20)	332
第593図	3-2区SP1481出土遺物	332
第594図	3-2区SP1492平断面図(1/20)	332
第595図	3-2区SP1492出土遺物	332
第596図	3-2区SP1679平断面図(1/20)	333
第597図	3-2区SP1679出土遺物	333
第598図	3-2区SX1004平断面図(1/40)	334
第599図	3-2区包含層出土遺物	334

IVまとめ

第600図	弥生時代の主な遺構	338
第601図	弥生時代前期～中期初頭の土器	339
第602図	弥生時代終末～古墳時代初頭の土器①	340
第603図	弥生時代終末～古墳時代初頭の土器②	341
第604図	弥生時代終末～古墳時代初頭の土器③	342
第605図	中世の主な遺構	345
第606図	0-2区SK1001出土遺物②	346

觀察表目次

《第2分冊》

表 1	遺構觀察表 [SA]	349	表 3 7	遺構觀察表 [SP] (18)	381
表 2	遺構觀察表 [SB] (1)	350	表 3 8	遺構觀察表 [SP] (19)	382
表 3	遺構觀察表 [SB] (2)	351	表 3 9	遺構觀察表 [SP] (20)	383
表 4	遺構觀察表 [SB] (3)	352	表 4 0	遺構觀察表 [SP] (21)	384
表 5	遺構觀察表 [SD・SR] (1)	352	表 4 1	遺構觀察表 [SP] (22)	385
表 6	遺構觀察表 [SD・SR] (2)	353	表 4 2	遺構觀察表 [SP] (23)	386
表 7	遺構觀察表 [SH]	353	表 4 3	遺構觀察表 [SP] (24)	387
表 8	遺構觀察表 [SI]	353	表 4 4	遺構觀察表 [SP] (25)	388
表 9	遺構觀察表 [SK] (1)	354	表 4 5	遺構觀察表 [SP] (26)	389
表 1 0	遺構觀察表 [SK] (2)	355	表 4 6	遺構觀察表 [SP] (27)	390
表 1 1	遺構觀察表 [SK] (3)	356	表 4 7	遺構觀察表 [SP] (28)	391
表 1 2	遺構觀察表 [SK] (4)	357	表 4 8	遺構觀察表 [SP] (29)	392
表 1 3	遺構觀察表 [SK] (5)	358	表 4 9	遺構觀察表 [SP] (30)	393
表 1 4	遺構觀察表 [SK] (6)	359	表 5 0	遺構觀察表 [SP] (31)	394
表 1 5	遺構觀察表 [SK] (7)	360	表 5 1	遺構觀察表 [SP] (32)	395
表 1 6	遺構觀察表 [SK] (8)	361	表 5 2	遺構觀察表 [SP] (33)	396
表 1 7	遺構觀察表 [SK] (9)	362	表 5 3	遺構觀察表 [SP] (34)	397
表 1 8	遺構觀察表 [SK] (10)	363	表 5 4	遺構觀察表 [SP] (35)	398
表 1 9	遺構觀察表 [SO]	364	表 5 5	遺構觀察表 [SP] (36)	399
表 2 0	遺構觀察表 [SP] (1)	364	表 5 6	遺構觀察表 [SP] (37)	400
表 2 1	遺構觀察表 [SP] (2)	365	表 5 7	遺構觀察表 [SP] (38)	401
表 2 2	遺構觀察表 [SP] (3)	366	表 5 8	遺構觀察表 [SP] (39)	402
表 2 3	遺構觀察表 [SP] (4)	367	表 5 9	遺構觀察表 [SP] (40)	403
表 2 4	遺構觀察表 [SP] (5)	368	表 6 0	遺構觀察表 [SP] (41)	404
表 2 5	遺構觀察表 [SP] (6)	369	表 6 1	遺構觀察表 [SP] (42)	405
表 2 6	遺構觀察表 [SP] (7)	370	表 6 2	遺構觀察表 [SP] (43)	406
表 2 7	遺構觀察表 [SP] (8)	371	表 6 3	遺構觀察表 [SP] (44)	407
表 2 8	遺構觀察表 [SP] (9)	372	表 6 4	遺構觀察表 [SP] (45)	408
表 2 9	遺構觀察表 [SP] (10)	373	表 6 5	遺構觀察表 [SP] (46)	409
表 3 0	遺構觀察表 [SP] (11)	374	表 6 6	遺構觀察表 [SP] (47)	410
表 3 1	遺構觀察表 [SP] (12)	375	表 6 7	遺構觀察表 [SP] (48)	411
表 3 2	遺構觀察表 [SP] (13)	376	表 6 8	遺構觀察表 [SP] (49)	412
表 3 3	遺構觀察表 [SP] (14)	377	表 6 9	遺構觀察表 [SP] (50)	413
表 3 4	遺構觀察表 [SP] (15)	378	表 7 0	遺構觀察表 [SP] (51)	414
表 3 5	遺構觀察表 [SP] (16)	379	表 7 1	遺構觀察表 [SP] (52)	415
表 3 6	遺構觀察表 [SP] (17)	380	表 7 2	遺構觀察表 [SP] (53)	416

表 7 3	遺構觀察表 [SP] (54)	417	表 1 1 4	土器觀察表 (11a)	458
表 7 4	遺構觀察表 [SP] (55)	418	表 1 1 5	土器觀察表 (11b)	459
表 7 5	遺構觀察表 [SP] (56)	419	表 1 1 6	土器觀察表 (12a)	460
表 7 6	遺構觀察表 [SP] (57)	420	表 1 1 7	土器觀察表 (12b)	461
表 7 7	遺構觀察表 [SP] (58)	421	表 1 1 8	土器觀察表 (13a)	462
表 7 8	遺構觀察表 [SP] (59)	422	表 1 1 9	土器觀察表 (13b)	463
表 7 9	遺構觀察表 [SP] (60)	423	表 1 2 0	土器觀察表 (14a)	464
表 8 0	遺構觀察表 [SP] (61)	424	表 1 2 1	土器觀察表 (14b)	465
表 8 1	遺構觀察表 [SP] (62)	425	表 1 2 2	土器觀察表 (15a)	466
表 8 2	遺構觀察表 [SP] (63)	426	表 1 2 3	土器觀察表 (15b)	467
表 8 3	遺構觀察表 [SP] (64)	427	表 1 2 4	土器觀察表 (16a)	468
表 8 4	遺構觀察表 [SP] (65)	428	表 1 2 5	土器觀察表 (16b)	469
表 8 5	遺構觀察表 [SP] (66)	429	表 1 2 6	土器觀察表 (17a)	470
表 8 6	遺構觀察表 [SP] (67)	430	表 1 2 7	土器觀察表 (17b)	471
表 8 7	遺構觀察表 [SP] (68)	431	表 1 2 8	土器觀察表 (18a)	472
表 8 8	遺構觀察表 [SP] (69)	432	表 1 2 9	土器觀察表 (18b)	473
表 8 9	遺構觀察表 [SP] (70)	433	表 1 3 0	土器觀察表 (19a)	474
表 9 0	遺構觀察表 [SP] (71)	434	表 1 3 1	土器觀察表 (19b)	475
表 9 1	遺構觀察表 [SU]	435	表 1 3 2	土器觀察表 (20a)	476
表 9 2	遺構觀察表 [SX] (1)	435	表 1 3 3	土器觀察表 (20b)	477
表 9 3	遺構觀察表 [SX] (2)	436	表 1 3 4	土器觀察表 (21a)	478
表 9 4	土器觀察表 (1a)	438	表 1 3 5	土器觀察表 (21b)	479
表 9 5	土器觀察表 (1b)	439	表 1 3 6	土器觀察表 (22a)	480
表 9 6	土器觀察表 (2a)	440	表 1 3 7	土器觀察表 (22b)	481
表 9 7	土器觀察表 (2b)	441	表 1 3 8	土器觀察表 (23a)	482
表 9 8	土器觀察表 (3a)	442	表 1 3 9	土器觀察表 (23b)	483
表 9 9	土器觀察表 (3b)	443	表 1 4 0	土器觀察表 (24a)	484
表 1 0 0	土器觀察表 (4a)	444	表 1 4 1	土器觀察表 (24b)	485
表 1 0 1	土器觀察表 (4b)	445	表 1 4 2	土器觀察表 (25a)	486
表 1 0 2	土器觀察表 (5a)	446	表 1 4 3	土器觀察表 (25b)	487
表 1 0 3	土器觀察表 (5b)	447	表 1 4 4	土器觀察表 (26a)	488
表 1 0 4	土器觀察表 (6a)	448	表 1 4 5	土器觀察表 (26b)	489
表 1 0 5	土器觀察表 (6b)	449	表 1 4 6	土器觀察表 (27a)	490
表 1 0 6	土器觀察表 (7a)	450	表 1 4 7	土器觀察表 (27b)	491
表 1 0 7	土器觀察表 (7b)	451	表 1 4 8	土器觀察表 (28a)	492
表 1 0 8	土器觀察表 (8a)	452	表 1 4 9	土器觀察表 (28b)	493
表 1 0 9	土器觀察表 (8b)	453	表 1 5 0	土器觀察表 (29a)	494
表 1 1 0	土器觀察表 (9a)	454	表 1 5 1	土器觀察表 (29b)	495
表 1 1 1	土器觀察表 (9b)	455	表 1 5 2	土器觀察表 (30a)	496
表 1 1 2	土器觀察表 (10a)	456	表 1 5 3	土器觀察表 (30b)	497
表 1 1 3	土器觀察表 (10b)	457	表 1 5 4	土器觀察表 (31a)	498

表 1 5 5	土器観察表 (31b)	499
表 1 5 6	土器観察表 (32a)	500
表 1 5 7	土器観察表 (32b)	501
表 1 5 8	土器観察表 (33a)	502
表 1 5 9	土器観察表 (33b)	503
表 1 6 0	土器観察表 (34a)	504
表 1 6 1	土器観察表 (34b)	505
表 1 6 2	土器観察表 (35a)	506
表 1 6 3	土器観察表 (35b)	507
表 1 6 4	土器観察表 (36a)	508
表 1 6 5	土器観察表 (36b)	509
表 1 6 6	土器観察表 (37a)	510
表 1 6 7	土器観察表 (37b)	511
表 1 6 8	土器観察表 (38a)	512
表 1 6 9	土器観察表 (38b)	513
表 1 7 0	土器観察表 (39a)	514
表 1 7 1	土器観察表 (39b)	515
表 1 7 2	土器観察表 (40a)	516

表 1 7 3	土器観察表 (40b)	517
表 1 7 4	土器観察表 (41a)	518
表 1 7 5	土器観察表 (41b)	519
表 1 7 6	土器観察表 (42a)	520
表 1 7 7	土器観察表 (42b)	521
表 1 7 8	石器観察表 (1)	522
表 1 7 9	石器観察表 (2)	523
表 1 8 0	石器観察表 (3)	524
表 1 8 1	鉄製品観察表 (1)	525
表 1 8 2	鉄製品観察表 (2)	526
表 1 8 3	鉄製品観察表 (3)	527
表 1 8 4	銅銭観察表	527
表 1 8 5	スラグ観察表 (1)	527
表 1 8 6	スラグ観察表 (2)	528
表 1 8 7	土製品観察表 (1)	529
表 1 8 8	土製品観察表 (2)	530
表 1 8 9	土製品観察表 (3)	531

写真目次

《第1分冊》

巻頭カラー 1	2区竪穴住居 (SB1003) 内の殿治炉
	2区竪穴住居 (SB1003) 内出土遺物

0-2区SO1001完掘状況	538
0-2区SO1004炭化物検出状況	538

写真図版 5	0-2区SX1001遺物出土状況	539
	0-2区第1遺構面完掘状況 (東から)	539

写真図版 6	0-2区SB2001遺物出土状況	540
--------	------------------	-----

0-2区SB2001完掘状況	540
----------------	-----

0-2区SB2001EH1完掘状況	540
-------------------	-----

写真図版 7	0-2区SK2031遺物出土状況	541
--------	------------------	-----

0-2区SK2049遺物出土状況	541
------------------	-----

0-2区SU2001検出状況	541
----------------	-----

写真図版 8	0-2区SU2001遺物出土状況	542
--------	------------------	-----

0-2区SU2002検出状況	542
----------------	-----

0-2区SU2002上面礫除去状況	542
-------------------	-----

写真図版 9	0-2区SU2003検出状況	543
--------	----------------	-----

0-2区第2遺構面完掘状況 (東から)	543
---------------------	-----

写真図版 10	1-0区水田畦畔検出状況	544
---------	--------------	-----

1-0区SK1014遺物出土状況	544
------------------	-----

《第2分冊》

写真図版 1	0-1区完掘状況 (東から)	535
--------	----------------	-----

0-2区SK1001遺物出土状況①	535
-------------------	-----

0-2区SK1001遺物出土状況②	535
-------------------	-----

写真図版 2	0-2区SK1003遺物出土状況①	536
--------	-------------------	-----

0-2区SK1003遺物出土状況②	536
-------------------	-----

0-2区SK1004遺物出土状況	536
------------------	-----

写真図版 3	0-2区SK1004完掘状況	537
--------	----------------	-----

0-2区SK1007遺物出土状況①	537
-------------------	-----

0-2区SK1007遺物出土状況②	537
-------------------	-----

写真図版 4	0-2区SO1001炭化物検出状況	538
--------	-------------------	-----

	1-0区第1遺構而完掘状況	544	写真図版26	2区SB1001遺物出土状況①	560
写真図版11	1-0区SB2001遺物出土状況	545		2区SB1001遺物出土状況②	560
	1-0区 SB2002・SB2003 完掘状況	545		2区SB1001完掘状況	560
	1-0区 SB2003 遺物出土状況	545	写真図版27	2区SB1002遺物出土状況①	561
写真図版12	1-0区SK2019・SK2020遺物出土状況	546		2区SB1002遺物出土状況②	561
	1-0区 SK2027 遺物出土状況	546		2区SB1002完掘状況	561
	1-0区 SK2028 遺物出土状況	546	写真図版28	2区SB1003遺物出土状況①	562
写真図版13	1-0区SK2034遺物出土状況	547		2区SB1003遺物出土状況②	562
	1-0区 SK2036 遺物出土状況	547		2区SB1003EH1検出状況	562
	1-0区 SK2037 遺物出土状況	547	写真図版29	2区SB1003EH1土層断面	563
写真図版14	1-0区SK2044遺物出土状況	548		2区SB1003EH1完掘状況	563
	1-0区 SU2002 検出状況	548	写真図版30	2区SB1003・SB1004完掘状況	564
	1-0区 SU2002 上面礫除去状況	548		2区SB1004EH1完掘状況	564
写真図版15	1-0区SU2003検出状況	549		2区SB1004EH1 遺物出土状況	564
	1-0区第2 遺構而完掘状況(東から)	549	写真図版31	2区SD1003遺物出土状況①	565
写真図版16	1-1区西SK1017遺物出土状況	550		2区SD1003遺物出土状況②	565
	1-1区西 SK1025 炭化物検出状況	550		2区SK1039遺物出土状況	565
	1-1区西 SP1112 遺物出土状況	550	写真図版32	2区SP1015遺物出土状況	566
写真図版17	1-1区西完掘状況①(東から)	551		2区SP1027遺物出土状況	566
	1-1区西完掘状況②(東から)	551		2区SX1003遺物出土状況	566
写真図版18	1-1区東SP1101遺物出土状況	552	写真図版33	2区完掘状況①(西から)	567
	1-1区東 SP1122 遺物出土状況	552		2区完掘状況②(東から)	567
	1-1区東 SP1144 遺物出土状況	552	写真図版34	3-1区SB1001遺物出土状況	568
写真図版19	1-1区東SX1001周辺完掘状況	553		3-1区SB1001EH1 検出状況①	568
	1-1区東完掘状況(西から)	553		3-1区SB1001EH1 検出状況②	568
写真図版20	1-2区SB1001完掘状況	554	写真図版35	3-1区SB1001EH1炭化物分布状況	569
	1-2区 SB1001 遺物出土状況①	554		3-1区SB1001EH1完掘状況	569
写真図版21	1-2区SB1001遺物出土状況②	555		3-1区SB1001完掘状況	569
	1-2区 SB1001 遺物出土状況③	555	写真図版36	3-1区SR1001石積み検出状況①	570
	1-2区 SB1001 遺物出土状況④	555		3-1区SR1001石積み検出状況②	570
写真図版22	1-2区SB1001EH1土層断面	556		3-1区SR1001石積み断ち割り状況	570
	1-2区 SB1002 遺物出土状況	556	写真図版37	3-1区完掘状況①(西から)	571
	1-2区 SB1002EH1 完掘状況	556		3-1区完掘状況②(西から)	571
写真図版23	1-2区SK1015遺物出土状況	557	写真図版38	3-2区SD1001～1005遺物出土状況	572
	1-2区SK1027検出状況	557		3-2区SX1004遺物出土状況	572
	1-2区SK1027遺物出土状況	557		3-2区完掘状況①(南から)	572
写真図版24	1-2区SP1078遺物出土状況	558	写真図版39	3-2区完掘状況②(西から)	573
	1-2区SP1345遺物出土状況	558		現地説明会風景①	573
	1-2区SP1371遺物出土状況	558		現地説明会風景②	573
写真図版25	1-2区完掘状況①(東から)	559	写真図版40	出土遺物(1)	574
	1-2区完掘状況②(西から)	559	写真図版41	出土遺物(2)	575

写真図版42	出土遺物(3)	576	写真図版56	出土遺物(17)	590
写真図版43	出土遺物(4)	577	写真図版57	出土遺物(18)	591
写真図版44	出土遺物(5)	578	写真図版58	出土遺物(19)	592
写真図版45	出土遺物(6)	579	写真図版59	出土遺物(20)	593
写真図版46	出土遺物(7)	580	写真図版60	出土遺物(21)	594
写真図版47	出土遺物(8)	581	写真図版61	出土遺物(22)	595
写真図版48	出土遺物(9)	582	写真図版62	出土遺物(23)	596
写真図版49	出土遺物(10)	583	写真図版63	出土遺物(24)	597
写真図版50	出土遺物(11)	584	写真図版64	出土遺物(25)	598
写真図版51	出土遺物(12)	585	写真図版65	出土遺物(26)	599
写真図版52	出土遺物(13)	586	写真図版66	出土遺物(27)	600
写真図版53	出土遺物(14)	587	写真図版67	出土遺物(28)	601
写真図版54	出土遺物(15)	588	写真図版68	出土遺物(29)	601
写真図版55	出土遺物(16)	589			

付図目次

付図1	0-1区平面図 (1/100)	付図6	1-2区平面図 (1/100)
付図2	0-2区・1-0区第1遺構面平面図 (1/100)	付図7	2区平面図 (1/100)
付図3	0-2区・1-0区第2遺構面平面図 (1/100)	付図8	3-1区平面図 (1/100)
付図4	1-1区西平面図 (1/100)	付図9	3-2区平面図 (1/100)
付図5	1-1区東平面図 (1/100)		

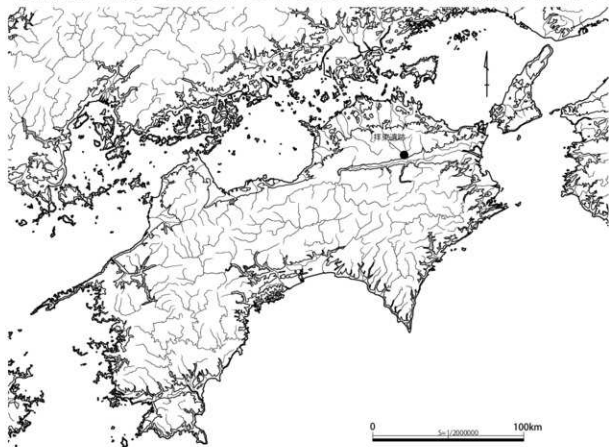
I 調査及び整理の経緯

1 発掘調査の経緯と経過

主要地方道鳴門池田線（以下、鳴門池田線という。）は吉野川北岸の4市3町を東西に結ぶ延長約83kmの道路であり、通勤通学、産業支援・観光支援のための道路として、吉野川南岸の一般国道192号線と並ぶ骨格的な役割を担う幹線道路である。緊急地方道路整備事業（主要地方道鳴門池田線）は、鳴門池田線で唯一の未改良区間である美馬市脇町中心部において、諸車輛通行の支障や慢性的な渋滞を解消する便益のみならず、災害時の物資輸送等の効率化、救命率の向上、環境保全の効果をもたらすとして、脇町字共進から字新町までを結ぶ全長5.1kmのバイパスが平成10年度に事業計画化された。

当該区間における埋蔵文化財の取り扱いについては、平成10年度の「開発事業と文化財の調整会議」から、国道193号線との交差点以东の延長1.8kmでは、埋蔵文化財の有無確認のための試掘調査が必要と回答してきた。平成15年度には文化財課（現：教育文化政策課）で当該区間の現地踏査を実施し、試掘必要範囲を土井谷川から曾江谷川の間に絞り込んだ。平成15年9月に国道193号線以东の区間について、工事進捗の話が持ち上がった。文化財課は道路建設課（現：道路整備課）と協議を持ち、当該区間での試掘調査を早急に実施すること、埋蔵文化財が確認された場合は平成16年度に発掘調査を実施し、調査終了次第、順次工事着工することで合意した。以上の経緯のもと、当該課は、道路建設課の埋蔵文化財試掘調査依頼（道建第130号H15.8.29）を承諾し、試掘調査を実施する旨を回答した。

試掘調査は、平成15年10月30日・31日、11月25日・26日の4日間実施した。試掘トレンチ



第1図 拜東遺跡の位置① (1/2,000,000)

は調査対象範囲としていた土井谷川から曾江谷川の間に11か所設定した。設定したトレンチの内、10か所で遺物や遺構を確認した。遺構の所属時期は弥生時代と中世の2時期が認められ、当該区間内、下記で述べる調査区では、出土した遺物の遺存状態及び遺構面の有無から考え、工事着手前の発掘調査が必要と判断した。

発掘調査については、徳島県教育委員会が財団法人徳島県埋蔵文化財センター（現：公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター）に委託して実施した。

発掘調査期間は、平成16年度から平成19年度までの23ヶ月間である。そのうち平成18・19年度の調査範囲は、平成17年度の調査結果をもとに関係各機関と協議の上、本調査実施を決定した。各年度の調査期間と調査面積は、平成16年度は12ヶ月、延面積6,528㎡、平成17年度は4ヶ月、延面積1,690㎡、平成18年度は1ヶ月、640㎡、平成19年度は6ヶ月、延面積2,220㎡である。当該調査地の出土遺物はコンテナ490箱である（第3図）。（教育文化政策課）

2 発掘調査の方法

発掘調査では日本測地系（第IV系）座標軸を基準とした。一边を5mのグリッドを設定し、X = 118,000、Y = 62,140を基点として、南から北へアルファベットを使用してA～Tの順に表記していき、それを越えた場合については、南に向かってZT、ZS、ZR・・・、北に向かっては、AA、AB、AC・・・、と表記している。また東西方向については西から東へと向かってはアラビア数字を使用



第2図 拝東遺跡の位置② (1/5,000)



第3図 拌東遺跡の位置と調査状況

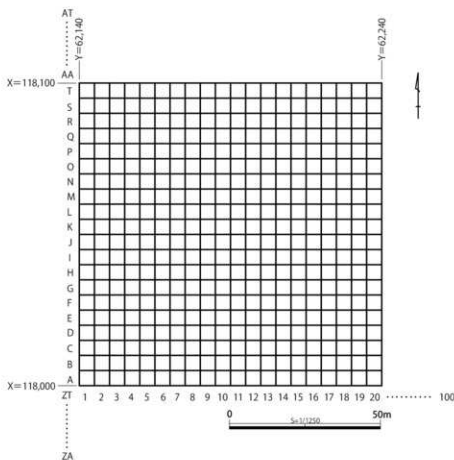
して1、2、3・・・、と順に表記している（第4・5図）。

調査区の名称は西から順に0区～3区の名称を付与していたが、調査工程上更に細分して調査が行われたため、0-1区～3-2区の9か所の調査区が存在している（第5図）。

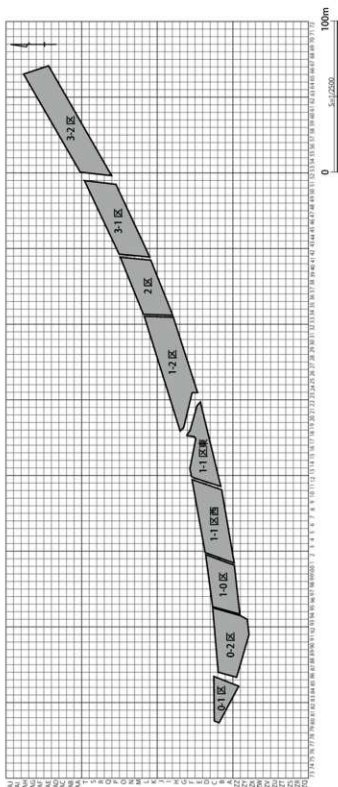
3 整理業務の経過

整理業務は2008（平成20）年度から開始された。出土遺物の総点数は83,300点、コンテナ箱数に換算して490箱の出土品の整理を行った。作業歩掛かりについては公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターの整理作業歩掛かり（研究員1名に整理作業員4名の1班で、1年間にコンテナ140箱の整理を行う）に基づいて行うこととし、総整理期間を3.5年（42ヶ月分）として行うこととした。

2008（平成20）年度から0.5班分（6ヶ月）体制で着手し、洗浄作業、注記・接合作業等の基礎整理から開始した。その後、2009（平成21）年度は1.0班分（12ヶ月）、2010（平成21）年度は0.5班分（6ヶ月）2013（平成25）年度は0.5班分（6ヶ月）、2014（平成26）年度は0.17班分（2ヶ月）において順次、実測作業、遺物トレース作業を行い、最終年度の2015（平成27）年度は0.83班分（10ヶ月）で行われ、遺物写真撮影作業、遺構トレース作業、報告書レイアウト作業、原稿執筆を中心としたとりまとめ作業を実施した。



第4図 グリッドの配置方法



第5図 拝東遺跡の調査区の名称とグリッドの配置

4 発掘調査・整理業務の体制

○2004（平成16）年度

・事務局

所長 浦上純二 事務局長 河野幸一

（総務課）

次長兼総務課長 古田哲郎 主査兼庶務係長 坂尾俊一

事務主任 鈴木智栄 主事 川口治代

（事業第一課）

課長 富本輝仁 第一係長 瀨 徹

・発掘調査業務担当

研究員 前田綾博 谷口智恵子

○2005（平成17）年度

・事務局

所長 浦上純二 事務局長 河野幸一

（総務課）

次長兼総務課長 古田哲郎 主査兼庶務係長 坂尾俊一

事務主任 浦川明美 主事 川口治代

（事業第一課）

課長 中妻敬二 第一係長 瀨 徹

・発掘調査業務担当

第二係長 藤川智之 研究員 北尾秀昭

○2006（平成18）年度

・事務局

所長 村上一行 事務局長 河野幸一

（総務課）

次長兼総務課長 一宮一郎 主査兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 浦川明美 主事 川口治代

（事業第一課）

課長 中妻敬二 第一係長 瀨 徹

・発掘調査業務担当

第二係長 藤川智之 研究員 松家義人

○2007（平成19）年度

・事務局

所長 伊川政文 事務局長 多田升二

(総務課)

次長兼総務課長 一宮一郎 主査兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 浦川明美 主事 野田登記子

(事業第一課)

課長 湯浅利彦 第一係長 藤川智之

・発掘調査業務担当

主任研究員 大北和美 研究員 川口 徹

○ 2008 (平成 20) 年度

・事務局

所長 阿部修三 事務局長 多田升二

(総務課)

総務課長兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 野田登記子 主事 三ヶ田浩

(事業第二課)

次長兼課長 島巡賢二

・整理業務担当

整理係長 氏家敏之

○ 2009 (平成 21) 年度

・事務局

所長 阿部修三 事務局長 近松克仁

(総務課)

総務課長 三好修赫 庶務係長 氏家敏之

事務主任 野田登記子

(事業課)

課長 石井伸夫

・整理業務担当

整理係長 栗林誠治 主任研究員 大橋育順

○ 2010 (平成 22) 年度

・事務局

所長 平尾恭二 事務局長 菅原康夫

(総務課)

総務課長 三好修赫 庶務係長 氏家敏之

事務主任 圓藤早知子

(事業課)

課長 藤川智之 整理係長 近藤 玲

・整理業務担当

研究員補助員 佐藤俊祐

○2013（平成25）年度

・事務局

理事長兼所長 福家清司 専務理事兼事務局長 菅原康夫

（総務課）

総務課長 漆川明彦 庶務係長 大橋育順

事務主任 妹尾 悟

（事業課）

課長 藤川智之

・整理業務担当

主任研究員 大北和美

○2014（平成26）年度

・事務局

理事長兼所長 福家清司 専務理事兼事務局長 菅原康夫

（総務課）

総務課長 漆川明彦 庶務係長 大橋育順

事務主任 妹尾 悟

（事業課）

課長 藤川智之

・整理業務担当

専門研究員 原 芳伸

○2015（平成27）年度

・事務局

理事長兼所長 福家清司 専務理事兼事務局長 菅原康夫

（総務課）

総務課長 藤田吉則 庶務係長 大橋育順

事務主任 妹尾 悟

（事業課）

課長 藤川智之

・整理業務担当

課長補佐 氏家敏之

5 調査日誌抄

○2004（平成16）年

4月 1日～	調査準備
4月20日～	1-2区機械掘削
4月30日～	1-2区包含層掘削
5月11日～	3-1区機械掘削
5月18日～	1-2区遺構検出
5月27日～	1-2区遺構内掘削
6月16日	1-2区完掘状況写真撮影
6月17日～	3-1区東側包含層掘削
6月30日	3-1区東側遺構検出
7月 1日～	1-2区埋め戻し作業・3-1区東側遺構内掘削
7月12日～	3-1区西側包含層掘削
7月22日～	3-1区西側遺構検出
7月26日～	3-1区西側遺構内掘削
8月25日	3-1区完掘状況写真撮影
8月26日～	3-1区包含層掘削
9月10日～	3-1区遺構検出
9月14日～	2区機械掘削
9月15日～	3-1区遺構内掘削
10月25日～	2区包含層掘削
11月17日～	3-2区機械掘削
11月18日～	2区遺構検出
11月24日～	2区遺構内掘削
12月21日	2区・3-1区完掘状況写真撮影
1月28日	3-2区包含層掘削
2月25日	3-2区遺構検出
3月 1日	3-2区遺構内掘削
3月16日	3-2区完掘状況写真撮影
3月31日	現場撤収

○2005（平成17）年

4月 1日～	調査準備
4月26日～	1-1区東機械掘削
4月28日	1-1区東包含層掘削
5月 2日～	1-1区東遺構検出

5月 9日～	1-1 区西機械掘削
5月12日～	1-1 区西包含層掘削
5月16日～	1-1 区西遺構検出・1-1 区東遺構内掘削
5月20日～	1-1 区西遺構内掘削
5月27日	1-1 区西・1-1 区東完掘状況写真撮影
5月30日～	1-1 区西機械掘削
6月 6日	1-1 区西包含層掘削
6月 7日～	1-1 区西遺構検出
6月13日～	1-1 区西遺構内掘削
7月 8日	1-1 区西完掘状況写真撮影
7月22日	現場撤収

○2006（平成18）年

4月 3日～	調査準備
4月12日～	1-0 区包含層掘削
4月17日	1-0 区遺構検出
4月18日～	1-0 区遺構内掘削
4月28日	現場撤収

○2007（平成19）年

4月2日～	調査準備
4月19日～	0-1 区機械掘削
4月27日	1-0 区遺構検出
5月 7日～	1-0 区遺構内掘削・0-1 区遺構検出
5月14日	1-0 区完掘状況写真撮影
5月21日～	0-1 区遺構内掘削
5月22日	0-1 区完掘状況写真撮影
5月28日～	1-0 区包含層掘削
6月11日～	1-0 区遺構検出
6月19日～	1-0 区遺構内掘削
7月17日～	0-2 区機械掘削
7月19日	1-0 区完掘状況写真撮影
7月20日～	0-2 区包含層掘削
7月30日～	0-2 区遺構検出
8月 3日～	0-2 区遺構内掘削
8月10日	0-2 区完掘状況写真撮影
8月16日～	0-2 区包含層掘削
9月 3日～	0-2 区遺構内掘削

9月21日

0-2区完掘状況写真撮影

9月28日

現場撤収

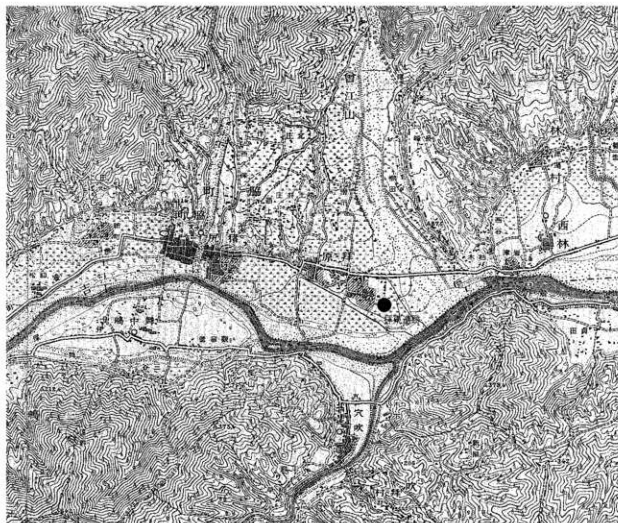
II 遺跡の立地と歴史的環境

1 遺跡の立地

徳島県は四国島の東部に位置する。面積は4,144平方kmであるが、全面積の約8割近くを山地が占める。平野部は、吉野川、勝浦川、那賀川、海部川などの流域に、主として三角州として発達する。山地は、北側の阿讃山脈と吉野川以南の四国山地に大別される。

四国島を東西に横断する中央構造線によって、地質の構造は北側の内帯と南側の外帯とに分けられる。中央構造線は、徳島県内では東から鳴門市里浦、美馬市脇町、三好市池田町から愛媛県四国中央市に連なり、讃岐山脈沿いに延びている。県内の地質は、中央構造線を主とする東西方向の構造線によって、内帯の和泉層群、外帯には北から三波川帯、御荷鉾帯、秩父帯、四万十帯からなる。埴東遺跡は和泉帯の南外縁に位置している。

埴東遺跡の南側を流れている「四国三郎」吉野川は、延長約194km、流域面積約3,750平方kmの規模をもつ四国最大の河川である。石鎚山に源を発し、中央構造線に沿って東流して紀伊水道に注いでいる。吉野川には、外帯側の右岸では鮎喰川などの扇状地が形成され、一方の内帯側の左岸下流では伊沢谷川、大久保谷川、日開谷川、九頭宇谷川、宮川内谷川などの扇状地が形成されている。内帯側の扇状



第6図 明治34年発行の地形図からみた埴東遺跡の位置 (1/50,000)

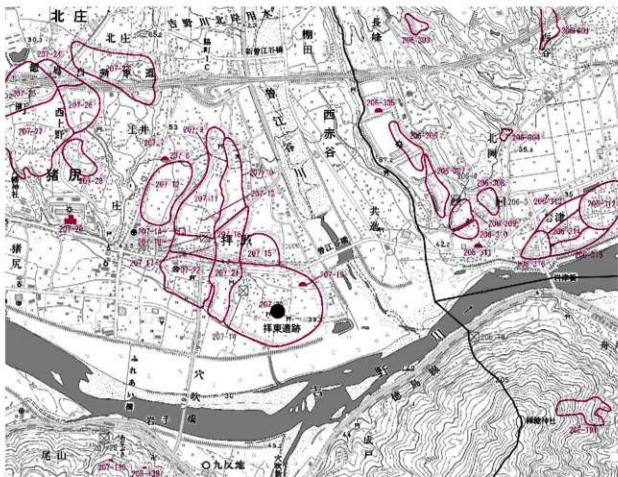
地はより急勾配に形成され、多くの土砂を押し流していることにより、吉野川の流れも、構造谷のより南を通っている。

拝東遺跡は吉野川中流に位置しており、和泉帯（内帯）側から吉野川に流れ込む曾江谷川の堆積作用によって形成された扇状地の右側扇端部に位置しており、標高は40m前後を測る。

2 歴史的環境

周辺の遺跡としては、旧石器時代では阿波市阿波町の日吉谷遺跡（206-301）、美馬市脇町の鶴射遺跡（207-25）など国府型ナイフ形石器を出土する遺跡が曾江谷川を挟んだ吉野川北岸の段丘上に存在している。以後の弥生時代中期の集落としては井口東遺跡、西長峰遺跡、桜ノ岡遺跡などが段丘上に形成されている。また拝原地区から出土したと言われる「伝・江原小銅鐸」は拝東遺跡およびその周辺の集団が保有していた可能性が考えられる。

古墳時代になると北原古墳（207-8）、拝原南古墳（207-19）などをはじめとして後期の円墳が拝東遺跡の周辺に築かれており、拝東遺跡周辺において集落が形成されたと考えられる。旧美馬郡域には美馬町郡里地域の段ノ塚穴古墳群を中核として大型の横穴式石室を持つ古墳が築造されており、県西部



206-301 日吉谷遺跡 207-08 北原古墳 207-19 拝原南古墳 207-24 原遺跡（Ⅱ） 207-25 鶴射遺跡 207-29 上野城跡

第7図 拝東遺跡とその周辺の遺跡

に勢力を持つ有力な首長の存在が考えられる。

美馬町郡里地域は古代以降も官衙や寺院が置かれて政治の中心を担っていたとみられるが、平安時代になると『和名類聚抄』によれば美馬郡を構成していた七郷の内、上流部の三縄、三津、三野の三郷を「三好郡」として分離し、残る下流域の菜原、三次、大島、大村の四郷を「美馬郡」として改編している。ここに記されている「菜原郷」は現在の拝原周辺に比定されるとみられ、拝東遺跡もその中に含まれる可能性が高い。

中世の集落としては鎌倉時代のものとして原遺跡（Ⅱ）（207-24）の調査が行われている。また近隣の城館としては上野城跡（207-29）が存在しており、土塁状の高まりや凝灰岩製の五輪塔などが残されている。

参考文献

- 須植和巳・岩崎正夫・鈴木発士 1991『日本の地質 8 四国地方』共立出版株式会社
- （財）徳島県埋蔵文化財センター 1993『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 3』
- （財）徳島県埋蔵文化財センター 1994『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 5』
- 平凡社 2000『徳島県の地名』日本歴史地名体系 37
- （財）徳島県埋蔵文化財センター 2001『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 21』
- 徳島県教育委員会 2011『徳島県の中世城館』

Ⅲ 調査成果

1 基本層序 (第8図～第11図)

①調査区の微地形

拜東遺跡は吉野川の北岸に位置しており、和泉帯側から流れ込む支流の曾江谷川の堆積作用によって形成された扇状地上に立地している。調査において設定された調査区は東西約400mに及び、扇状地地形の南端部分を横断している。そのため調査区内では現地表面上においても、南北方向に伸びる尾根上の起伏の存在が何力所か確認することができた。標高が最も高い地点は西端の0-1区付近で約40.5m前後を測る。地形は東へ向かって緩やかに傾斜しており、1-1区東～1-2区の西側の地点で約40m程度の平坦面を形成している。1-2区東側でわずかな高まりが生じて二つ目のピークを形成している。それより東の2区ではやや平坦な地形が続くが3-1区は40mを下回って、3-2区において3か所目の高まりが形成されている。3-2区東端は曾江谷川に向かって徐々に傾斜しており、調査区全体では西端に比べると約1mほど低い39.5mを測る。

②遺構面

遺構面は各調査区によって1枚が確認された調査区(0-1区、1-1区西、1-1区東、1-2区、3-1区、3-2区)と2枚が確認された調査区(0-2区、1-0区、2区)が存在している。1枚のみの遺構面が確認された調査区は比較的標高が高所の地点に拡がっており、同一の面から弥生時代～中世(鎌倉・室町時代)までの遺構面が検出されている。2枚の遺構面が確認された調査区では下層の遺構面が弥生時代、上層の遺構面が主に平安時代から鎌倉・室町時代に分離される。ただし第2包含層の堆積が比較的厚い0-2区においては、弥生時代終末期の検出面が上下の遺構面の中間に存在しているのと、3-1区において遺構面の直下より古代～中世の間に形成されたとみられる水田面が一部に存在している。

③基本層序

調査前の現況は主に耕作地であったため、表土下には旧水田土壌のシルト層が拡がる地点が多い。その下に灰黄色またはオリーブ褐色系の砂質土が10～30cm前後堆積しており、その下から遺構面が検出されている。第2遺構面が存在する地点では、黄色あるいは黄褐色系の砂質土が包含層として存在しており、第2遺構面下には砂質土が1m前後堆積の後、下部には扇状地由来の礫層がみられる。

2 遺構と遺物

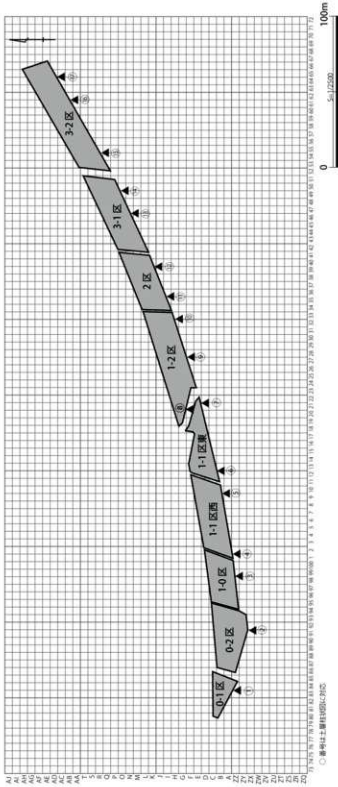
(1) 0-1区 (第12図)

0-1区において確認された遺構面は1面で、遺構は土坑(SK)が1基、小穴(SP)が3基、それと水田(SI)がそれぞれ検出されている。

1号土坑 (SK1001) (第13図)

検出地点 C83グリッド

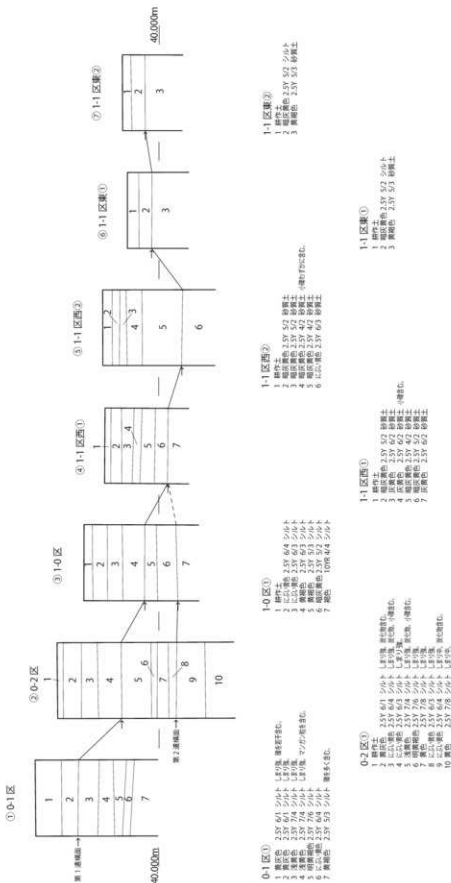
形態・規模 隅丸長方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。残存値で長軸0.88m、



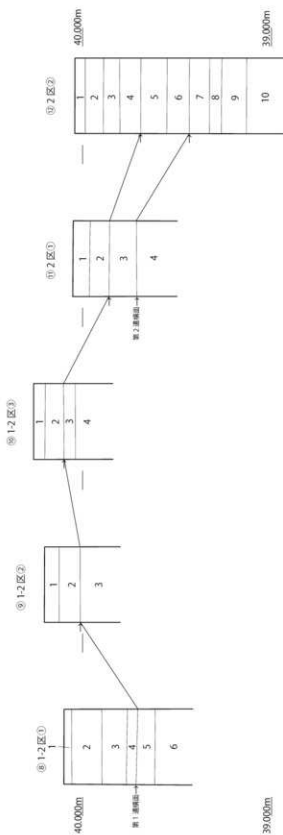
第8図 調査区の配置と土層観察地点

41,000m

41,000m



第9図 土層柱状図①



1-2区①
 1 砂質土 L800中層
 2 砂質土 5Y 5/2 砂質土
 3 砂質土 5Y 4/2 砂質土
 4 砂質土 5Y 4/2 砂質土
 5 砂質土 5Y 4/2 砂質土
 6 以上層線 100R 4/2 砂質土

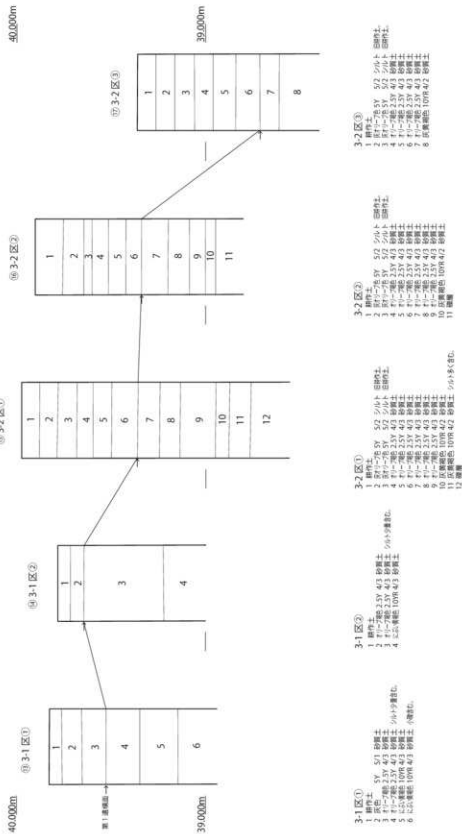
1-2区②
 1 砂質土 5Y 5/2 砂質土
 2 砂質土 5Y 4/2 砂質土
 3 以上層線 100R 4/2 砂質土

1-2区③
 1 砂質土 L800中層
 2 砂質土 5Y 5/2 砂質土
 3 砂質土 5Y 4/2 砂質土
 4 砂質土 2.5Y 5/1 砂質土

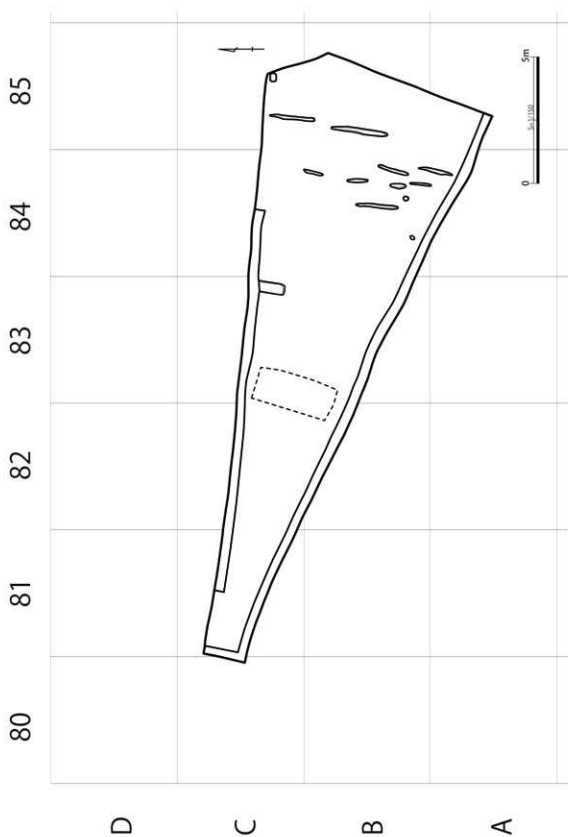
2区①
 1 砂質土 L800中層
 2 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 3 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 4 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土

2区②
 1 砂質土 L800中層
 2 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 3 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 4 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 5 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 6 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 7 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 8 砂質土 2.5Y 4/3 砂質土
 9 以上層線 100R 5/4 砂質土
 10 以上層線 100R 5/4 砂質土 シルト少量混入

第10図 土層柱状図②



第 11 図 土層柱状図③



第 12 图 0-1 区平面图 (1/150)

短軸が0.45m、深さが0.10mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 シルト層1層の堆積である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 年代は特定できない。

1号水田 (SI1001) (第12・14図)

検出地点 —

形態・規模 調査区全面に拡がっているものと考えられる。鋤跡が調査区東側を中心として南北方向に確認されている。

土層 —

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1は管状の土鍾である。包含層中から出土している。

時期 他の調査区の水田との関連から中世以降の可能性が考えられる。

(2) 0-2区 (第15・33図)

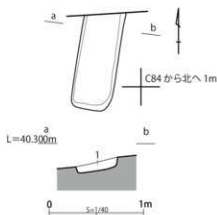
0-2区からは2枚の遺構面が確認されている。検出された遺構数は第1遺構面においては溝(SD)が3条、水田(SI)が2枚、土坑(SK)が15基、小穴(SP)が26基、性格不明遺構(SX)が1基であり、第2遺構面においては竪穴住居(SB)が1軒、土坑(SK)が55基、小穴(SP)が94基、集石遺構(SU)が3基、性格不明遺構(SX)が2基となっている。

①第1遺構面

1号溝 (SD1001) (第16・17図)

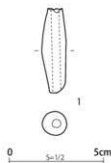
検出地点 ZY89・ZY～C90グリッド

形態・規模 南北方向に延びる溝で、残存値で延長距離が19.00m、幅が0.4m、深さが0.11mを測る。方位はN-15°-Eである。断面の形状は浅い丸底形である。水田(SI)として利用時の区画や排水を目



1 浅褐色、2.5Y 7/4 シルト L1.0m、M2.0m、幅0.4m、深さ0.11m、方位N15°E、70cm×70cm

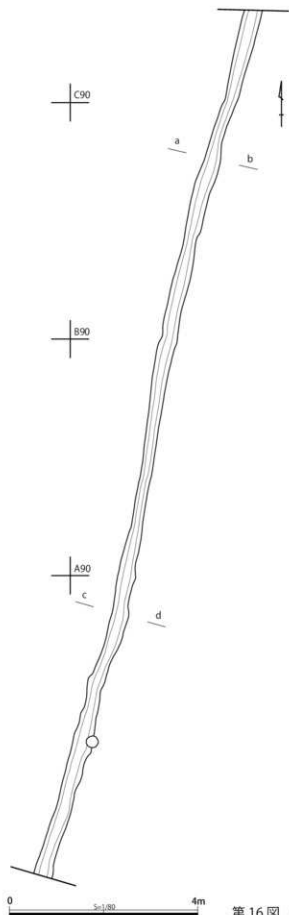
第13図 0-1区SK1001平断面図(1/40)



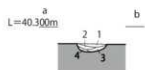
第14図 0-1区包含層出土遺物



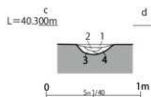
第 15 图 0-2 区第 1 遗横面平面图 (1/200)



第16図 0-2区SD1001平面図 (1/80)

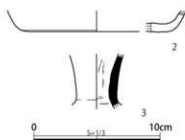


- | | | | | | |
|---|-------|------|-----|-----|-------------------------------|
| 1 | 浅褐色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | LS層、M-マシの堆積層下部、炭化物層下部、 |
| 2 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | LS層、M-マシの堆積層下部、炭化物層下部、 |
| 3 | にがい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | LS層、M-マシの堆積層下部、炭化物層下部、アーク溶出部、 |
| 4 | にがい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | LS層、M-マシの堆積層下部、炭化物層下部、 |

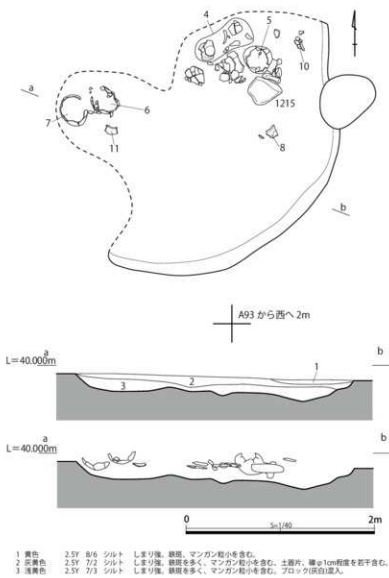


- | | | | | | |
|---|-------|------|-----|-----|------------------------|
| 1 | 浅褐色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | LS層、M-マシの堆積層下部、アーク溶出部、 |
| 2 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | LS層、M-マシの堆積層下部、アーク溶出部、 |
| 3 | にがい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | LS層、M-マシの堆積層下部、 |
| 4 | にがい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | LS層、M-マシの堆積層下部、 |

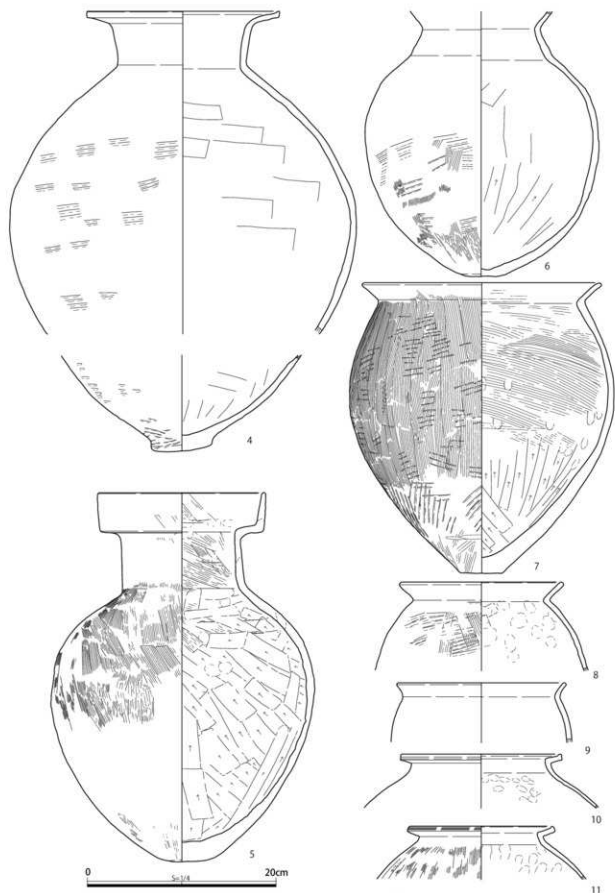
第17図 0-2区SD1001断面図 (1/40)



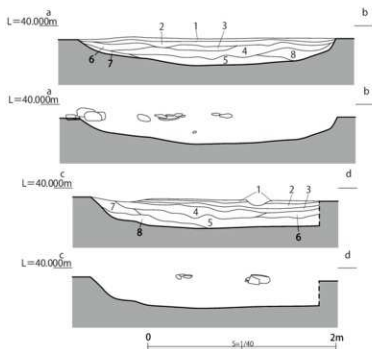
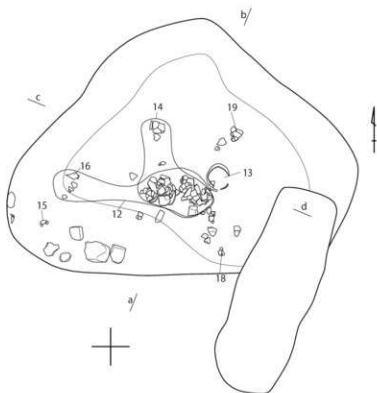
第 18 図 0-2 区 SI 出土遺物



第 19 図 0-2 区 SK1001 平面図 (1/40)

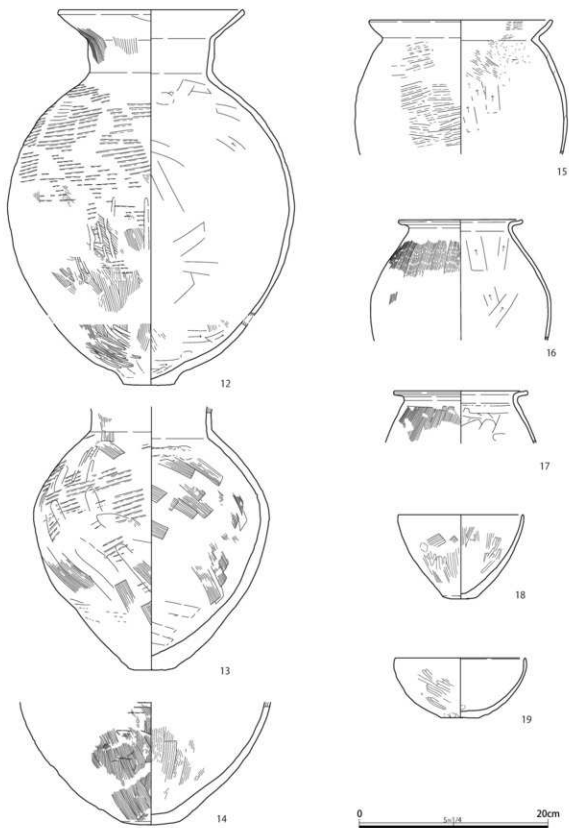


第20图 0-2区SK1001出土遗物

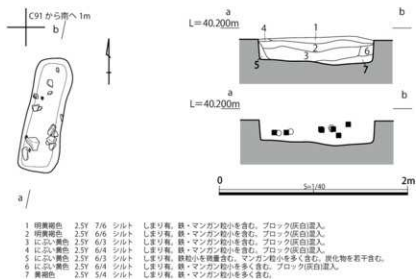


- | | | | | |
|--------|------|-----|-----|---|
| 1 灰黄色 | 2.5Y | 7/2 | シルト | しまり粉、鉄・マンガン粒粒小を多く含む。土器片を含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 2 浅黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり粉、鉄・マンガン粒粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 3 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり粉、鉄・マンガン粒粒小を多く含む。礫φ1cm程度を含む。 |
| 4 濃い黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり粉、鉄・マンガン粒粒小を多く含む。 |
| 5 明黄褐色 | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり粉、鉄・マンガン粒粒小を多く含む。 |
| 6 淡黄色 | 2.5Y | 8/4 | シルト | しまり粉、鉄・マンガン粒小を含む。礫φ30mmを含む。 |
| 7 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり粉、鉄・マンガン粒小を含む。礫φ1~2cmを含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 8 明黄褐色 | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり粉、鉄・マンガン粒小を含む。鉄屑を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |

第 21 図 0-2 区 SK1003 平断面図 (1/40)



第 22 图 0-2 区 SK1003 出土遗物



第 23 図 0-2 区 SK1004 平面図 (1/40)

的として掘削された可能性が考えられる。

土層 シルト層が 4 層に分層されており、レンズ状の堆積をみせる。上部は浅黄色、下部は主ににがい黄色のシルトが堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 後述する水田 (SI) の区画として利用されたと考えられるため同様の時期が考えられる。

水田 (SI) (第 15・18 図)

検出地点 —

規模・形態 SD1001 から東側に広がっており、中央部分からは東西方向の畦が検出されており、南北 2 枚に分割されている。南側では主に東西方向の鋤跡、北側では東西、南北両方向の鋤跡がそれぞれ検出されている。

土層 —

遺物出土状況 図化できるものはない。

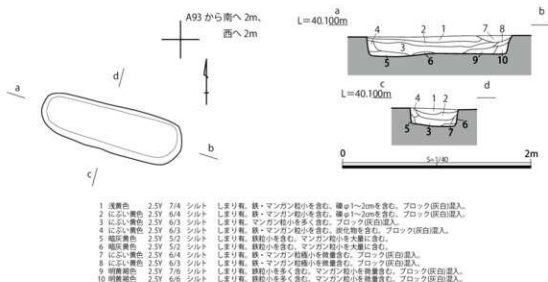
出土遺物 2 は土師質土器の杯である。底部の切り難しは回転ヘラ切りである。3 は須恵器の壺の頸部である。

時期 出土遺物から同時期に機能していたとみられる SD1001 とともに平安時代以降の年代が考えられる。

1 号土坑 (SK1001) (第 19・20・606 図)

検出地点 A92 グリッド

規模・形態 第 1 遺構面と第 2 遺構面の中間の層位で検出されており、平面形状は本来、円形を呈していたと考えられる。残存値で長軸 3.40m、短軸 2.70m、深さ 0.34m を測る。断面の形状は皿形である。



第24図 0-2区 SK1006 平面図 (1/40)



第25図 0-2区 SK1006 出土遺物

土層 どれもシルト層で3層に分層され、レンズ状の堆積をみせる。上部は灰黄色、下部には浅黄色のシルト層がそれぞれ堆積している。

遺物出土状況 1・2層を中心として北寄りに遺物が集中して出土している。

出土遺物 4～11は弥生土器。4～6は壺。4は広口壺、5は二重口縁壺である。7～11は甕である。10、11は下川津B類に形状が類似するが胎土から見て模倣品であると考えられる。1215は赤色顔料が付着した砂岩の砥石あるいは石臼である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

3号土坑 (SK1003) (第21・22図)

検出地点 A93グリッド

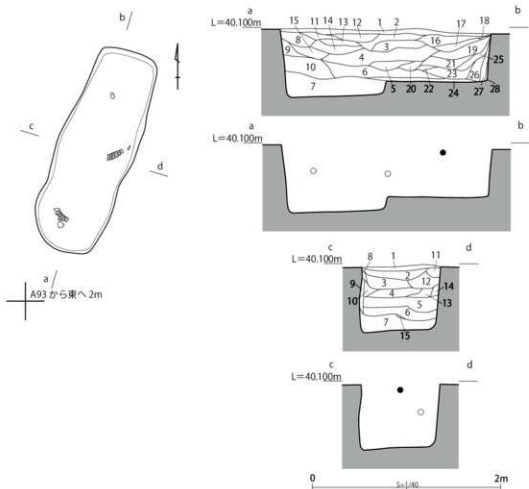
規模・形態 第1遺構面と第2遺構面の中間の層位で検出されており、平面形状はやや不整な円形を呈する。長軸が3.74m、短軸が2.68m、深さが0.30mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 どれもシルト層で8層に分層され、レンズ状の堆積をみせる。上部には主に浅黄色(2・3層)、下部には主に明黄褐色(5層)のシルト層が堆積している。

遺物出土状況 中央部分の1～3層付近を中心として遺物が出土している。

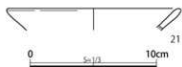
出土遺物 12～19は弥生土器。12～14は壺である。15～17は甕である。18・19は鉢である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

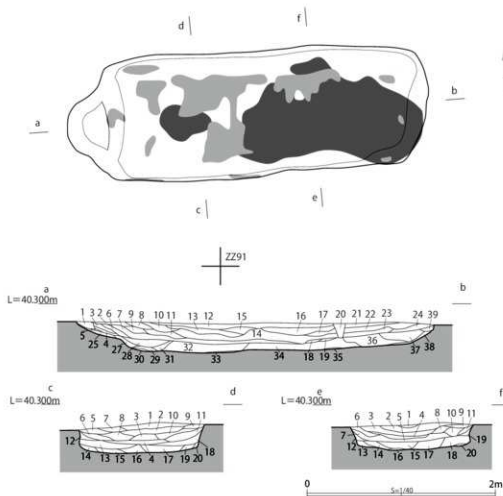


- | | |
|-----------------------|--|
| 1 にぶい黄色 2.5Y 6/3 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒極小を含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 2 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒極小を含む。ブロック(淡黄)混入。 |
| 3 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒極小を微量含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 4 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒極小を微量含む。ブロック(淡黄)混入。 |
| 5 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒極小を微量含む。ブロック(淡黄)混入。 |
| 6 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒小を含む。ブロック(灰白・淡黄・黄緑)混入。 |
| 7 にぶい黄色 2.5Y 6/3 シルト | しまり層。マンガング粒小を微量含む。鉄屑を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 8 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒小を微量含む。ブロック(灰白)混入。礫φ5cm含む。 |
| 9 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒極小を微量含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 10 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(淡黄)混入。 |
| 11 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒極小を含む。礫φ5cm含む。 |
| 12 にぶい黄色 2.5Y 6/3 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒小を微量含む。土器片を少し含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 13 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒小を微量含む。土器片を少し含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 14 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 15 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒小を微量含む。 |
| 16 にぶい黄色 2.5Y 6/3 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒小を微量含む。土器片を少し含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 17 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト | しまり層。鉄・マンガング粒極小を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 18 黄褐色 2.5Y 7/4 シルト | しまり層。鉄粒小を微量含む。マンガング粒小を微量含む。 |
| 19 にぶい黄色 2.5Y 6/3 シルト | しまり層。鉄粒小を微量含む。マンガング粒小を大量に含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 20 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト | しまり層。鉄粒小を微量含む。マンガング粒小を大量に含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 21 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト | しまり層。鉄粒小を微量含む。マンガング粒小を大量に含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 22 黄褐色 2.5Y 7/4 シルト | しまり層。鉄粒小を微量含む。マンガング粒小を大量に含む。ブロック(淡黄)混入。 |
| 23 黄褐色 2.5Y 7/3 シルト | しまり層。鉄粒小を多く含む。マンガング粒小を微量含む。 |
| 24 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト | しまり層。鉄粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 25 にぶい黄色 2.5Y 5/4 シルト | しまり層。鉄粒小を多く含む。マンガング粒小ブロック(灰白)混入。 |
| 26 黄褐色 2.5Y 7/3 シルト | しまり層。鉄粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 27 黄褐色 2.5Y 7/4 シルト | しまり層。鉄粒小を多く含む。マンガング粒小を含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 28 黄褐色 2.5Y 7/4 シルト | しまり層。鉄粒小を多く含む。マンガング粒小を含む。ブロック(灰白)混入。 |

第26図 0-2区 SK1007 平断面図 (1/40)

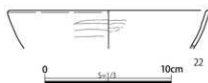


第27図 0-2区 SK1007 出土遺物

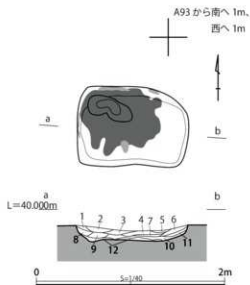


1 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を散見含む。炭化物を少し含む。
2 浅黄褐色	2.5V	7/3	シルト	しまり強。鉄粒極小を散見含む。マンガン粒小を多く含む。炭化物を少し含む。
3 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。鉄粒極小を散見含む。マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。
4 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。
5 にじみ黄褐色	2.5V	6/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少し含む。
6 明黄褐色	2.5V	7/6	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。
7 黄褐色	2.5V	8/6	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
8 灰黄褐色	2.5V	7/2	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を散見含む。炭化物を少し含む。
9 黄褐色	2.5V	7/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を散見含む。ブロック(灰白)混入。
10 黄褐色	2.5V	7/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
11 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少し含む。
12 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
13 にじみ黄褐色	2.5V	6/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
14 にじみ黄褐色	2.5V	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
15 にじみ黄褐色	2.5V	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
16 にじみ黄褐色	2.5V	6/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
17 にじみ黄褐色	2.5V	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
18 黄褐色	2.5V	5/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
19 明黄褐色	2.5V	5/2	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
20 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少し含む。
21 にじみ黄褐色	2.5V	6/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
22 にじみ黄褐色	2.5V	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。ブロック(灰白)混入。
23 にじみ黄褐色	2.5V	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
24 浅黄褐色	2.5V	7/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少量含む。
25 黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。鉄粒極小を散見含む。マンガン粒小を多く含む。
26 土色なし				
27 にじみ黄褐色	10VR	7/4	シルト	しまり強。腐土。炭化物を大量に含む。
28 浅黄褐色	10VR	8/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を多く含む。
29 にじみ黄褐色	10VR	7/3	シルト	しまり強。腐土を少し含む。炭化物を大量に含む。
30 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。腐土を少し含む。
31 浅黄褐色	2.5V	8/4	シルト	しまり強。炭化物を多く含む。ブロック(腐土)混入。
32 黄褐色	2.5V	8/4	シルト	しまり強。腐土を多く含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰黄)混入。
33 腐土	5YR	7/6	シルト	しまり強。腐土。
34 黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。マンガン粒極小を散見含む。炭化物を少し含む。ブロック(腐土・黄灰)混入。
35 明黄褐色	2.5V	7/6	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を散見含む。炭化物を少し含む。
36 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。炭化物を多く含む。腐土を少し含む。礫φ1mmを含む。ブロック(腐土)混入。
37 黄褐色	2.5V	8/3	シルト	しまり強。炭化物を多く含む。腐土を少し含む。ブロック(腐土)混入。
38 浅黄褐色	2.5V	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を散見含む。炭化物を少し含む。
39 浅黄褐色	10VR	8/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を散見含む。炭化物を多く含む。

第28図 0-2区 S01001 平衡面図 (1/40)



第29図 0-2区 SO1001 出土遺物



- | | | | | |
|---------|------|-----|-----|--|
| 1 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒細小を含む。炭化物塊大を多く含む。 |
| 2 浅黄色 | 2.5Y | 8/3 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒細小を含む。炭化物塊大を若干含む。 |
| 3 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒細小を含む。炭化物塊大を多く含む。ブロック状白磁入。 |
| 4 浅黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊小を多く含む。焼土を多く含む。 |
| 5 浅黄色 | 2.5Y | 8/3 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊小を若干含む。焼土を多く含む。 |
| 6 にふい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物塊小を多く含む。焼土を多く含む。 |
| 7 浅黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物塊小を若干含む。焼土を少量含む。 |
| 8 にふい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊小を若干含む。 |
| 9 にふい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物塊大を若干含む。 |
| 10 浅黄色 | 2.5Y | 8/3 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒細小を含む。炭化物塊大を若干含む。ブロック状白磁入。 |
| 11 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊小を多く含む。焼土を多く含む。 |
| 12 浅黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり粘。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊小を多く含む。焼土を多く含む。 |

第30図 0-2区 SO1002 (旧1-b面 SO1001) 断面面図 (1/40)

4号土坑 (SK1004) (第23図)

検出地点 B90・91 グリッド

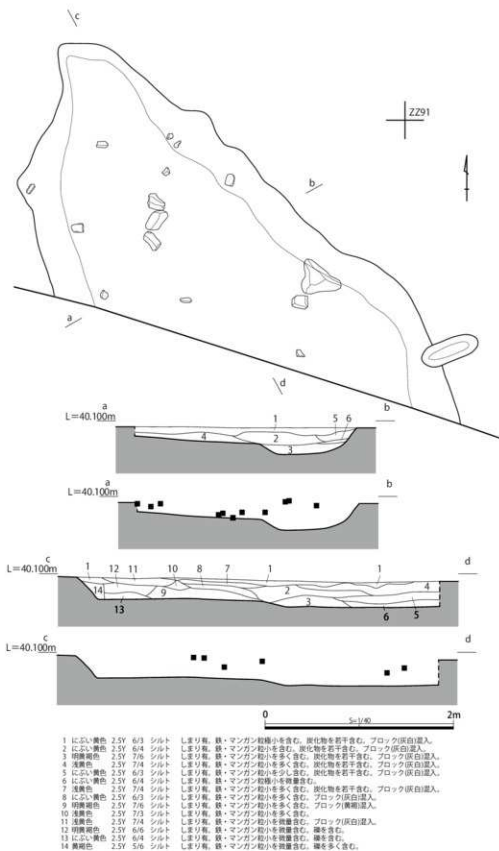
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が1.32m、短軸が0.40m、深さが0.30mを測る。断面の形状は長方形である。

土層 7層に分層される。上部は明黄褐色シルト、下部にはにふい黄色シルトが主に堆積している。

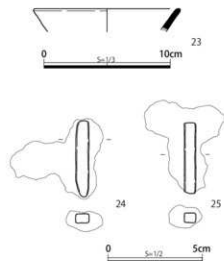
遺物出土状況 2、3層を中心として、拳大～人頭大の垂円礫と伴に土器の小片などが出土している。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 年代は特定できない。



第31図 0-2区 SX1001 平断面図 (1/40)



第32図 0-2区SK1001出土遺物

6号土坑 (SK1006) (第24・25図)

検出地点 ZZ92グリッド

規模・形態 平面形状は長楕円形を呈し、長軸が1.54m、短軸が0.50m、深さが0.20mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト層で10層に分層される。上部にはぶい黄色、下部には明黄褐色のシルト層が主に堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 20は須恵器の杯である。

時期 出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

7号土坑 (SK1007) (第26・27図)

検出地点 A93グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が2.23m、短軸が0.83m、深さが0.57mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト層で28層に分層される。底部付近はにぶい黄色シルトの平行気味の堆積であるが、上半部はにぶい黄色と黄褐色のシルトが互層となっており、埋め戻されたような痕跡を示す。

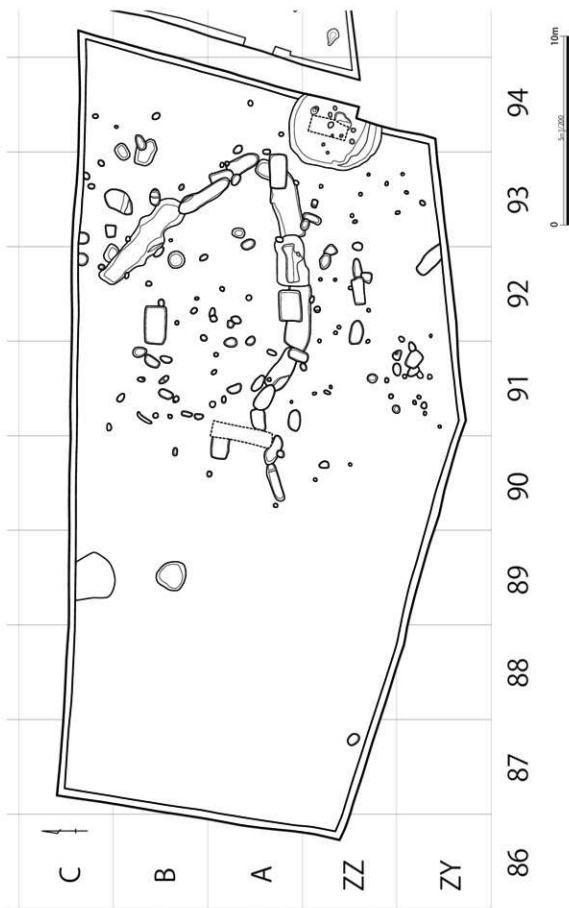
遺物出土状況 中層付近の中央部と南寄りの2か所から動物の歯が出土している。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 年代は特定できない。

1号炭窯 (SO1001) (第28・29図)

検出地点 ZZ90・91グリッド



第33图 0-2区第2遺構面平面図 (1/200)

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、西側に煙道部が附属している。長軸が3.78m、短軸が1.33m、深さが0.31mを測る。断面形状は皿形である。

土層 何れもシルト層で39層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、炭化物片を多く含んでいる。

遺物出土状況 底部を中心に東側を中心として炭化物、西側を中心として焼土の拡がりが見られる。

出土遺物 22は黒色土器の椀である。

時期 出土した遺物から平安時代（11世紀）以降の時期が想定される。

2号炭窯（SO1002）（第30図）

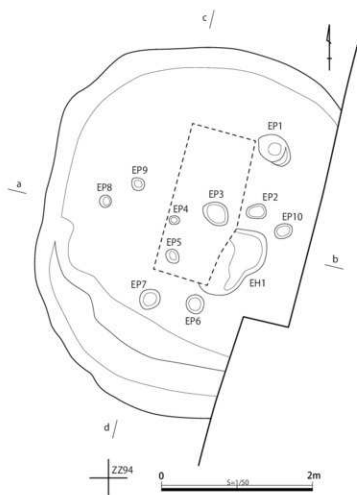
検出地点 ZZ92 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が1.18m、短軸が0.83m、深さが0.16mを測る。断面の形状は皿形である。

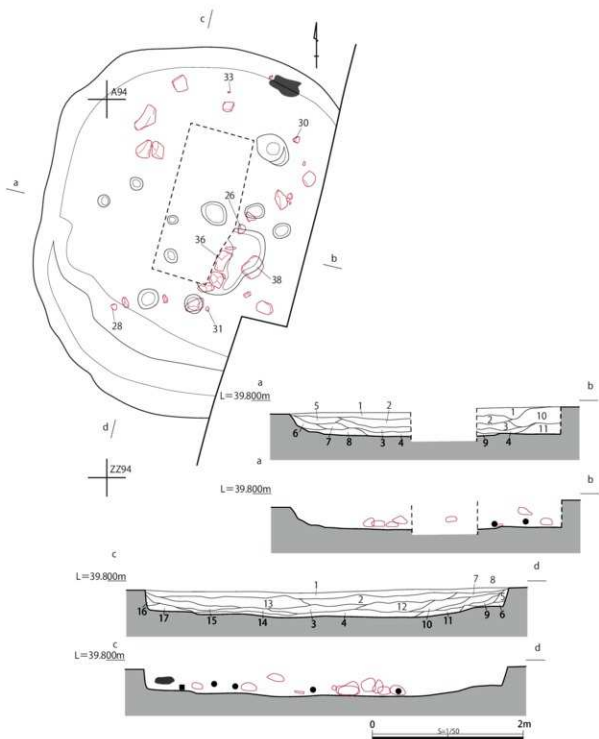
土層 何れもシルト層で12層に分層される。

遺物出土状況 底部付近を中心として炭化物の拡がりが見られる。また壁沿いには焼土がみとめられる。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

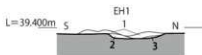


第34図 0-2区SB2001平面図（1/50）

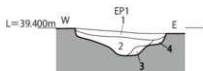
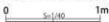


- | | | | | | |
|----|-------|------|-----|-----|---------------------------------------|
| 1 | に広い黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を多く含む。ブロック(黄土)混入。 |
| 2 | に広い黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(黄土)混入。 |
| 3 | に広い黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。ブロック(灰白・明礬)混入。 |
| 4 | 黄褐色 | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。ブロック(明礬)混入。 |
| 5 | 明褐色 | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 6 | 浅褐色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 7 | 浅褐色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 8 | に広い黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 9 | に広い黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 10 | 明褐色 | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 11 | 明褐色 | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 12 | 明褐色 | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 13 | に広い黄色 | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 14 | 明褐色 | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 15 | 明褐色 | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 16 | 黄色 | 2.5Y | 7/8 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 17 | 黄色 | 2.5Y | 7/8 | シルト | しまり地。鉄・マンガン粉小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |

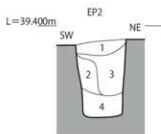
第35図 0-2区 SB2001 平面図 (1/50)



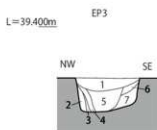
- 1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト・しまり強、炭化物を若干含む。
- 2 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。
- 3 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。



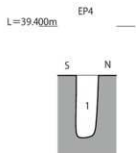
- 1 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト・しまり強、炭化物を若干含む。
- 2 浅黄緑色 2.5Y 7/4 シルト・しまり強。
- 3 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強。
- 4 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強、ブロック状白土混入。



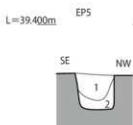
- 1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。
- 2 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。
- 3 黄色 2.5Y 7/8 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。
- 4 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。



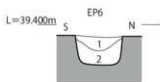
- 1 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。
- 2 黄色 2.5Y 7/8 シルト・しまり強、ブロック状白土混入。
- 3 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強、ブロック状白土混入。
- 4 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強、炭化物を若干含む。
- 5 黄色 2.5Y 5/1 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。
- 6 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強、炭化物を若干含む。
- 7 黄色 2.5Y 7/8 シルト・しまり強、ブロック状白土混入。



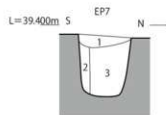
- 1 黄色 2.5Y 7/8 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。



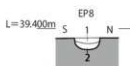
- 1 黄色 2.5Y 7/8 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。
- 2 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト・しまり強。



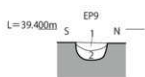
- 1 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強。
- 2 黄色 2.5Y 7/8 シルト・しまり強。



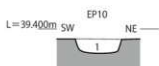
- 1 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強。
- 2 黄色 2.5Y 7/8 シルト・しまり強。
- 3 黄色 2.5Y 7/8 シルト・しまり強、炭化物を多く含む。



- 1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト・しまり強、炭化物を若干含む。
- 2 灰黄緑色 2.5Y 6/4 シルト・しまり強。



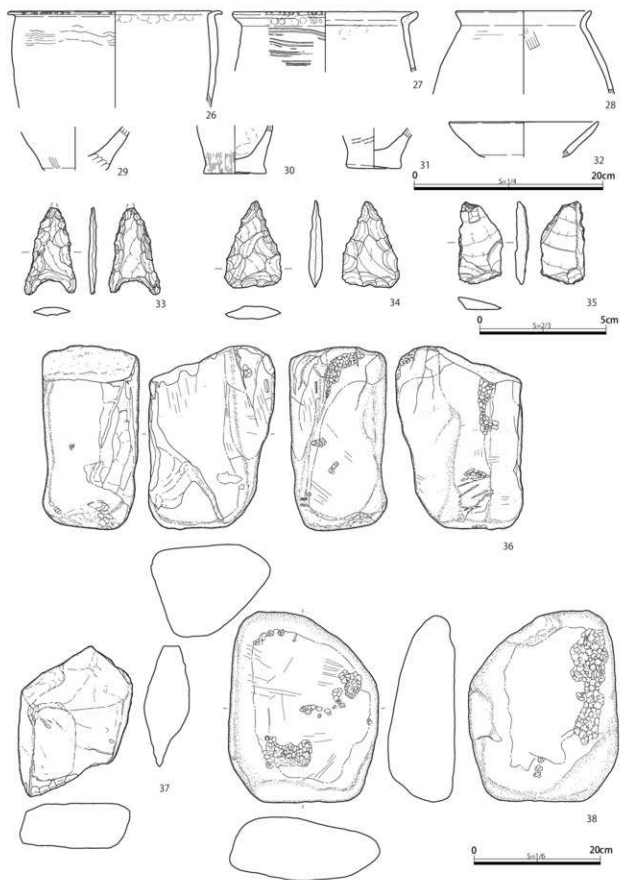
- 1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト・しまり強。
- 2 浅黄緑色 2.5Y 7/3 シルト・しまり強。



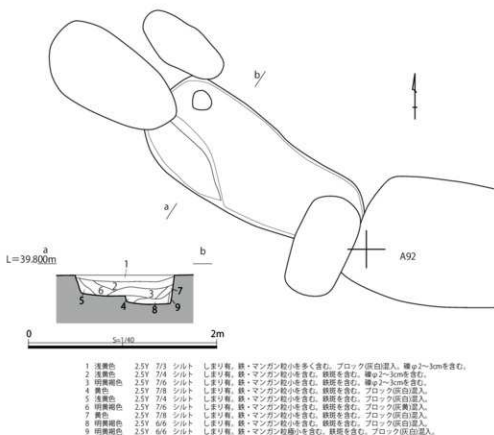
- 1 明黄緑色 2.5Y 7/6 シルト・しまり強。



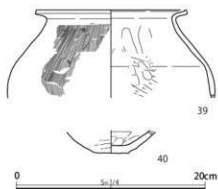
第36図 0-2区SB2001EH・EP断面図 (1/20)



第 37 图 0-2 区 SB2001 出土遗物



第 38 図 0-2 区 SK2015 平断面図 (1/40)



第 39 図 0-2 区 SK2015 出土遺物

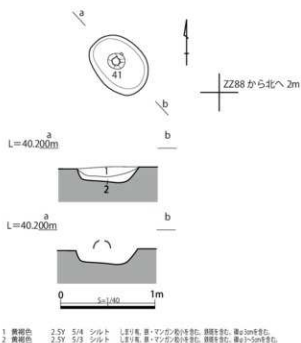
時期 年代は特定できない。

1号性格不明遺構 (SX1001) (第31・32図)

検出地点 ZY・ZZ90・91 グリッド

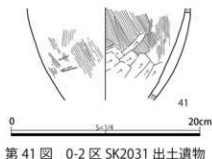
規模・形態 平面の形状は不定形で南側は調査区外に延びている。残存値で長軸が3.84m、短軸が2.35m、深さが0.28mを測る。断面の形状は緩やかな2段形である。

土層 何れもシルト層で14層に分層される。上部は主ににぶい黄色、下部は明黄褐色のシルト層がそ



第40図 0-2区 SK2031 断面図 (1/40)

1 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト 上より黄・赤・マンガン(赤)付帯。顕微鏡下。厚さ30μm程度。
2 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト 上より黄・赤・マンガン(赤)付帯。顕微鏡下。厚さ1-50μm程度。



第41図 0-2区 SK2031 出土遺物

れぞれ堆積している。

遺物出土状況 拳大～人頭大の砂岩礫が上層を中心に出土している。

出土遺物 23は須恵器の杯である。24、25は棒状の鉄製品である。

時期 出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

②第2遺構面

1号竪穴住居 (SB2001) (第34～37図)

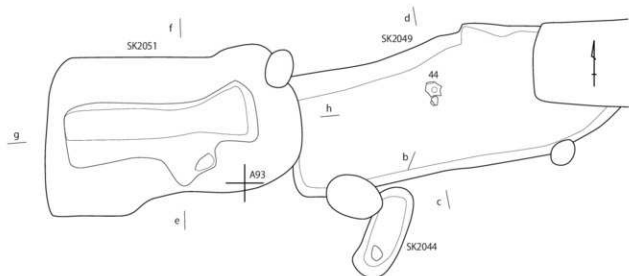
検出地点 ZZ・A93・94 グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈するとみられるが、東側は調査区外に延びている。残存値で長軸が4.90m、短軸が3.34m、深さが0.36mを測る。断面の形状は南側の壁面が緩やかな2段形を呈する。柱穴 (EP) は10基検出されている。また炉 (EH) は中央やや東寄りから1基検出されている。

土層 何れもシルト層で17層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部にはにぶい黄色、下部には主に明黄褐色のシルト層が堆積している。床面付近の層からは炭化物片が多く含まれている。

遺物出土状況 床面よりやや上を中心として遺物が出土しており、炉跡周辺及び北壁付近では人頭大の砂岩礫なども出土している。

出土遺物 26～32は弥生土器。26～28は甕である。26、27は口縁部が逆L字状の形態で、体部上半に櫛描文を施す。29～31は壺または甕の底部、32は高杯の杯部と考えられる。33は凹基式、34は平基式の石甕で何れもサヌカイト製である。35は楔形石器より剥離されたとみられるサヌカイトの剥片で、縁辺に微細な剥離痕が認められる。36は砂岩製の砥石である。37、38は砂岩製の台石である。



a
L=39.800m



a
L=39.800m



1 透黄色 2.5Y 7/4 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面。50cm程度。ブロック灰白混入。

2 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。

a/c
L=39.800m



c
L=39.800m



1 透黄色 2.5Y 7/3 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。70cm程度混入。

2 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。70cm程度混入。

3 透黄色 2.5Y 7/4 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面含む。70cm程度混入。

4 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面含む。70cm程度混入。

5 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面含む。70cm程度混入。

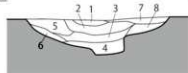
6 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面含む。70cm程度混入。

7 褐色 2.5Y 7/8 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面含む。70cm程度混入。

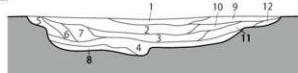
8 明黄褐色 2.5Y 6/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。70cm程度混入。

9 黄色 2.5Y 7/8 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面含む。70cm程度混入。

e
L=39.800m



f g
L=39.800m



1 透黄色 2.5Y 7/3 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。ブロック灰白混入。

2 透黄色 2.5Y 7/4 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。ブロック灰白混入。

3 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。ブロック灰白混入。

4 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。ブロック灰白混入。

5 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。ブロック灰白混入。

6 透黄色 2.5Y 7/4 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。ブロック灰白混入。

7 透黄色 2.5Y 7/3 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。ブロック灰白混入。

8 明黄褐色 2.5Y 6/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。厚さ5cmを有す。ブロック灰白混入。

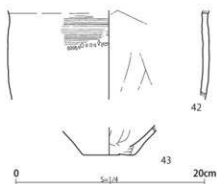
9 透黄色 2.5Y 7/4 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面を含む。ブロック灰白混入。

10 透黄色 2.5Y 7/4 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面を含む。ブロック灰白混入。

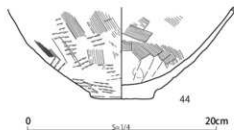
11 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。ブロック灰白混入。

12 黄色 2.5Y 7/8 シルト L.F.19.8. 黒・マンガン小多量含む。鏡面を含む。ブロック灰白混入。

第42図 0-2区 SK2044・SK2049・SK2051 平面図 (1/40)



第43図 0-2区 SK2044 出土遺物



第44図 0-2区 SK2049 出土遺物



第45図 0-2区 SK2051 出土遺物

時期 出土した遺物から弥生時代前期末～中期初頭の年代が想定される。

15号土坑 (SK2015) (第38・39図)

検出地点 A91 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられ、西側をSK2012とSK2029に、東側をSK2016、SK1027にそれぞれ切られている。残存値で長軸が1.54m、短軸が1.05m、深さが0.30mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト層で9層に分層される。上部は浅黄色、下部には明黄褐色のシルト層が主に堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 39、40は弥生土器。39は甕で、胎土に角閃石を含んでおり下川津B類土器の搬入品である。40は鉢の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期以降の時期が想定される。

31号土坑 (SK2031) (第40・41図)

検出地点 ZZ87 グリッド

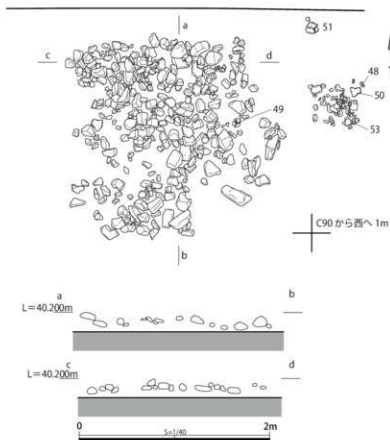
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸が0.65m、短軸が0.52m、深さが0.17mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れもシルト層で2層に分層される。

遺物出土状況 上面から土器が出土している。

出土遺物 41は弥生土器の甕の胴部である。

時期 出土した遺物から弥生時代後期以降の時期が想定される。



第46図 0-2区SU2001平断面図(1/40)

44号土坑(SK2044)(第42・43図)

検出地点 ZZ93グリッド

規模・形態 平面形状は長楕円形を呈し、長軸が1.09m、短軸が0.42m、深さが0.11mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れもシルト層で2層に分層される。

遺物出土状況 中央やや南寄りから径20cm程の砂岩礫が1層中より出土している。

出土遺物 42、43は弥生土器。42は甕の胴部である。頸部の下に櫛描文と列点文が施されている。43は甕の底部である。

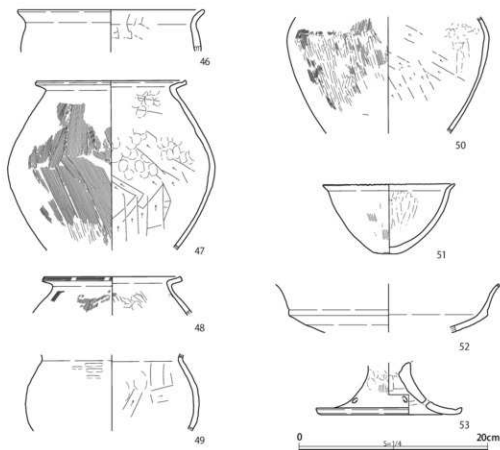
時期 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

49号土坑(SK2049)(第42・44図)

検出地点 A93グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、西側をSK2051、東側をSK2043に切られている。残存値で長軸が2.50m、短軸が1.36m、深さが0.25mを測る。断面の形状は緩やかな2段形である。

土層 何れもシルト層で9層に分層される。上部は浅黄色、下部には明黄褐色のシルト層が主に堆積している。



第47図 0-2区SU2001出土遺物

遺物出土状況 遺構上面中央付近から土器が出土している。

出土遺物 44は弥生土器の壺の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

51号土坑（SK2051）（第42・45図）

検出地点 ZZ・A92・93グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が2.70m、短軸が1.52m、深さが0.38mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 どれもシルト層で12層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部は浅黄色、下部には明黄褐色のシルト層が主に堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

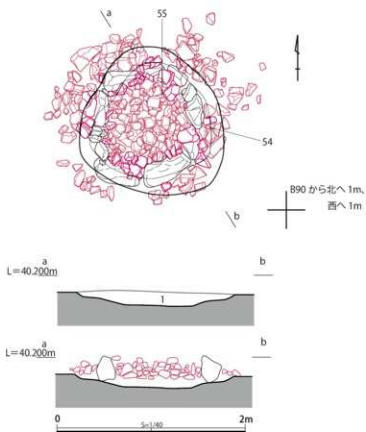
出土遺物 45は弥生土器の甕の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

1号集石（SU2001）（第46・47図）

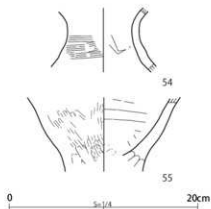
検出地点 C89グリッド

規模・形態 南北（長軸）約3.1m、東西（短軸）約2.2mの拡がりを見せる集石で、砂岩礫を主体と

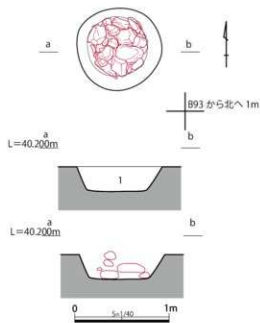


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 シルト しまり強、堀り方硬土。炭化物・土器片を少量含む。直径1~3m次の礫をやや多く含む。

第 48 図 0-2 区 SU2002 平面図 (1/40)



第 49 図 0-2 区 SU2002 出土遺物



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 シルト しまり強。炭化物・土器片を少量含む。直径1~3m次の礫をやや多く含む。

第 50 図 0-2 区 SU2003 平面図 (1/40)

して拳大～人頭大の大きさの礫で構成されている。下部に掘り込み等は存在しない。東側に土器溜まりが存在している。

土層 ー

遺物出土状況 集石内の土器は小片が多く、周辺部からやや大型の土器片が出土している。

出土遺物 46～53は弥生土器。46～50は甕である。内47、48、50は胎土に角閃石を含んでおり下川津B類土器の搬入品と考えられる。51は鉢である。52、53は高杯である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

2号集石 (SU2002) (第48・49図)

検出地点 B89 グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸が1.58m、短軸が1.54m、深さが0.14mの掘り込みを伴う。

断面の形状は緩やかな2段形である。人頭大の大きさを含む大型の扁平な砂岩礫が円形に組まれており、その内部を中心にやや小型である拳大の砂岩の角礫を充填するような形で埋められている。

土層 オリーブ褐色シルト1層である。

遺物出土状況 充填された礫の中から土器片が出土している。

出土遺物 54、55は弥生土器。54は壺の頸部、55は壺の胴部下半と考えられる。

時期 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

3号集石 (SU2003) (第50図)

検出地点 B92 グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、径が約0.9m、深さが0.24mの掘り込みを伴う。断面の形状は舟底形を呈する。拳大～人頭大の砂岩礫が土坑内を充填するように埋められている。

土層 オリーブ褐色シルト1層である。

遺物出土状況 礫以外の遺物は出土していない。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

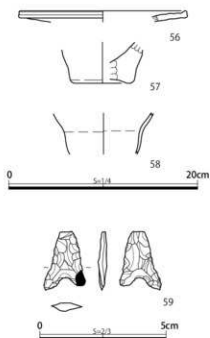
時期 年代は特定できない。

2号性格不明遺構 (SX2002) (第51・52図)

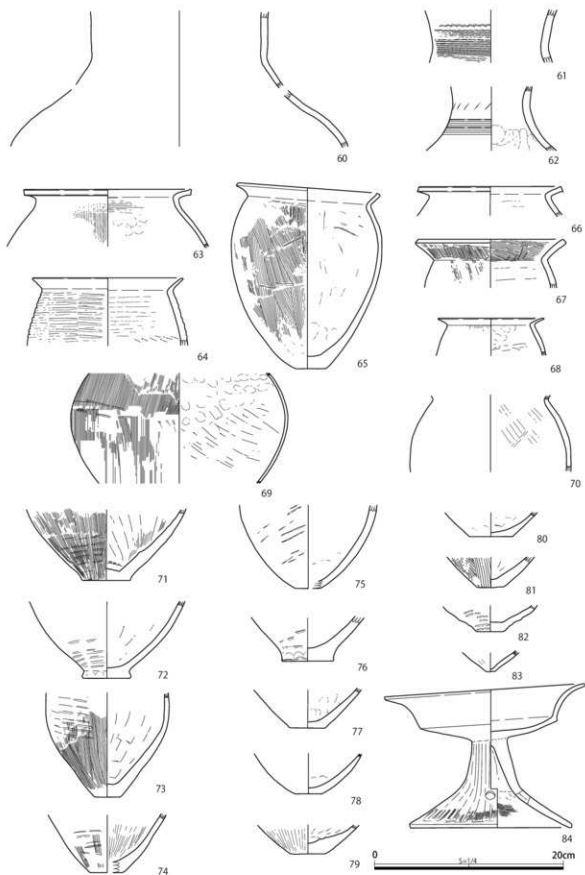
検出地点 B・C92・93 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が5.71m、短軸が1.74m、深さが0.58mを測る。断面の形状は2段形である。

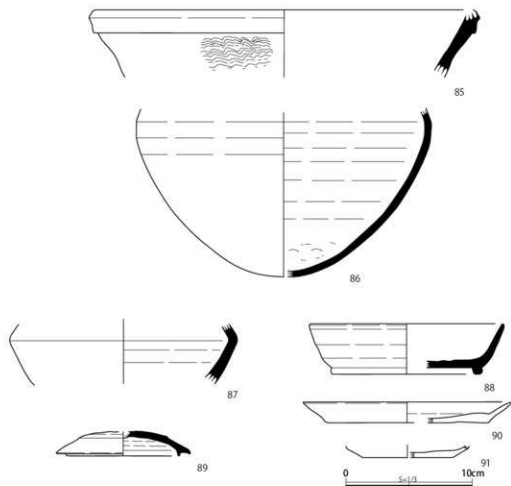
土層 何れもシルト層で36層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部は浅黄色、下部には明黄褐色



第52図 0-2区 SX2002 出土遺物



第 53 图 0-2 区包含层出土遗物①



第54図 0-2区包含層出土遺物②

色のシルト層が主に堆積している。

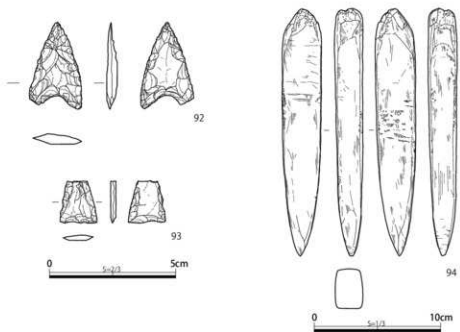
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 56は弥生土器の壺の口縁である。57は弥生土器の甕の底部である。58は弥生土器の鉢の体部である。59はサヌカイト製の凹基式の石鏃である。

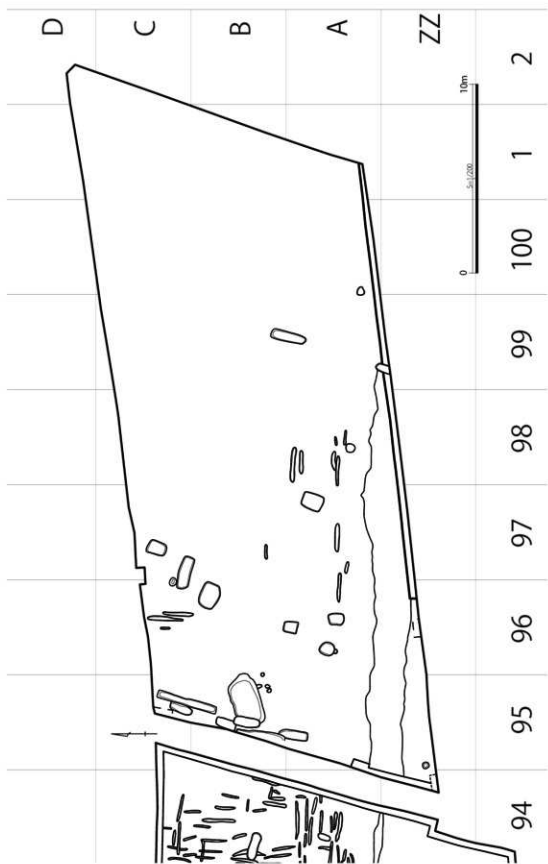
時期 出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

包含層出土遺物（第53～55図）

60～84は弥生土器。60～62は壺である。63～79は甕である。80～83は鉢である。84は高杯である。85～89は須恵器。85、86は甕である。87は壺である。88は杯である。90、91は土師器の皿である。底部はいずれも回転ヘラ切りである。92、93はサヌカイト製の石鏃で、92は凹基式、93は平基式である。94は結晶片岩製の柱状片刃石斧である。



第 55 图 0-2 区包含层出土遗物③



第 56 图 1-0 区第 1 遗横面平面图 (1/200)

(3) 1-0区 (第56・70図)

1-0区からは2枚の遺構面が確認されている。検出された遺構数は第1遺構面においては溝(SD)が1条、水田(SI)が2枚、土坑(SK)が14基、小穴(SP)が9基、炭窯(SO)が1基であり、第2遺構面においては竪穴住居(SB)が3軒、土坑(SK)が51基、小穴(SP)が39基となっている。

①第1遺構面

1号溝(SD1001)(第57・58図)

検出地点 B・C95グリッド

規模・形態 南西から北東方向に延びる溝で、延長距離は3.20m、幅が0.40m、深さは0.18mを測る。方位はN-17°-Eである。断面の形状は舟底形である。

土層 浅黄色シルト層が1層である。

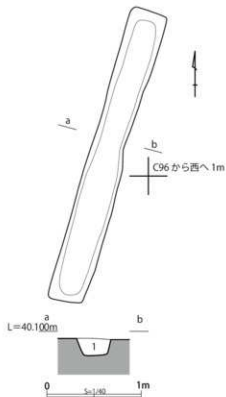
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 95は土師質土器の杯である。96は瓦器の椀である。97は須恵質土器の杯である。98は磁器で合子の蓋である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

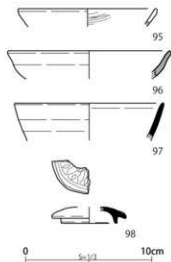
水田(SI)(第56・59・60図)

検出地点 —

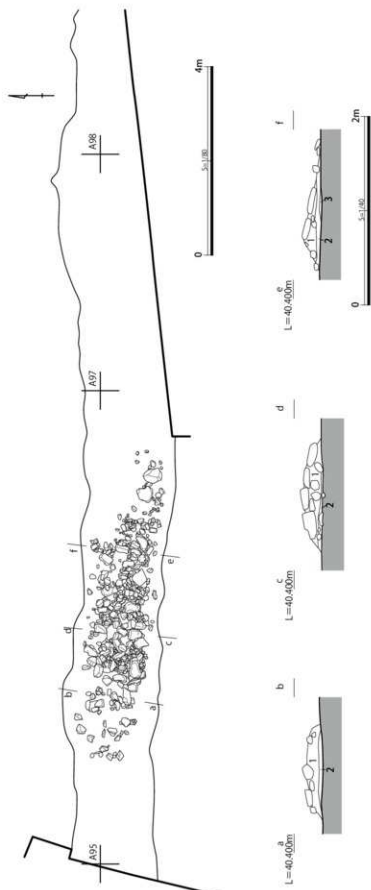


1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト L1F19 7/5石炭 鉄製(4枚) 銅(1) 2枚(80.70)73(銅器)

第57図 1-0区SD1001 平面図(1/40)

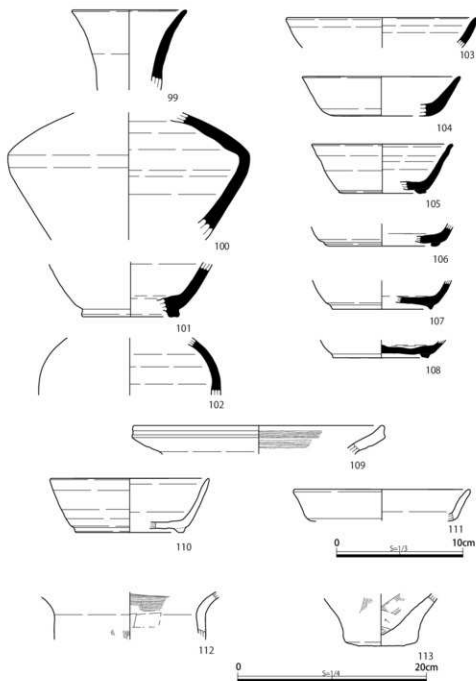


第58図 1-0区SD1001 出土遺物



第 59 图 1-0 区 SI 哇平断面图 (1/80 · 1/40)

1 块状物 2.5Y 7/3 シルト 1.5m 厚、厚さ約 0.5-1.0m 程度、灰化層を形成する。
 2 1.2-1.5m 厚、2.5Y 6/3 シルト 1.5m 厚、厚さ約 0.5-1.0m 程度、灰化層を形成する。
 3 1.2-1.5m 厚、2.5Y 6/3 シルト 1.5m 厚、厚さ約 0.5-1.0m 程度、灰化層を形成する。



第 60 図 1-0 区 SI 出土遺物

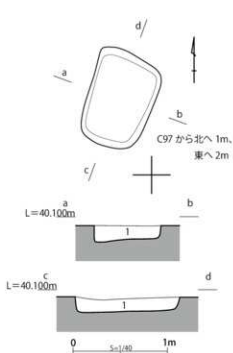
規模・形態 調査区の全域に拡がっていたと考えられる。グリッドの ZZ-A ラインに沿うようにして東西方向の畦が検出され、南北 2 枚の水田に分割されている。北側では東西、南北両方向の跡跡がそれぞれ検出されている。畦の幅は 1 ~ 1.3m を測り、砂岩の角礫が畦状に盛り上げられている。

土層 畦はシルト層 3 層に分層され部分的に大型の砂岩礫が集中して盛り上げられている。

遺物出土状況 水田上面の包含層中より遺物が出土している。

出土遺物 99 ~ 108 は須恵器。99 ~ 102 は壺である。103 ~ 108 は杯である。109, 110 は土師器。

109 は甕である。110 は杯である。111 黒色土器 B 類の杯である。112, 113 は弥生土器である。

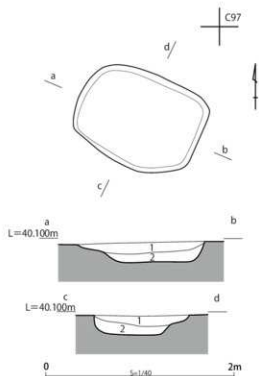


1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト L1F1区 敷設層(65-1m, 敷設時期 敷設5m以内)に属し、70cm深層部。

第 61 図 1-0 区 SK1002 平断面図 (1/40)

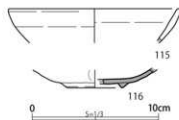


第 62 図 1-0 区 SK1002 出土遺物



1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト L1F1区 敷設層(70-1m, 敷設時期 マダガス 敷設5m以内)
2 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト L1F1区 敷設層(70-1m, 敷設時期 マダガス 敷設5m以内)に属し、70cm深層部。

第 63 図 1-0 区 SK1004 平断面図 (1/40)



第 64 図 1-0 区 SK1004 出土遺物

時期 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の時期が想定される。

2号土坑(SK1002)(第61・62図)

検出地点 C97グリッド

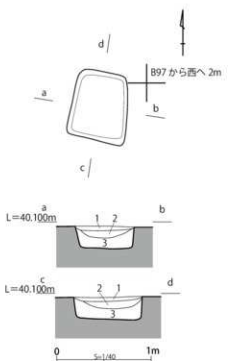
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.02m、短軸は0.70m、深さは0.17mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 浅黄色シルト層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 114は弥生土器の甕の口縁部である。口縁端部に刻みがみられる。

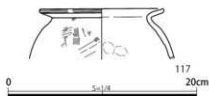
時期 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。



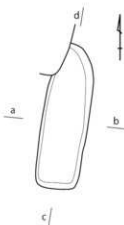
第 65 図 1-0 区 SK1006 平面断面図 (1/40)

- | | | | | | |
|---|-----|------|-----|-----|-----------------------------|
| 1 | 淡黄色 | 2.5Y | 8/4 | シルト | しまり強、鉄粒、マンガング粒小を含む。 |
| 2 | 淡黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強、マンガング粒中、マンガング粒小を含む。 |
| 3 | 淡黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強、マンガング粒中、鉄粒、マンガング粒小を含む。 |

第 65 図 1-0 区 SK1006 平面断面図 (1/40)



第 66 図 1-0 区 SK1006 出土遺物



第 67 図 1-0 区 SK1013 平面断面図 (1/40)

- | | | | | | |
|---|-----|------|-----|-----|------------------------|
| 1 | 淡黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強、鉄粒、マンガング粒小を含む。 |
| 2 | 淡黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり強、鉄粒、マンガング粒小、礫小を含む。 |

4号土坑 (SK1004) (第63・64図)

検出地点 B96 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.35m、短軸は1.00m、深さは0.21mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 浅黄色シルト層が2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 115は土師質土器の杯である。116は和泉型瓦器椀である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

6号土坑 (SK1006) (第65・66図)

検出地点 A・B96 グリッド

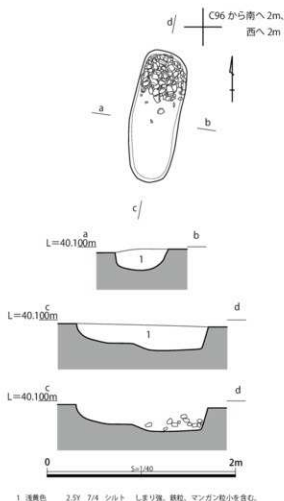
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は0.72m、短軸は0.60m。深さは0.12mを測る。断面の形状は長方形である。

土層 何れもシルト層で3層に分層され、2層はレンズ状に堆積している。

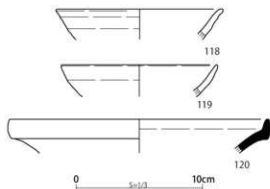
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 117は弥生土器の甕で胎土から讃岐地方からの搬入品と考えられる。

時期 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。



第 68 図 1-0 区 SK1014 平断面図 (1/40)



第 69 図 1-0 区 SK1014 出土遺物

13 号土坑 (SK1013) (第 67 図)

検出地点 A・B95 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.56m、短軸は 0.50m。深さは 0.17m を測る。断面の形状は皿形であるが、一部が 2 段形となっている。

土層 浅黄色シルト層が 2 層に分層され、平行堆積をみせる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 年代は特定できない。

14 号土坑 (SK1014) (第 68・69 図)

検出地点 B95 グリッド

規模・形態 平面形状は長楕円形を呈し、長軸は 1.41m、短軸は 0.52m、深さは 0.23m を測る。断面の形状は浅い丸底形で、南北方向では 2 段形となっている。

土層 浅黄色シルト層が 1 層である。

遺物出土状況 北側寄りの下部付近を中心として華大の砂岩角礫が集中して出土している。

出土遺物 118、119 は土師質土器の杯である。120 は東播系須恵器の捏鉢である。

時期 出土した遺物から平安時代末～鎌倉時代 (12 世紀後半～13 世紀前半) 以降の年代が想定される。

②第 2 遺構面

1 号竪穴住居 (SB2001) (第 71・72 図)

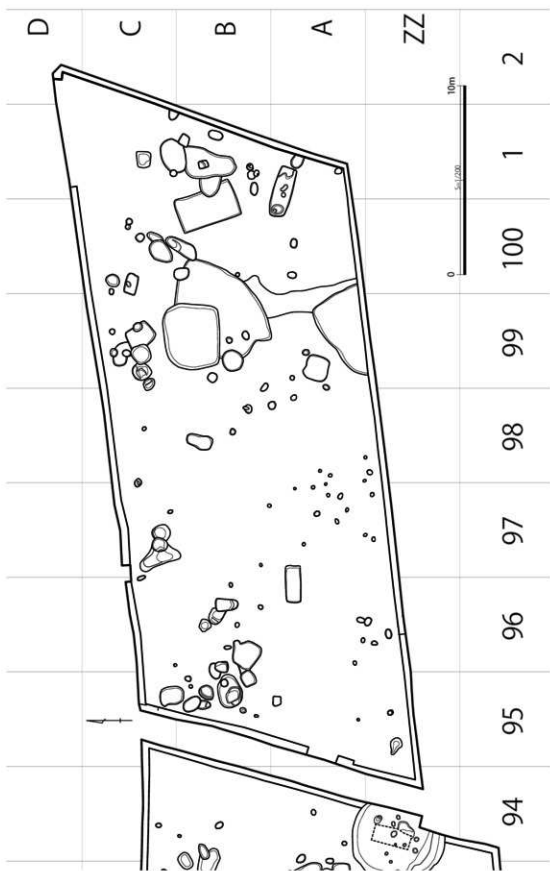
検出地点 B100・1 グリッド

規模・形態 平面形状は長方形を呈し、長軸は 3.26m、短軸は 1.98m、深さは 0.17m を測る。断面の形状は浅い皿形である。柱穴 (EP)、炬 (EH) などの屋内施設は検出されていない。

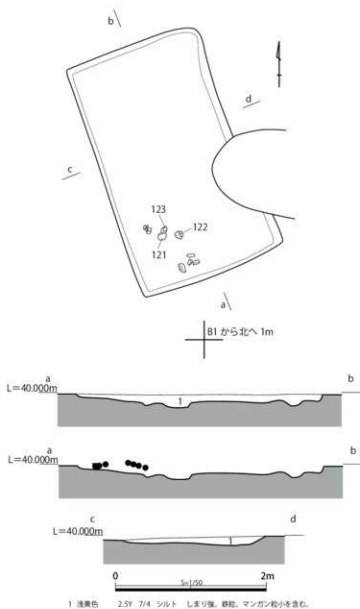
土層 浅黄色シルト層が 1 層である。

遺物出土状況 南西部分を中心に遺物が出土している。

出土遺物 121～123 は弥生土器。121 は壺の体部、122 は底部である。123 は高杯の脚部で裾部は屈



第70图 1-0区第2遗横面平面图 (1/200)



第71図 1-0区 SB2001 平断面図 (1/50)

曲して開いている。

時期 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭以降の年代が想定される。

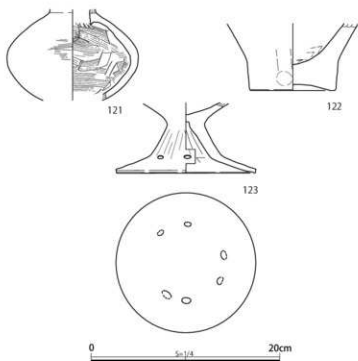
2号竪穴住居 (SB2002) (第73図)

検出地点 B・C99 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸方形を呈し、長軸は3.42m、短軸は2.93m、深さは0.25mを測る。断面の形状は皿形である。柱穴 (EP)、炉 (EH) などの屋内施設は検出されていない。

土層 何れもシルト層で8層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部は浅黄色、下部にはにぶい黄色の小礫を含むシルト層が主に堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。



第72図 1-0区SB2001出土遺物

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 年代は特定できない。

3号竪穴住居 (SB2003) (第73～76図)

検出地点 B99・100グリッド

規模・形態 平面形状は不整形で、北西部をSB2002に切られている。残存値で長軸は5.98m、短軸は3.48m、深さは0.10mを測る。断面の形状は浅い皿形である。柱穴 (EP)、炬 (EH) などは検出されていない。

土層 何れもシルト層で4層に分層される。

遺物出土状況 南半部分を中心として砂岩礫や土器等が出土している。西寄りにはやや小型の礫を中心として散漫に分布しており、東寄りには拳大のやや大型の礫を含む角礫が円形に集中して分布している。

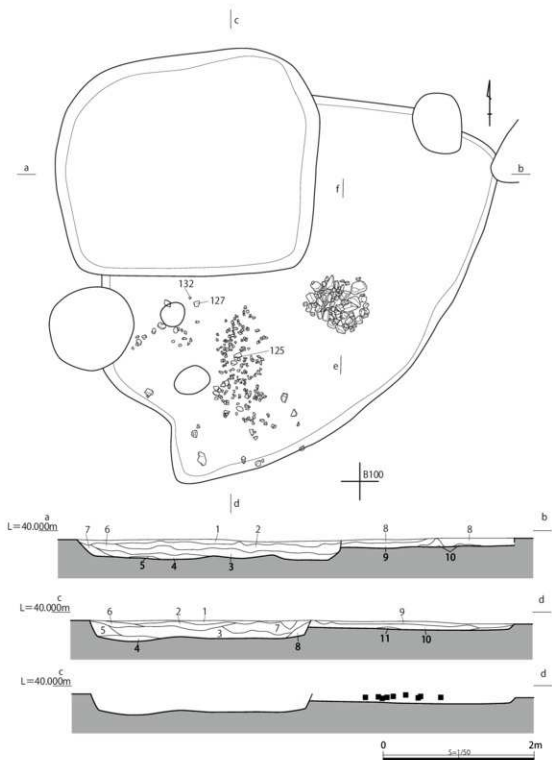
出土遺物 124～131は弥生土器。124、125は壺である。124は頸部に櫛描文が施されている。126～130は甕である。126は如意形口縁を呈し、口縁端部には刻目目、頸部下には櫛描文が施されている。131は高杯の杯部である。132はサヌカイト製の凹基式の石甕である。133はサヌカイト製の石甕である。134は両極打法によるサヌカイト製の剥片である。

時期 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

4号土坑 (SK2004) (第77・78図)

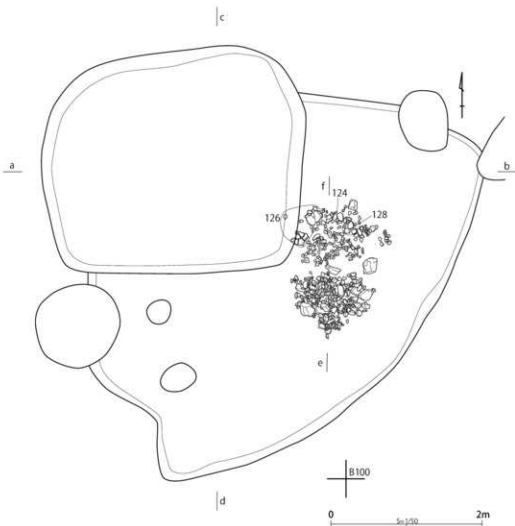
検出地点 B1グリッド

規模・形態 平面形状は北側がやや幅広で隅丸の台形を呈し、北側をSK2003に切られている。残存



- | | | | | | |
|----|-------|------|-----|-----|---|
| 1 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | LEり混入、マンガン酸分多量存在、層厚10cm程度存在。 |
| 2 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | LEり混入、マンガン酸分多量存在、層厚10cm程度存在。 |
| 3 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | LEり混入、マンガン酸分多量存在、層厚10cm程度存在、ブロック 原田 混入。 |
| 4 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | LEり混入、マンガン酸分多量存在、層厚10cm程度存在、ブロック 原田 混入。 |
| 5 | 黄褐色 | 2.5Y | 5/4 | シルト | LEり混入、マンガン酸分多量存在、ブロック 原田 混入。 |
| 6 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | LEり混入、黒、マンガン酸分多量存在、層厚10cm程度存在、ブロック 原田 混入。 |
| 7 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | LEり混入、黒、マンガン酸分多量存在、ブロック 原田 混入。 |
| 8 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | LEり混入、黒、マンガン酸分多量存在、層厚10cm程度存在、ブロック 原田 混入。 |
| 9 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | LEり混入、マンガン酸分多量存在。 |
| 10 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | LEり混入、黒、マンガン酸分多量存在。 |
| 11 | 明黄褐色 | 2.5Y | 6/6 | シルト | LEり混入、黒、マンガン酸分多量存在、ブロック 原田 混入。 |

第73図 1-0区 SB2002・SB2003 平断面図① (1/50)



第74図 1-0区 SB2002・SB2003 平断面図② (1/50)

値で長軸は2.66m、短軸は1.39m、深さは0.12mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れもシルト層で3層に分層される。

遺物出土状況 北東隅付近から土器が出土している。

出土遺物 135は弥生土器で口縁部が僅かに開く鉢である。

時期 出土した遺物の年代から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

19号土坑 (SK2019) (第79・80図)

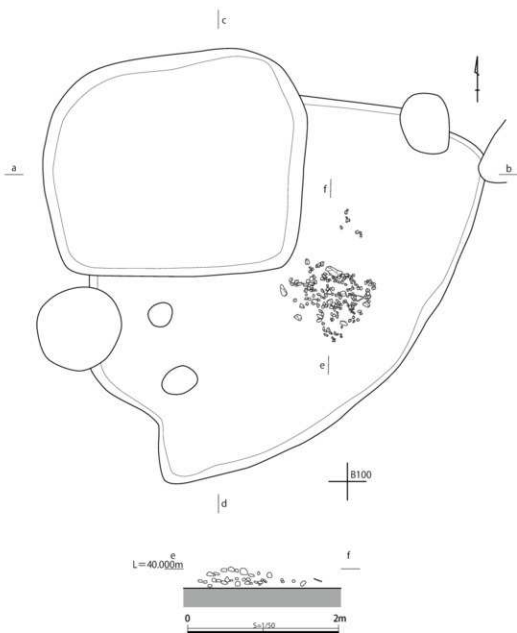
検出地点 C97グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、西側をSK2020に切られている。残存値で長軸は0.90m、短軸は0.88m、深さは0.35mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト層で3層に分層される。上部は浅黄色、下部にはにぶい黄褐色のシルト層が堆積している。

遺物出土状況 中央の2層中より遺物が出土している。

出土遺物 136、137は弥生土器。136は甕の底部である。137は鉢で口縁部は屈曲して開いている。



第75図 1-0区 SB2002・SB2003 平面図③ (1/50)

時期 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

20号土坑 (SK2020) (第79図)

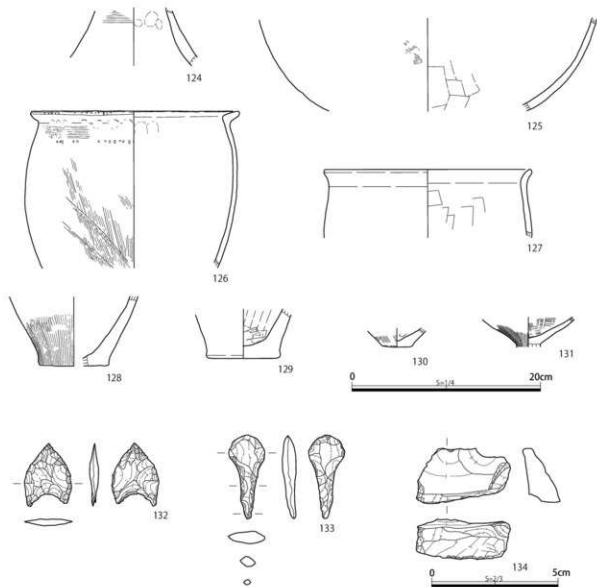
検出地点 C97 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.80m、深さは0.27mを測る。断面の形状は逆台形状である。

土層 何れもシルト層で6層に分層される。

遺物出土状況 東壁付近より砂岩礫が出土している。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。



第76図 1-0区SB2003出土遺物

時期 隣接するSK2019の出土遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

23号土坑 (SK2023) (第81・82図)

検出地点 B96グリッド

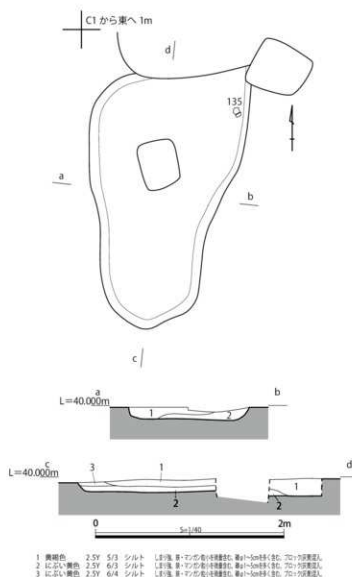
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.20m、短軸は0.60m、深さは0.45mを測る。断面の形状は東西方向は方形、南北方向では2段形である。

土層 何れもシルト層で11層に分層される。上部は浅黄色、下部には黄褐色のシルト層が堆積している。

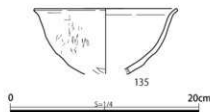
遺物出土状況 底部中央付近から人頭大の砂岩角礫が、その他は上面付近より土器が出土している。

出土遺物 138は弥生土器の高杯で、口縁部が外に大きく開いている。

時期 出土した遺物から弥生時代中期初頭以降の年代が想定される。



第77図 1-0区 SK2004 平断面図 (1/40)



第78図 1-0区 SK2004 出土遺物

27号土坑 (SK2027) (第83・84図)

検出地点 B96グリッド

規模・形態 平面の形状は隅丸方形で、北東部に小さな突出部が存在している。長軸は1.55m、短軸は1.42m、深さは0.32mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト層で12層に分層される。上部は浅黄色、下部には黄褐色のシルト層が主に堆積している。

遺物出土状況 大型の砂岩礫は底部付近から、土器類は中層からやや上面にかけて出土している。

出土遺物 139～146は弥生土器。139～141は壺である。139は口縁部が緩やかに外反する広口壺である。140、141は体部の上半部で櫛描による直線文と波状文が描かれている。142～146は甕の底部と考えられる。

時期 出土した遺物から弥生時代中期初頭以降の年代が想定される。

28号土坑 (SK2028) (第83・85図)

検出地点 B95・96グリッド

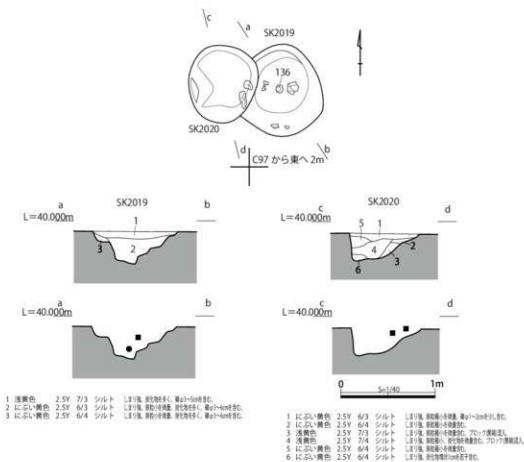
規模・形態 平面形状は隅丸方形を呈し、長軸が0.89m、短軸は0.72m、深さは0.22mを測る。断面の形状は長方形である。

土層 何れもシルト層で7層に分層される。上部は浅黄色、下部にはにぶい黄色のシルト層が堆積している。

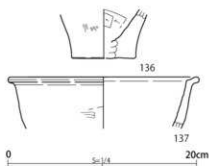
遺物出土状況 底部付近より土器が出土している。

出土遺物 147、148は弥生土器の甕の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代中期以降の年代が想定される。



第79図 1-0区 SK2019・SK2020 平断面図 (1/40)



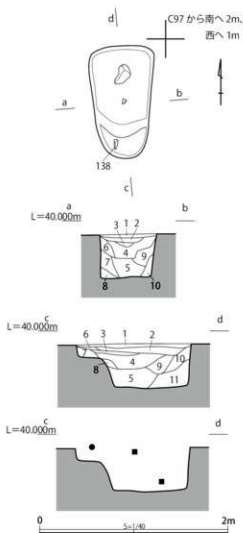
第80図 1-0区 SK2019 出土遺物

34号土坑 (SK2034) (第86・87図)

検出地点 B95 グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は1.76m、短軸は1.26m、深さは0.24mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト層で7層に分層される。上部は浅黄色、下部にはにぶい黄色や黄褐色のシルト層が堆積している。



- | | | | | | |
|----|-------|------|-----|-----|-------------------------------------|
| 1 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う, フロウ状出現。 |
| 2 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う, 散在性出現, フロウ状出現。 |
| 3 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う, フロウ状出現。 |
| 4 | 灰黄色 | 2.5Y | 6/2 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う, フロウ状出現。 |
| 5 | 黄褐色 | 2.5Y | 5/3 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う, フロウ状出現。 |
| 6 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う, 散在性出現。 |
| 7 | 浅黄色 | 2.5Y | 7/4 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う。 |
| 8 | 淡黄色 | 2.5Y | 8/4 | シルト | 上1層, フロウ状出現。 |
| 9 | 淡黄色 | 2.5Y | 7/3 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う, 2層状出現, フロウ状出現。 |
| 10 | 灰黄色 | 2.5Y | 6/2 | シルト | 上1層, 黒・マンガン沈澱(中)を伴う, フロウ状出現。 |
| 11 | 明黄褐色 | 2.5Y | 7/6 | シルト | 上1層, 散在性出現, フロウ状出現・散在性出現。 |

第81図 1-0区 SK2036 平面断面図 (1/40)

遺物出土状況 中央付近を中心として出土している。
出土遺物 149～150は弥生土器。149は壺である。150、151は甕で、150の口縁部は逆L字形で頸部下には櫛描文が施されている。
時期 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

36号土坑 (SK2036) (第88・89図)

検出地点 B95グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.77m、短軸は0.70m、深さは0.19mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト層で6層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部は浅黄色、下部にはにぶい黄色のシルト層が堆積している。

遺物出土状況 中央底部付近から出土している。

出土遺物 152、153は弥生土器の甕の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代前期末～中期初頭以降の年代が想定される。

37号土坑 (SK2037) (第90・91図)

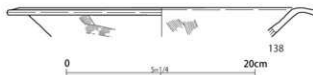
検出地点 B95グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は1.02m、短軸は0.68m、深さは0.15mを測る。断面の形状は皿形である。

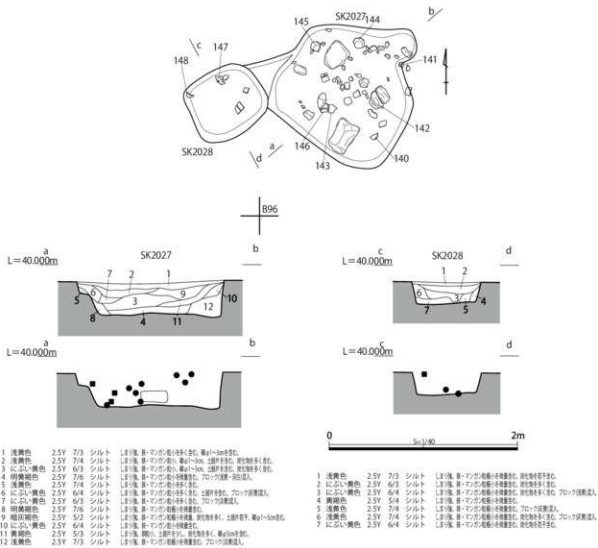
土層 浅黄色シルト層で上下2層に分層される。

遺物出土状況 底部中央付近を中心として出土している。

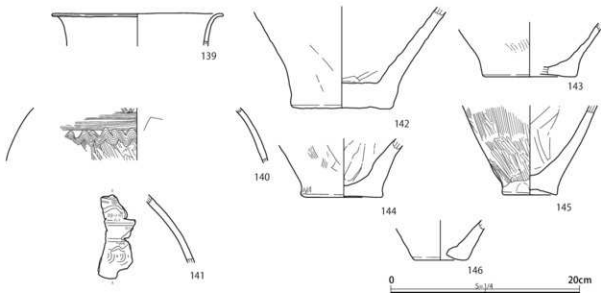
出土遺物 154、155は弥生土器の甕である。154は口縁部は僅かに屈曲して直線的に開いており、頸部下



第82図 1-0区 SK2037 出土遺物



第83図 1-0区 SK2027・SK2028 平断面図 (1/40)



第84図 1-0区 SK2027 出土遺物

には柳描文が施されている。

時期 出土した遺物から弥生時代前期末～中期初頭以降の年代が想定される。

44号土坑 (SK2044) (第92・93図)

検出地点 B・C95グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.30m、短軸は0.95m、深さは0.27mを測る。断面の形状は緩やかな2段形である。

土層 何れもシルト層で10層に分層され、下層付近には炭化物が含まれている。

遺物出土状況 中央と南壁付近から出土している。

出土遺物 156～161は弥生土器の甕である。156はやや短めの口縁部で端部には刻み目が施されている。体部大きく張り出し気味で外面はヘラミガキがみられる。157は口縁部はくの字に屈曲して直線的に開き、端部を丸く収めている。

時期 出土した遺物から弥生時代中期初頭以降の年代が想定される。

2号集石 (SU2002) (第94・95図)

検出地点 B96グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は0.67m、短軸は0.61m、深さは0.07mの浅い掘り込みを伴っている。断面の形状は浅い皿形である。

土層 明黄褐色シルト層が1層である。

遺物出土状況 上面付近を中心として拳大の砂岩の角礫や扁平礫がまともって出土している。

出土遺物 162は弥生土器で、体部が算盤玉形の細頸壺である。

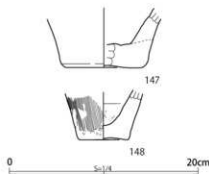
時期 出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

3号集石 (SU2003) (第96・97図)

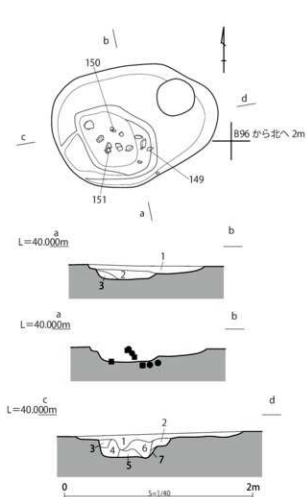
検出地点 A95グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は0.50m、短軸は0.42m、深さは0.13mの掘り込みを伴っている。断面の形状は長方形である。

土層 明褐色シルトが1層である。

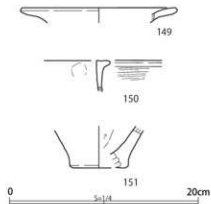


第85図 1-0区 SK2028 出土遺物

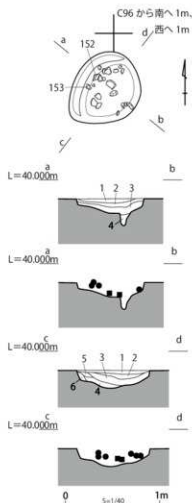


- 1 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝、凹縁を削り取った。
 2 に近い黄色 2.5Y 6/3 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝を削り取った。
 3 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝を削り取った。70cmの深溝を削り取った。
 4 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝を削り取った。土壁、黒く塗られた土壁を削り取った。
 5 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝を削り取った。土壁、黒く塗られた土壁を削り取った。
 6 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝を削り取った。70cmの深溝を削り取った。
 7 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝を削り取った。

第86図 1-0区 SK2034 平断面図 (1/40)

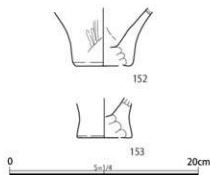


第87図 1-0区 SK2034 出土遺物

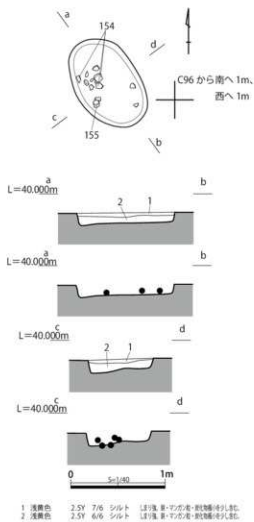


- 1 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝、凹縁を削り取った。
 2 に近い黄色 2.5Y 6/3 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝、凹縁を削り取った。70cmの深溝を削り取った。
 3 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝、凹縁を削り取った。70cmの深溝を削り取った。
 4 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝、凹縁を削り取った。70cmの深溝を削り取った。
 5 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝、凹縁を削り取った。
 6 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト L.F.後、B・Yの凸部を削り取った。凹状の浅溝、凹縁を削り取った。

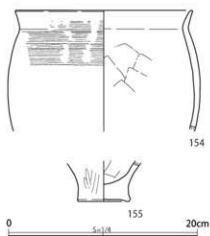
第88図 1-0区 SK2036 平断面図 (1/40)



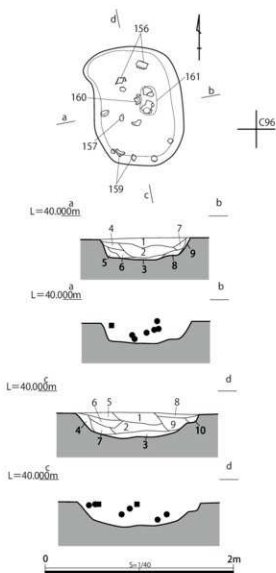
第89図 1-0区 SK2036 出土遺物



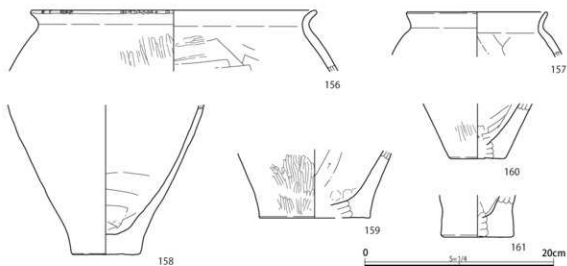
第90図 1-0区 SK2037 平断面図 (1/40)



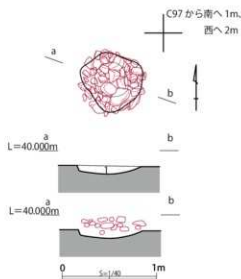
第91図 1-0区 SK2037 出土遺物



第92図 1-0区 SK2044 平断面図 (1/40)

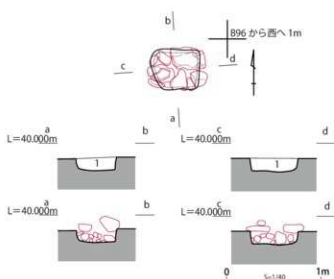


第93図 1-0区SK2044 出土遺物



1 明褐色 2.5Y 7/6 シルト 土層内、ワケの形に形、炭化物少量、アコウ炭粒

第94図 1-0区SU2002 平断面図 (1/40)

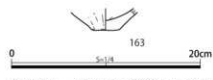


1 明褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強、マンガン粒小さく多く、炭化物を少し含む。

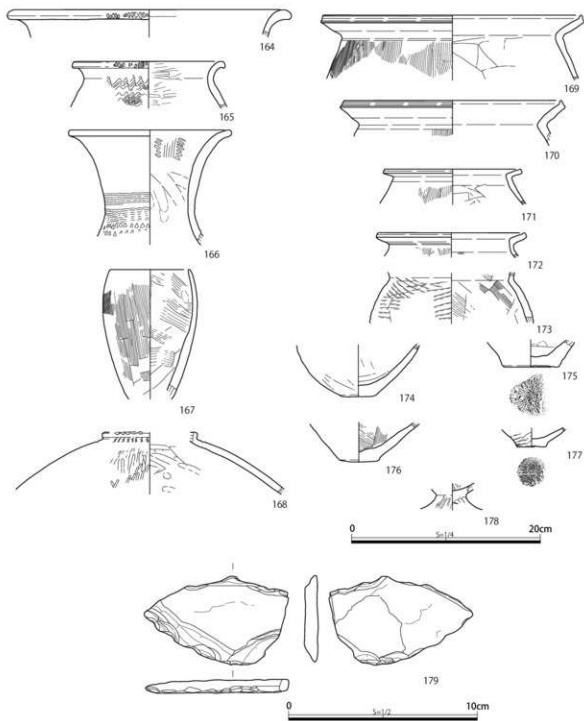
第96図 1-0区SU2003 平断面図 (1/40)



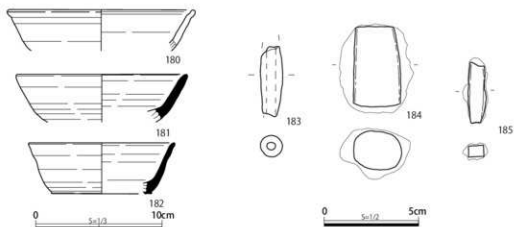
第95図 1-0区SU2002 出土遺物



第97図 1-0区SU2003 出土遺物



第98图 1-0区包含层出土遗物①



第99図 1-0区包含層出土遺物②

遺物出土状況 下部には小型の砂岩角礫が多くみられ、上面にはやや大型の板状の礫が覆うように置かれていた。

出土遺物 163は弥生土器の壺の底部とみられる。

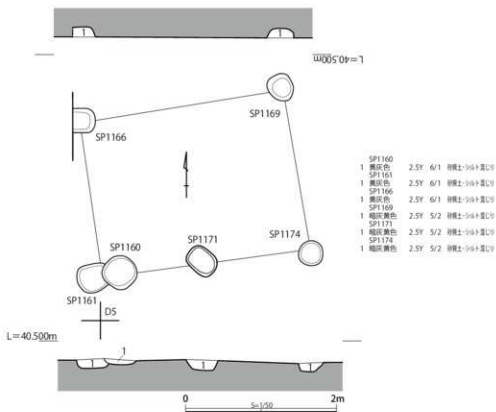
時期 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

包含層出土遺物（第98・99図）

164～178は弥生土器。164～168は壺である。164、165は広口壺で、164は口縁端部に刻み目、165は口縁端部に刻み目と頸部から体部にかけて櫛描波状文が施されている。166は長頸壺で口縁部内面と外面頸部に列点文と櫛描文が施されている。167は後期の細頸壺である。169～175は甕である。176、177は鉢。177は底部に木の葉の圧痕が残されている。178は高杯の脚部である。179は結晶片岩製の石庖丁の可能性があり。180は土師器の杯である。181、182は須恵器の杯である。183は管状の土鍾である。184は用途不明の鉄製品。185は鉄釘と考えられる。



第 100 图 1-1 区西平面图 (1/250)



第101図 1-1区西 SA1001 平面図 (1/50)

(4) 1-1区西 (第100図)

1-1区西は2か所の調査区に分かれて調査が行われている。確認された遺構面は1面で、検出された遺構は掘立柱建物(SA)が8棟、溝(SD)が3条、土坑(SK)が33基、小穴(SP)が505基となっている。

1号掘立柱建物(SA1001) (第101図)

検出地点 D4・5グリッド

規模・形態 梁間1間(2.13m)×桁行2間(2.60m)、床面積5.54㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-81°-Eである。

土層 黄灰色または暗灰黄色シルト層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

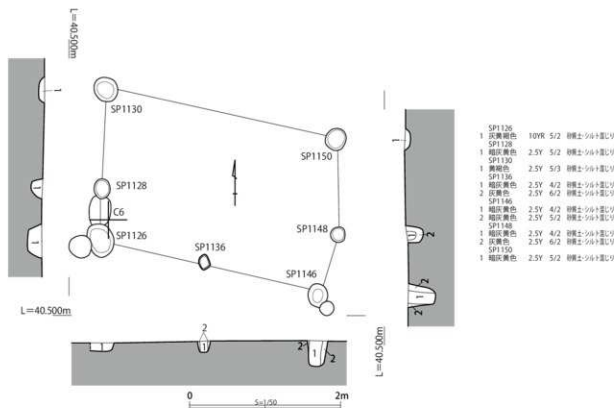
出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

2号掘立柱建物(SA1002) (第102図)

検出地点 B・C5・6グリッド

規模・形態 梁間2間(2.00m)×桁行2間(3.10m)、床面積6.20㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-76°-Wである。



第 102 図 1-1 区西 SA1002 平面図 (1/50)

土層 灰黄色や暗灰黄色シルト層などが 1～2 層に分層される。SP1136、SP1146、SP1148 は 1 層が柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

3号掘立柱建物 (SA1003) (第 103 図)

検出地点 C7・8 グリッド

規模・形態 梁間 2 間 (2.65m) × 桁行 2 間 (3.50m)、床面積 9.28㎡の総柱建物である。建物の主軸方向は N - 57° - W である。

土層 灰黄色や暗灰黄色シルト層などが 1～3 層に分層される。SP1198、SP1221、SP1232 は 1 層が柱痕と考えられる。

遺物出土状況 SK1016、SP1198、SP1210、SP1219 から遺物が出土している。

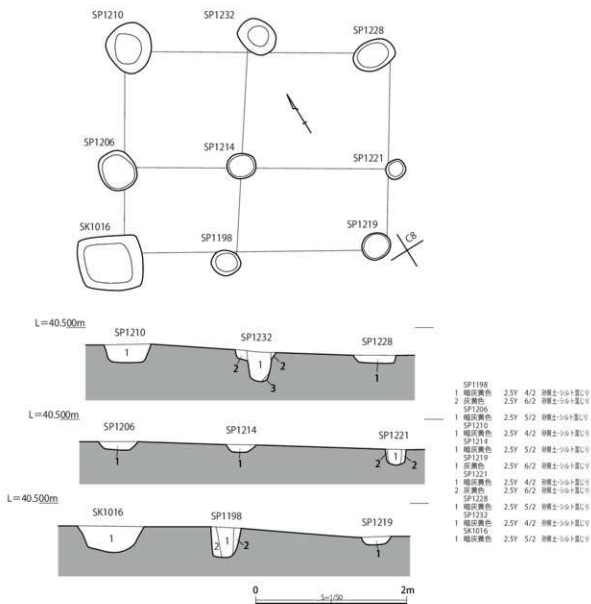
出土遺物 個別遺構にて後述。

時期 建物の主軸方向や出土した遺物などから室町時代 (14 世紀) 以降の年代が想定される。

4号掘立柱建物 (SA1004) (第 104 図)

検出地点 D7・8 グリッド

規模・形態 梁間 1 間 (1.60m) × 桁行 2 間 (3.00m)、床面積 4.80㎡の側柱建物である。建物の主軸



第103図 1-1区西SA1003 平断面図 (1/50)

方向はN-20°-Wである。

土層 主に暗灰黄色シルト層などが1~4層に分層される。SP1238、SP1239、SP1467は1層が柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

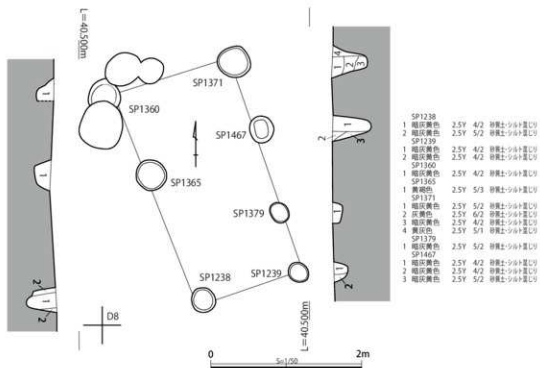
出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

5号掘立柱建物 (SA1005) (第105図)

検出地点 C8・B・C9 グリッド

規模・形態 梁間1間 (2.37m) × 桁行2間 (4.00m)、床面積9.48㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-5°-Wである。



第104図 1-1区西SA1004平面図(1/50)

土層 主に暗灰黄色シルト層などが1～3層に分層される。SP1251、SP1259、SP1274、SP1278は1層が柱痕と考えられる。

遺物出土状況 SP1264から遺物が出土している。

出土遺物 個別遺構にて後述。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

6号掘立柱建物(SA1006)(第106図)

検出地点 C8・C・D9グリッド

規模・形態 梁間1間(2.10m)×桁行2間(3.70m)、床面積7.77㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-78°-Wである。

土層 主に暗灰黄色シルト層などが1～3層に分層される。SP1245、SPSP1293、SP1295、SP1303、SP1475は1層が柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

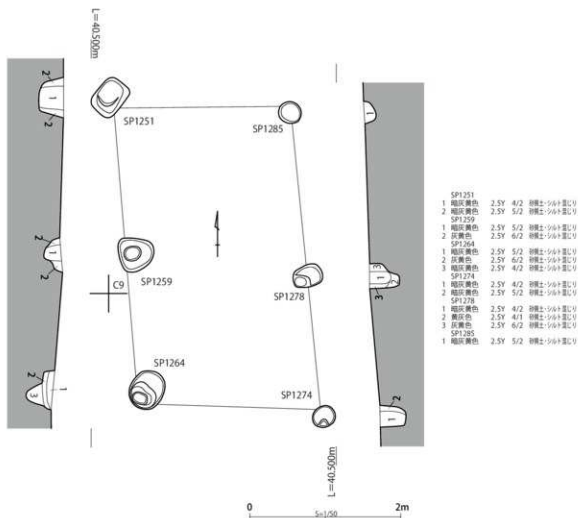
時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

7号掘立柱建物(SA1007)(第107図)

検出地点 B・C10グリッド

規模・形態 梁間1間(2.15m)×桁行2間(3.30m)、床面積7.01㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-4°-Eである。

土層 主に暗灰黄色シルト層などが1～4層に分層される。SP1325、SP1336、SP1345は1層が、



第105図 1-1区西SA1005 平面図 (1/50)

SP1329は1、2層が柱痕と考えられる。

遺物出土状況 SP1329から遺物が出土している。

出土遺物 個別遺構にて後述。

時期 建物の主軸方向や出土した遺物などから鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

8号掘立柱建物（SA1008）（第108図）

検出地点 D・E10グリッド

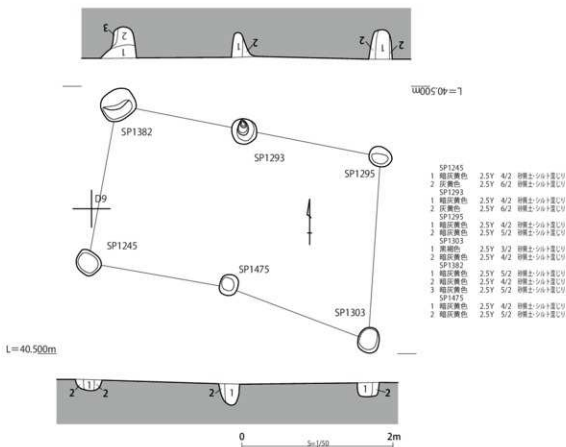
規模・形態 梁間1間（1.97m）×桁行2間（2.55m）、床面積5.02㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-87°-Wである。

土層 主に暗灰黄色シルト層などが2層に分層される。何れの柱も1層が柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。



第 106 図 1-1 区西 SA1006 平面図 (1/50)

1号溝 (SD1001) (第109・110図)

検出地点 B7～9・C5～7グリッド

規模・形態 東西方向に延びる溝で、残存値で延長距離が20.00m、幅が0.64m、深さが0.10mを測る。方位はN-75°-Wである。断面の形状は皿形である。

土層 黄灰色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 186、187は陶器で備前焼の播鉢である。188は須恵器の甕の体部である。189～192はスラグである。

時期 出土した遺物から鎌倉～室町時代(14世紀)以降の年代が想定される。

3号土坑 (SK1003) (第111図)

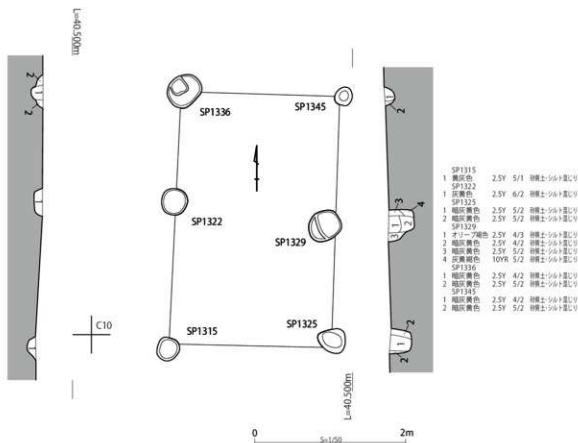
検出地点 B2・3グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.13m、短軸は0.49m、深さは0.26mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能なものは出土していない。



第107図 1-1区西SA1007平面図(1/50)

時期 年代は特定できない。

7号土坑 (SK1007) (第112・113図)

検出地点 B7グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.30m、短軸は0.90m、深さは0.43mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト混じりの砂質土で3層に分層される。上部は黄灰色、下部は暗灰黄色の砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 193は肥前産の陶胎染付の椀である。194～196は鉄製の釘である。197は被熱した粘土片で羽口の破片の可能性はある。

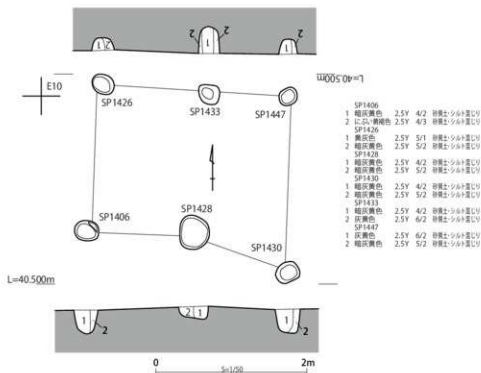
時期 出土した遺物から江戸時代(17世紀)以降の年代が想定される。

12号土坑 (SK1012) (第114・115図)

検出地点 C6グリッド

規模・形態 平面形状は小判形を呈し、長軸は1.50m、短軸は0.83m、深さは0.20mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れもシルト混じりの砂質土層で2層に分層される。上部は黄灰色、下部は暗灰黄色の砂質土



第108図 1-1区西SA1008平面図(1/50)

が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 198は管状の土鍾である。

時期 年代は特定できない。

16号土坑 (SK1016) (第116・117図)

検出地点 C7グリッド

規模・形態 平面の形状は隅丸方形を呈し、長軸は0.86m、短軸は0.72m、深さは0.38mを測る。断面の形状はやや不整な丸底形である。

土層 暗灰黄色のシルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 199は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。200はスラグである。

時期 年代は特定できない。

17号土坑 (SK1017) (第118・119図)

検出地点 C7グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は0.82m、短軸は0.80m、深さは0.24mを測る。断面の形状は2か所の丸底形の組み合わせとなっている。

土層 何れもシルト混じりの砂質土層で2層に分層される。上部は黄灰色、下部は暗灰黄色の砂質土が堆積している。

遺物出土状況 底部中央付近からまとまって出土している。

出土遺物 201は瓦質土器の七厘である。

時期 出土した遺物から江戸時代（17世紀）以降の年代が想定される。

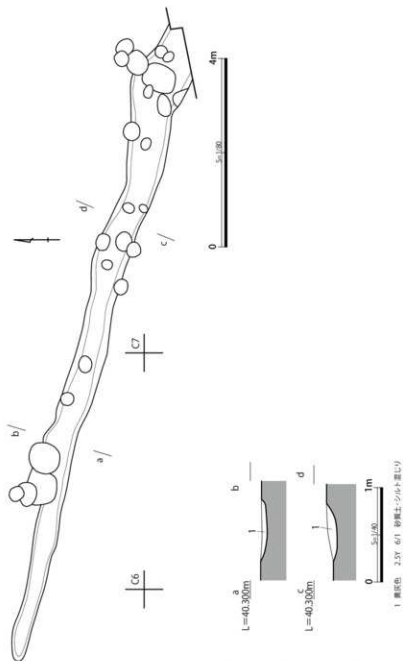
19号土坑（SK1019）（第120図）

検出地点 C7・8グリッド

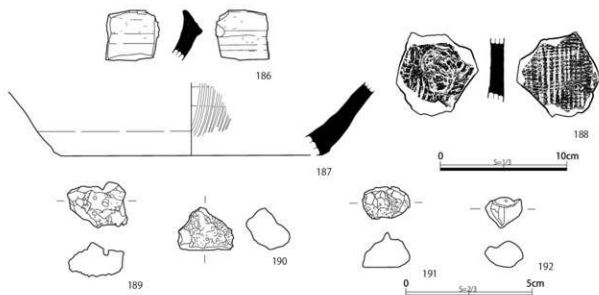
規模・形態 平面形状は小判形を呈し、長軸は1.17m、短軸は0.65m、深さは0.20mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じりの砂質土層で3層に分層される。平行堆積の2、3層に1層が切り込むように堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。



第109図 1-1区西SD1001 平断面図 (1/80・1/40)



第110図 1-1区西SD1001出土遺物

出土遺物 図化可能なものは出土していない。

時期 年代は特定できない。

24号土坑 (SK1024) (第121・122図)

検出地点 E8グリッド

規模・形態 平面の形状は隅丸長方形を呈するとみられるが北側は調査区外に延びている。残存値で長軸は1.15m、短軸は0.70m、深さは0.41mを測る。断面の形状は長方形である。

土層 何れもシルト混じりの砂質土層で2層に分層され、下層部分からは炭化物がわずかにみられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 202は鉄製の釘である。203は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

25号土坑 (SK1025) (第123図)

検出地点 D8グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸が0.83m、短軸は0.75m、深さは0.11mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れも暗灰黄色のシルト混じりの砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 底部に炭化物の拡がり確認された。

出土遺物 図化できるものは出土していない。

時期 年代は特定できない。

28号土坑 (SK1028) (第124・125図)

検出地点 D・E9グリッド

規模・形態 平面の形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、長軸は0.98m、短軸は0.63m、深さは0.60m

を測る。断面の形状は中央にピットを伴う2段形である。

土層 何れも暗灰黄色のシルト混じりの砂質土層で3層に分層される。平面中央部には柱痕とみられる円形の掘り込みが存在している。

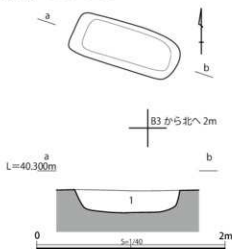
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 204は和泉型の瓦器椀である。205、206は鉄製品。205は刀子、206は釘である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

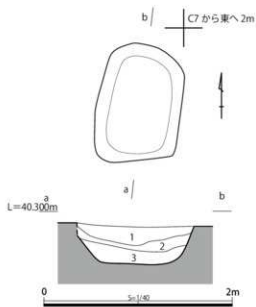
29号土坑 (SK1029) (第126・127図)

検出地点 E9グリッド



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、土器むすか、炭わすか。

第111図 1-1 区西 SK1003 平断面図 (1/40)



1 黄灰色 2.5Y 6/1 砂質土・シルト混じり 耕作土、地山ブロック、鉄、マンガン。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 耕作土、地山ブロックや中砂、鉄、マンガン。
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 耕作土多し、鉄。

第112図 1-1 区西 SK1007 平断面図 (1/40)

規模・形態 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は0.90m、短軸は0.85m、深さは0.20mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。

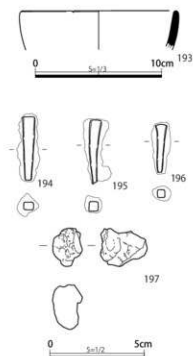
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 207は和泉型の瓦器椀である。208～210は管状の土錘である。211、212はスラグである。

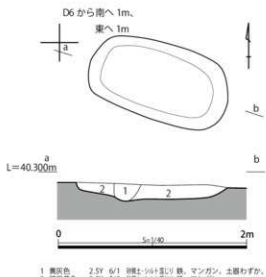
時期 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

31号土坑 (SK1031) (第128・129図)

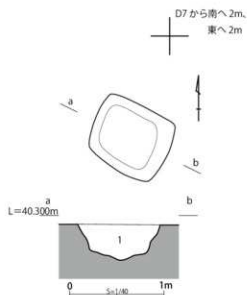
検出地点 E10・11グリッド



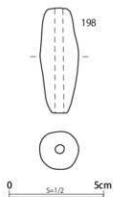
第113図 1-1 区西 SK1007 出土遺物



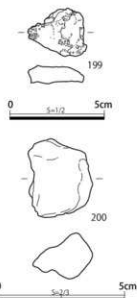
第114図 1-1区西SK1012 平断面図 (1/40)



第116図 1-1区西SK1016 平断面図 (1/40)



第115図 1-1区西SK1012 出土遺物



第117図 1-1区西SK1016 出土遺物

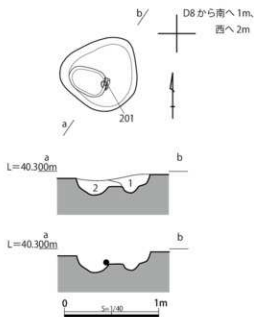
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.90m、短軸は0.80m、深さは0.50mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層され、上部は暗灰黄色、下部は黄褐色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

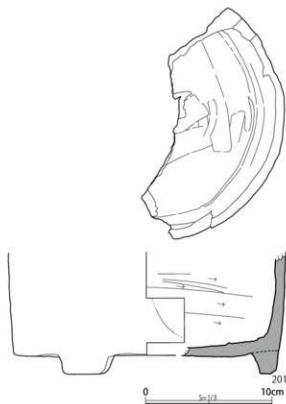
出土遺物 213は須臾器の杯である。214は管状の土錘である。215は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。

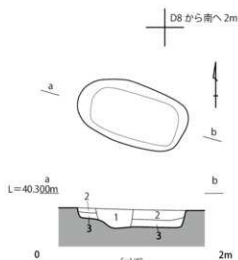


1 黄灰色 2.5Y 6/1 砂質シルト混じり鉄、植物根。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質シルト混じりマンガス、鉄、土壌、赤いれもわずか。

第118図 1-1区西SK1017平断面図(1/40)



第119図 1-1区西SK1017出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質シルト混じり鉄、マンガス、土、土壌いずれもわずか。
2 黄灰色 2.5Y 5/1 砂質シルト混じり鉄、マンガス、腐が5cm。
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質シルト混じりマンガス、鉄、炭わすか。

第120図 1-1区西SK1019平断面図(1/40)

32号土坑 (SK1032) (第128・130図)

検出地点 E10グリッド

規模・形態 平面形状は東側をSK1031に切られており、また北側は調査区外に延びているため不明である。残存値で長軸は0.72m、短軸は0.42m、深さは0.30mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層され、2層(暗灰黄色砂質土層)に1層(黄褐色砂質土層)が切り込むように堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 216はスラグである。

時期 時期は特定できない。

112号小穴 (SP1112) (第131・132図)

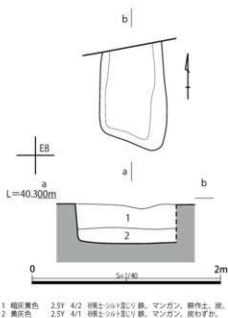
検出地点 B2グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.43m、短軸は0.35m、深さは0.30mを測る。断面の形状は長方形である。

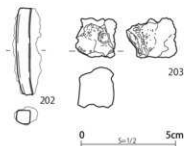
土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。

遺物出土状況 遺構上面から土器が出土している。

出土遺物 217は弥生土器の甕である。口縁部はくの字状に屈曲して直線的に開いており、体部外面



第121図 1-1区西 SK1024 平断面図 (1/40)



第122図 1-1区西 SK1024 出土遺物

はタタキの後ハケ目を施している。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

141号小穴 (SP1141) (第133・134図)

検出地点 B6 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径が0.57m、深さは0.50mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土が3層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

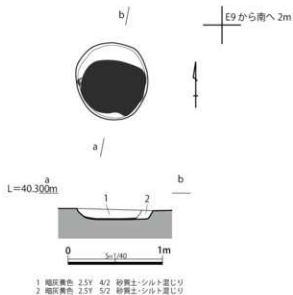
出土遺物 218は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転へら切りである。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

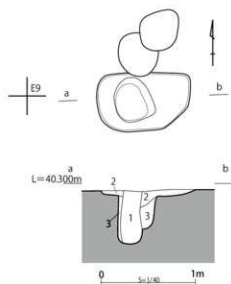
198号小穴 (SP1198) (第135・136図)

検出地点 C7 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.42m、短軸は0.35m、深さは0.48mを測る。断面の形状は長方形である。

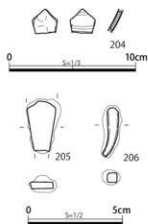


第123図 1-1区西 SK1025 平断面図 (1/40)

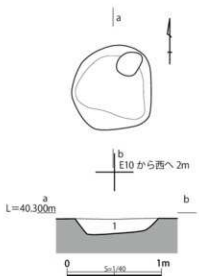


- 1 地床黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト質シリ 質、マンガン、層φ30cm、底。
 2 地床黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト質シリ 質、マンガン、底。
 3 地床黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト質シリ 地山ブロック、鉄、マンガン。

第124図 1-1区西 SK1028 平断面図 (1/40)

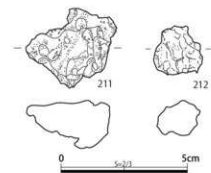
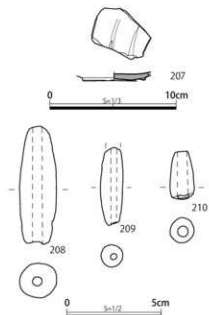


第125図 1-1区西 SK1028 出土遺物

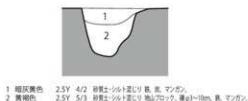
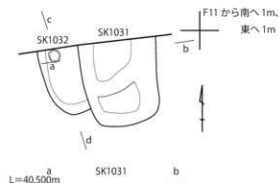


- 1 地床黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト質シリ 質、マンガン、地山ブロック、層φ>5cm、底。

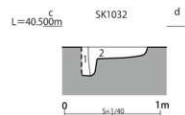
第126図 1-1区西 SK1029 出土遺物 (1/40)



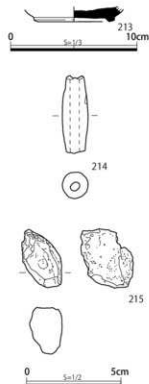
第127図 1-1区西 SK1029 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 黒、鉄、マンガ、
2 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土・シルト混じり 黒60-70%、黒60-70m、鉄、マンガ、

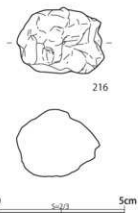


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、



第 129 図 1-1 区西 SK1031 出土遺物

第 128 図 1-1 区西 SK1031・SK1032 平面図 (1/40)



第 130 図 1-1 区西 SK1032 出土遺物

土層 シルト混じり砂質土が 2 層に分層され、上部は暗灰黄色、下部には灰黄色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 219 は土師質土器の羽釜である。

時期 出土した遺物から室町時代（15 世紀）以降の年代が想定される。

204 号小穴 (SP1204) (第 137・138 図)

検出地点 C7 グリッド

規模・形態 平面の形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、東側を SP1201、SP1202 に切られている。残存値で長軸は

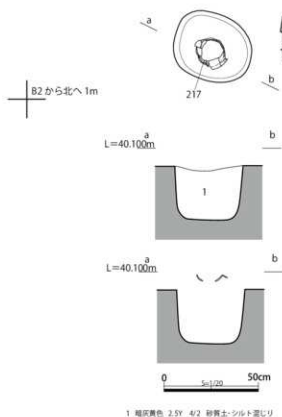
0.5m、短軸は 0.48m、深さは 0.15m を測る。断面形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土が 1 層である。

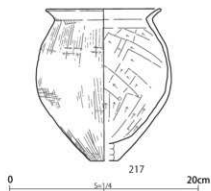
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 220 は和泉型の瓦器椀である。

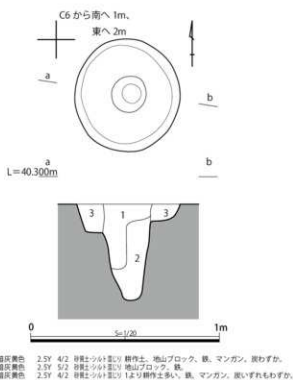
時期 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。



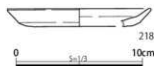
第131図 1-1区西 SP1112 平断面図 (1/20)



第132図 1-1区西 SP1112 出土遺物



第133図 1-1区西 SP1141 平断面図 (1/20)



第134図 1-1区西 SP1141 出土遺物

210号小穴 (SP1210) (第139・140図)

検出地点 C7 グリッド

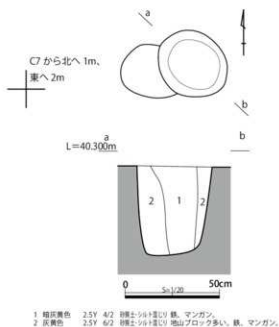
規模・形態 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は0.68m、短軸は0.58m、深さは0.25mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。

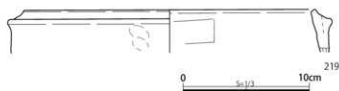
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 221、222は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

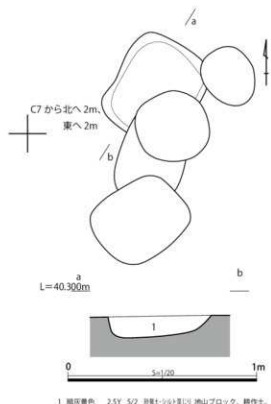
時期 年代は特定できない。



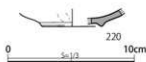
第135図 1-1区西 SP1198 平面断面図 (1/20)



第136図 1-1区西 SP1198 出土遺物



第137図 1-1区西 SP1204 平面断面図 (1/20)



第138図 1-1区西 SP1204 出土遺物

216号小穴 (SP1216) (第141・142図)

検出地点 C7グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は0.42m、短軸は0.30m、深さは0.16mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土で2層に分層され、1層が柱痕状に2層に切り込んでいる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 223は土師質土器の茶釜の把手である。

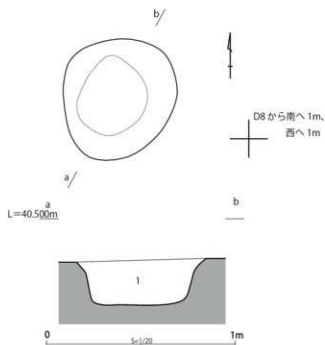
時期 出土した遺物から中世以降の年代が想定される。

221号小穴 (SP1221) (第143・144図)

検出地点 C8グリッド

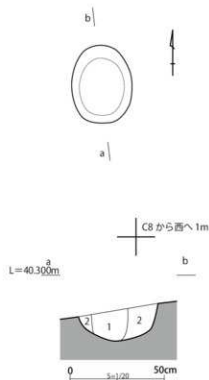
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.28m、短軸は0.23m、深さは0.22mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層される。1層が(暗灰黄色砂質土層)が柱痕状に2層(灰



1 地床黄色 2.5Y 4/2 硬質シルト混じり地山ブロック、マンガン、鉄、土器、灰いづれもわずか。

第139図 1-1区西SP1210 平断面図 (1/20)

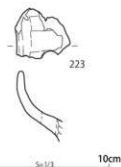


1 地床黄色 2.5Y 4/2 硬質シルト混じり鉄、マンガン、灰わずか。
2 地床黄色 2.5Y 5/2 硬質シルト混じり地山ブロック、鉄、マンガン。

第141図 1-1区西SP1216 平断面図 (1/20)



第140図 1-1区西SP1210 出土遺物



第142図 1-1区西SP1216 出土遺物

黄色砂質土層)に切り込んでいる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 224は瓦器の椀である。

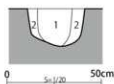
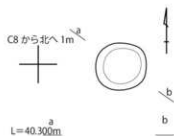
時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

250号小穴 (SP1250) (第145・146図)

検出地点 C8グリッド

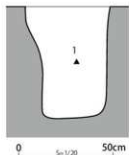
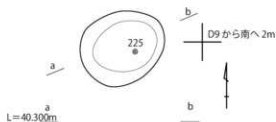
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.45m、短軸は0.38m、深さは0.60mを測る。断面の形状はやや不整な長方形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。



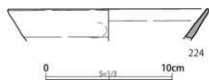
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘土・砂り混じり地山ブロック多い、鉄、炭。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 粘土・砂り混じり地山ブロック多い、鉄。

第143図 1-1区西 SP1221 平面図 (1/20)



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘土・砂り混じりマンガン、鉄、地山ブロック、炭、土塊。

第145図 1-1区西 SP1250 平面図 (1/20)



第144図 1-1区西 SP1221 出土遺物

遺物出土状況 中層付近より銭貨が出土している。

出土遺物 225 は北宋銭で 1098 年初鑄の「元符通寶」である。

226 は用途不明の鉄片である。

時期 出土した遺物から平安時代（11 世紀）以降の年代が想定される。



252 号小穴 (SP1252) (第 147・148 図)

検出地点 C8 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.53m、短軸は 0.47m、深さは 0.46m を測る。断面の形状は楕円状である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土で 3 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 227 は被熱した粘土片である。

時期 年代は特定できない。

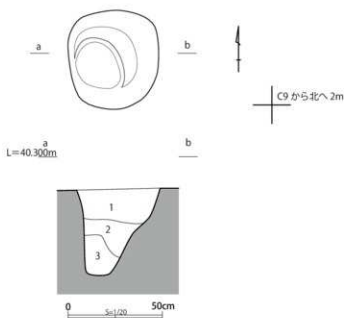


第146図 1-1区西 SP1250 出土遺物

258 号小穴 (SP1258) (第 149・150 図)

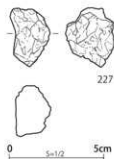
検出地点 C8 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈するとみられるが、南側

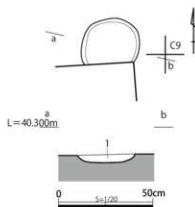


- 1 褐色黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト質土、鉄、マンガン、地山ブロック、炭。
 2 褐色黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト質土、地山ブロック、鉄、土器のすか。
 3 褐色黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト質土、鉄、マンガン、炭、地山ブロック。

第 147 図 1-1 区西 SP1252 平断面図 (1/20)

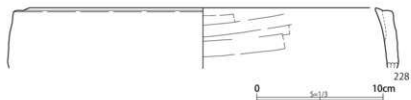


第 148 図 1-1 区西 SP1252 出土遺物

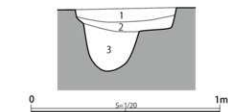
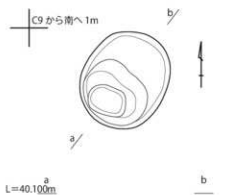


- 1 黄灰色 2.5Y 6/1 砂質土・シルト質土、細作土、マンガン多い、鉄。

第 149 図 1-1 区西 SP1258 平断面図 (1/20)

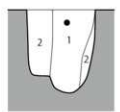
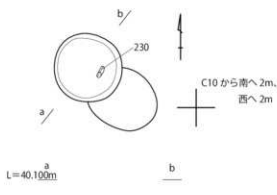


第 150 図 1-1 区西 SP1258 出土遺物



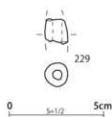
- 1 埴原黄土 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、地山ブロック、マンガン、炭。
 2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック多量、鉄、マンガン。
 3 埴原黄土 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック、炭。

第151図 1-1区西 SP1264 平面図 (1/20)



- 1 埴原黄土 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 黄土、炭いづれもわずか。
 2 埴原黄土 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン、炭わずか。

第153図 1-1区西 SP1272 平面図 (1/20)



第152図 1-1区西 SP1264 出土遺物

は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.30m、短軸は0.25m、深さは0.04mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 黄灰色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

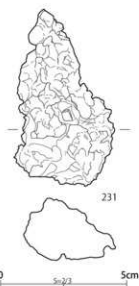
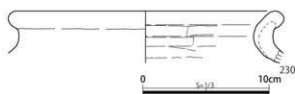
出土遺物 228は土師質土器の羽釜である。

時期 出土した遺物から室町時代(15～16世紀)以降の年代が想定される。

264号小穴(SP1264)(第151・152図)

検出地点 B9グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.55m、短軸は0.45m、深さは0.36mを測る。断面の形状は2段形である。



第154図 1-1区西 SP1272 出土遺物

上層 何れもシルト混じり砂質土層で3層に分層され、暗灰黄色シルト混じり砂質土層の間に灰黄色シルト混じり砂質土が入っている。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 229は管状の土鏝である。

時期 年代は特定できない。

272号小穴 (SP1272) (第153・154図)

検出地点 B9グリッド

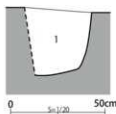
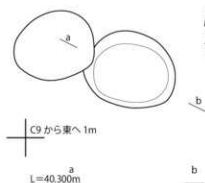
規模・形態 平面形状は円形を呈し、径は0.36m、深さは0.46mを測る。断面の形状は2段形である。

上層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層が2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況 上層付近から土器が出土している。

出土遺物 230は土師質土器の甕である。231はスラグである。

時期 出土した遺物から中世以降の年代が想定される。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土シロ+黄緑 マンガン、鉄、炭、土質いずれもわずか。

第153図 1-1区西 SP1276 平面図 (1/20)

276号小穴 (SP1276) (第155・156図)

検出地点 C9グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、西側をSP1275に切られている。残存値で長軸は0.45m、短軸は0.40m、深さは0.36mを測る。断面の形状は逆台形である。

上層 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 232は瓦質土器の火鉢である。

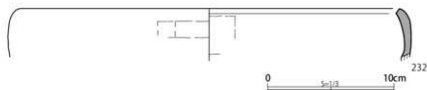
時期 出土した遺物から鎌倉～室町時代(14世紀)以降の年代が想定される。

279号小穴 (SP1279) (第157・158図)

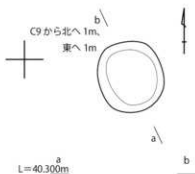
検出地点 C9グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.38m、短軸は0.35m、深さは0.54mを測る。断面の形状は2段形である。

上層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層が2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。



第156図 1-1区西 SP1276 出土遺物



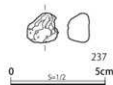
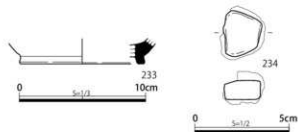
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭わすか。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン、炭わすか。

第157図 1-1区西SP1279 平面図(1/20)



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり

第159図 1-1区西SP1292 平面図(1/20)

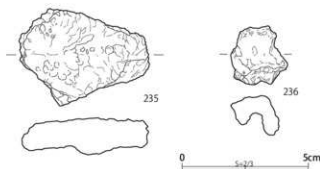


第160図 1-1区西SP1292 出土遺物

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 233は須恵器の壺の底部である。234は用途不明の鉄片である。235、236はスラグである。

時期 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。



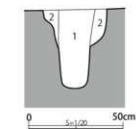
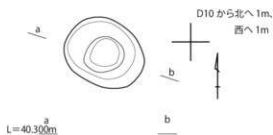
第158図 1-1区西SP1279 出土遺物

292号小穴(SP1292)(第159・160図)

検出地点 D9グリッド

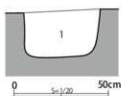
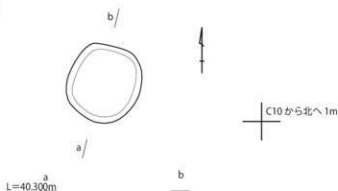
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.30m、深さは0.38mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。



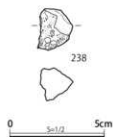
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり

第161図 1-1区西 SP1294 平断面図 (1/20)

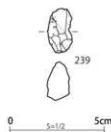


1 黄灰色 2.5Y 4/1 粘質土・シルト混じり 耕作土+地山ブロック間隙り状 鉄、マンガ

第163図 1-1区西 SP1306 平断面図 (1/20)



第162図 1-1区西 SP1294 出土遺物



第164図 1-1区西 SP1306 出土遺物

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 237 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

294号小穴 (SP1294) (第161・162図)

検出地点 D9 グリッド

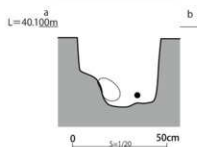
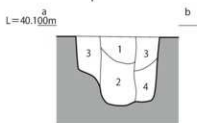
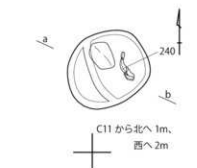
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.42m、短軸は0.35m、深さは0.44mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 どれも暗灰黄色シルト混じり砂質土層が2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

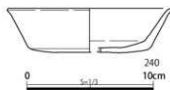
出土遺物 238 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

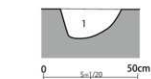
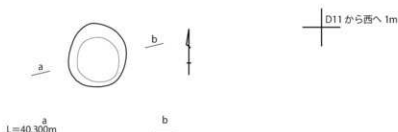


- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガันวずか。
 2 暗灰褐色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガันวずか。
 3 暗灰褐色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、土鉄、泥。
 4 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロッカ、鉄多い。

第165図 1-1区西 SP1329 断面図 (1/20)



第166図 1-1区西 SP1329 出土遺物



- 1 暗灰褐色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。

第167図 1-1区西 SP1342 断面図 (1/20)



第168図 1-1区西 SP1342 出土遺物

306号小穴 (SP1306) (第163・164図)

検出地点 C9 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.43m、短軸は0.38m、深さは0.24mを測る。断面の形状は長方形である。

土層 黄灰色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 239は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

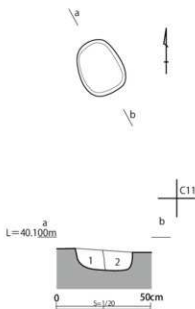
時期 年代は特定できない。

329号小穴 (SP1329) (第165・166図)

検出地点 C10 グリッド

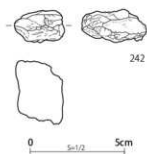
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.45m、短軸は0.40m、深さは0.40mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で4層に分層される。断面中央の1層(オリーブ褐色シルト混じり砂質土)、

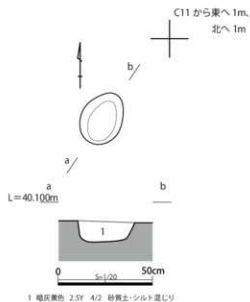


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄多量、マンガン、炭わずか。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。

第169図 1-1区西 SP1350 平断面図 (1/20)

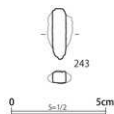


第170図 1-1区西 SP1350 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり

第171図 1-1区西 SP1351 平断面図 (1/20)



第172図 1-1区西 SP1351 出土遺物

2層（暗灰黄色シルト混じり砂質土）は柱痕と考えられる。

遺物出土状況 底部付近から土器と砂岩の円礫が出土している。

出土遺物 240は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、内外面には赤色顔料が塗られている。

時期 出土した遺物から平安時代終末（12世紀）以降の年代が想定される。

342号小穴（SP1342）（第167・168図）

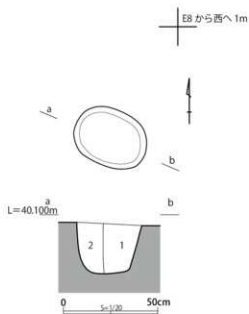
検出地点 C10グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.35m、短軸は0.30m、深さは0.20mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

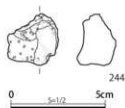
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 241は土師質土器の杯である。内面に赤色顔料が塗られた跡が残る。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、灰わずが。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山アロックス、灰わずが。

第173図 1-1区西 SP1355 平断面図 (1/20)



第174図 1-1区西 SP1355 出土遺物

時期 出土した遺物から平安時代終末（12世紀）以降の年代が想定される。

350号小穴（SP1350）（第169・170図）

検出地点 C10グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.30m、短軸は0.25m、深さは0.12mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 どれもシルト混じり砂質土層で2層に分層される。

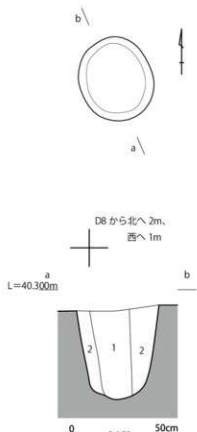
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 242は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

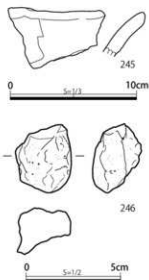
351号小穴（SP1351）（第171・172図）

検出地点 C11グリッド



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、土層。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、灰。

第175図 1-1区西 SP1358 平断面図 (1/20)



第176図 1-1区西 SP1358 出土遺物

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は0.30m、短軸は0.22m、深さは0.13mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 243は鉄釘である。

時期 年代は特定できない。

355号小穴 (SP1355) (第173・174図)

検出地点 D7グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.40m、短軸は0.30m、深さは0.30mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 244は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

358号小穴 (SP1358) (第175・176図)

検出地点 D7グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.43m、短軸は0.38m、深さは0.46mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 245は土師質土器の片口鉢である。246は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

370号小穴 (SP1370) (第177・178図)

検出地点 E7・8グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈するとみられるが、北側は調査区外に伸びている。残存値で長軸は0.48m、短軸は0.25m、深さは0.21mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 247、248は龍泉窯系青磁の碗である。249は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

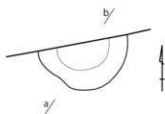
時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

389号小穴 (SP1389) (第179・180図)

検出地点 D9グリッド

規模・形態 平面形状は円形を呈し、径は0.40m、深さは0.49mを測る。断面の形状は長方形である。

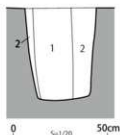
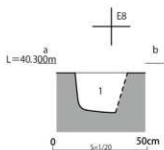
土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。



D9から北へ2m



L=40.300m

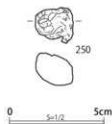
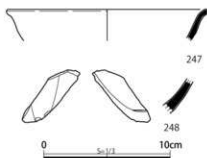


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガ、地山ブロック、灰。

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、灰、マンガ、
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガ、灰。

第177図 1-1区西SP1370 断面図 (1/20)

第179図 1-1区西SP1389 断面図 (1/20)



第180図 1-1区西SP1389 出土遺物



第178図 1-1区西SP1370 出土遺物

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 250は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

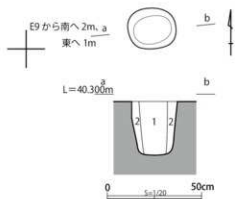
392号小穴 (SP1392) (第181・182図)

検出地点 D9グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.25m、短軸は0.23m、深さは0.30mを測る。断面の形状は長方形である。

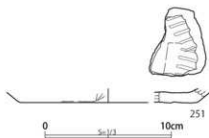
土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 炭、鉄、地山ブロック、マンガン、
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、炭、マンガン、

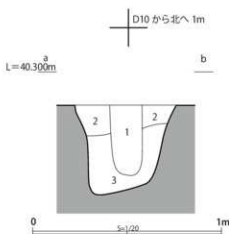
第181図 1-1区西 SP1392 平断面図 (1/20)



第182図 1-1区西 SP1392 出土遺物

出土遺物 251は土師質土器の拙鉢の底部である。

時期 出土した遺物から鎌倉～室町時代（14世紀）以降の年代が想定される。



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり 炭、マンガン、地山ブロック、
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 炭、マンガン、地山ブロック、土層わずが、
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン、

第183図 1-1区西 SP1402 平断面図 (1/20)

402号小穴（SP1402）（第183・184図）

検出地点 D9・10グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.58m、短軸は0.50m、深さは0.46mを測る。断面形状は逆台形である。

土層 シルト混じり砂質土層で3層に分層され、2、3層（暗灰黄色砂質土）に1層（灰黄褐色砂質土）が柱痕として切り込んでいる。

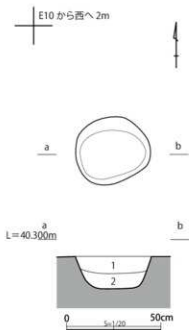
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 252は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

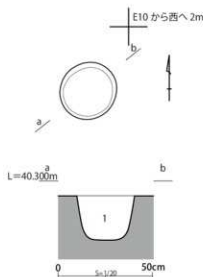


第184図 1-1区西 SP1402 出土遺物



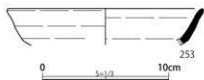
1 陥灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガ、炭。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガ、炭。

第185図 1-1区西SP1408 平断面図 (1/20)

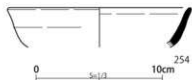


1 陥灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガ、炭。

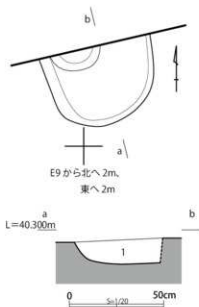
第187図 1-1区西SP1409 平断面図 (1/20)



第186図 1-1区西SP1408 出土遺物

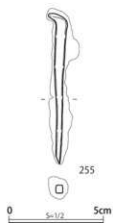


第188図 1-1区西SP1409 出土遺物

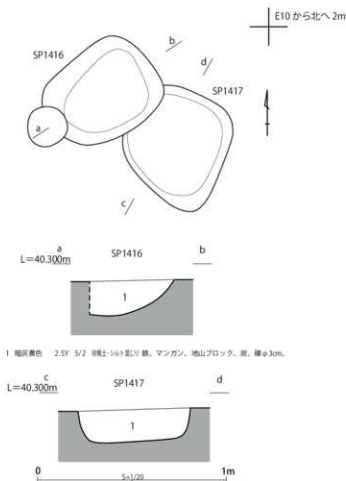


1 陥灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり

第189図 1-1区西SP1413 平断面図 (1/20)



第190図 1-1区西SP1413 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック、炭、礫φ30m。

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック、炭。

第191図 1-1区西 SP1416・SP1417 平断面図 (1/20)

408号小穴 (SP1408) (第185・186図)

検出地点 D9 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.40m、短軸は0.35m、深さは0.19mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層が2層に分層され、上部に暗灰黄色シルト混じり砂質土、下部に灰黄色シルト混じり砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 253は須恵器の杯である。

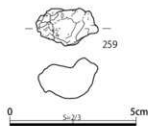
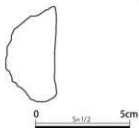
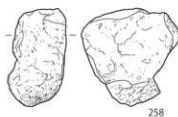
時期 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。

409号小穴 (SP1409) (第187・188図)

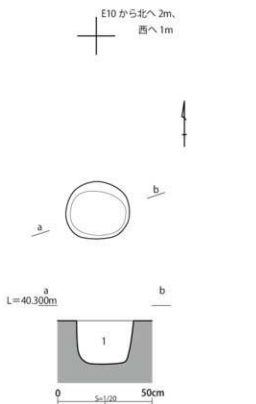
検出地点 D9 グリッド



第192図 1-1区西 SP1416 出土遺物

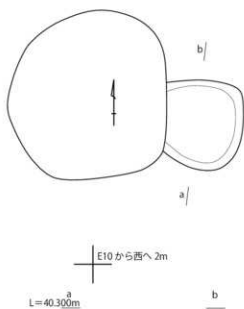


第193図 1-1区西 SP1417 出土遺物



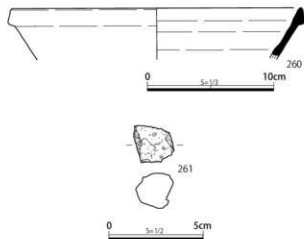
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガ、炭、土器ひねりかたずき

第194図 1-1区西 SP1418 平断面図 (1/20)



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質シルト混じり 鉄、地山ブロック、マンガ、鉄、
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガ

第196図 1-1区西 SP1419 平断面図 (1/20)



第195図 1-1区西 SP1418 出土遺物



第197図 1-1区西 SP1419 出土遺物

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.30m、深さは0.22mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 254は須恵器の杯である。

時期 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。

413号小穴 (SP1413) (第189・190図)

検出地点 E9 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.60m、短軸は0.47m、深さは0.16mを測る。断面の形状は舟底形とみられる。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 255は鉄製の釘である。

時期 年代は特定できない。

416号小穴 (SP1416) (第191・192図)

検出地点 E9 グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、西側をSP1415に切られている。残存値で長軸は0.55m、短軸は0.50m、深さは0.20mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層で炭化物や小礫をわずかに含む。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 256は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。257はスラグである。

時期 年代は特定できない。

417号小穴 (SP1417) (第191・193図)

検出地点 E9 グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な隅丸方形を呈し、西側をSP1416に切られている。残存値で長軸は0.57m、短軸は0.55m、深さは0.18mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 258は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。259はスラグである。

時期 年代は特定できない。

418号小穴 (SP1418) (第194・195図)

検出地点 E9 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.32m、深さは0.20mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層で炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 図化できるものはない。

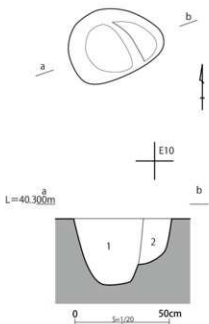
出土遺物 260は東播系須恵器(第三期)の捏鉢である。261は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

419号小穴 (SP1419) (第196・197図)

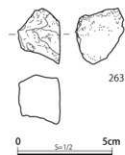
検出地点 E9 グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な円形を呈するとみられ、西側をSK1029に切られている。残存値



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック、炭。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第198図 1-1区西 SP1423 平断面図 (1/20)



第199図 1-1区西 SP1423 出土遺物

で長軸は0.50m、短軸は0.40m、深さは0.24mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 262は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

423号小穴 (SP1423) (第198・199図)

検出地点 E9グリッド

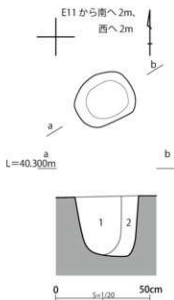
規模・形態 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、長軸は0.50m、短軸は0.40m、深さは0.38mを測る。

断面の形状は2段形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

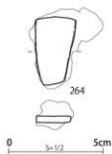
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 263は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

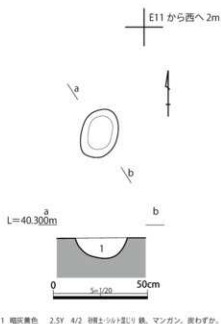


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり

第200図 1-1区西 SP1430 平断面図 (1/20)

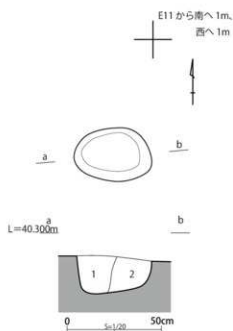


第201図 1-1区西 SP1430 出土遺物



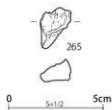
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘質土・シルト混じり 鉄、マンガ、炭わすか。

第 202 図 1-1 区西 SP1434 平断面図 (1/20)

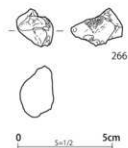


1 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土・シルト混じり 鉄、マンガ、
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘質土・シルト混じり 鉄、マンガ、土鉄、炭。

第 204 図 1-1 区西 SP1438 平断面図 (1/20)



第 203 図 1-1 区西 SP1434 出土遺物



第 205 図 1-1 区西 SP1438 出土遺物

時期 年代は特定できない。

430号小穴 (SP1430) (第200・201図)

検出地点 D10 グリッド

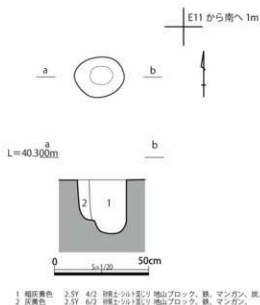
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.30m、短軸は0.25m、深さは0.37mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 どれも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

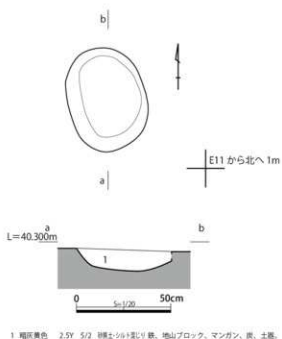
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 264は板状の鉄片である。

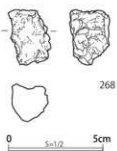
時期 年代は特定できない。



第 206 図 1-1 区西 SP1442 平面図 (1/20)



第 208 図 1-1 区西 SP1459 平面図 (1/20)



434 号小穴 (SP1434) (第 202・203 図)

検出地点 D10 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.25m、短軸は 0.20m、深さは 0.14m を測る。断面の形状は丸底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

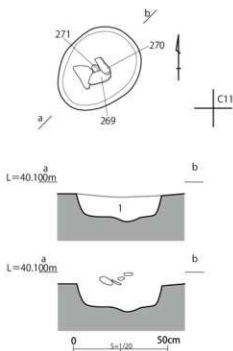
出土遺物 265 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

438 号小穴 (SP1438) (第 204・205 図)

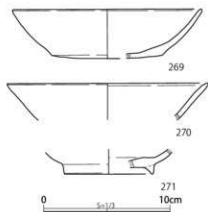
検出地点 D10 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.40m、短軸は 0.30m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。



1 黄灰色 2.5Y 5/1 粘質土・シルト混じり 鉄、マンガン。灰いずれもわずか。

第210図 1-1区西SP1474 平断面図 (1/20)



第211図 1-1区西SP1474 出土遺物

時期 年代は特定できない。

474号小穴 (SP1474) (第210・211図)

検出地点 C10グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.50m、短軸は0.40m、深さは0.12mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 黄灰色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 上面中央付近から出土している。

出土遺物 269～271は土師質土器の杯で、269の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、2層(暗灰黄色シルト混じり砂質土)に1層(黄灰色シルト混じり砂質土)が切り込むように堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 266は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 年代は特定できない。

442号小穴 (SP1442) (第206・207図)

検出地点 D10グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.27m、短軸は0.23m、深さは0.34mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 267は土師質土器の杯である。

時期 出土した遺物から平安時代(11世紀)以降の年代が想定される。

459号小穴 (SP1459) (第208・209図)

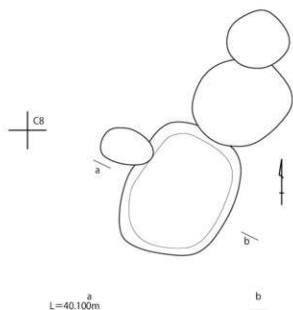
検出地点 E10グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.53m、短軸は0.43m、深さは0.14mを測る。断面の形状は皿形である。

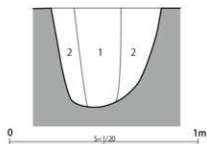
土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 268は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

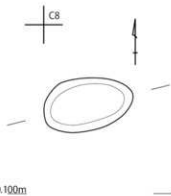


L=40.100m

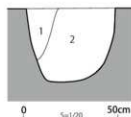


1 粘灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・砂粒径0.1mm 鉄、マンガン、地山ブロック、炭わすか。
2 粘灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・砂粒径0.1mm 地山ブロック、鉄、マンガン、炭。

第 212 図 1-1 区西 SP1479 平断面図 (1/20)



L=40.100m



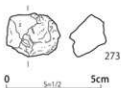
1 粘灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・砂粒径0.1mm 鉄、マンガン、地山ブロック、炭、土器。
2 粘灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・砂粒径0.1mm 地山ブロック、鉄、マンガン、炭。

第 214 図 1-1 区西 SP1480 平断面図 (1/20)



0 5cm/2 5cm

第 215 図 1-1 区西 SP1480 出土遺物



0 5cm/2 5cm

第 213 図 1-1 区西 SP1479 出土遺物

時期 出土した遺物から平安時代終末（12世紀）以降の年代が想定される。

479号小穴（SP1479）（第212・213図）

検出地点 B8グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、北側をSP1223、西側をSP1478に切られている。残存値で長軸は0.70m、短軸は0.55m、深さは0.51mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 272は須恵器の甕で、亀山窯と考えられる。273は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。274はスラグである。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

480号小穴（SP1480）（第214・215図）

検出地点 B8グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.47m、短軸は0.27m、深さは0.40mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 275は鉄製の釘とみられる。

時期 年代は特定できない。

483号小穴（SP1483）（第216・217図）

検出地点 B6グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.30m、深さは0.25mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 276は土師質土器の羽釜である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（14世紀）以降の年代が想定される。

489号小穴（SP1489）（第218・219図）

検出地点 C8グリッド

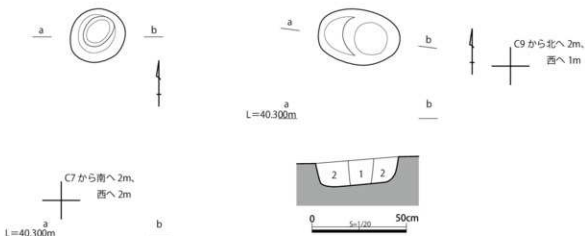
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.42m、短軸は0.28m、深さは0.14mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

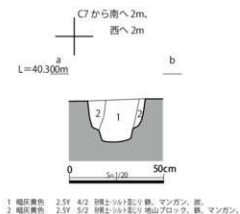
出土遺物 277は土師質土器の鉢である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。



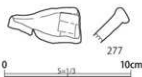
1 焼灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭。
2 焼灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第218図 1-1区西 SP1489 平断面図 (1/20)



1 焼灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭。
2 焼灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第216図 1-1区西 SP1483 平断面図 (1/20)



第219図 1-1区西 SP1489 出土遺物



第217図 1-1区西 SP1483 出土遺物

(5) 1-1区東 (第220図)

1-1区東においては確認された遺構面は1枚で、検出された遺構は調査区の南半部を中心として存在しており、溝(SD)が2条、土坑(SK)が18基、小穴(SP)が211基、性格不明遺構(SX)が1基となっている。

3号土坑 (SK1003) (第221・222図)

検出地点 C14グリッド

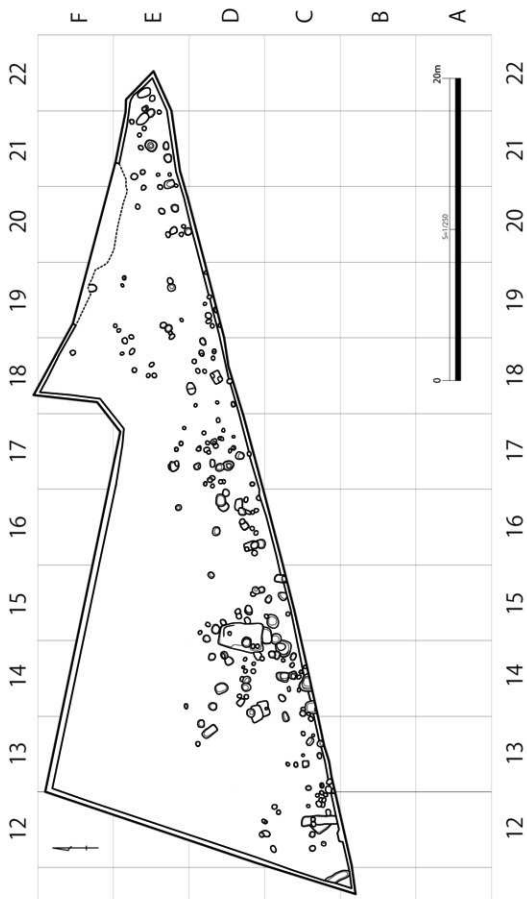
規模・形態 平面形状はやや不整な楕円形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸は1.20m、短軸は0.80m、深さは0.38mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 どれもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 278は土師質土器の羽釜である。279は西村系の須恵器椀である。280は鉄製の釘である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀後半)以降の年代が想定される。



第 220 图 1-1 区東平面図 (1/250)

4号土坑 (SK1004) (第223・224図)

検出地点 C14 グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、長軸は0.87m、短軸は0.67m、深さは0.58mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、2層(灰黄色砂質土)に1層(暗灰黄色砂質土)が切り込んでいるため柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

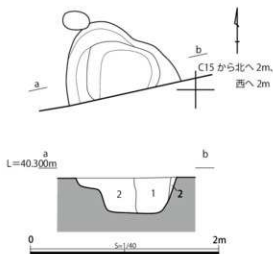
出土遺物 281は土師質土器の羽釜である。282は羽口である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀後半)以降の年代が想定される。

5号土坑 (SK1005) (第225・226図)

検出地点 D13・14 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、北側をSP1043に切られている。長軸は1.03m、短軸は0.78m、深さは0.36mを測る。断面の形状は逆台形である。



土層 何れもシルト混じり砂質土で3層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 283は和泉型瓦器椀の底部である。284は管状の土錘である。285は結晶片岩製の剥片である。286はスラグである。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

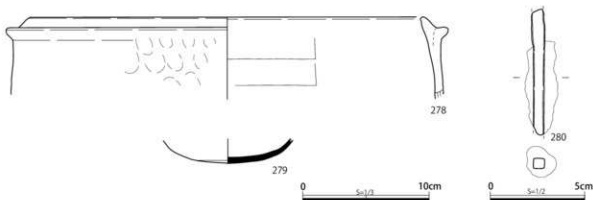
6号土坑 (SK1006) (第225・227図)

検出地点 C・D14 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、北側をSK1005に切られている。長軸は1.00m、短軸は0.70m、深さは0.26mを測る。断面の形状は舟底

1 暗灰黄色 3.5f 4/2 暗黒土・シルト混じり土層、掘いずれれもわずく、一道10cmの土層有。
2 灰黄色 2.5f 6/2 暗黒土・シルト混じり土層、山プロット、マンガン、鉄。

第221図 1-1区東SK1003 平断面図 (1/40)



第222図 1-1区東SK1003 出土遺物

形である。

土層 どれもシルト混じり砂質土で4層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 287は黒色土器A類の椀である。288は鉄製の釘である。289は羽口である。

時期 出土した遺物から平安時代(11世紀)以降の年代が想定される。

9号土坑 (SK1009) (第228・229図)

検出地点 C14グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、北側をSP1062、SP1066に切られている。長軸は1.10m、短軸は1.05m、深さは0.22mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 どれも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 290は土師質土器の鍋である。

時期 出土した遺物から平安時代末(12世紀)以降の年代が想定される。

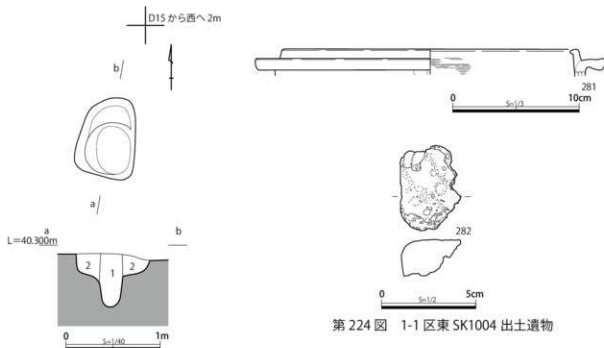
4号小穴 (SP1004) (第230・231図)

検出地点 C12グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し長軸は0.33m、短軸は0.30m、深さは0.20mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 どれも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕である。

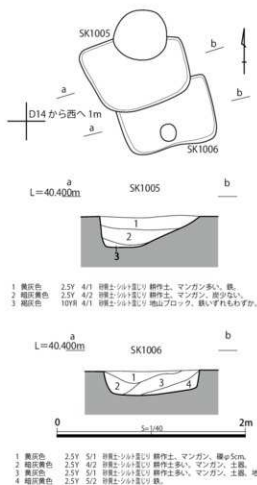
遺物出土状況 底部付近より扁平な砂岩礫や土器が出土している。



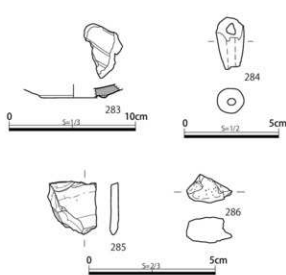
第224図 1-1区東SK1004出土遺物

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土に砂混じり 地山ブロックφ20cm、厚φ10cm、径φ5cm。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土に砂混じり マンガン、φ0.5~4cm、土器、すれもわずか。

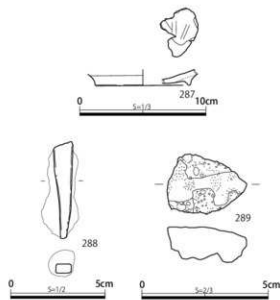
第223図 1-1区東SK1004平断面図(1/40)



第225図 1-1区東SK1005・SK1006平断面図(1/40)



第226図 1-1区東SK1005出土遺物



第227図 1-1区東SK1006出土遺物

出土遺物 291は土師器の椀である。外面に赤色顔料が塗られている。

時期 出土した遺物から平安時代(11世紀)以降の年代が想定される。

12号小穴(SP1012)(第232・233図)

検出地点 C12グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、西側をSD1002に切られている。残存値で長軸は0.40m、短軸は0.30m、深さは0.30mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 292は羽口である。

時期 年代は特定できない。

13号小穴(SP1013)(第234図)

検出地点 C12グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.42m、短軸は0.35m、深さは0.48mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 接しているSP1144との関連から中世前半期以降の年代が想定される。

144号小穴 (SP1144) (第234・235図)

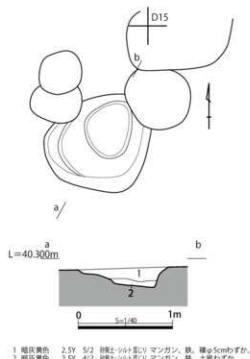
検出地点 C12 グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈するとみられるが、北側をSP1013に東側をSP1014、SP1015に切られている。残存値で長軸は0.55m、短軸は0.35m、深さは0.64mを測る。断面の形状は2段形である。

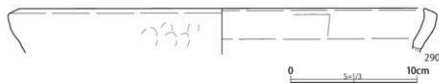
土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層(暗灰黄色砂質土)が2層(灰黄色砂質土)に切り込むように堆積している。

遺物出土状況 SP1013下、やや下層寄りから土器が出土している。

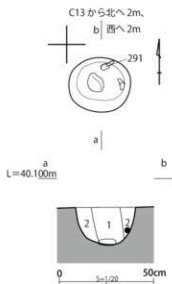
出土遺物 293～295は土師質土器の杯である。底部の切り離しはいずれも回転ヘラ切りである。



第228図 1-1区東SK1009 平面図 (1/40)

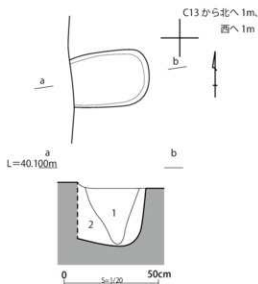


第229図 1-1区東SK1009 出土遺物



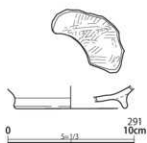
- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、地山ブロック。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄。

第 230 図 1-1 区東 SP1004 平断面図 (1/20)

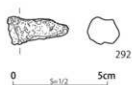


- 1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、地山ブロック。
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄。

第 232 図 1-1 区東 SP1012 平断面図 (1/20)



第 231 図 1-1 区東 SP1004 出土遺物



第 233 図 1-1 区東 SP1012 出土遺物

296 はスラグである。

時期 出土した遺物から平安時代末（12世紀）以降の年代が想定される。

42号小穴（SP1042）（第236・237図）

検出地点 C14 グリッド

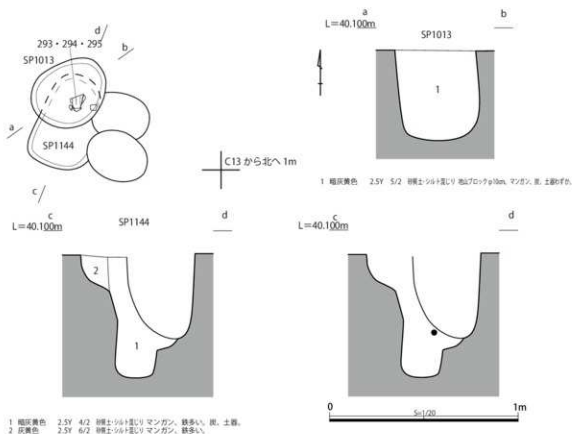
規模・形態 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、北側をSK1014に切られている。残存値で長軸は0.55m、短軸は0.48m、深さは0.16mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 どれもシルト混じり砂質土で2層に分層され、1層（暗灰黄色砂質土）が2層（灰黄色砂質土）に切り込むように堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 297は羽口である。

時期 年代は特定できない。



第234図 1-1区東SP1013・SP1144 平断面図 (1/20)

46号小穴 (SP1046) (第238・239図)

検出地点 D14グリッド

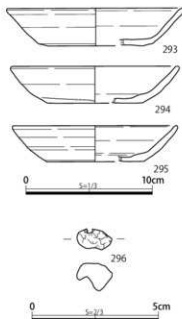
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.30m、深さは0.20mを測る。断面の形状は楕円形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 298は土師質土器の杯である。299は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

時期 出土した遺物から平安時代末(12世紀)以降の年代が想定される。



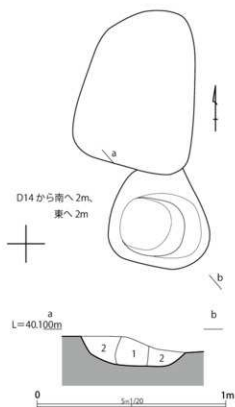
第235図 1-1区東SP1144出土遺物

47号小穴 (SP1047) (第240図)

検出地点 D14グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.57m、短軸は0.53m、深さは0.36mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で3層に分層され、1層は

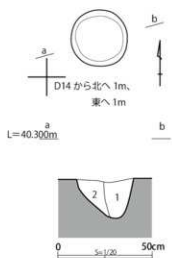


1 焼成黄土色 2.5Y 4/2 硬質土・シルト質シルト 硬φ10cm以内、マンガン、鉄。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 硬質土・シルト質シルト 硬φ5cm、地山ブロック、マンガン。

第236図 1-1区東 SP1042 平断面図 (1/20)

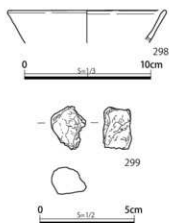


第237図 1-1区東 SP1042 出土遺物



1 焼成黄土色 2.5Y 5/2 硬質土・シルト質シルト 地山ブロック、硬φ5~10cm。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 硬質土・シルト質シルト 地山ブロック、硬φ5~10cm。

第238図 1-1区東 SP1046 平断面図 (1/20)



第239図 1-1区東 SP1046 出土遺物

柱痕と考えられる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

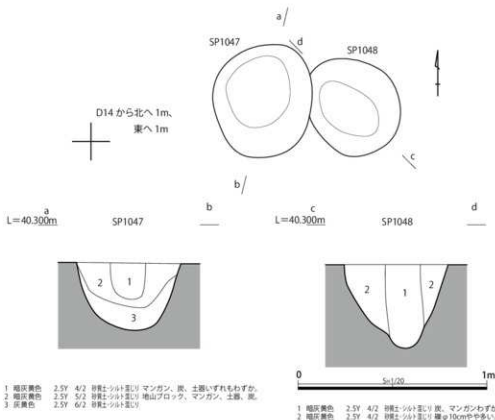
出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。

48号小穴 (SP1048) (第240・241図)

検出地点 D14 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し西側をSP1047に切られている。長軸は0.47m、短軸は0.44m、



第240図 1-1区東 SP1047・SP1048 平面断面図 (1/20)

深さは0.44mを測る。断面の形状は楕円形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 300は土師質土器の羽釜の底部である。301は和泉型の瓦器椀である。302は西村系須恵器椀である。303はスラグである。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

55号小穴 (SP1055) (第242・243図)

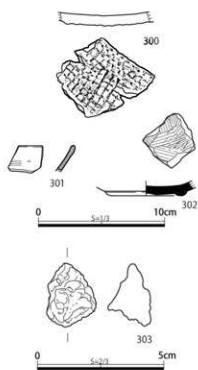
検出地点 D14グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.55m、短軸は0.50m、深さは0.20mを測る。断面の形状は丸底形である。

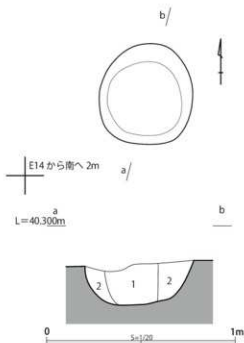
土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 304は羽口である。

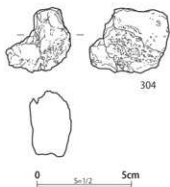


第241図 1-1区東 SP1048 出土遺物



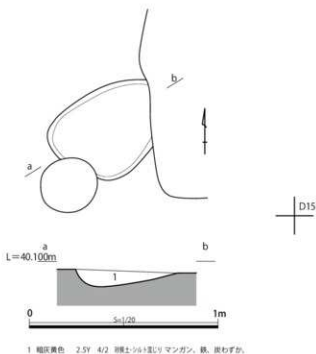
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘壤土・シルト混じりマンガン、鉄、燻 ϕ 5cm。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘壤土・シルト混じりマンガン、鉄。

第 242 図 1-1 区東 SP1055 平断面図 (1/20)



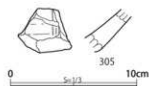
第 243 図 1-1 区東 SP1055 出土遺物

時期 年代は特定できない。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘壤土・シルト混じりマンガン、鉄、燻わずが。

第 244 図 1-1 区東 SP1060 平断面図 (1/20)



第 245 図 1-1 区東 SP1060 出土遺物

60号小穴 (SP1060) (第 244・245 図)

検出地点 D14 グリッド

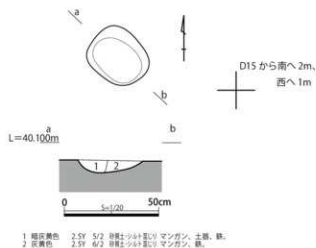
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、西側を SP1059、東側を SX1001 に切られている。残存値で長軸は 0.60m、短軸は 0.47m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は浅い丸底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

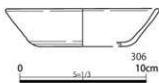
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 305 は土師質土器の挿鉢である。

時期 出土した遺物から中世以降の年代が想定される。



第 246 図 1-1 区東 SP1064 平面図 (1/20)



第 247 図 1-1 区東 SP1064 出土遺物

64 号小穴 (SP1064) (第 246・247 図)

検出地点 C14 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 0.32m、短軸は 0.27m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 306 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の年代が想定される。

66 号小穴 (SP1066) (第 248・249 図)

検出地点 C14・15 グリッド

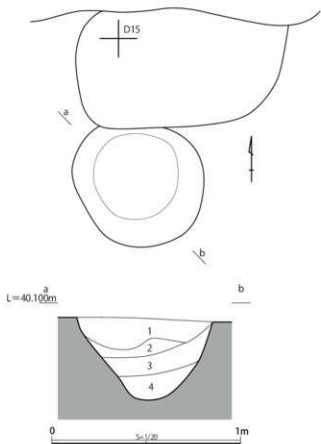
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、北側を SK1010 に切られている。残存値で長軸は 0.70m、短軸は 0.60m、深さは 0.42m を測る。断面の形状は楕円形である。

土層 4 層に分層され、暗灰黄色砂質土と灰黄色砂質土が互層に堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

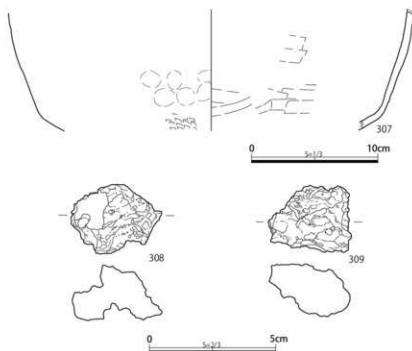
出土遺物 307 は土師質土器の羽釜の体部である。308、309 はスラグである。

時期 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

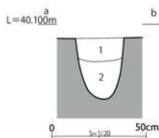
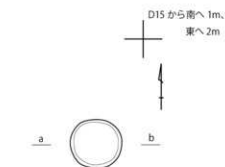


- | | | | | | |
|---|-----|------|-----|---------|-----------------------------|
| 1 | 褐色 | 2.5Y | 4/2 | 砂質と少し湿り | マンガン、鉄。 |
| 2 | 灰褐色 | 2.5Y | 6/2 | 砂質と少し湿り | 地山ブロック @5=10cm多い、マンガン、鉄わずか。 |
| 3 | 褐色 | 2.5Y | 4/2 | 砂質と少し湿り | マンガン、鉄、鉄わずか。 |
| 4 | 灰褐色 | 2.5Y | 6/2 | 砂質 | |

第 248 図 1-1 区東 SP1066 平断面図 (1/20)

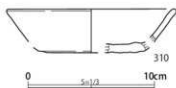


第 249 図 1-1 区東 SP1066 出土遺物

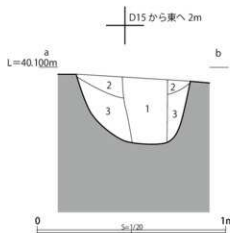


- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト質シリ マンガン、鉄、微いずれもわずか。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土。 径φ5~10cm多い。

第250図 1-1区東SP1067 平断面図 (1/20)



第251図 1-1区東SP1067 出土遺物



- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト質シリ マンガン、土鉄、微いずれもわずか。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト質シリ マンガン、鉄。
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト質シリ マンガン、鉄。

第252図 1-1区東SP1069 平断面図 (1/20)

67号小穴 (SP1067) (第250・251図)

検出地点 C15 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.27m、深さは0.32mを測る。断面の形状は丸底である。

土層 2層に分層され、下層ほど砂質が強い。

遺物出土状況 図化できるものはない。

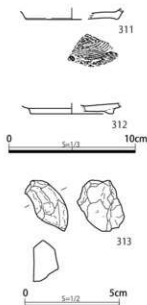
出土遺物 310は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代末(12世紀)以降の年代が想定される。

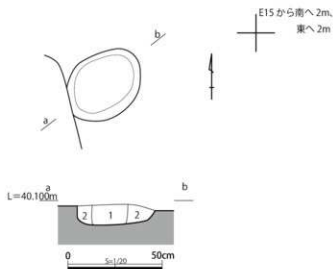
69号小穴 (SP1069) (第252・253図)

検出地点 D15 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.63m、短軸は

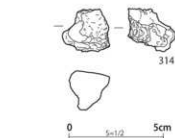


第253図 1-1区東SP1069 出土遺物

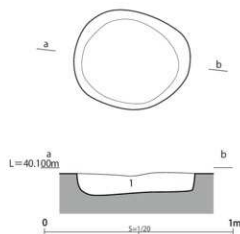


- 1 緑灰黄色 2.5Y 5/2 弱粘土・シルト混じり マンガン、鉄、礫φ5~10cm、地山ブロックわずか。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 弱粘土・シルト混じり マンガン、鉄、地山ブロックわずか。

第254図 1-1区東 SP1074 平断面図 (1/20)

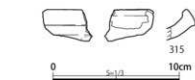


第255図 1-1区東 SP1074 出土遺物



- 1 緑灰黄色 2.5Y 5/2 弱粘土・シルト混じり マンガン、鉄わずか。

第256図 1-1区東 SP1075 平断面図 (1/20)



第257図 1-1区東 SP1075 出土遺物

0.45m、深さは0.57mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土で3層に分層され、1層は柱痕である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

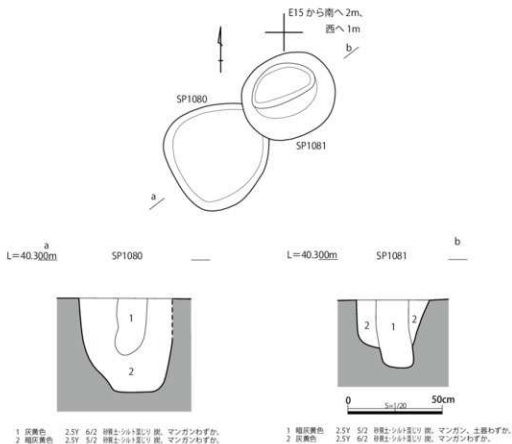
出土遺物 311、312は土師質土器。311は皿で、312は杯である。ともに底部の切り離しは回転系切りである。313は羽口である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

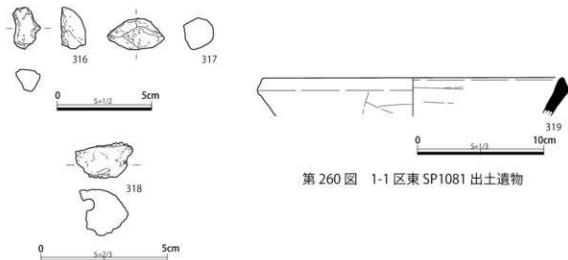
74号小穴（SP1074）（第254・255図）

検出地点 D15グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、西側をSX1001に切られている。長軸は0.43m、短軸は0.35m、

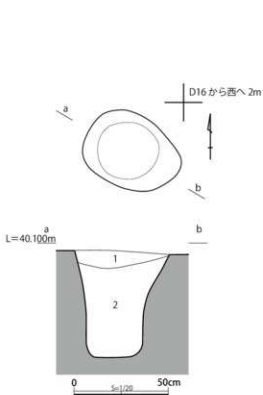


第258図 1-1区東SP1080・SP1081 平断面図 (1/20)



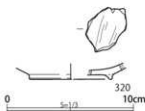
第260図 1-1区東SP1081 出土遺物

第259図 1-1区東SP1080 出土遺物

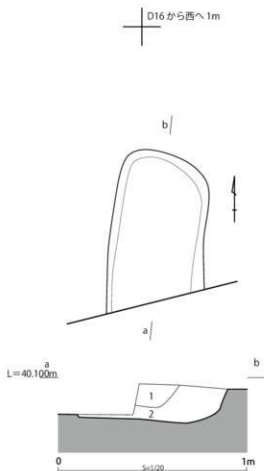


1 灰黄色 2.5Y 5/1 弱粘土・シルト混じりマンガン、鉄多い、土層φ5cm、層φ5cm。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 弱粘土・シルト混じりマンガン、鉄、炭、土層いずれもわずか。

第261図 1-1区東SP1083平断面図(1/20)

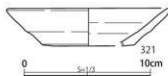


第262図 1-1区東SP1083出土遺物



1 灰黄色 2.5Y 6/2 弱粘土・シルト混じりマンガン多い、鉄、炭、土層いずれもわずか。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 弱粘土・シルト混じりマンガン、鉄、炭、土層いずれもわずか。

第263図 1-1区東SP1084平断面図(1/20)



第264図 1-1区東SP1084出土遺物

深さは0.10mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層され、1層(暗灰黄色砂質土)が2層(灰黄色砂質土)の中央部に切り込んで堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 314は羽口である。

時期 年代は特定できない。

75号小穴(SP1075)(第256・257図)

検出地点 D15グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.63m、短軸は0.53m、深さは0.12mを測る。断面の

形状は皿形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 315は土師質土器の鍋の口縁部である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

80号小穴 (SP1080) (第258・259図)

検出地点 D14グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な円形を呈し、東側をSP1081に切られている。長軸は0.55m、短軸は0.50m、深さは0.52mを測る。断面の形状は丸底である。

土層 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層され、1層(灰黄色砂質土)は柱痕である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 316、317は羽口である。318はスラグである。

時期 年代は特定できない。

81号小穴 (SP1081) (第258・260図)

検出地点 D14グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.50m、短軸は0.43m、深さは0.37mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層され、1層(暗灰黄色砂質土)は柱痕である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 319は東播系須恵器の捏鉢である。

時期 出土した遺物から平安時代末(12世紀)以降の年代が想定される。

83号小穴 (SP1083) (第261・262図)

検出地点 C15グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.53m、短軸は0.40m、深さは0.57mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、上部は黄灰色砂質土、下部には灰黄色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

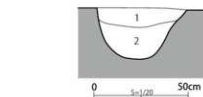
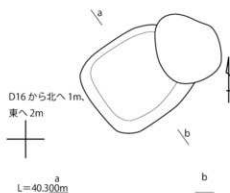
出土遺物 320は黒色土器A類の椀である。

時期 出土した遺物から平安時代(11世紀)以降の年代が想定される。

84号小穴 (SP1084) (第263・264図)

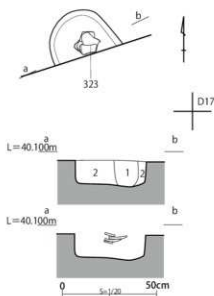
検出地点 C15グリッド

規模・形態 平面の形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.80m、短軸は0.50m、深さは0.20mを測る。断面の形状は舟底形とみられる。



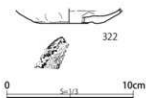
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 細砂・シルト混じり マンガン、鉄、土銀いずれもわずか。
2 灰黄色 2.5Y 4/2 細砂・シルト混じり 地山ブロック、マンガン、鉄。

第265図 1-1区東SP1094 平断面図 (1/20)

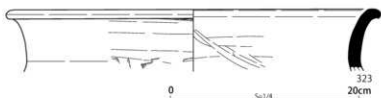


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 細砂・シルト混じり 地山ブロック、鉄いずれもわずか。
2 灰黄色 2.5Y 4/2 細砂・シルト混じり 地山ブロック、マンガン、鉄。

第267図 1-1区東SP1101 平断面図 (1/20)



第266図 1-1区東SP1094 出土遺物



第268図 1-1区東SP1101 出土遺物

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、上部は灰黄色砂質土、下部には暗灰黄色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 321は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代末(12世紀)以降の年代が想定される。

94号小穴 (SP1094) (第265・266図)

検出地点 D16グリッド

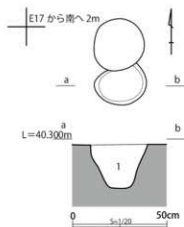
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、東側をSP1093に切られている。残存値で長軸は0.48m、短軸は0.40m、深さは0.28mを測る。断面の形状は楕円形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

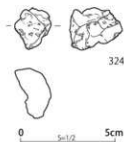
出土遺物 322は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転系切りである。

時期 出土した遺物から中世前半期(13世紀)以降の年代が想定される。

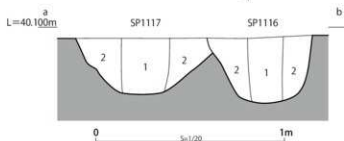


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質シルト混じりマンガン、鉄、燻灰ブロックもみり

第269図 1-1区東SP1106平断面図(1/20)



第270図 1-1区東SP1106出土遺物



SP1116

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質シルト混じり地山ブロック、炭、土器、燻灰ブロック、
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質シルト混じり地山ブロック、炭、土器いずれもみり

SP1117

1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質シルト混じりマンガン、鉄、土器、燻灰3~15cm多し、
2 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質シルト混じりマンガン、鉄、燻灰3~15cm多し

第271図 1-1区東SP1116・SP1117平断面図(1/20)

101号小穴 (SP1101) (第267・268図)

検出地点 D16グリッド

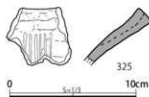
規模・形態 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.35m、短軸は0.23m、深さは0.13mを測る。断面の形状は長方形である。

土層 どれもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層(暗灰黄色砂質土)は柱痕である。

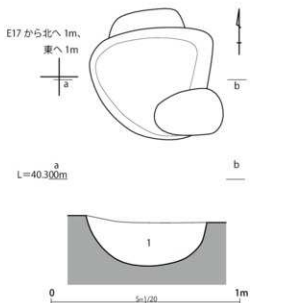
遺物出土状況 上面の中央部分から出土している。

出土遺物 323は陶器の備前焼の甕である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

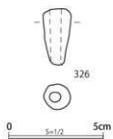


第272図 1-1区東SP1116出土遺物



1 暗灰褐色 2.5Y 5/2 砂質シルト混じり 地山ブロック、マンガン、炭、土器わずか。

第273図 1-1区東SP1121 平面図 (1/20)



第274図 1-1区東SP1121 出土遺物

106号小穴 (SP1106) (第269・270図)

検出地点 D17グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、北側をSP1105に切られている。残存値で長軸は0.28m、短軸は0.18m、深さは0.21mを測る。断面の形状は楕鉢形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

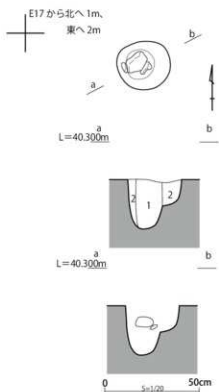
出土遺物 324は羽口である。

時期 年代は特定できない。

116号小穴 (SP1116) (第271・272図)

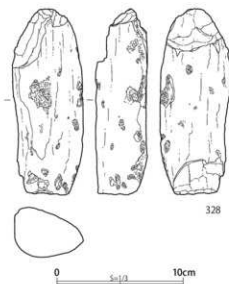
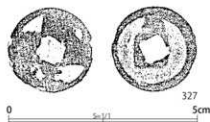
検出地点 D17グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.60m、短軸は0.50m、深さは0.34mを測る。断面の形状は丸底形



1 区黄褐色 10YR 5/2 砂質シルト混じり マンガン、炭、炭。 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質シルト混じり 地山ブロック、マンガン。

第275図 1-1区東SP1122 平面図 (1/20)



第276図 1-1区東SP1122 出土遺物

である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 325は瓦質土器の播鉢である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

117号小穴（SP1117）（第271図）

検出地点 D17グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、北側をSP1116に切られている。残存値で長軸は0.68m、短軸は0.65m、深さは0.32mを測る。断面の形状は播鉢形である。

土層 何れも灰黄褐色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。

121号小穴（SP1121）（第273・274図）

検出地点 E17グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、東側をSP1120に切られている。残存値で長軸は0.65m、軸は0.60m、深さは0.24mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 326は管状の土鍾である。

時期 年代は特定できない。

122号小穴（SP1121）（第275・276図）

検出地点 E17グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.27m、深さは0.25mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層（灰黄褐色砂質土）は柱痕である。

遺物出土状況 中央中層部分から礫などが出土している。

出土遺物 327は銭種不明の銅銭「〇〇元寶」である。328は結晶片岩製の敲打痕を有する石である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

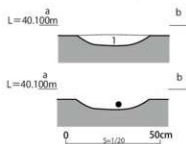
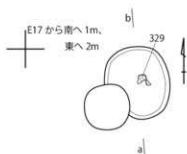
127号小穴（SP1127）（第277・278図）

検出地点 D17グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、西側をSP1126に切られている。残存値で長軸は0.40m、短軸は0.25m、深さは0.04mを測る。断面の形状は皿形である。

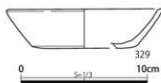
土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 中央上面から土器が出土している。

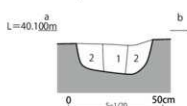
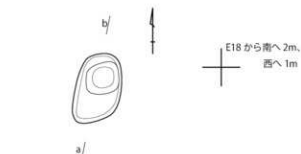


1 暗灰褐色 2.5Y 4/2 弱鉄土・弱鉄リ マンガン、鉄、礫φ5~15cm多い、土器、灰、

第 277 図 1-1 区東 SP1127 断面図 (1/20)

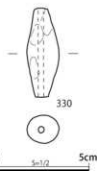


第 278 図 1-1 区東 SP1127 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 5/2 弱鉄土・弱鉄リ マンガン多い、鉄、土器いずれもわずか、
2 灰黄色 2.5Y 6/2 弱鉄土・弱鉄リ マンガン、土器φ5cm一占。

第 279 図 1-1 区東 SP1132 断面図 (1/20)



第 280 図 1-1 区東 SP1132 出土遺物

出土遺物 329 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代末（12世紀）以降の年代が想定される。

132号小穴（SP1132）（第279・280図）

検出地点 D17 グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、長軸は0.42m、短軸は0.24m、深さは0.14mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層（灰黄褐色砂質土）は柱痕と考えられる。

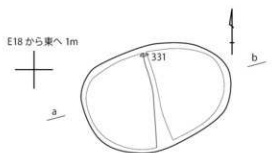
遺物出土状況 図化できるものは出土していない。

出土遺物 330は管状の土錘である。

時期 年代は特定できない。

139号小穴（SP1139）（第281・282図）

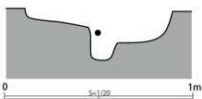
検出地点 D・E18 グリッド



L=40.300m

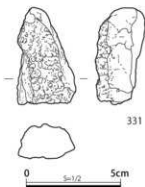


L=40.300m



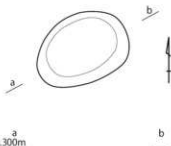
1 暗灰黄色 10R 5/1 粘土・シト土にリマンガン多い。土器。
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 粘土・シト土にリマンガン。地山ブロック。

第281図 1-1区東SP1139平断面図 (1/20)

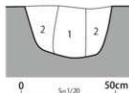


第282図 1-1区東SP1139出土遺物

E19

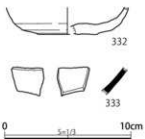


L=40.300m

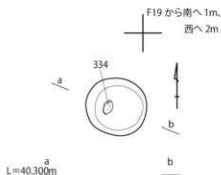


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 粘土・シト土にリマンガン多い。灰。土器。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 粘土・シト土にリマンガン。灰。土器。

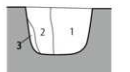
第283図 1-1区東SP1150平断面図 (1/20)



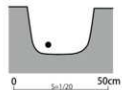
第284図 1-1区東SP1150出土遺物



L=40.300m

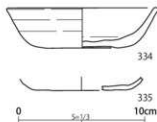


L=40.300m

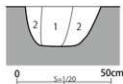


- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 赤・マンガン、黄・土壌有機物を有。
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、地山ブロック、鉄。
 3 灰色黄色 2.5Y 6/4 砂質土・シルト混じり 地山ブロック多し。

第285図 1-1区東SP1154 断面図 (1/20)



L=40.300m



- 1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、地山ブロック、鉄。
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。

第287図 1-1区東SP1155 断面図 (1/20)



第288図 1-1区東SP1155 出土遺物

第286図 1-1区東SP1154 出土遺物

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.80m、短軸は0.55m、深さは0.27mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、上部に褐灰色砂質土、下部に暗灰黄色砂質土が堆積している。

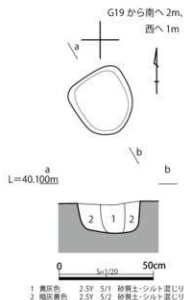
遺物出土状況 北壁寄り1、2層の境付近より羽口が出土している。

出土遺物 331は羽口である。

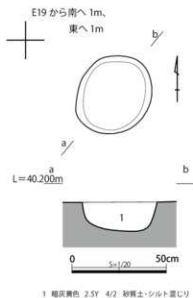
時期 年代は特定できない。

150号小穴 (SP1150) (第283・284図)

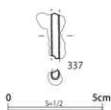
検出地点 D18 グリッド



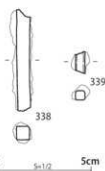
第289図 1-1区東 SP1161 平面断面図 (1/20)



第291図 1-1区東 SP1166 平面断面図 (1/20)



第290図 1-1区東 SP1161 出土遺物



第292図 1-1区東 SP1166 出土遺物

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.50m、短軸は0.37m、深さは0.27mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層（暗灰黄色砂質土）は柱痕である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 332は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。333は同安窯系青磁の碗である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

154号小穴（SP1154）（第285・286図）

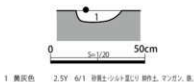
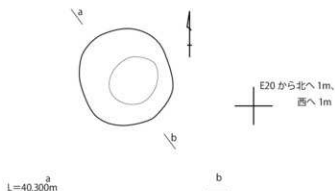
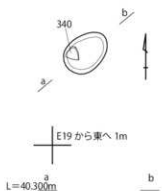
検出地点 E18グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.33m、深さは0.24mを測る。断面の形状は舟底形である。

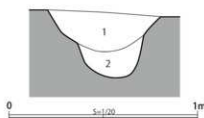
土層 何れもシルト混じり砂質土層で3層に分層される。

遺物出土状況 底部付近から土器が出土している。

出土遺物 334、335は土師質土器。334は杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。335



第 293 図 1-1 区東 SP1170 平断面図 (1/20)

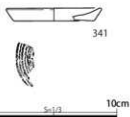


第 295 図 1-1 区東 SP1175 平断面図 (1/20)



第 294 図 1-1 区東 SP1170 出土遺物

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質シルト混じり 粘り土、マンガンを多く含む、厚さ1~5cm、土層わずが。
2 灰黄色 2.5Y 6/2 粘り土混じり 砂質シルト多量、マンガンを多く含む、土層わずが。



第 296 図 1-1 区東 SP1175 出土遺物

は皿である。

時期 出土した遺物から平安時代末（11世紀）以降の年代が想定される。

155号小穴 (SP1155) (第287・288図)

検出地点 E18 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.48m、短軸は0.28m、深さは0.21mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 どれも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕である。

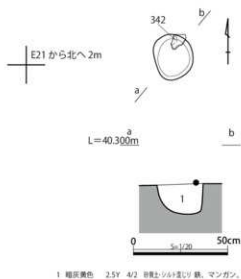
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 336は白磁の碗である。

時期 出土した遺物から平安時代末（11世紀）以降の年代が想定される。

161号小穴 (SP1161) (第289・290図)

検出地点 F18 グリッド



第 297 図 1-1 区東 SP1193 平面図 (1/20)



第 298 図 1-1 区東 SP1193 出土遺物

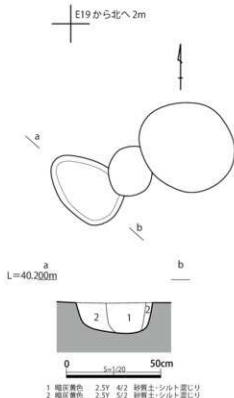
規模・形態 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は 0.33m、短軸は 0.30m、深さは 0.18m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層（黄灰色砂質土）は柱痕である。

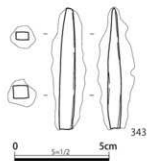
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 337 は棒状の鉄製品である。

時期 年代は特定できない。



第 299 図 1-1 区東 SP1208 平面図 (1/20)



第 300 図 1-1 区東 SP1208 出土遺物

166 号小穴 (SP1166) (第 291・292 図)

検出地点 D19 グリッド

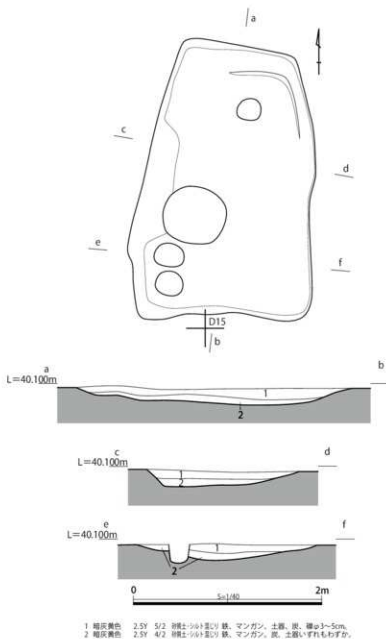
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.42m、短軸は 0.38m、深さは 0.15m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 338、339 は鉄製の釘である。

時期 年代は特定できない。



第 301 図 1-1 区東 SX1001 平面図 (1/40)

170 号小穴 (SP1170) (第 293・294 図)

検出地点 E19 グリッド

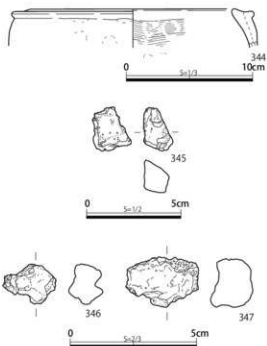
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.25m、短軸は 0.18m、深さは 0.06m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 黄灰色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

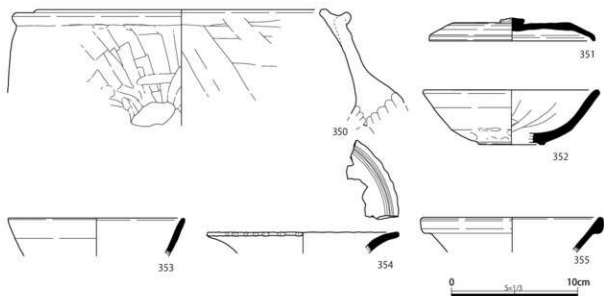
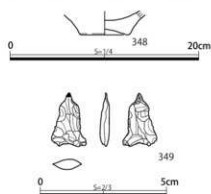
遺物出土状況 上面から土器が出土している。

出土遺物 340 は須恵器の蓋である。

時期 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。



第 302 図 1-1 区東 SX1001 出土遺物



第 303 図 1-1 区包含層出土遺物

175 号小穴 (SP1175) (第 295・296 図)

検出地点 E19 グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.48m、深さは 0.36m を測る。断面の形状は 2 段形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、上部は暗灰黄色砂質土、下部には灰黄色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 341 は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

193 号小穴 (SP1193) (第 297・298 図)

検出地点 E21 グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.25m、短軸は 0.20m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 上面より土器が出土している。

出土遺物 342 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の

年代が想定される。

208号小穴 (SP1208) (第299・300図)

検出地点 E18・19 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、東側をSP1173に切られている。残存値で長軸は0.42m、短軸は0.30m、深さは0.16mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 343は棒状の鉄製品である。

時期 年代は特定できない。

1号性格不明遺構 (SX1001) (第301・302図)

検出地点 D14・15 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は2.90m、短軸は1.94m、深さは0.17mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

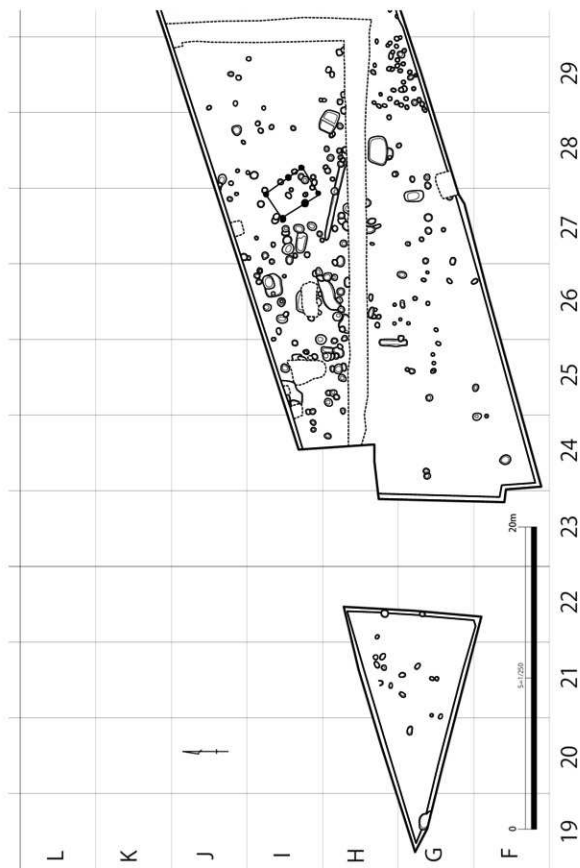
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 344は土師質土器の羽釜である。345は羽口である。346、347はスラグである。

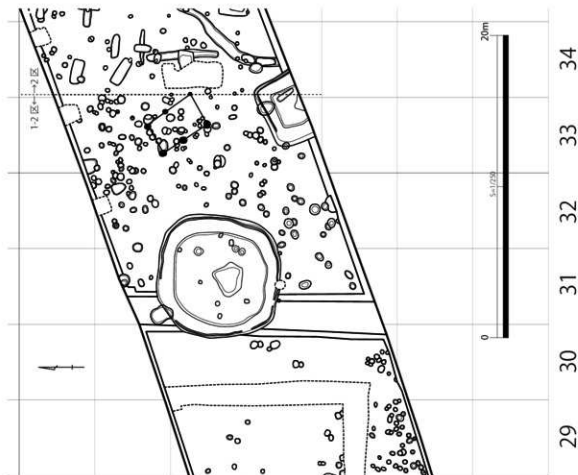
時期 出土した遺物から室町時代(15世紀)以降の年代が想定される。

包含層出土遺物 (第303図)

348は弥生土器の甕の底部である。349はサヌカイト製の平基式の石鏃である。350は土師質土器の羽釜である。脚部は欠損している。351、352は須恵器。351は蓋である。352は西村系の須恵器碗である。353、354は青磁。353は龍泉窯系の碗である。354は輪花皿である。355は白磁の碗である。



第 304 图 1-2 区平面图① (1/250)



第305図 1-2区平面図② (1/250)

(6) 1-2区 (第304・305図)

1-2区は2か所の調査区に分かれて調査が行われている。また東側に隣接している2区は1-2区の調査終了後に続けて調査が行われたため、便宜上33・34のグリッドラインを調査区境として報告を行う。ただしSB1001についてはグリッドラインを跨いでいるが、1-2区として取り扱う。確認された遺構面は1面で、検出された遺構は掘立柱建物(SA)が2軒、竪穴住居(SB)が2軒、溝(SD)が2条、土坑(SK)が27基、小穴(SP)が421基、性格不明遺構(SX)が11基となっている。

1号掘立柱建物(SA1001) (第306図)

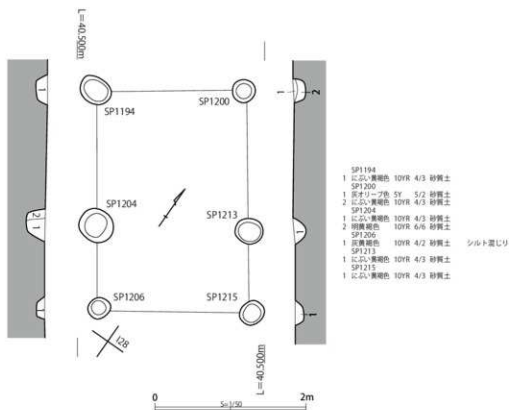
検出地点 H・I27・28グリッド

規模・形態 梁間1間(2.00m)×桁行2間(2.90m)、床面積5.80㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-35°-Wである。

土層 にぶい黄褐色砂質土などが1～2層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。



第 306 図 1-2 区 SA1001 平面図 (1/50)

時期 建物の主軸方向などから中世以降の可能性が考えられる。

2号掘立柱建物 (SA1002) (第 307 図)

検出地点 J・K33・34 グリッド

規模・形態 梁間 1 間 (2.20m) × 桁行 2 間 (3.55m)、床面積 7.81㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 34° - W である。

土層 灰黄褐色砂質土が 1 ~ 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

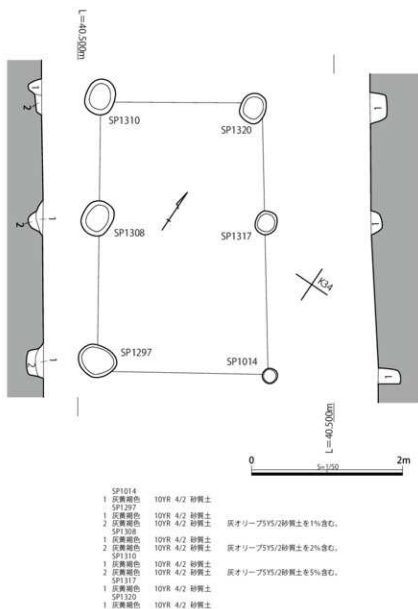
出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の可能性が考えられる。

1号竪穴住居 (SB1001) (第 308 ~ 323 図)

検出地点 I・J30 ~ 32・K31・32 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 7.12m、短軸は 7.03m、深さは 0.54m を測る。断面の形状は 2 段形であり、外周部にベッド状の高まりが存在している。柱穴 (EP) は床面の外周部より内側から 10 基検出されている。また炉 (EH) は中央やや南寄りから 1 基検出されている。壁際には周溝 (ED) が巡らされている。

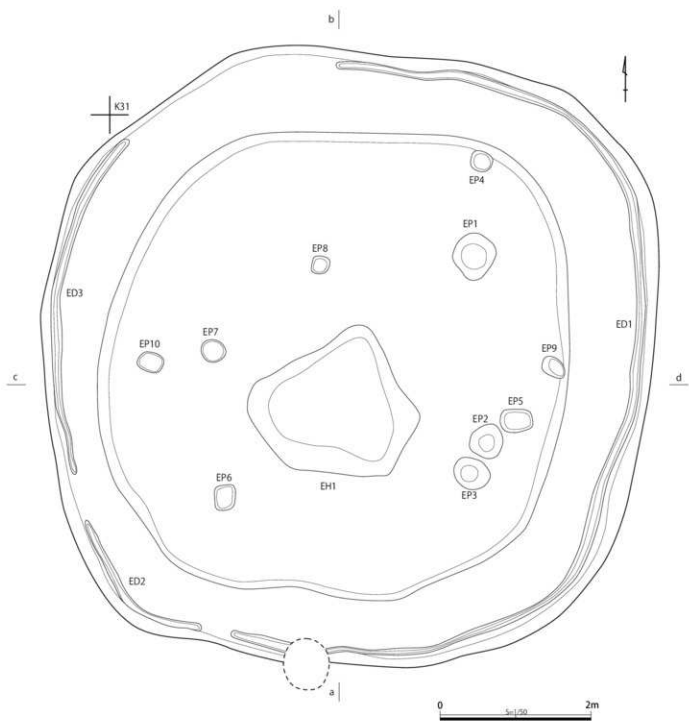


第 307 図 1-2 区 SA1002 平面図 (1/50)

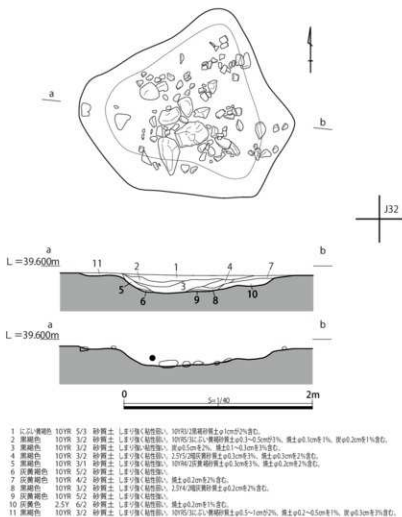
土層 何れも砂質土層で 11 層に分層される。周囲の壁際斜面にはオリーブ褐色、にぶい黄褐色砂質土などが堆積し、中央部分を中心として住居床面直上まで黒褐色砂質土層が堆積している。炉 (EH) 内は上面ににぶい黄褐色砂質土、下部には焼土の混じった黒褐色砂質土層が堆積している。EP 内の埋土についても同様の傾向を示している。

遺物出土状況 炉内及び床面南西部を中心として拳大～人頭大の砂岩礫がまとまって検出された。また中央東寄りの床面からは炭化材がまとまって検出されている。土器はベッド状の高まりの外周部を中心に出土しており、炉の南側からは台石とみられる大型の扁平な砂岩礫が 2 個出土している。

出土遺物 356～463 は弥生土器。356～387 は壺である。356～358 は二重口縁壺、359～371 は広口壺、371 は直口壺である。388～428 は甕である。388 のように体部が倒卵形を呈し底部がや



第308图 1-2区SB1001平面图① (1/50)



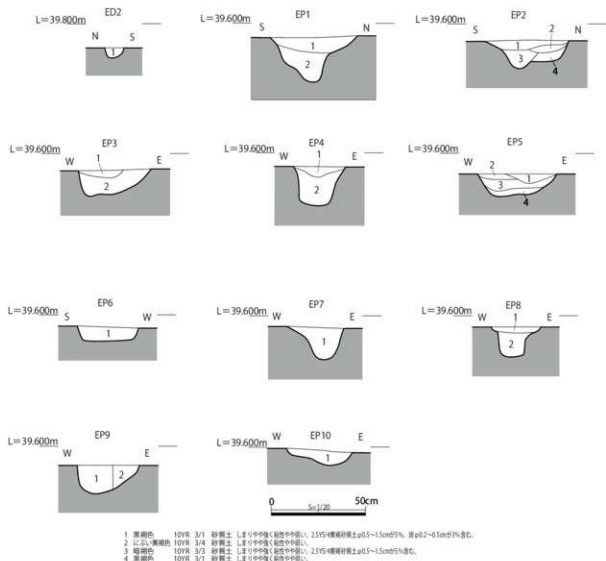
第311図 1-2区 SB1001EH1 平断面図 (1/40)

や平らな面を残すものと、389、391のように体部上半が大きく張り出して底部はやや小さめなものがある。429～456は鉢である。429～431は口縁部が外反するもの、432～446はボウル形で丸底気味のもの、447～456は嵩がやや浅めで平底気味のものなどが存在している。457～459は高杯である。460は台付き鉢、461は小型丸底鉢、462は製塩土器、463はミニチュア土器である。464はサヌカイト製の剥片、465は結晶片岩製の石燈丁である。466～474は巖石で、468、474が石英、471が結晶片岩を除けば他は砂岩である。475は砂岩製の砥石である。476～479は砂岩製の台石である。480～483は鉄器。480～482は鉄鏝。480は柳刃形の鉄鏝である。483は刀子とみられる。
時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭と考えられる。

2号竪穴住居 (SB1002) (第324～329図)

検出地点 I33・34 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸方形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸は4.70m、短軸は2.85m、深さは0.40mを測る。断面の形状は舟底形と考えられる。遺構内からは土



第 312 図 1-2 区 SB1001ED・EP 断面図 (1/20)

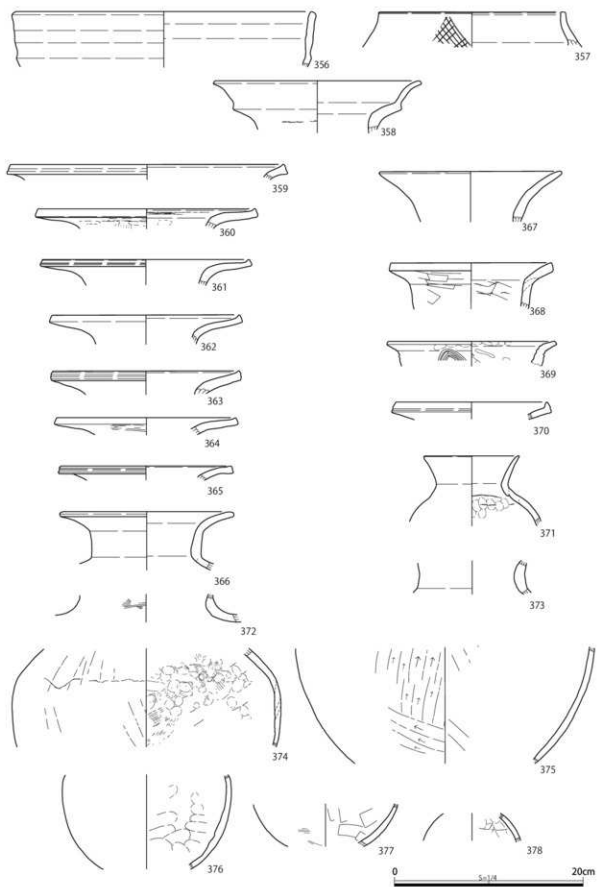
坑 (EK) が東寄りから 1 基、炉 (EH) が中央付近から調査区の壁にかけて 1 基、また壁際から周溝 (ED) が検出されている。

土層 何れも砂質土で 6 層に分層されている。壁際斜面にはにぶい黄褐色砂質土が堆積しており、その上部をオリーブ褐色砂質土、灰黄褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土、褐色砂質土が覆うように堆積している。

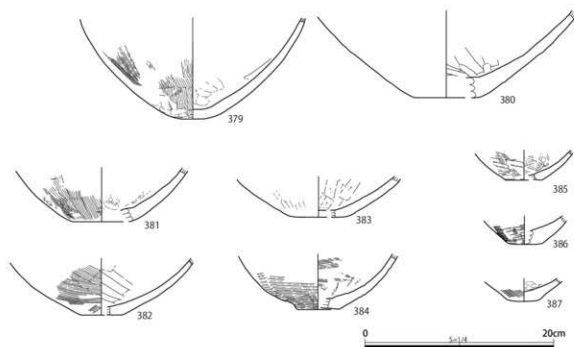
遺物出土状況 炉及びその周囲から焼土、炭化物がまとまって検出されている。炉の西側からは炭化材が、東側からは甕が床面に置かれた状態で検出された。

出土遺物 484~505 は弥生時代終末~古墳時代初期の土器群である。484 は広口壺、485~593 は甕、504、505 は鉢である。506 はサヌカイト製の楔形石器である。507 は鉄製の圭頭鏃である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期~古墳時代初頭と考えられる。



第 313 图 1-2 区 SB1001 出土遗物①



第314図 1-2区SB1001出土遺物②

2号土坑 (SK1002) (第330・331図)

検出地点 G20 グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は0.60m、短軸は0.34m、深さは0.17mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 灰黄褐色砂質土が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 508は土師質土器の羽釜の脚部である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

7号土坑 (SK1007) (第332・333図)

検出地点 G・H26 グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は0.60m、短軸は0.43m、深さは0.27mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 どれも灰黄褐色シルト混じり砂質土で2層に分層される。

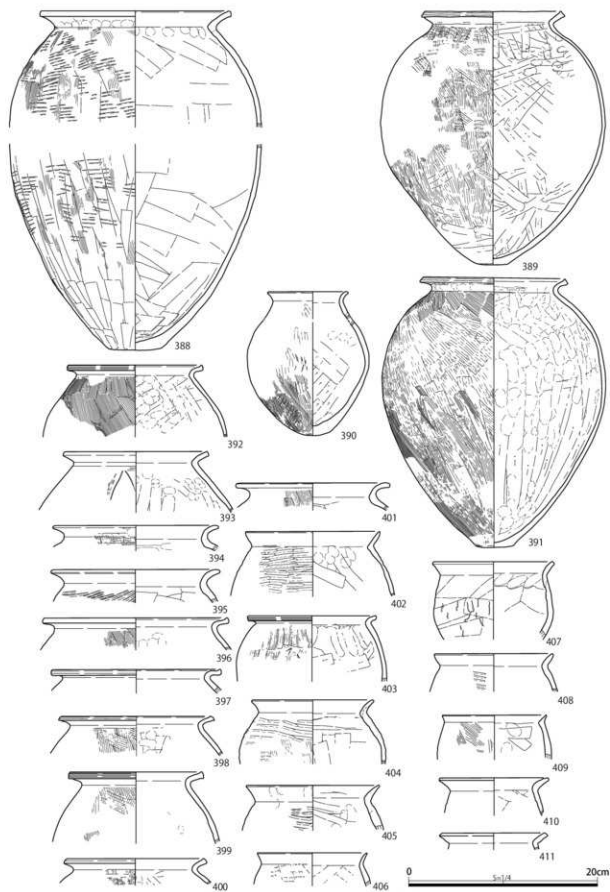
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 509は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転系切りである。

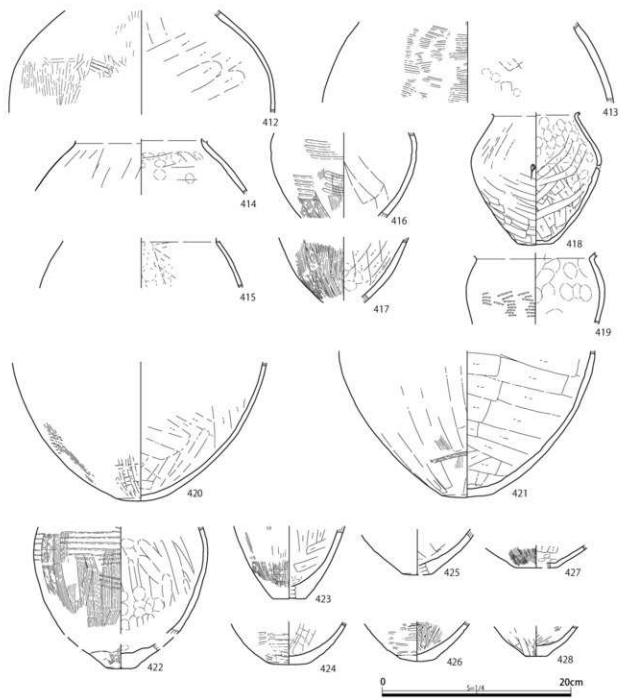
時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

10号土坑 (SK1010) (第334・335図)

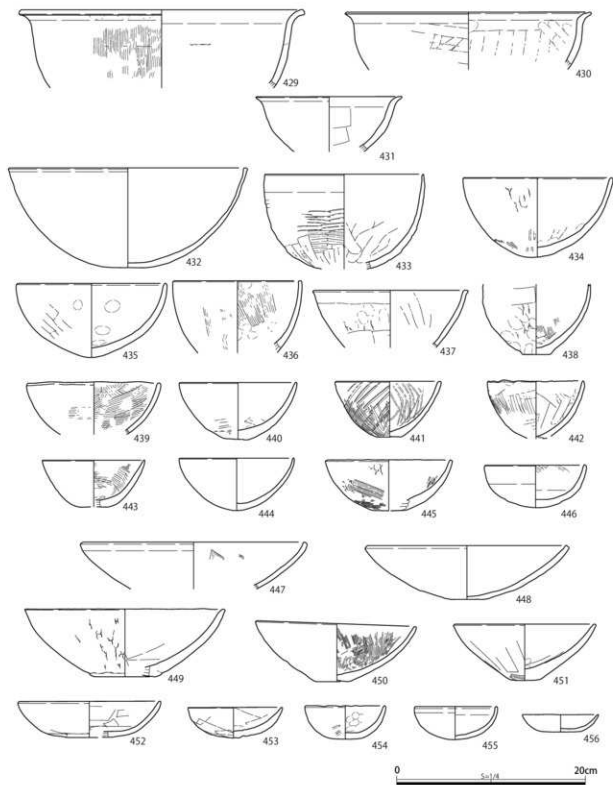
検出地点 H28 グリッド



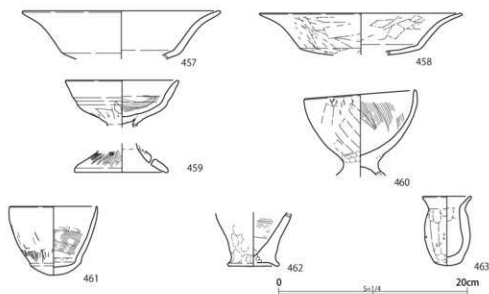
第 315 图 1-2 区 SB1001 出土遺物③



第316图 1-2区SB1001出土遗物④



第 317 图 1-2 区 SB1001 出土遗物⑤



第318図 1-2区SB1001出土遺物⑤

規模・形態 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、北側をSX1003に切られている。残存値で長軸は0.73m、短軸は0.38m、深さは0.30mを測る。

土層 何れも灰黄褐色砂質土で3層に分層され、3層はややシルトが混じる。

遺物出土状況 1層中を中心として砂岩礫や土器が出土している。

出土遺物 510は弥生土器の甕の底部である。511はサヌカイト製の凹基式石鐮である。

時期 出土した遺物から弥生時代以降の年代が想定される。

15号土坑 (SK1015) (第336・337図)

検出地点 I26グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、東側をSP1150に切られている。長軸は0.60m、短軸は0.53m、深さは0.51mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 2層に分層され、上部にはふい黄褐色砂質土、下部には灰黄褐色シルト混じり砂質土が堆積している。

遺物出土状況 1層を中心として砂岩礫や土器が出土している。

出土遺物 512は東播系須恵器の捏鉢である。

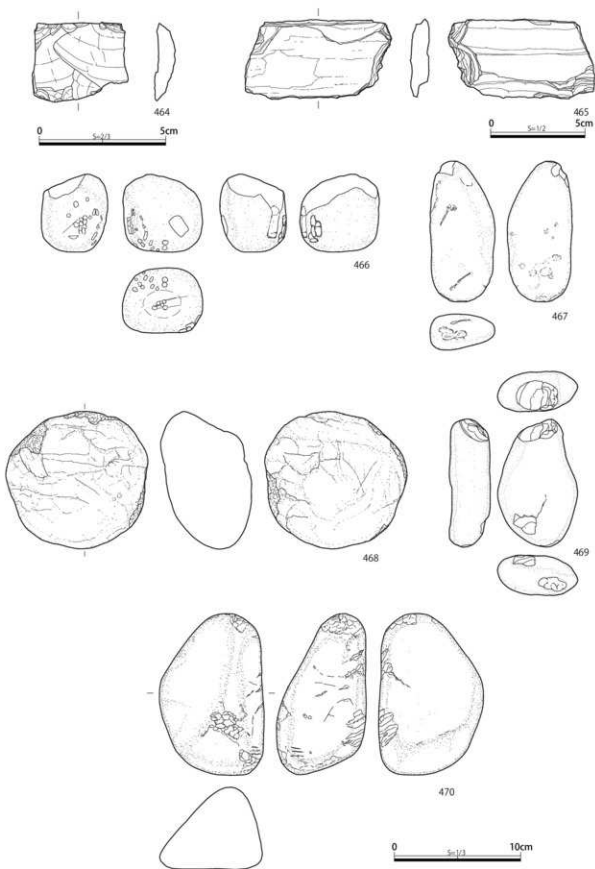
時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

16号土坑 (SK1016) (第338・339図)

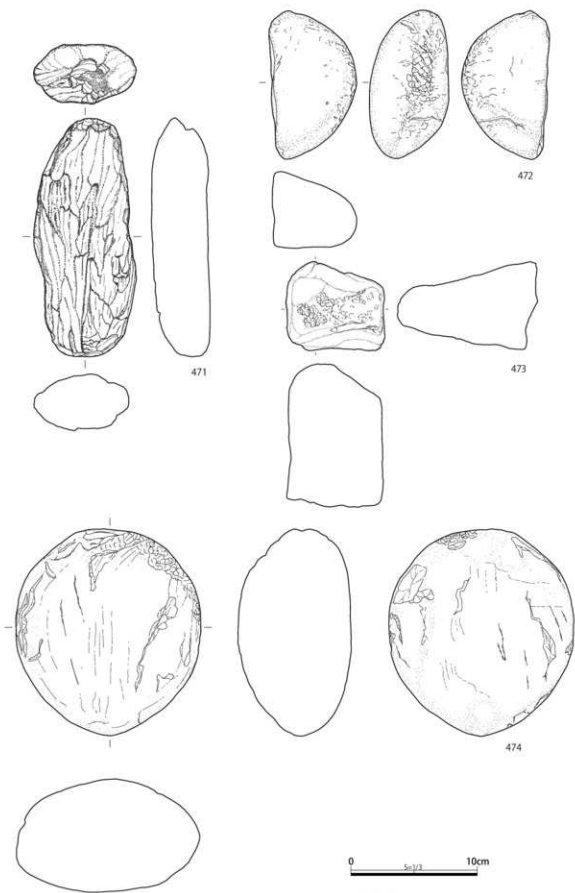
検出地点 I26グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.88m、短軸は0.70m、深さは0.44mを測る。断面の形状は2段形である。

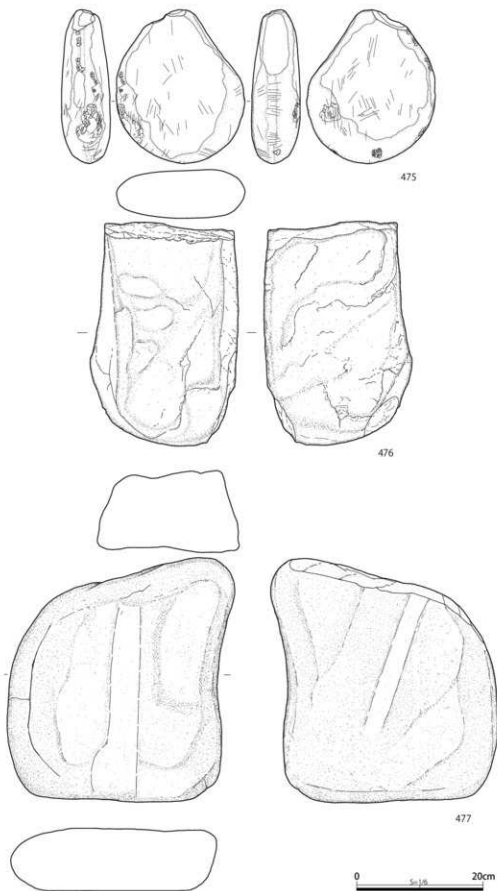
土層 5層に分層され、1、2層は灰黄褐色砂質土、下部には黒褐色やにふい黄褐色などのシルト混じり砂質土が堆積している。



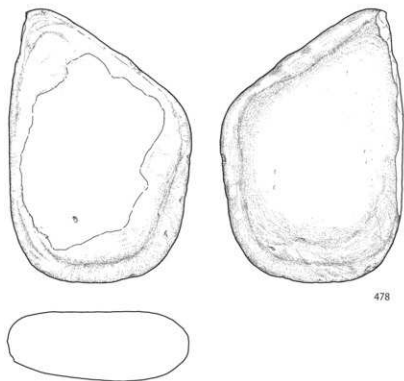
第 319 图 1-2 区 SB1001 出土遺物②



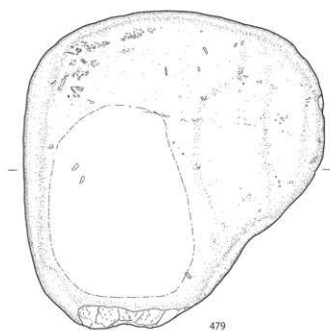
第 320 图 1-2 区 SB1001 出土遗物^⑧



第 321 图 1-2 区 SB1001 出土遺物⑨



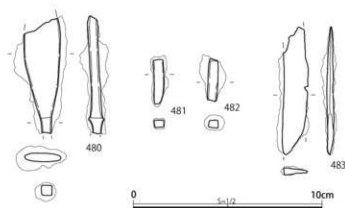
478



479

0 5cm 20cm

第 322 图 1-2 区 SB1001 出土遺物⑩



第 323 図 1-2 区 SB1001 出土遺物①

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 513 は土師質土器の杯である。514 は北宋銭で 1086 年初鑄の「元祐通寶」である。

時期 出土した遺物から平安時代末（12 世紀）以降の年代が想定される。

27 号土坑（SK1027）（第 340・341 図）

検出地点 K31 グリッド

規模・形態 平面の形状はやや不整な楕円形を呈し、長軸は 1.30m、短軸は 1.20m、深さは 0.14m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 どれも砂質土が 3 層に分層され、上部には灰黄褐色砂質土、下部にはにぶい黄褐色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 拳大の角礫がまとまって出土しており、その中から土器も出土している。

出土遺物 515～525 は弥生土器。515～518 は壺、515、516 は布留式の二重口縁壺、517 は庄内式の広口壺である。519～523 は甕である。524、525 は鉢である。525 は砂岩、527 は斑輝岩製の敲石である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭以降と想定される。

7 号小穴（SP1007）（第 342・343 図）

検出地点 G21 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.45m、短軸は 0.26m、深さは 0.17m を測る。断面の形状は 2 段形である。

土層 どれも灰黄褐色砂質土で 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 528 は瓦器碗である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。

11号小穴 (SP1011) (第344・345図)

検出地点 H21 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.47m、短軸は0.32m、深さは0.16mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 にぶい黄褐色砂質土が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 529は土師質土器の杯である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

12号小穴 (SP1012) (第346・347図)

検出地点 H21 グリッド

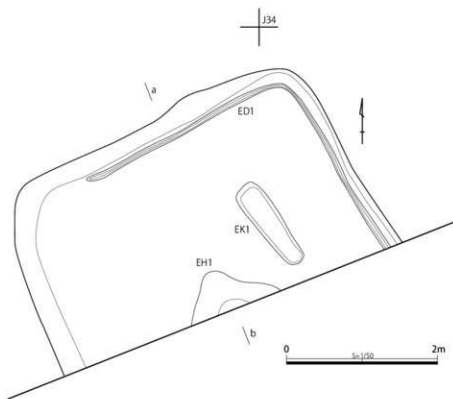
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.32m、深さは0.14mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 灰黄褐色砂質土が1層である。

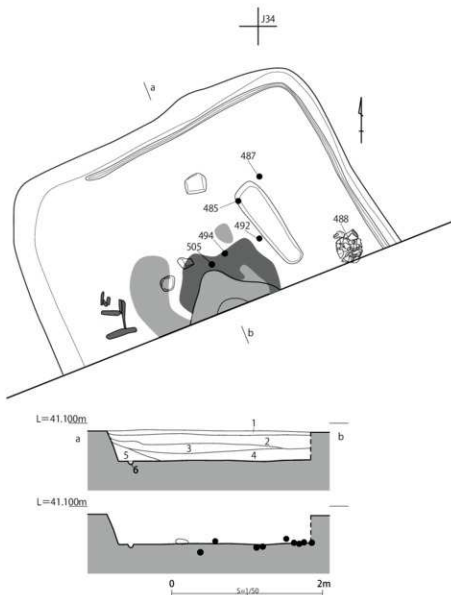
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 530は土師質土器の杯である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。



第324図 1-2区SB1002平面図(1/50)



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土、Lマトリヤ中強(粘性中)弱い、SIS/1灰色粉質土 $\phi 0.5 \sim 1.5\text{mm}$ 30%、マンガ $\phi 0.2 \sim 1\text{mm}$ 30%、鉄 $\phi 0.2 \sim 0.5\text{mm}$ 3%、燻 $\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$ 25%含む。
 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土、Lマトリヤ中強(粘性中)弱い、SIS/2Sオリーブ $\phi 0.2 \sim 0.5\text{mm}$ 10%、黒 $\phi 0.5\text{mm}$ 程度3%、マンガ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{mm}$ 5%、燻 $\phi 1 \sim 4\text{mm}$ 10%含む。
 3 灰色 10YR 4/3 砂質土、Lマトリヤ中強(粘性中)弱い、SIS/2Sオリーブ $\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$ 10%、マンガ $\phi 0.2 \sim 0.5\text{mm}$ 10%、燻 $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ 3%含む。
 4 褐色 10YR 4/4 砂質土、Lマトリヤ中強(粘性中)弱い、SIS/2Sオリーブ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ 10%、2.5%以上の黄色粉質土 $\phi 0.2 \sim 0.5\text{mm}$ 5%、黒 $\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$ 3%、燻 $\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$ 3%含む。
 5 灰色 10YR 4/3 砂質土、Lマトリヤ中強(粘性中)弱い、SIS/2Sオリーブ $\phi 0.2 \sim 0.5\text{mm}$ 10%、マンガ $\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$ 3%、燻 $\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$ 8%含む。
 6 灰色 10YR 4/3 砂質土、Lマトリヤ中強(粘性中)弱い、SIS/2Sオリーブ $\phi 0.2 \sim 0.5\text{mm}$ 10%含む。

第 325 図 1-2 区 SB1002 断面図 (1/50)

16号小穴 (SP1016) (第348・349図)

検出地点 H22 グリッド

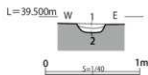
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.48m、深さは0.27mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 灰黄褐色砂質土が1層である。

遺物出土状況 拳大前後の大きさの砂岩礫が底部に張り付くように出土している。

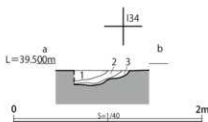
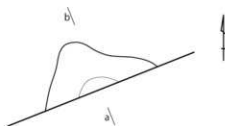
出土遺物 531は和泉型の瓦器碗である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。



- 1 濃い黄褐色 10VR 4/3 砂質土 しまり強く粘性弱い、厚さ0.2m程度。
2 灰黄褐色 10VR 4/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。

第 326 図 1-2 区 SB1002EK1 断面図 (1/40)



- 1 灰黄褐色 10VR 5/2 砂質土 しまり強く粘性弱い、厚さ0.1m程度、厚さ0.2-0.3m程度。
2 濃い黄褐色 10VR 5/3 砂質土 しまり強く粘性弱い、厚さ0.2-0.3m程度、厚さ0.3-0.5m程度。
3 濃い黄褐色 10VR 5/3 砂質土 しまり強く粘性弱い、厚さ0.2m程度、厚さ0.5-1m程度。

第 327 図 1-2 区 SB1002EH1 平断面図 (1/40)

31 号小穴 (SP1031) (第 350・351 図)

検出地点 G26 グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、径は 0.27m、深さは 0.22m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 灰オリーブ色砂質土が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

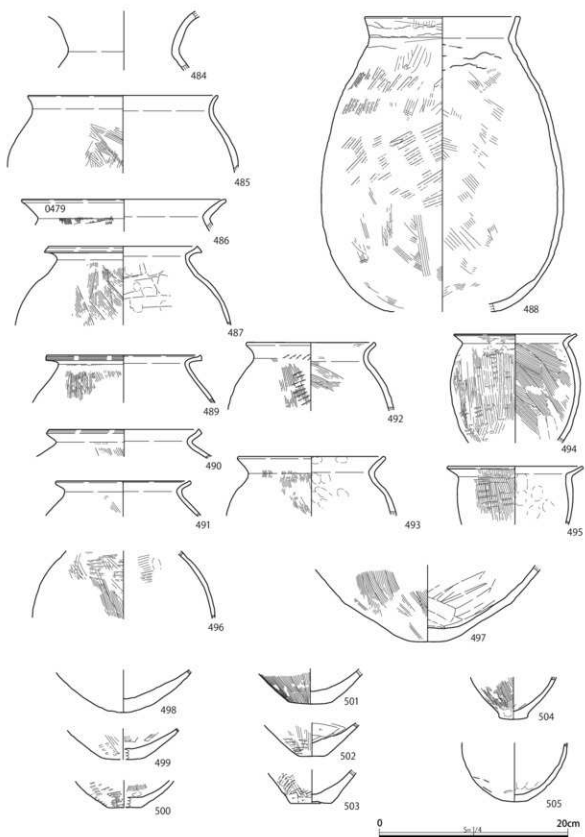
出土遺物 532 は土師質土器の羽釜である。

時期 出土した遺物から室町時代 (15 世紀) 以降の年代が想定される。

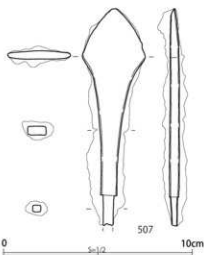
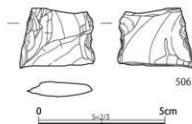
67 号小穴 (SP1067) (第 352・353 図)

検出地点 G27 グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、径は 0.3m、深さは 0.13m を測る。断面の形状は舟底形である。



第 328 图 1-2 区 SB1002 出土遗物①



第 329 図 1-2 区 SB1002 出土遺物②

土層 灰黄褐色砂質土が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 533 は白磁の碗である。

時期 出土した遺物から平安時代末（12 世紀）以降の年代が想定される。

78 号小穴（SP1078）（第 354・355 図）

検出地点 H28 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.42m、短軸は 0.40m、深さは 0.38m を測る。断面の形状は丸底形である。

土層 灰黄褐色シルト混じり砂質土が 1 層である。

遺物出土状況 上層付近を中心として土器が出土している。

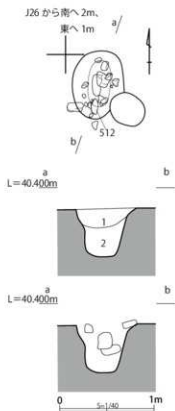
出土遺物 534 は土師質土器の鍋である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。

130 号小穴（SP1130）（第 356・357 図）

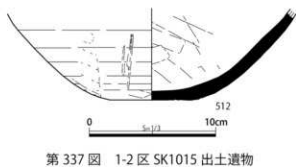
検出地点 I25 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.60m、短軸は 0.50m、深さは 0.39m を測る。断面の形状は舟底形である。

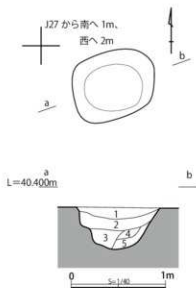


1 土 黄褐色 10YR 4/3 砂質土 土中砂・粘り粉、砂質粘土層に属する。J26から南へ2m、東へ1mに属する。RzはL=40.400m。
2 灰黄褐色 10YR 4/2 硬質粘土質土 土中砂・粘り粉、砂質粘土層に属する。J26から南へ2m、東へ1mに属する。

第336図 1-2区 SK1015 平断面図 (1/40)

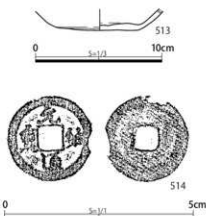


第337図 1-2区 SK1015 出土遺物

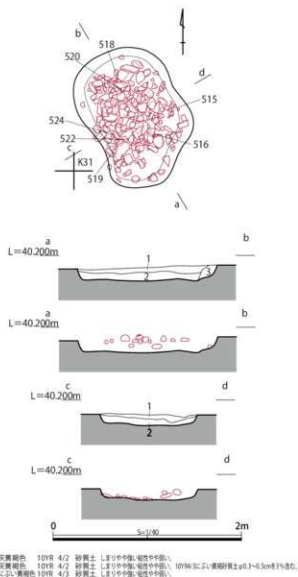


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 土中砂・粘り粉、砂質粘土層に属する。J27から南へ1m、西へ2mに属する。RzはL=40.400m。
2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 土中砂・粘り粉、砂質粘土層に属する。J27から南へ1m、西へ2mに属する。
3 黒褐色 10YR 3/2 硬質粘土質土 土中砂・粘り粉、砂質粘土層に属する。J27から南へ1m、西へ2mに属する。
4 土 黄褐色 10YR 4/3 硬質粘土質土 土中砂・粘り粉、砂質粘土層に属する。J27から南へ1m、西へ2mに属する。
5 灰黄褐色 10YR 4/2 硬質粘土質土 土中砂・粘り粉、砂質粘土層に属する。J27から南へ1m、西へ2mに属する。

第338図 1-2区 SK1016 平断面図 (1/40)



第339図 1-2区 SK1016 出土遺物



第 340 図 1-2 区 SK1027 平面図 (1/40)

171 号小穴 (SP1171) (第 360・361 図)

検出地点 I26 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.38m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は丸底形である。

土層 にぶい黄褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

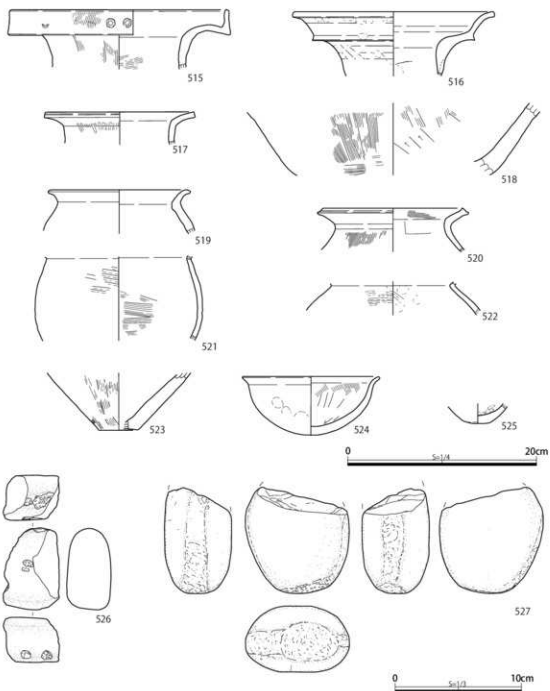
出土遺物 538 は弥生土器の甕の口縁部である。

時期 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

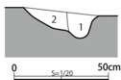
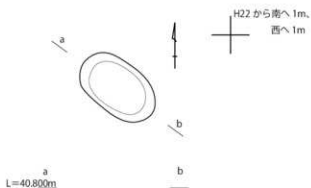
179 号小穴 (SP1179) (第 362・363 図)

検出地点 I27 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.25m、深さは 0.39m を測る。断面の形状は丸底形である。



第 341 图 1-2 区 SK1027 出土遗物

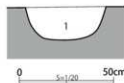
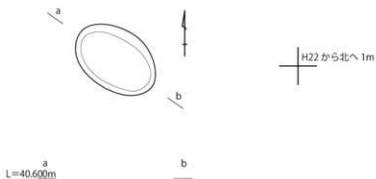


- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 (L19中層(地層9中層))、M2(2-5)cm以内、M6(3)cm以内
 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 (L19中層(地層9中層))、L19(1)層(地層9上層)2-5cm以内、M6(3)cm以内

第 342 図 1-2 区 SP1007 断面図 (1/20)

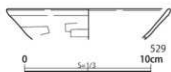


第 343 図 1-2 区 SP1007 出土遺物

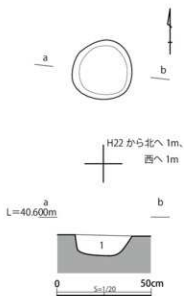


- 1 灰白色 10YR 4/3 砂質土 (L19中層(地層9中層))、M2(2)cm以内、M6(3-5)cm以内

第 344 図 1-2 区 SP1011 断面図 (1/20)

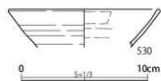


第 345 図 1-2 区 SP1011 出土遺物

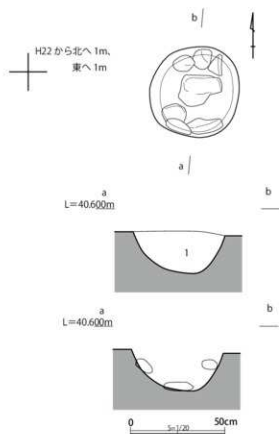


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 L:5.1%、粘質性、R:0.1%、M:2%、C:0.1%、S:94.5%、pH:7.0

第 346 図 1-2 区 SP1012 平面図 (1/20)

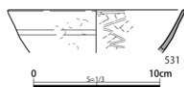


第 347 図 1-2 区 SP1012 出土遺物

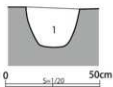
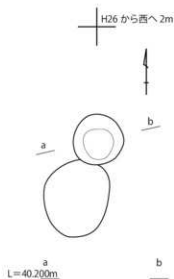


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 L:5.1%、粘質性、R:0.1~0.2%、M:2%、C:0.2~0.3%、S:94.4%、pH:7.0

第 348 図 1-2 区 SP1016 平面図 (1/20)



第 349 図 1-2 区 SP1016 出土遺物



1 灰オリーブ色 SY 5/2 砂質土 (L1199係) 埋没程度: 15% 遺跡状況: 良好

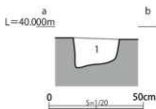
第 350 図 1-2 区 SP1031 平断面図 (1/20)



第 351 図 1-2 区 SP1031 出土遺物

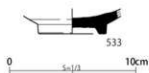


H22 から南へ 2m、
東へ 1m



1 灰黄褐色 30YR 4/2 硬土 (L1199係) 埋没程度: 15% 遺跡状況: 良好

第 352 図 1-2 区 SP1067 平断面図 (1/20)



第 353 図 1-2 区 SP1067 出土遺物

土層 何れも灰黄褐色砂質土層で2層に分層され、下層にはシルトが多く混じる。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 539は管状の土鏝である。

時期 年代は特定できない。

210号小穴 (SP1210) (第364・365図)

検出地点 1・J28グリッド

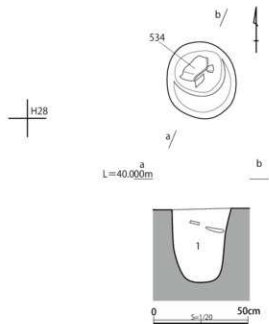
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.25m、深さは0.08mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 灰黄褐色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 底部中央より扁平な砂岩礫が出土している。

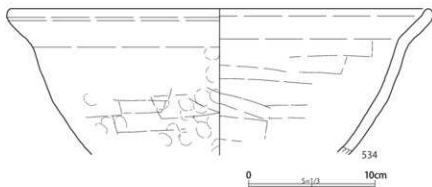
出土遺物 540は瓦質土器の煮沸具の脚部である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

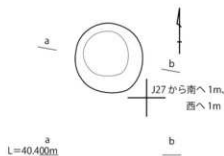


1 瓦質褐色 10YR 4/2 細土・中土(重) 50% 中土・細土(重) 35% 中土・細土(軽) 10% 中土・細土(軽) 2% 中土・細土(重) 2% 中土・細土(重) 2%

第354図 1-2区 SP1078 平断面図 (1/20)

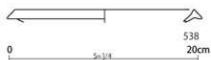


第355図 1-2区 SP1078 出土遺物

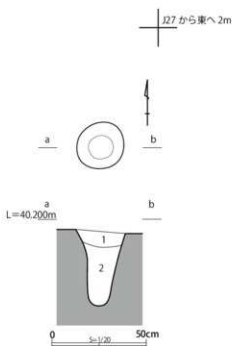


1 灰黄褐色 10YR 4/3 硬土・シルト質分厚 L&E付集・磁付集、55.52付1-7層土a(2-4)cmE%、B(1)cmE%部

第360図 1-2区 SP1171 平断面図 (1/20)

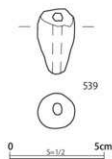


第361図 1-2区 SP1171 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 粘黄土 L&E付集・磁付集、55.52付1-7層土a(1cmE%、B(1)cmE%部、
2 灰黄褐色 10YR 4/2 硬土・シルト質分厚 L&E付集・磁付集、55.52付1-7層土a(1cmE%、B(1)cmE%部、

第362図 1-2区 SP1179 平断面図 (1/20)



第363図 1-2区 SP1179 出土遺物

212号小穴 (SP1212) (第366・367図)

検出地点 I28 グリッド

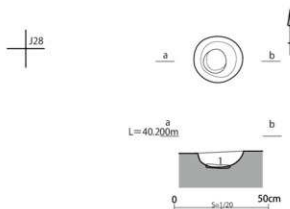
規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.40m、短軸は0.37m、深さは0.31mを測る。断面に形状は丸底形である。

土層 灰黄褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

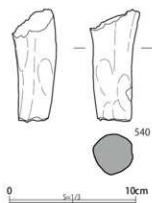
出土遺物 541は和泉型の瓦器碗である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

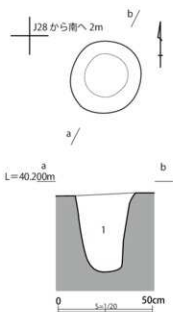


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 L1119(断面計測), 16.5cm×17.7cm(計測径), 断面径10YR計。

第364図 1-2区 SP1210 平面図(1/20)



第365図 1-2区 SP1210 出土遺物

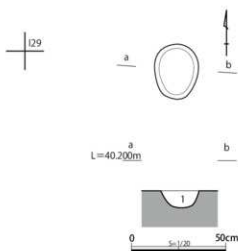


1 灰黄褐色 10YR 4/2 粘土質(混)砂質土 L1119(断面計測), 16.5cm×17.7cm(計測径), 断面径10YR計。

第366図 1-2区 SP1212 平面図(1/20)

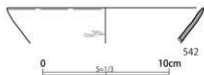


第367図 1-2区 SP1212 出土遺物

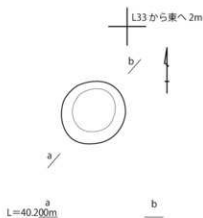


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂质土 L1199係(磁种器), 115cmF1~7層(α12a8%、β11a6%、γ11-12)8%部。

第 368 图 1-2 区 SP1248 平面図 (1/20)

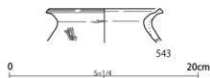


第 369 图 1-2 区 SP1248 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂土 L1199係(磁种器), 115cmF1~7層(α12a8%、β11a6%、γ11-12)8%部。

第 370 图 1-2 区 SP1323 平面図 (1/20)



第 371 图 1-2 区 SP1323 出土遺物

248号小穴 (SP1248) (第368・369図)

検出地点 H・I29 グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は0.30m、短軸は0.23m、深さは0.09mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 灰黄褐色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 542は和泉型の瓦器碗である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

323号小穴 (SP1323) (第370・371図)

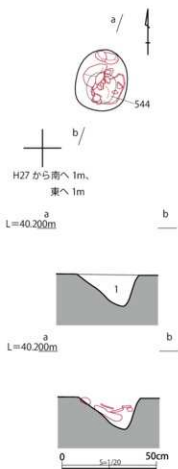
検出地点 K33 グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.35m、短軸は0.33m、深さは0.14mを測る。断面の形状は舟底形である。

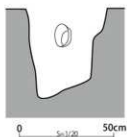
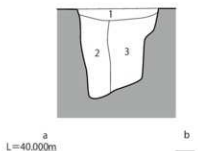
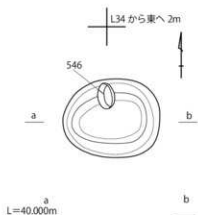
土層 灰黄褐色シルト混じり砂質土が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 543は弥生土器の甕である。

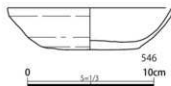


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 L1(9)・L2(11)・L3(12)・L4(13)・L5(14)・L6(15)・L7(16)・L8(17)・L9(18)・L10(19)・L11(20)・L12(21)・L13(22)・L14(23)・L15(24)・L16(25)・L17(26)・L18(27)・L19(28)・L20(29)・L21(30)・L22(31)・L23(32)・L24(33)・L25(34)・L26(35)・L27(36)・L28(37)・L29(38)・L30(39)・L31(40)・L32(41)・L33(42)・L34(43)・L35(44)・L36(45)・L37(46)・L38(47)・L39(48)・L40(49)・L41(50)・L42(51)・L43(52)・L44(53)・L45(54)・L46(55)・L47(56)・L48(57)・L49(58)・L50(59)・L51(60)・L52(61)・L53(62)・L54(63)・L55(64)・L56(65)・L57(66)・L58(67)・L59(68)・L60(69)・L61(70)・L62(71)・L63(72)・L64(73)・L65(74)・L66(75)・L67(76)・L68(77)・L69(78)・L70(79)・L71(80)・L72(81)・L73(82)・L74(83)・L75(84)・L76(85)・L77(86)・L78(87)・L79(88)・L80(89)・L81(90)・L82(91)・L83(92)・L84(93)・L85(94)・L86(95)・L87(96)・L88(97)・L89(98)・L90(99)・L91(100)・L92(101)・L93(102)・L94(103)・L95(104)・L96(105)・L97(106)・L98(107)・L99(108)・L100(109)・L101(110)・L102(111)・L103(112)・L104(113)・L105(114)・L106(115)・L107(116)・L108(117)・L109(118)・L110(119)・L111(120)・L112(121)・L113(122)・L114(123)・L115(124)・L116(125)・L117(126)・L118(127)・L119(128)・L120(129)・L121(130)・L122(131)・L123(132)・L124(133)・L125(134)・L126(135)・L127(136)・L128(137)・L129(138)・L130(139)・L131(140)・L132(141)・L133(142)・L134(143)・L135(144)・L136(145)・L137(146)・L138(147)・L139(148)・L140(149)・L141(150)・L142(151)・L143(152)・L144(153)・L145(154)・L146(155)・L147(156)・L148(157)・L149(158)・L150(159)・L151(160)・L152(161)・L153(162)・L154(163)・L155(164)・L156(165)・L157(166)・L158(167)・L159(168)・L160(169)・L161(170)・L162(171)・L163(172)・L164(173)・L165(174)・L166(175)・L167(176)・L168(177)・L169(178)・L170(179)・L171(180)・L172(181)・L173(182)・L174(183)・L175(184)・L176(185)・L177(186)・L178(187)・L179(188)・L180(189)・L181(190)・L182(191)・L183(192)・L184(193)・L185(194)・L186(195)・L187(196)・L188(197)・L189(198)・L190(199)・L191(200)・L192(201)・L193(202)・L194(203)・L195(204)・L196(205)・L197(206)・L198(207)・L199(208)・L200(209)・L201(210)・L202(211)・L203(212)・L204(213)・L205(214)・L206(215)・L207(216)・L208(217)・L209(218)・L210(219)・L211(220)・L212(221)・L213(222)・L214(223)・L215(224)・L216(225)・L217(226)・L218(227)・L219(228)・L220(229)・L221(230)・L222(231)・L223(232)・L224(233)・L225(234)・L226(235)・L227(236)・L228(237)・L229(238)・L230(239)・L231(240)・L232(241)・L233(242)・L234(243)・L235(244)・L236(245)・L237(246)・L238(247)・L239(248)・L240(249)・L241(250)・L242(251)・L243(252)・L244(253)・L245(254)・L246(255)・L247(256)・L248(257)・L249(258)・L250(259)・L251(260)・L252(261)・L253(262)・L254(263)・L255(264)・L256(265)・L257(266)・L258(267)・L259(268)・L260(269)・L261(270)・L262(271)・L263(272)・L264(273)・L265(274)・L266(275)・L267(276)・L268(277)・L269(278)・L270(279)・L271(280)・L272(281)・L273(282)・L274(283)・L275(284)・L276(285)・L277(286)・L278(287)・L279(288)・L280(289)・L281(290)・L282(291)・L283(292)・L284(293)・L285(294)・L286(295)・L287(296)・L288(297)・L289(298)・L290(299)・L291(300)・L292(301)・L293(302)・L294(303)・L295(304)・L296(305)・L297(306)・L298(307)・L299(308)・L300(309)・L301(310)・L302(311)・L303(312)・L304(313)・L305(314)・L306(315)・L307(316)・L308(317)・L309(318)・L310(319)・L311(320)・L312(321)・L313(322)・L314(323)・L315(324)・L316(325)・L317(326)・L318(327)・L319(328)・L320(329)・L321(330)・L322(331)・L323(332)・L324(333)・L325(334)・L326(335)・L327(336)・L328(337)・L329(338)・L330(339)・L331(340)・L332(341)・L333(342)・L334(343)・L335(344)・L336(345)・L337(346)・L338(347)・L339(348)・L340(349)・L341(350)・L342(351)・L343(352)・L344(353)・L345(354)・L346(355)・L347(356)・L348(357)・L349(358)・L350(359)・L351(360)・L352(361)・L353(362)・L354(363)・L355(364)・L356(365)・L357(366)・L358(367)・L359(368)・L360(369)・L361(370)・L362(371)・L363(372)・L364(373)・L365(374)・L366(375)・L367(376)・L368(377)・L369(378)・L370(379)・L371(380)・L372(381)・L373(382)・L374(383)・L375(384)・L376(385)・L377(386)・L378(387)・L379(388)・L380(389)・L381(390)・L382(391)・L383(392)・L384(393)・L385(394)・L386(395)・L387(396)・L388(397)・L389(398)・L390(399)・L391(400)・L392(401)・L393(402)・L394(403)・L395(404)・L396(405)・L397(406)・L398(407)・L399(408)・L400(409)・L401(410)・L402(411)・L403(412)・L404(413)・L405(414)・L406(415)・L407(416)・L408(417)・L409(418)・L410(419)・L411(420)・L412(421)・L413(422)・L414(423)・L415(424)・L416(425)・L417(426)・L418(427)・L419(428)・L420(429)・L421(430)・L422(431)・L423(432)・L424(433)・L425(434)・L426(435)・L427(436)・L428(437)・L429(438)・L430(439)・L431(440)・L432(441)・L433(442)・L434(443)・L435(444)・L436(445)・L437(446)・L438(447)・L439(448)・L440(449)・L441(450)・L442(451)・L443(452)・L444(453)・L445(454)・L446(455)・L447(456)・L448(457)・L449(458)・L450(459)・L451(460)・L452(461)・L453(462)・L454(463)・L455(464)・L456(465)・L457(466)・L458(467)・L459(468)・L460(469)・L461(470)・L462(471)・L463(472)・L464(473)・L465(474)・L466(475)・L467(476)・L468(477)・L469(478)・L470(479)・L471(480)・L472(481)・L473(482)・L474(483)・L475(484)・L476(485)・L477(486)・L478(487)・L479(488)・L480(489)・L481(490)・L482(491)・L483(492)・L484(493)・L485(494)・L486(495)・L487(496)・L488(497)・L489(498)・L490(499)・L491(500)・L492(501)・L493(502)・L494(503)・L495(504)・L496(505)・L497(506)・L498(507)・L499(508)・L500(509)・L501(510)・L502(511)・L503(512)・L504(513)・L505(514)・L506(515)・L507(516)・L508(517)・L509(518)・L510(519)・L511(520)・L512(521)・L513(522)・L514(523)・L515(524)・L516(525)・L517(526)・L518(527)・L519(528)・L520(529)・L521(530)・L522(531)・L523(532)・L524(533)・L525(534)・L526(535)・L527(536)・L528(537)・L529(538)・L530(539)・L531(540)・L532(541)・L533(542)・L534(543)・L535(544)・L536(545)・L537(546)・L538(547)・L539(548)・L540(549)・L541(550)・L542(551)・L543(552)・L544(553)・L545(554)・L546(555)・L547(556)・L548(557)・L549(558)・L550(559)・L551(560)・L552(561)・L553(562)・L554(563)・L555(564)・L556(565)・L557(566)・L558(567)・L559(568)・L560(569)・L561(570)・L562(571)・L563(572)・L564(573)・L565(574)・L566(575)・L567(576)・L568(577)・L569(578)・L570(579)・L571(580)・L572(581)・L573(582)・L574(583)・L575(584)・L576(585)・L577(586)・L578(587)・L579(588)・L580(589)・L581(590)・L582(591)・L583(592)・L584(593)・L585(594)・L586(595)・L587(596)・L588(597)・L589(598)・L590(599)・L591(600)・L592(601)・L593(602)・L594(603)・L595(604)・L596(605)・L597(606)・L598(607)・L599(608)・L600(609)・L601(610)・L602(611)・L603(612)・L604(613)・L605(614)・L606(615)・L607(616)・L608(617)・L609(618)・L610(619)・L611(620)・L612(621)・L613(622)・L614(623)・L615(624)・L616(625)・L617(626)・L618(627)・L619(628)・L620(629)・L621(630)・L622(631)・L623(632)・L624(633)・L625(634)・L626(635)・L627(636)・L628(637)・L629(638)・L630(639)・L631(640)・L632(641)・L633(642)・L634(643)・L635(644)・L636(645)・L637(646)・L638(647)・L639(648)・L640(649)・L641(650)・L642(651)・L643(652)・L644(653)・L645(654)・L646(655)・L647(656)・L648(657)・L649(658)・L650(659)・L651(660)・L652(661)・L653(662)・L654(663)・L655(664)・L656(665)・L657(666)・L658(667)・L659(668)・L660(669)・L661(670)・L662(671)・L663(672)・L664(673)・L665(674)・L666(675)・L667(676)・L668(677)・L669(678)・L670(679)・L671(680)・L672(681)・L673(682)・L674(683)・L675(684)・L676(685)・L677(686)・L678(687)・L679(688)・L680(689)・L681(690)・L682(691)・L683(692)・L684(693)・L685(694)・L686(695)・L687(696)・L688(697)・L689(698)・L690(699)・L691(700)・L692(701)・L693(702)・L694(703)・L695(704)・L696(705)・L697(706)・L698(707)・L699(708)・L700(709)・L701(710)・L702(711)・L703(712)・L704(713)・L705(714)・L706(715)・L707(716)・L708(717)・L709(718)・L710(719)・L711(720)・L712(721)・L713(722)・L714(723)・L715(724)・L716(725)・L717(726)・L718(727)・L719(728)・L720(729)・L721(730)・L722(731)・L723(732)・L724(733)・L725(734)・L726(735)・L727(736)・L728(737)・L729(738)・L730(739)・L731(740)・L732(741)・L733(742)・L734(743)・L735(744)・L736(745)・L737(746)・L738(747)・L739(748)・L740(749)・L741(750)・L742(751)・L743(752)・L744(753)・L745(754)・L746(755)・L747(756)・L748(757)・L749(758)・L750(759)・L751(760)・L752(761)・L753(762)・L754(763)・L755(764)・L756(765)・L757(766)・L758(767)・L759(768)・L760(769)・L761(770)・L762(771)・L763(772)・L764(773)・L765(774)・L766(775)・L767(776)・L768(777)・L769(778)・L770(779)・L771(780)・L772(781)・L773(782)・L774(783)・L775(784)・L776(785)・L777(786)・L778(787)・L779(788)・L780(789)・L781(790)・L782(791)・L783(792)・L784(793)・L785(794)・L786(795)・L787(796)・L788(797)・L789(798)・L790(799)・L791(800)・L792(801)・L793(802)・L794(803)・L795(804)・L796(805)・L797(806)・L798(807)・L799(808)・L800(809)・L801(810)・L802(811)・L803(812)・L804(813)・L805(814)・L806(815)・L807(816)・L808(817)・L809(818)・L810(819)・L811(820)・L812(821)・L813(822)・L814(823)・L815(824)・L816(825)・L817(826)・L818(827)・L819(828)・L820(829)・L821(830)・L822(831)・L823(832)・L824(833)・L825(834)・L826(835)・L827(836)・L828(837)・L829(838)・L830(839)・L831(840)・L832(841)・L833(842)・L834(843)・L835(844)・L836(845)・L837(846)・L838(847)・L839(848)・L840(849)・L841(850)・L842(851)・L843(852)・L844(853)・L845(854)・L846(855)・L847(856)・L848(857)・L849(858)・L850(859)・L851(860)・L852(861)・L853(862)・L854(863)・L855(864)・L856(865)・L857(866)・L858(867)・L859(868)・L860(869)・L861(870)・L862(871)・L863(872)・L864(873)・L865(874)・L866(875)・L867(876)・L868(877)・L869(878)・L870(879)・L871(880)・L872(881)・L873(882)・L874(883)・L875(884)・L876(885)・L877(886)・L878(887)・L879(888)・L880(889)・L881(890)・L882(891)・L883(892)・L884(893)・L885(894)・L886(895)・L887(896)・L888(897)・L889(898)・L890(899)・L891(900)・L892(901)・L893(902)・L894(903)・L895(904)・L896(905)・L897(906)・L898(907)・L899(908)・L900(909)・L901(910)・L902(911)・L903(912)・L904(913)・L905(914)・L906(915)・L907(916)・L908(917)・L909(918)・L910(919)・L911(920)・L912(921)・L913(922)・L914(923)・L915(924)・L916(925)・L917(926)・L918(927)・L919(928)・L920(929)・L921(930)・L922(931)・L923(932)・L924(933)・L925(934)・L926(935)・L927(936)・L928(937)・L929(938)・L930(939)・L931(940)・L932(941)・L933(942)・L934(943)・L935(944)・L936(945)・L937(946)・L938(947)・L939(948)・L940(949)・L941(950)・L942(951)・L943(952)・L944(953)・L945(954)・L946(955)・L947(956)・L948(957)・L949(958)・L950(959)・L951(960)・L952(961)・L953(962)・L954(963)・L955(964)・L956(965)・L957(966)・L958(967)・L959(968)・L960(969)・L961(970)・L962(971)・L963(972)・L964(973)・L965(974)・L966(975)・L967(976)・L968(977)・L969(978)・L970(979)・L971(980)・L972(981)・L973(982)・L974(983)・L975(984)・L976(985)・L977(986)・L978(987)・L979(988)・L980(989)・L981(990)・L982(991)・L983(992)・L984(993)・L985(994)・L986(995)・L987(996)・L988(997)・L989(998)・L990(999)・L991(1000)・L992(1001)・L993(1002)・L994(1003)・L995(1004)・L996(1005)・L997(1006)・L998(1007)・L999(1008)・L1000(1009)・L1001(1010)・L1002(1011)・L1003(1012)・L1004(1013)・L1005(1014)・L1006(1015)・L1007(1016)・L1008(1017)・L1009(1018)・L1010(1019)・L1011(1020)・L1012(1021)・L1013(1022)・L1014(1023)・L1015(1024)・L1016(1025)・L1017(1026)・L1018(1027)・L1019(1028)・L1020(1029)・L1021(1030)・L1022(1031)・L1023(1032)・L1024(1033)・L1025(1034)・L1026(1035)・L1027(1036)・L1028(1037)・L1029(1038)・L1030(1039)・L1031(1040)・L1032(1041)・L1033(1042)・L1034(1043)・L1035(1044)・L1036(1045)・L1037(1046)・L1038(1047)・L1039(1048)・L1040(1049)・L1041(1050)・L1042(1051)・L1043(1052)・L1044(1053)・L1045(1054)・L1046(1055)・L1047(1056)・L1048(1057)・L1049(1058)・L1050(1059)・L1051(1060)・L1052(1061)・L1053(1062)・L1054(1063)・L1055(1064)・L1056(1065)・L1057(1066)・L1058(1067)・L1059(1068)・L1060(1069)・L1061(1070)・L1062(1071)・L1063(1072)・L1064(1073)・L1065(1074)・L1066(1075)・L1067(1076)・L1068(1077)・L1069(1078)・L1070(1079)・L1071(1080)・L1072(1081)・L1073(1082)・L1074(1083)・L1075(1084)・L1076(1085)・L1077(1086)・L1078(1087)・L1079(1088)・L1080(1089)・L1081(1090)・L1082(1091)・L1083(1092)・L1084(1093)・L1085(1094)・L1086(1095)・L1087(1096)・L1088(1097)・L1089(1098)・L1090(1099)・L1091(1100)・L1092(1101)・L1093(1102)・L1094(1103)・L1095(1104)・L1096(1105)・L1097(1106)・L1098(1107)・L1099(1108)・L1100(1109)・L1101(1110)・L1102(1111)・L1103(1112)・L1104(1113)・L1105(1114)・L1106(1115)・L1107(1116)・L1108(1117)・L1109(1118)・L1110(1119)・L1111(1120)・L1112(1121)・L1113(1122)・L1114(1123)・L1115(1124)・L1116(1125)・L1117(1126)・L1118(1127)・L1119(1128)・L1120(1129)・L1121(1130)・L1122(1131)・L1123(1132)・L1124(1133)・L1125(1134)・L1126(1135)・L1127(1136)・L1128(1137)・L1129(1138)・L1130(1139)・L1131(1140)・L1132(1141)・L1133(1142)・L1134(1143)・L1135(1144)・L1136(1145)・L1



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 L1層:磁器片、115枚(磁器片$1 \times 2 \text{cm}$ 1枚、片$2 \times 2 \text{cm}$ 1枚、片$2 \times 1 \text{cm}$ 1枚、片$1 \times 1 \text{cm}$ 1枚)
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L1層:磁器片、115枚(磁器片$1 \times 1 \text{cm}$ 105枚、片$1 \times 1 \text{cm}$ 1枚、片$1 \times 1 \text{cm}$ 1枚)
 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土 L1層:磁器片、115枚(磁器片$1 \times 1 \text{cm}$ 105枚)

第 374 図 1-2 区 SP1371 平断面図 (1/20)



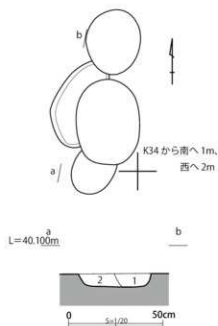
第 375 図 1-2 区 SP1371 出土遺物

時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭以降の年代が想定される。

345 号小穴 (SP1345) (第 372・373 図)

検出地点 G27 グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は 0.32m、短軸は 0.26m、深さは 0.15m を測る。断面の形状は楕円形である。



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 (L19.5% 粘分 2.1%, 粘粒 2.1%, 粘質土 2.1%, 粘土 0.0%, 粘石 0.0%, 粘礫 0.0%)
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 (L19.5% 粘分 1.6%, 粘粒 1.6%, 粘質土 1.6%, 粘土 0.0%, 粘石 0.0%, 粘礫 0.0%)

第 376 図 1-2 区 SP1391 平面図 (1/20)



第 377 図 1-2 区 SP1391 出土遺物

土層 黄褐色砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 底部に扁平な砂岩礫が置かれており、その上方から土器が出土している。

出土遺物 544 は十瓶窯の須恵器の壺である。545 は瓦器の椀である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。

371 号小穴 (SP1371) (第 374・375 図)

検出地点 K33 グリッド

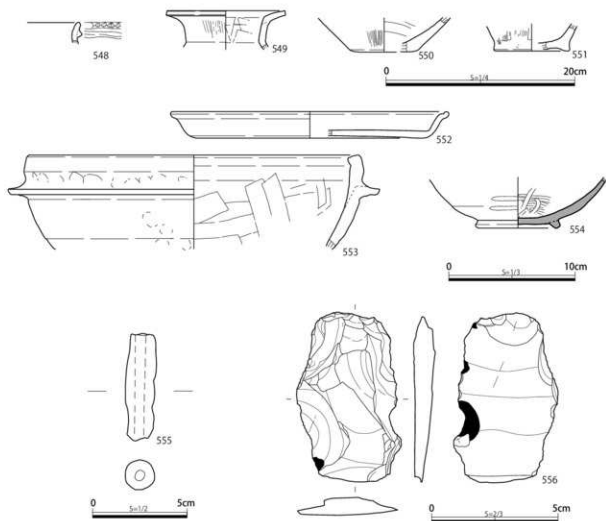
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.42m、深さは 0.48m を測る。断面の形状は 2 段形である。

土層 どれもオリーブ褐色砂質土層で 3 層に分層される。

遺物出土状況 1 層下から土器が出土している。

出土遺物 546 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代末（12 世紀）以降の年代が想定される。



第 378 図 1-2 区包含層出土遺物①

391 号小穴 (SP1391) (第 376・377 図)

検出地点 J33 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈するとみられ、東側を SP1312、SP1313 に切られている。残存値で長軸は 0.45m、短軸は 0.15m、深さは 0.06 m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色砂質土層が 2 層に分層される。

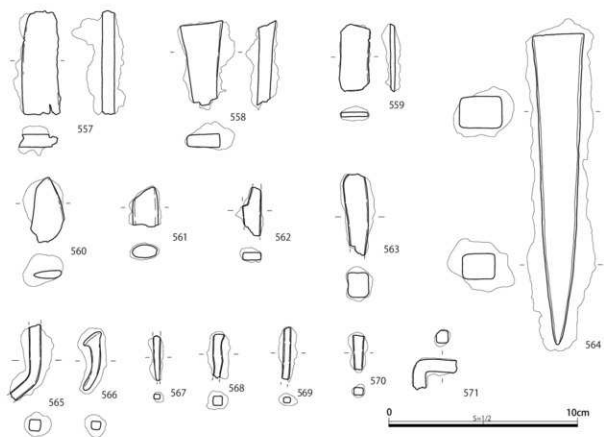
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 547 は弥生土器の甕である。

時期 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

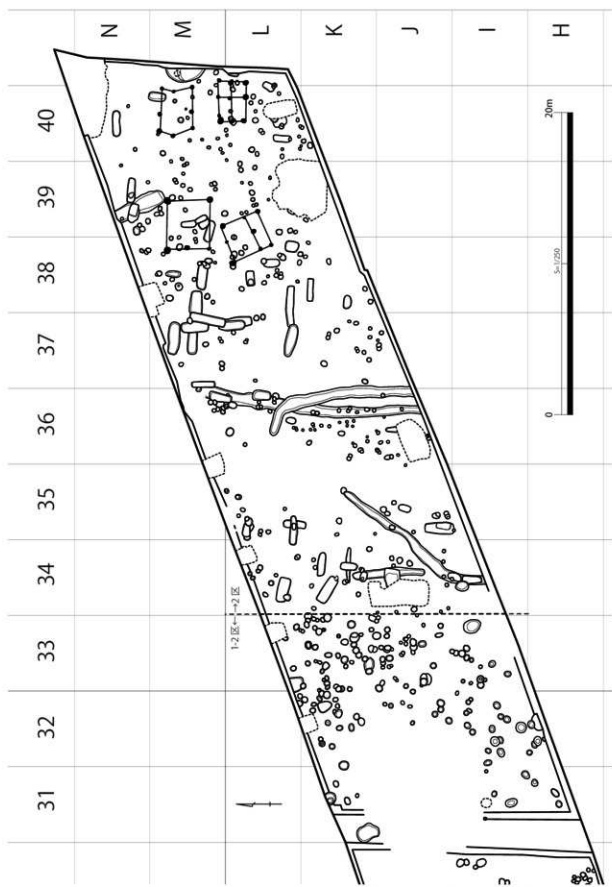
包含層出土遺物 (第 378・379 図)

548 は縄文土器で、端部には刻み目、口縁部下に 1 条の凸帯をめぐらしている晩期の凸帯文土器である。549～551 は弥生土器。549 は讃岐地方からの搬入品の広口壺である。552 は土師器の皿、口縁部内面に沈線をもつ 9 世紀頃のものである。553 は土師質土器の羽釜である。14 世紀頃のものとも

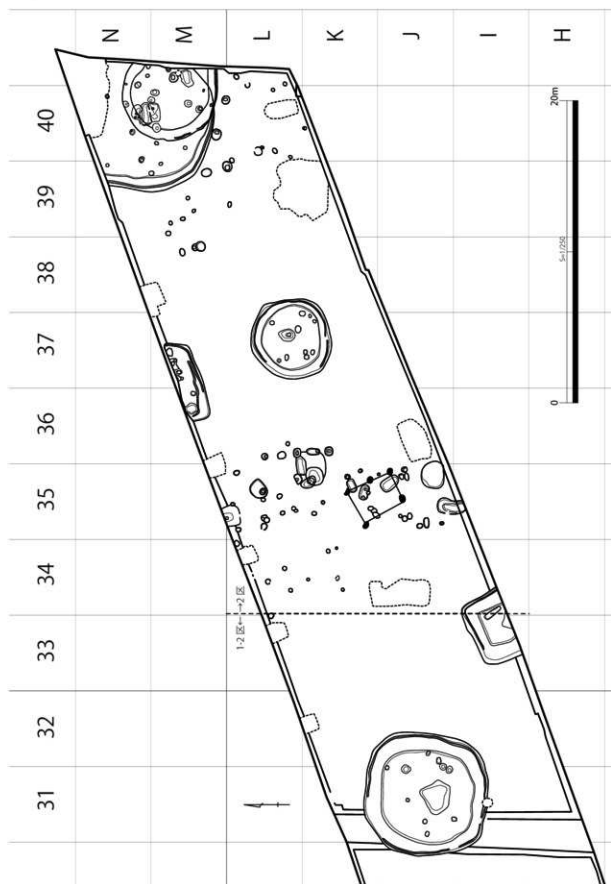


第 379 図 1-2 区包含層出土遺物②

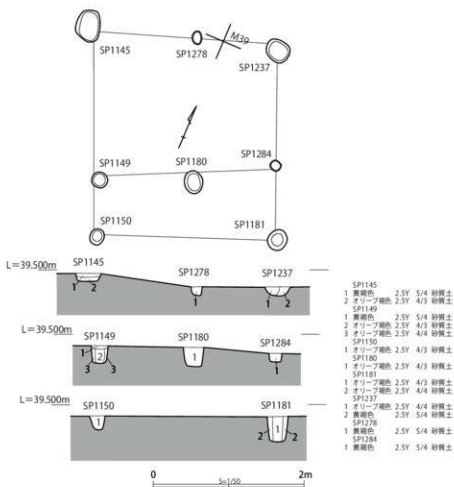
られる。554 は瓦器の椀、12 世紀前半頃とみられる。555 は管状の土錘である。556 はサヌカイト製の剥片である。557 ～ 571 は鉄製品。557 ～ 562 は刀子である。563 は断面が四角形の用途不明鉄製品である。564 は杭状の鉄製品である。565 ～ 570 は釘である。571 は鏝とみられる。



第380图 2区第1a遺構面平面図(1/250)



第 381 图 2 区第 1b 区遗构面平面图 (1/250)



第 382 図 2 区 SA1001 平面図 (1/50)

(7) 2 区 (第 380・381 図)

1-2 区の文中でも述べているが便宜上 33・34 のグリッドラインを調査区境として報告を行う。2 区から検出された遺構は、掘立柱建物 (SA) が 5 軒、竪穴住居 (SB) が 4 軒、溝 (SD) が 5 条、土坑 (SK) が 53 基、小穴 (SP) が 412 基、焼土跡が (SH) 1 基、性格不明遺構 (SX) が 4 基となっている。遺構は主に中世の遺構が 1a 面で検出されており、弥生時代の遺構が 1b 面で検出されている。

1 号掘立柱建物 (SA1001) (第 382 図)

検出地点 L・M38・39 グリッド

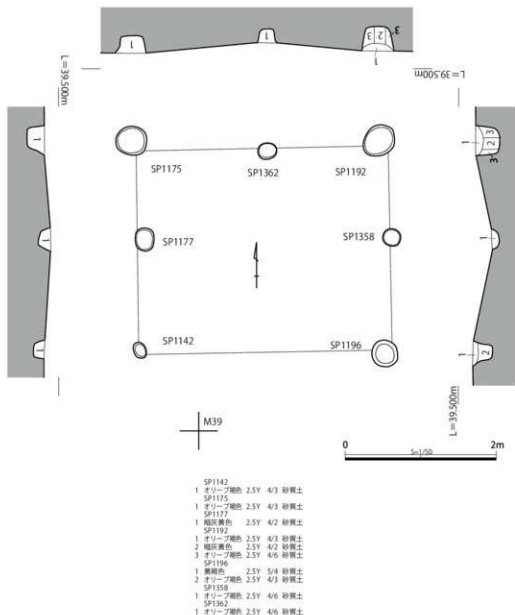
規模・形態 梁間 1 間 (2.40m) × 桁行 2 間 (2.65m)、床面積 6.36㎡の側柱建物で、南側に庇が付いている。建物の主軸方向は N-23°-W である。

土層 どれも砂質土で黄褐色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層が 1~3 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはないが、SP1237 から遺物が出土している。

出土遺物 個別遺構にて後述。

時期 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。



第 383 図 2 区 SA1002 平断面図 (1/50)

2号掘立柱建物 (SA1002) (第 383 図)

検出地点 M38・39 グリッド

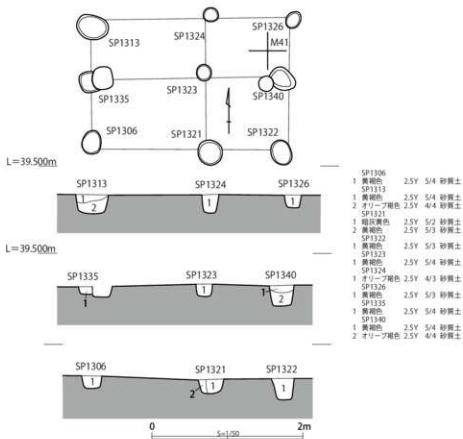
規模・形態 梁間 2 間 (2.70m) × 桁行 2 間 (3.35m)、床面積 9.05㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - W である。

土層 オリーブ褐色砂質土層を中心として 1 ~ 3 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。



第 384 図 2 区 SA1003 平面図 (1/50)

3号掘立柱建物 (SA1003) (第 384 図)

検出地点 L・M40・41

規模・形態 梁間 2 間 (1.73m) × 桁行 2 間 (2.70m)、床面積 4.67㎡の総柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - W である。

土層 黄褐色砂質土層を中心として 1 ~ 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。

4号掘立柱建物 (SA1004) (第 385 図)

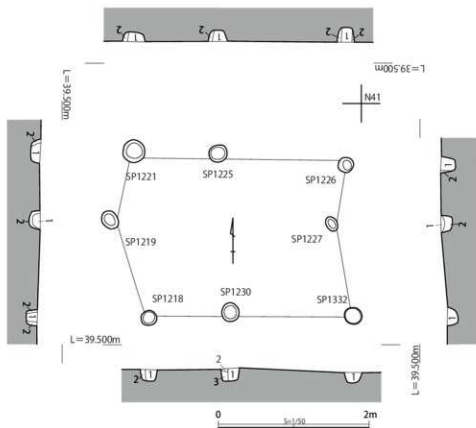
検出地点 M40 グリッド

規模・形態 梁間 2 間 (2.10m) × 桁行 2 間 (2.85m)、床面積 5.99㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - W である。

土層 黄褐色砂質土層とオリーブ褐色砂質土層が 1 ~ 3 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。



SP1218				
1	オリブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
2	オリブ褐色	2.5Y	4/6	砂質土
SP1219				
1	オリブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
2	オリブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
SP1221				
1	黄褐色	2.5Y	S/4	砂質土
2	オリブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
SP1225				
1	黄褐色	2.5Y	S/4	砂質土
2	黄褐色	2.5Y	S/3	砂質土
SP1226				
1	暗灰黄色	2.5Y	S/2	砂質土
2	黄褐色	2.5Y	S/3	砂質土
SP1227				
1	黄褐色	2.5Y	S/4	砂質土
2	黄褐色	2.5Y	S/3	砂質土
SP1230				
1	黄褐色	2.5Y	S/4	砂質土
2	オリブ褐色	2.5Y	4/4	砂質土
3	黄褐色	2.5Y	S/3	砂質土
SP1332				
1	黄褐色	2.5Y	S/4	砂質土

灰オリブ75Y5/2砂質土を5%含む。

第385図 2区SA1004平断面図(1/50)

時期 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。

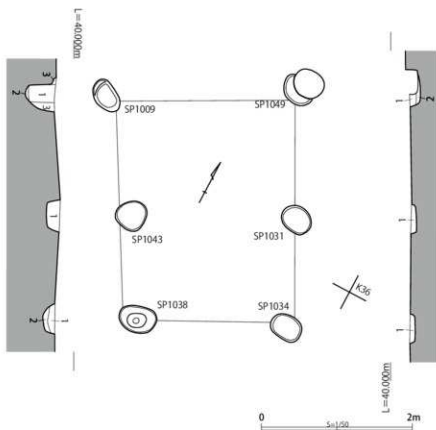
5号掘立柱建物(SA1005)(第386図)

検出地点 J・K35グリッド

規模・形態 梁間1間(2.35m)×桁行2間(2.95m)、床面積6.93㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-31°-Wである。

土層 灰黄色砂質土層を中心として1～3層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。



SP1009	1	暗灰黄色	2.5Y	5/2	砂質土	炭化物含む。
	2	灰黄色	2.5Y	6/2	砂質土	
	3	暗灰黄色	2.5Y	5/2	砂質土	
SP1031	1	灰黄色	2.5Y	6/2	砂質土	
SP1034	1	灰黄色	2.5Y	6/2	砂質土	
SP1038	1	灰黄色	2.5Y	6/2	砂質土	
SP1049	2	にぶい黄色	2.5Y	6/3	砂質土	
SP1043	1	オリブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土	
	1	灰黄色	2.5Y	6/2	砂質土	
	2	にぶい黄色	2.5Y	6/3	砂質土	

第 386 図 2 区 SA1005 平断面図 (1/50)

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。

1号竪穴住居 (SB1001) (第 387 ~ 390 図)

検出地点 M36・37 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に伸びている。残存値で長軸は 5.44m、短軸は 1.55m、深さは 0.51m を測る。断面の形状は舟底形である。調査区北壁やや東寄りに炉 (EH) が 1 基確認されており、その他に柱穴 (EP) が 1 基、土坑 (EK) が 2 基検出されている。また壁際には周溝 (ED) 2 条が巡らされている。

土層 どれも砂質土層が 20 層に分層される。灰黄褐色砂質土層を中心に堆積しており、床面直上においては黒褐色砂質土層が中心となっている。

遺物出土状況 炉（EK1）および土坑（EK2）周辺の床面直上から土器や砂岩礫などがまとめて出土している。

出土遺物 572～586は弥生土器。572は細頸壺である。573～580は甕である。581～583は鉢で椀形やボウル形のものがある。584～586は高杯である。587は被熱した粘土塊、588は管状の土鍾である。589は砂岩製の砥石である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

2号竪穴住居（SB1002）（第391～402図）

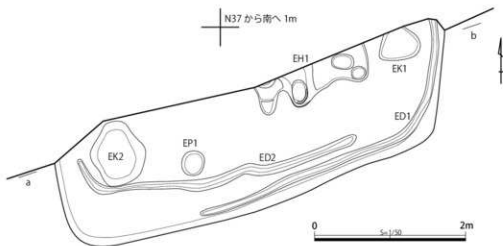
検出地点 K・L37・38グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は5.32m、短軸は5.24m、深さは0.38mを測る。断面の形状は舟底形である。柱穴（EP）は床面の外周部より内側から10基検出されている。また炉（EH）は中央やや北寄りから1基検出されている。壁際には周溝（ED）が巡らされている。

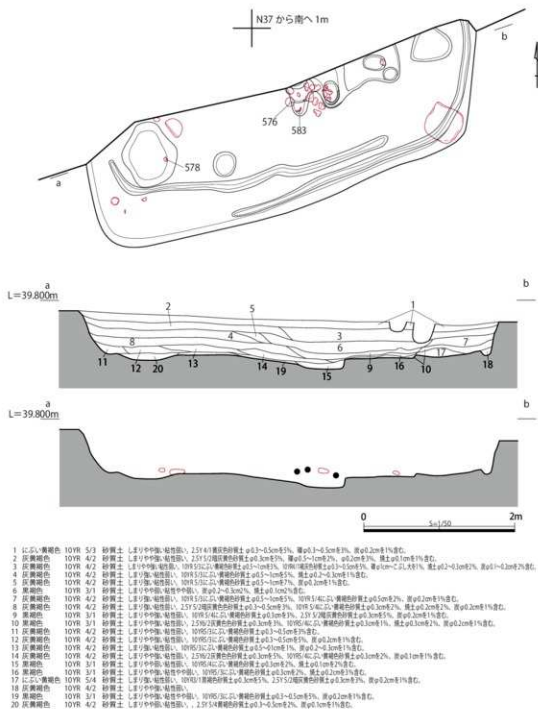
土層 何れも砂質土層で10層に分層される。壁際斜面にはオリブ褐色砂質土層が堆積し、その後土層には黄褐色砂質土、下層には暗褐色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 炉（EH）周辺及び南側の壁沿い周辺の床面を中心として土器が検出されている。また大型の砂岩の扁平な礫が壁沿いから出土している。

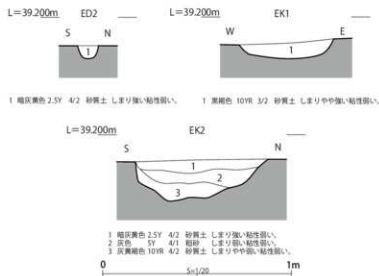
出土遺物 590～676は弥生土器。590～616は壺である。590、591、593、594は二重口緑壺、592、595～599は広口壺である。また601～606は細頸壺である。604～606は讃岐からの搬入品とみられる。617～659は甕である。617～623は口縁部が緩やかにカーブを描いて外反するもの、624～630は口縁部がくの字に屈曲するもの、631～639は口縁端部がやや拡張されるものである。629、632、634、635、637、644、645は讃岐からの搬入品とみられる。660～666は鉢である。660～662は口縁が外反するもの、663は緩やかに内湾しながら立ち上がるものである。666は把手付きの鉢で讃岐からの搬入品である。667から671は高杯の脚部である。672は手ね土器。673～676は製塩土器で676は東讃地域のものと考えられる。677は土玉。678、679は紡錘車である。



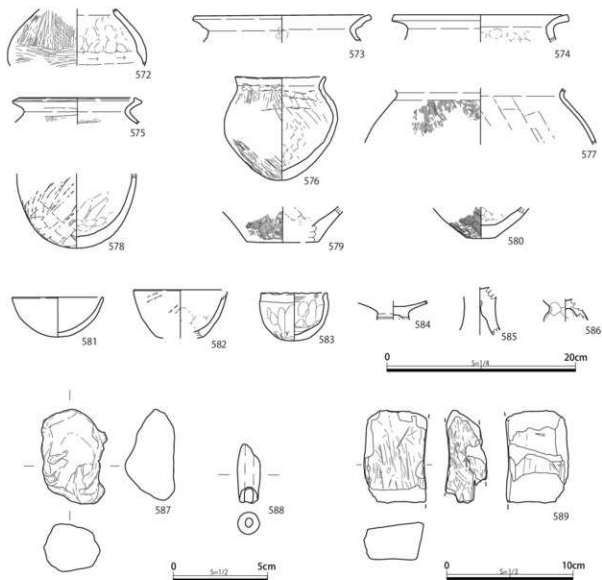
第387図 2区SB1001平面図（1/50）



第 388 図 2 区 SB1001 平断面図 (1/50)



第 389 図 2 区 SB1001ED・EK 断面図 (1/20)



第 390 図 2 区 SB1001 出土遺物

680は被熱した粘土塊、681は羽口の可能性が考えられる。682から686はサヌカイトの剥片である。687は結晶片岩製の石庖丁である。688、689は砂岩製の敲石である。690は砂岩製の石製円盤である。691～694は砂岩製の台石である。

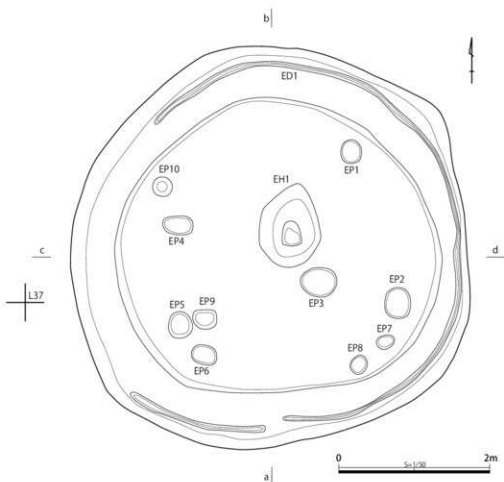
時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

3号竪穴住居 (SB1003) (第403～413図)

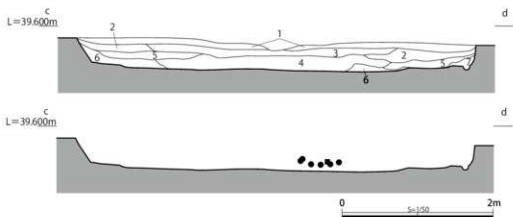
検出地点 M・N39・40・41 グリッド

規模・形態 平面形状は円形を呈するとみられるが、北側及び東側は調査区外に延びている。残存値で東西は8.45m、南北は7.11m、深さは0.60mを測る。断面の形状は外縁部にベッド状の高まりがある2段形である。柱穴 (EP) は16基検出されており、炉 (EH) は中央と北寄りに併せて2基が検出されている。壁際には周溝 (ED) が巡らされている。

土層 何れも砂質土層で15層に分層される。壁際斜面部は黄褐色砂質土層が堆積し、上部も途中に暗褐色砂質土層を挟みながらオリーブ褐色砂質土などが堆積している。床面付近の下層には暗褐色砂質土が存在している。また中央部に位置するEH1は鍛冶炉と考えられる。検出面上面には焼土が全面を覆うように拡がっており、木炭が上面及び周囲に分布している。EH1は19層に分層され、10層はカー

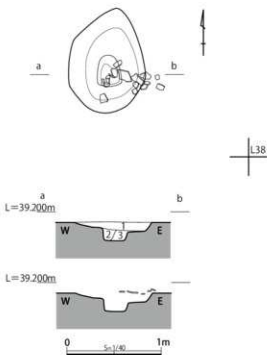


第391図 2区SB1002平面図 (1/50)



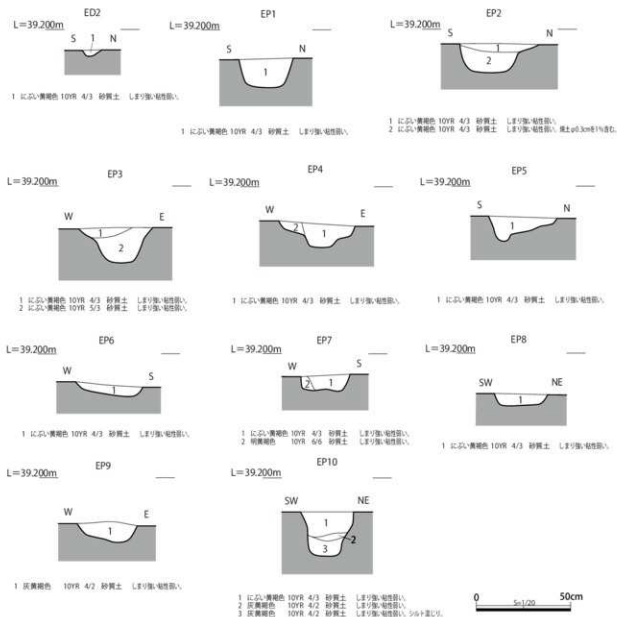
- | | | | | | |
|----|--------|------|-----|-----|---|
| 1 | 黄褐色 | 2.5Y | 5/4 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 堆積7.9% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 2 | にじみ黄褐色 | 2.5Y | 6/4 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 堆積7.9% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 3 | 暗褐色 | 10YR | 3/3 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 1.9% ρ_{10}^2 に ρ_{10}^2 層厚1~1.5cm ρ_{10}^2 層厚, 堆積1.0% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 4 | 暗褐色 | 10YR | 3/4 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 1.9% ρ_{10}^2 に ρ_{10}^2 層厚1~1.5cm ρ_{10}^2 層厚, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 堆積7.9% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 5 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 1.9% ρ_{10}^2 に ρ_{10}^2 層厚1~1.5cm ρ_{10}^2 層厚, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 6 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/3 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 1.9% ρ_{10}^2 に ρ_{10}^2 層厚1~1.5cm ρ_{10}^2 層厚, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 7 | 黄褐色 | 2.5Y | 5/3 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 1.9% ρ_{10}^2 に ρ_{10}^2 層厚1.0% ρ_{10}^2 層厚, 100% ρ_{10}^2 層厚1~1.5cm ρ_{10}^2 層厚, 堆積1.0% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 8 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 堆積7.9% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 9 | 黄褐色 | 2.5Y | 5/6 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 堆積7.9% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 10 | 黄褐色 | 2.5Y | 5/4 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 堆積7.9% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |

第 393 図 2 区 SB1002 平断面図② (1/50)



- | | | | | | |
|---|--------|------|-----|-----|---|
| 1 | にじみ黄褐色 | 10YR | 4/3 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 100% ρ_{10}^2 層厚1~1.5cm ρ_{10}^2 層厚, 堆積2.0% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 2 | 灰黄褐色 | 10YR | 4/2 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 1.9% ρ_{10}^2 に ρ_{10}^2 層厚1~1.5cm ρ_{10}^2 層厚, 堆積1.0% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |
| 3 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/3 | 砂質土 | L:1999g, 含水率中値, 195.0g/100g乾燥土増量 $\rho_{10}^2=1.06$ g/g, 堆積7.9% ρ_{10}^2 層厚1%, マネン $\rho_{10}^2=45.0$ g/g, 堆積2~4.5cm ρ_{10}^2 層厚。 |

第 394 図 2 区 SB1002EH1 平断面図 (1/40)

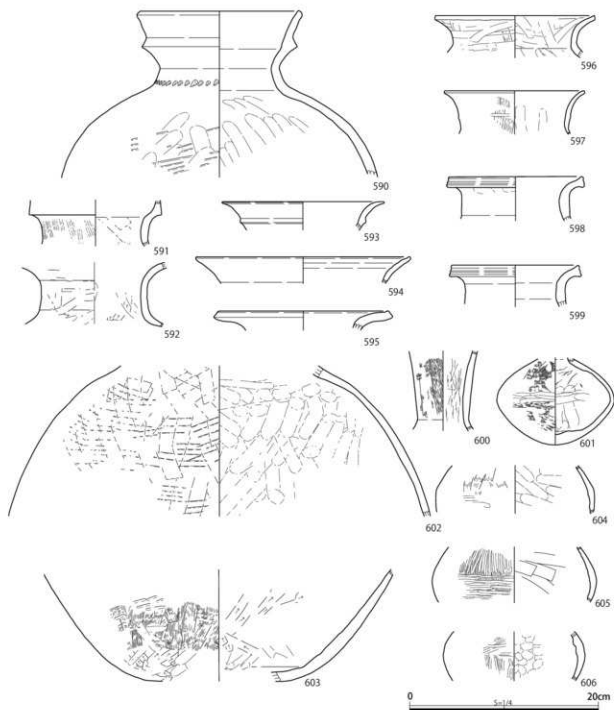


第395図 2区SB1002ED・EP断面図 (1/20)

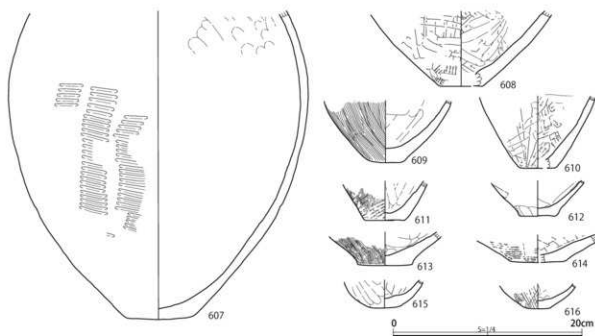
ボンベッドであると考えられる。

遺物出土状況 EH1の周辺及び西北部の周溝付近より土器が出土している。またEH1北側及び南壁際からは金床石とみられる砂岩製の大型礫が床面から出土している。

出土遺物 695～753は弥生土器。695～709は壺、710～736は甕、737～745は鉢、746～751は高杯である。752、753は小型丸底鉢である。754は縄文時代の凸帯文土器である。755は被熱した粘土塊で羽口と考えられる。756、757は蛇紋岩の剥片である。762～764は砂岩製の台石（金床石）である。758～761は敲石で、758、759は結晶片岩製、760、761は砂岩製である。765～781は鉄器である。765～777は鉄鍔と考えられる。778は刀子、779は鉈である。780、781は三角切片である。



第396图 2区SB1002出土遗物①



第 397 図 2 区 SB1002 出土遺物②

時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

4 号竪穴住居 (SB1004) (第 414～419 図)

検出地点 M・N40・41 グリッド

規模・形態 SB1003 の床面において確認された住居であり、東側は調査区外に伸びている。平面形状はほぼ円形で残存値では南北は 6.24m、東西は 4.80m を測る。柱穴 (EP) は 9 基検出されており、炉 (EH) は中央からやや南寄りに 1 基、周溝 (ED) は南壁際から検出されている。

土層 断面形状は外縁部分にベッド状の高まりが僅かに存在している。

遺物出土状況 床面中央付近を中心として土器が出土している。

出土遺物 782～838 は弥生土器。782、783、793 は二重口緑壺、784～791 は広口壺、792 は直口壺である。808～819 は甕である。820～829 は鉢である。830～833 は高杯の脚部である。834～837 は小型丸底鉢である。838 はミニチュア土器である。839 は縄文時代の松ノ木式である。841 は被熱した粘土塊。841 はサヌカイト製のスクレイパー、842、843 はサヌカイトの剥片である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

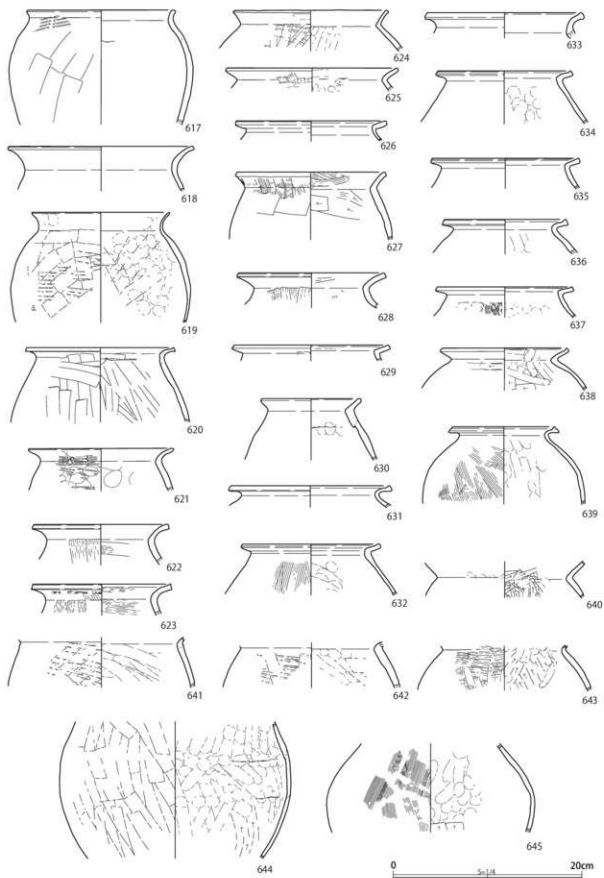
2 号溝 (SD1002) (第 420・421 図)

検出地点 I・J・K34 グリッド

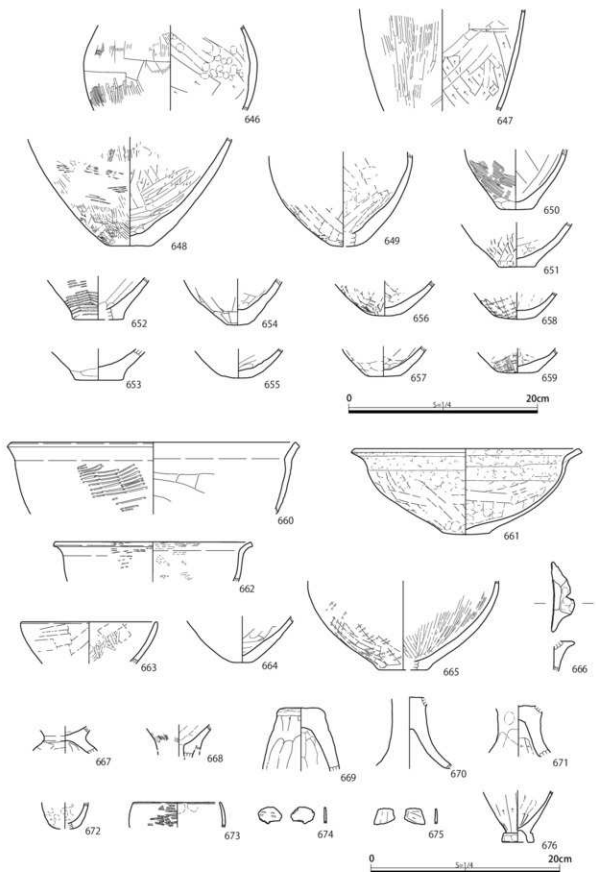
規模・形態 南北方向に延びる溝で、SK1004、SP1013 などに切られている。延長距離は 4.76m、幅は 0.56m、深さは 0.14m を測る。方位は N-0°・E である。断面の形状は浅い丸底形である。

土層 何れも砂質土層で 2 層に分層される。

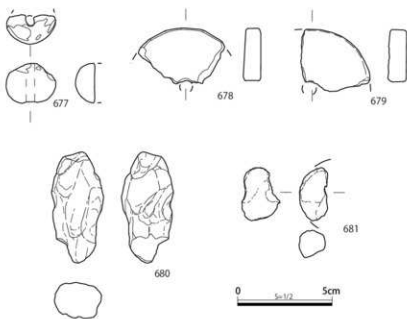
遺物出土状況 図化できるものはない。



第 398 图 2 区 SB1002 出土遗物③



第 399 图 2 区 SB1002 出土遗物④



第400図 2区SB1002出土遺物⑤

出土遺物 844は瓦器の椀である。845はサヌカイト製のスクレイパーである。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

3号溝（SD1003）（第422・423図）

検出地点 I・J34・J・K35グリッド

規模・形態 北東から南西方向に延びる溝で、途中から方向を南寄りに変えて調査区外に延びている。残存値で延長距離は11.50m、幅は0.80m、深さは0.10mを測る。断面の形状は浅い丸底形である。

土層 黄褐色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 J34グリッド内では拳大の大きさの砂岩礫と伴に土器が、J35グリッド内からは土器がそれぞれまとまって出土している。

出土遺物 846～849は弥生土器。それぞれ846は広口壺、847は甕の胴部、848は鉢、849は高杯の脚部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭以降の年代が想定される。

4号溝（SD1004）（第424図）

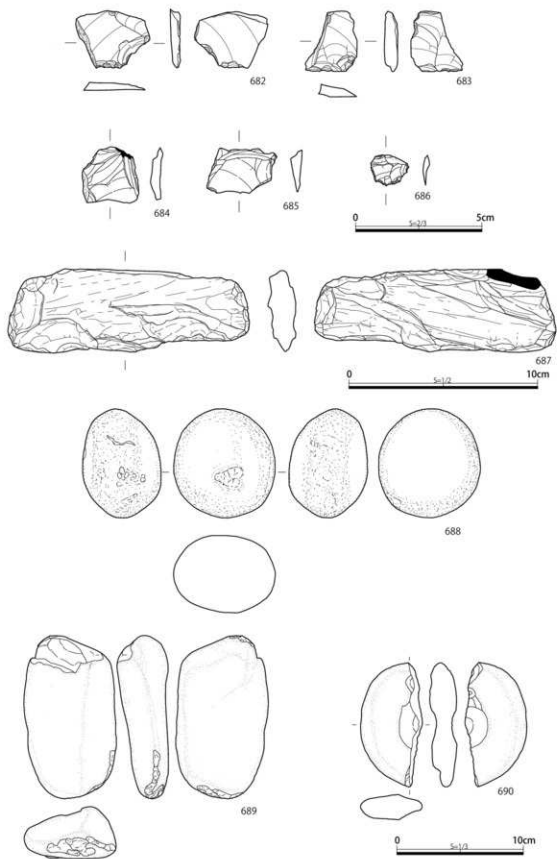
検出地点 J・K・L36グリッド

規模・形態 南北方向に延びる溝で、SB1001などに切られている。南側は調査区外に延びている。残存値で延長距離は14.40m、幅は0.84m、深さは0.08mを測る。断面の形状は皿形である。

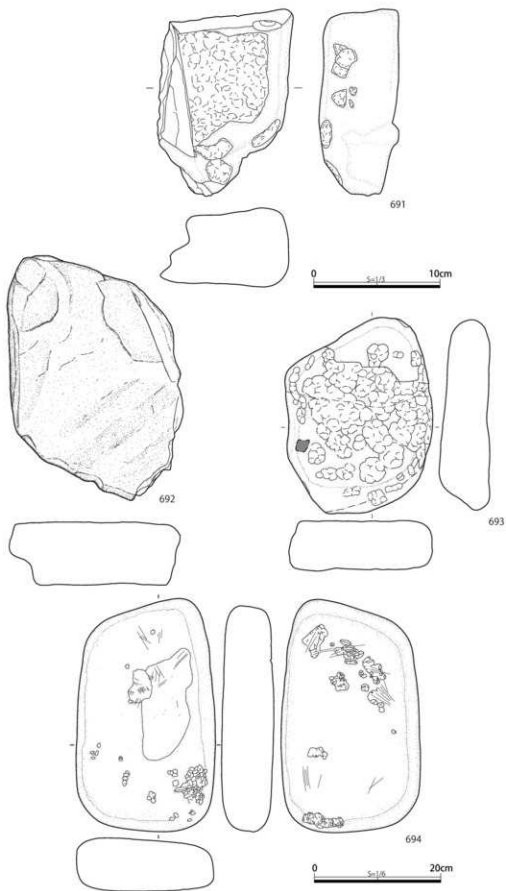
土層 黄褐色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

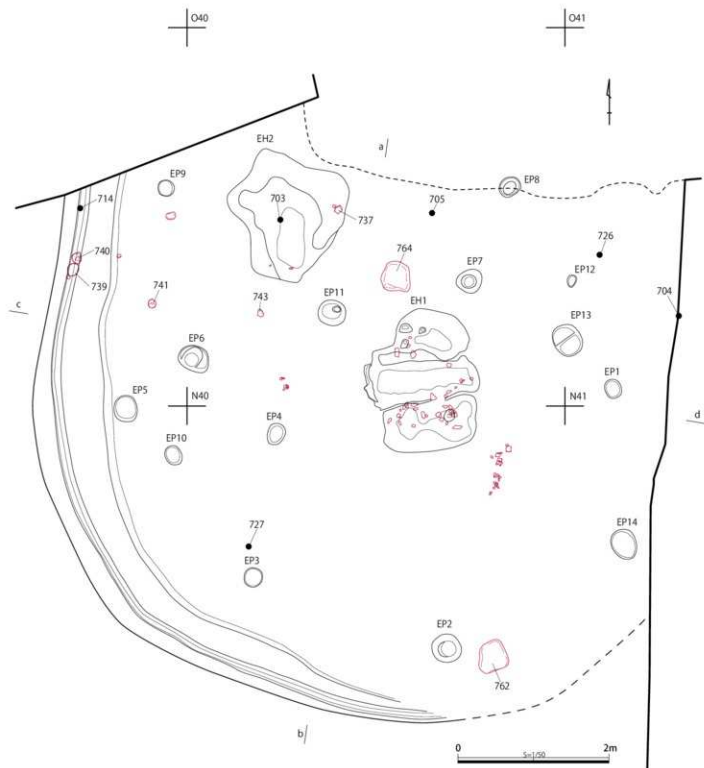
出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。



第401图 2区SB1002出土遗物⑥



第402图 2区SB1002出土遗物②



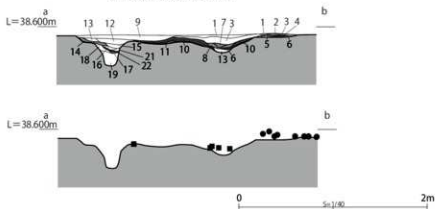
第 403 图 2 区 SB1003 平断面图① (1/50)



第 404 图 2 区 SB1003 平断面图② (1/50)

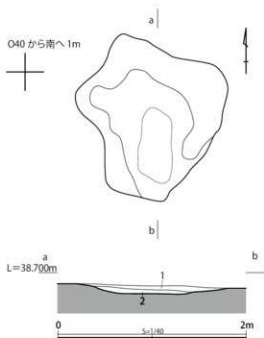


(上面の炭化物と焼土の拡がり)



- 1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土、土壌、粘性弱い、2.5Y7/2鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.1m ϕ 1%含む。
- 2 灰褐色 2.5Y 6/2 砂質土、土壌、粘性弱い、10Y4/3に赤い層状砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む炭層に付着。
- 3 石灰岩 10YR 4/3 砂質土、土壌、粘性弱い、2.5Y6/2鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む。
- 4 石灰岩 10YR 5/3 砂質土、土壌、粘性弱い、10Y5/2鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む炭層。
- 5 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土、土壌、粘性弱い、2.5Y6/2鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む炭層。
- 6 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土、土壌、粘性弱い、炭 ρ 0.3m ϕ 1%, 炭 ρ 0.2m ϕ 2%含む。
- 7 オリーブ色 2.5Y 4/3 砂質土、土壌、粘性弱い、炭 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む炭層。
- 8 黄褐色 10YR 3/2 砂質土、土壌、粘性中程度、炭 ρ 0.3m ϕ 1%, 炭 ρ 0.2m ϕ 2%含む炭層に付着。
- 9 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土、土壌、粘性弱い、2.5Y7/2鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 2%含む。
- 10 炭化物層 土壌、粘性中程度、炭 ρ 0.5m ϕ 2%含む。
- 11 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土、土壌、粘性弱い、2.5Y7/2鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%, 炭 ρ 0.2m ϕ 2%含む炭層。
- 12 オリーブ色 2.5Y 4/3 砂質土、土壌、粘性弱い、10Y6/6鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む。
- 13 明黄褐色 10YR 6/6 砂質土、土壌、粘性弱い。
- 14 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土、土壌、粘性弱い、炭 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 2%含む炭層に付着。
- 15 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土、土壌、粘性弱い、10Y6/6鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む。
- 16 石灰岩 10YR 4/3 砂質土、土壌、粘性弱い。
- 17 褐色 7.5Y 4/4 砂質土、土壌、粘性弱い、2.5Y4/4オリーブ層状土 ρ 0.3m ϕ 2%, 炭 ρ 0.3m ϕ 1%含む炭層に付着。
- 18 黄褐色 10YR 4/2 砂質土、土壌、粘性弱い、10Y6/6鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.3m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む。
- 19 黄褐色 10YR 3/2 砂質土、土壌、粘性弱い、10Y6/6鉄質砂質土 ρ 0.3m ϕ 2%, 炭 ρ 0.3m ϕ 2%, 炭 ρ 0.3m ϕ 2%含む。
- 20 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土、土壌、粘性弱い、10Y6/6鉄質砂質土 ρ 0.3m ϕ 2%, 炭 ρ 0.3m ϕ 1%, 炭 ρ 0.3m ϕ 1%含む。
- 21 石灰岩 10YR 5/3 砂質土、土壌、粘性弱い、2.5Y7/2鉄質砂質土 ρ 0.2m ϕ 2%, 炭 ρ 0.2m ϕ 1%含む。
- 22 炭化物層 土壌、粘性中程度。

第 405 図 2 区 SB1003EH1 平断面図 (1/40)



1 灰青褐色 10YR 4/2 砂質土 L119(堆積物層), L153(埋戻土), L166(6), L176(6), L182(6), L187(6), L191(6), L195(6), L200(6), L205(6), L210(6), L215(6), L220(6), L225(6), L230(6), L235(6), L240(6), L245(6), L250(6), L255(6), L260(6), L265(6), L270(6), L275(6), L280(6), L285(6), L290(6), L295(6), L300(6), L305(6), L310(6), L315(6), L320(6), L325(6), L330(6), L335(6), L340(6), L345(6), L350(6), L355(6), L360(6), L365(6), L370(6), L375(6), L380(6), L385(6), L390(6), L395(6), L400(6), L405(6), L410(6), L415(6), L420(6), L425(6), L430(6), L435(6), L440(6), L445(6), L450(6), L455(6), L460(6), L465(6), L470(6), L475(6), L480(6), L485(6), L490(6), L495(6), L500(6), L505(6), L510(6), L515(6), L520(6), L525(6), L530(6), L535(6), L540(6), L545(6), L550(6), L555(6), L560(6), L565(6), L570(6), L575(6), L580(6), L585(6), L590(6), L595(6), L600(6), L605(6), L610(6), L615(6), L620(6), L625(6), L630(6), L635(6), L640(6), L645(6), L650(6), L655(6), L660(6), L665(6), L670(6), L675(6), L680(6), L685(6), L690(6), L695(6), L700(6), L705(6), L710(6), L715(6), L720(6), L725(6), L730(6), L735(6), L740(6), L745(6), L750(6), L755(6), L760(6), L765(6), L770(6), L775(6), L780(6), L785(6), L790(6), L795(6), L800(6), L805(6), L810(6), L815(6), L820(6), L825(6), L830(6), L835(6), L840(6), L845(6), L850(6), L855(6), L860(6), L865(6), L870(6), L875(6), L880(6), L885(6), L890(6), L895(6), L900(6), L905(6), L910(6), L915(6), L920(6), L925(6), L930(6), L935(6), L940(6), L945(6), L950(6), L955(6), L960(6), L965(6), L970(6), L975(6), L980(6), L985(6), L990(6), L995(6), L1000(6)
 2 粗褐色 10YR 3/3 砂質土 L119(堆積物層), L153(埋戻土), L166(6), L176(6), L182(6), L187(6), L191(6), L195(6), L200(6), L205(6), L210(6), L215(6), L220(6), L225(6), L230(6), L235(6), L240(6), L245(6), L250(6), L255(6), L260(6), L265(6), L270(6), L275(6), L280(6), L285(6), L290(6), L295(6), L300(6), L305(6), L310(6), L315(6), L320(6), L325(6), L330(6), L335(6), L340(6), L345(6), L350(6), L355(6), L360(6), L365(6), L370(6), L375(6), L380(6), L385(6), L390(6), L395(6), L400(6), L405(6), L410(6), L415(6), L420(6), L425(6), L430(6), L435(6), L440(6), L445(6), L450(6), L455(6), L460(6), L465(6), L470(6), L475(6), L480(6), L485(6), L490(6), L495(6), L500(6), L505(6), L510(6), L515(6), L520(6), L525(6), L530(6), L535(6), L540(6), L545(6), L550(6), L555(6), L560(6), L565(6), L570(6), L575(6), L580(6), L585(6), L590(6), L595(6), L600(6), L605(6), L610(6), L615(6), L620(6), L625(6), L630(6), L635(6), L640(6), L645(6), L650(6), L655(6), L660(6), L665(6), L670(6), L675(6), L680(6), L685(6), L690(6), L695(6), L700(6), L705(6), L710(6), L715(6), L720(6), L725(6), L730(6), L735(6), L740(6), L745(6), L750(6), L755(6), L760(6), L765(6), L770(6), L775(6), L780(6), L785(6), L790(6), L795(6), L800(6), L805(6), L810(6), L815(6), L820(6), L825(6), L830(6), L835(6), L840(6), L845(6), L850(6), L855(6), L860(6), L865(6), L870(6), L875(6), L880(6), L885(6), L890(6), L895(6), L900(6), L905(6), L910(6), L915(6), L920(6), L925(6), L930(6), L935(6), L940(6), L945(6), L950(6), L955(6), L960(6), L965(6), L970(6), L975(6), L980(6), L985(6), L990(6), L995(6), L1000(6)

第406図 2区 SB1003EH2 断面図 (1/40)

時期 周辺の遺構の切り合い関係から弥生時代終末以前の年代が想定される。

5号溝 (SD1005) (第424図)

検出地点 J・K・L36・J・K37 グリッド

規模・形態 南北方向に延びる溝で、北端は西寄りに屈曲している。また南側は調査区外に延びている。残存値で延長距離は10.40m、幅は0.98m、深さは0.08mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 黄褐色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。

2号土坑 (SK1002) (第425図)

検出地点 K34 グリッド

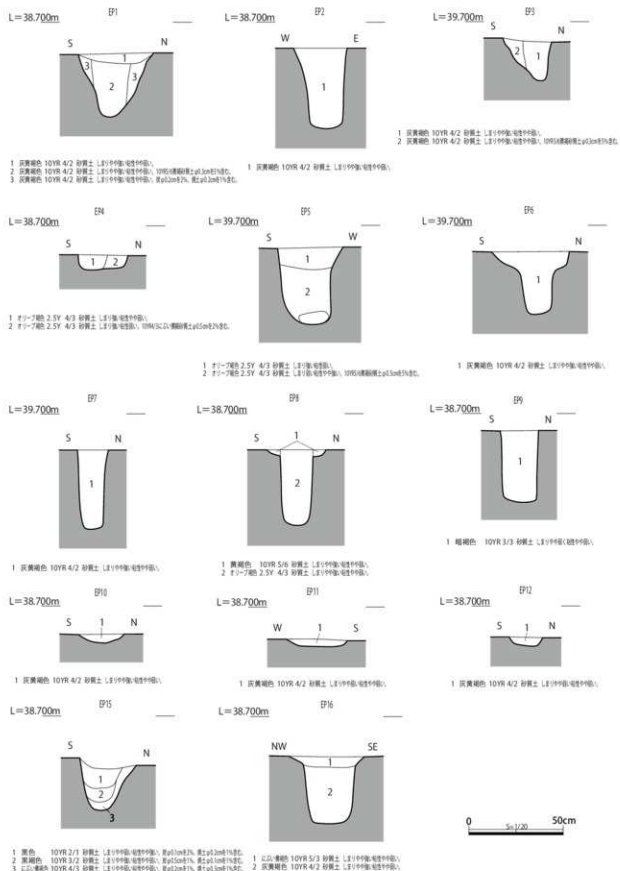
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.13m、短軸は0.50m、深さは0.20mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れも砂質土層で3層に分層される。

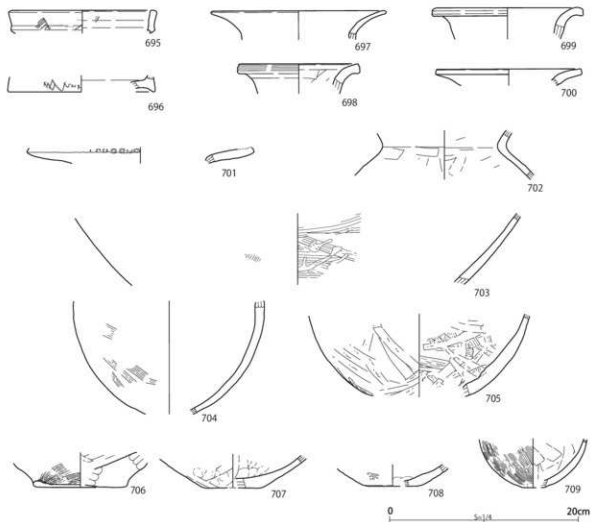
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。



第 407 图 2 区 SB1003EP 断面图 (1/20)



第 408 図 2 区 SB1003 出土遺物①

4 号土坑 (SK1004) (第 426・427 図)

検出地点 J34 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、西側は攪乱に切られている。残存値で長軸は 1.25m、短軸は 1.00m、深さは 0.35m を測る。径が約 20cm 以下の砂岩礫がまとまって充填された集石土坑である。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも砂質土層で 4 層に分層される。

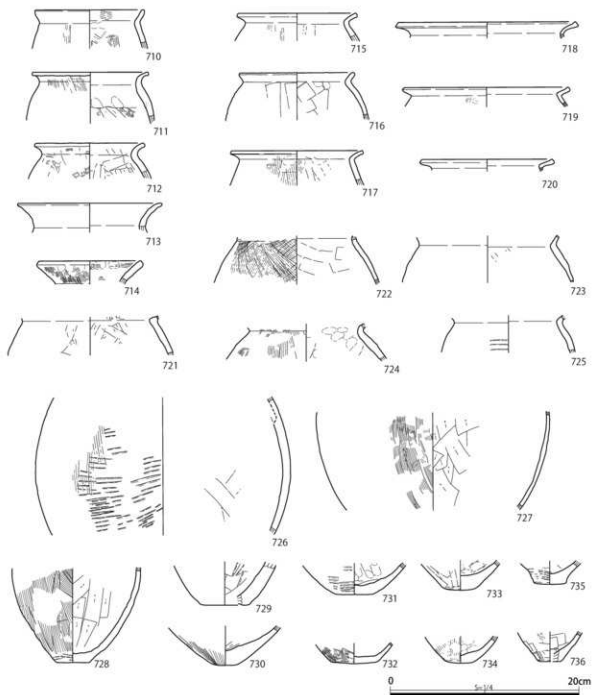
遺物出土状況 底部付近はやや大型の礫が多く、上面に行くほど小型の礫が密に分布している。

出土遺物 850 はサヌカイト製の平基式石鏝である。

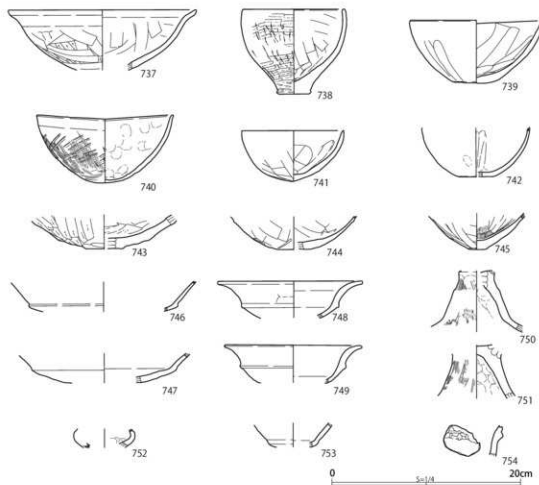
時期 年代は特定できない。

11 号土坑 (SK1011) (第 428・429 図)

検出地点 J35 グリッド



第409图 2区SB1003出土遗物②



第410図 2区SB1003出土遺物③

規模・形態 平面形状は小判形を呈し、長軸は0.83m、短軸は0.47m、深さは0.04mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 黄褐色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 851は土師質土器の羽釜である。

時期 出土した遺物から室町時代（14世紀）以降の年代が想定される。

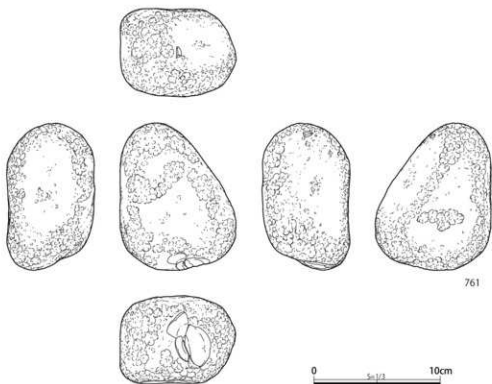
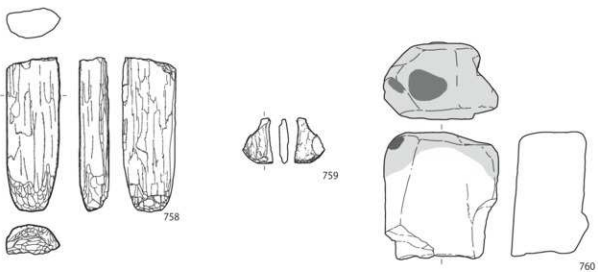
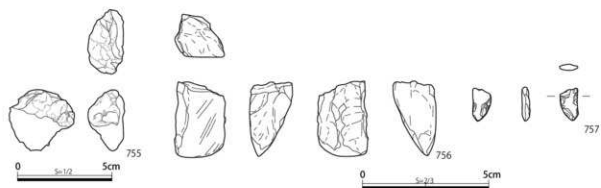
15号土坑（SK1015）（第430・431図）

検出地点 M37グリッド

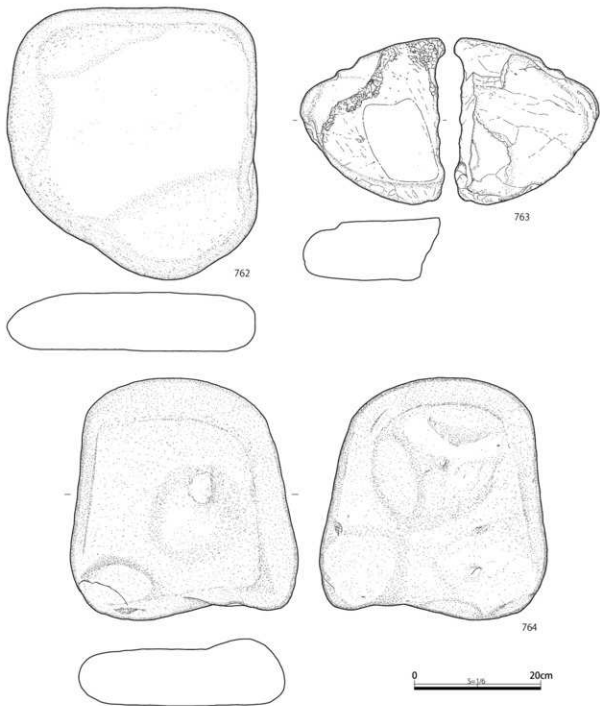
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.56m、短軸は0.40m、深さは0.08mを測る。断面に形状は皿形である。

土層 何れも砂質土で2層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部は暗オリーブ褐色砂質土層が堆積している。

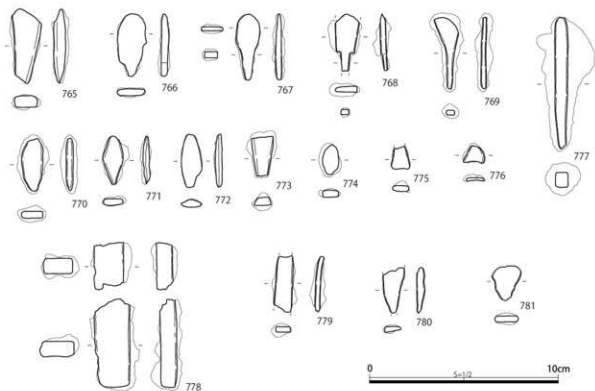
遺物出土状況 図化できるものはない。



第411图 2区SB1003出土遗物④



第412图 2区SB1003出土遗物⑤



第 413 図 2 区 SB1003 出土遺物⑥

出土遺物 852 は弥生土器の高杯の脚部である。讃岐からの搬入品である。

時期 SB1001 が埋没後に掘削されたものであり、弥生時代終末以降の年代が想定される。

17 号土坑 (SK1017) (第 432・433 図)

検出地点 M37 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 2.16m、短軸は 0.78m、深さは 0.18m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 どれも砂質土で 2 層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部はオリーブ褐色砂質土層が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 853 は用途不明の鉄製品である。

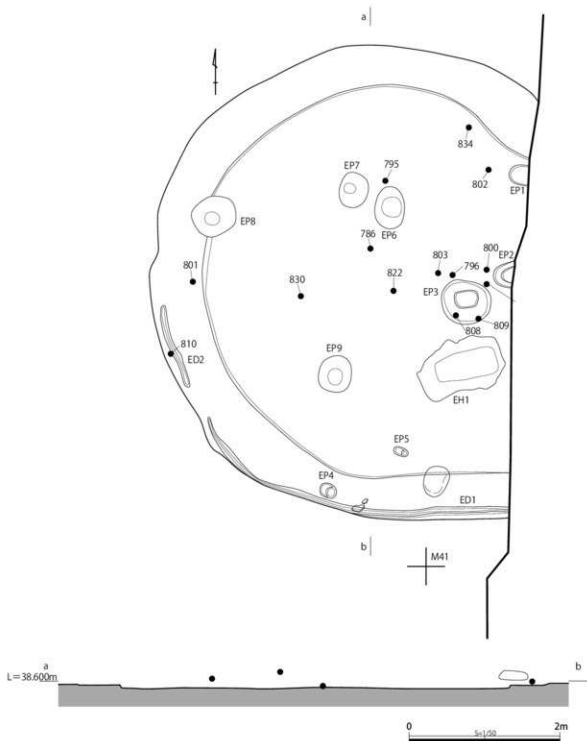
時期 SB1001 が埋没後に掘削されたものであり、弥生時代終末以降の年代が想定される。

21 号土坑 (SK1021) (第 434 図)

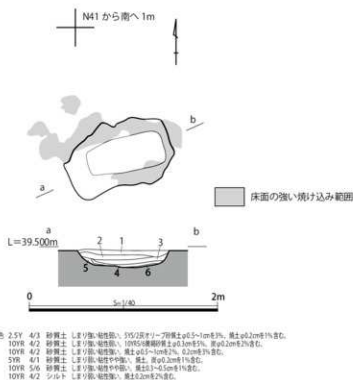
検出地点 L37 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、北側を SK1019、SK1020 に切られている。残存値で長軸は 1.73m、短軸は 0.62m、深さは 0.07m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。



第 414 图 2 区 SB1004 平面图 (1/50)



第 415 図 2 区 SB1004EH1 平断面図 (1/40)

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。

30 号土坑 (SK1030) (第 435・436 図)

検出地点 L36 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.18m、短軸は 0.68m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は 2 段形である。

土層 何れも砂質土層で 3 層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部はオリブ褐色砂質土層が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 854 は弥生土器の壺の底部である。855 はサヌカイトの剥片である。

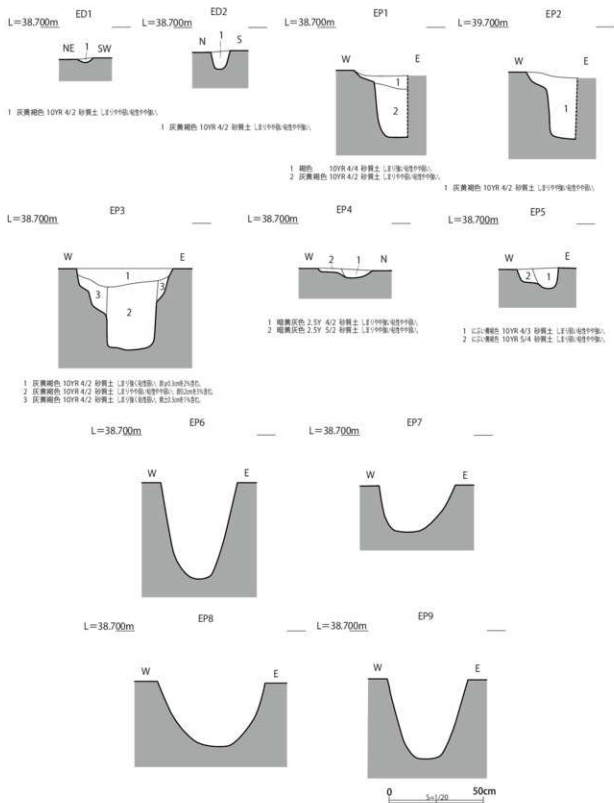
時期 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

39 号土坑 (SK1039) (第 437・438 図)

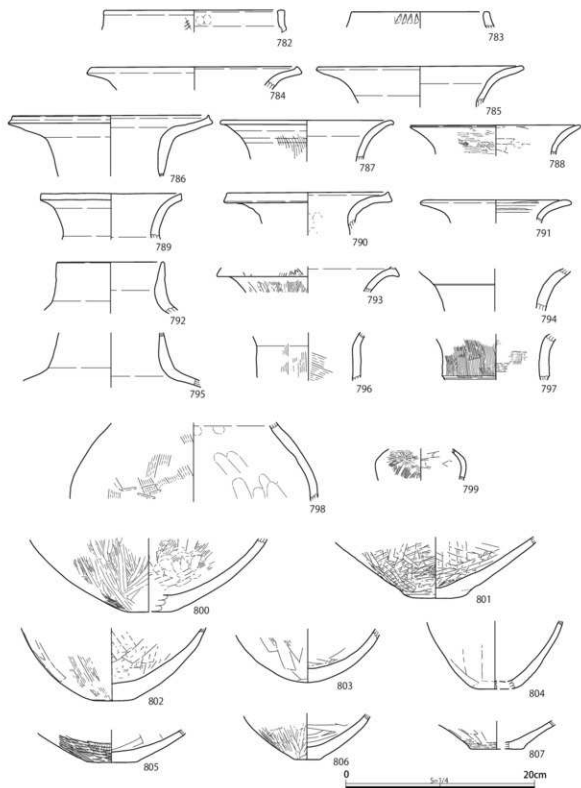
検出地点 N39 グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、長軸は 1.27m、短軸は 0.68m、深さは 0.43m を測る。断面の形状は 2 段形である。

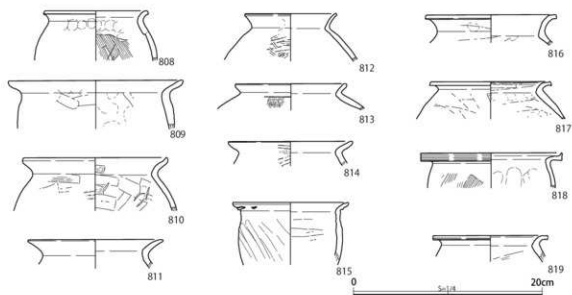
土層 何れも砂質土層で 6 層に分層される。黄褐色砂質土層を主体として、遺物の出土面より下層に



第 416 图 2 区 SB1004ED · EP 断面图 (1/20)



第417图 2区SB1004出土遗物①



第 418 図 2 区 SB1004 出土遺物②

オリーブ褐色砂質土層の間層を挟んでいる。

遺物出土状況 遺構上面の西端付近に砂岩の大型礫が置かれ、その西側に壺、甕が並んで置かれていた。遺物はいずれも 1、2 層付近を中心として出土している。

出土遺物 856～860 は弥生土器。856 は二重口緑壺、857 は底部である。858～860 は甕である。861～863 は側面に敲打痕を残す石。いずれも砂岩製である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭以降の年代が想定される。

14 号小穴 (SP1014) (第 439・440 図)

検出地点 J34 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.20m、深さは 0.36m を測る。断面の形状は長方形である。

土層 暗褐色砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 864 は土師質土器の杯である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

15 号小穴 (SP1015) (第 441・442 図)

検出地点 J34 グリッド

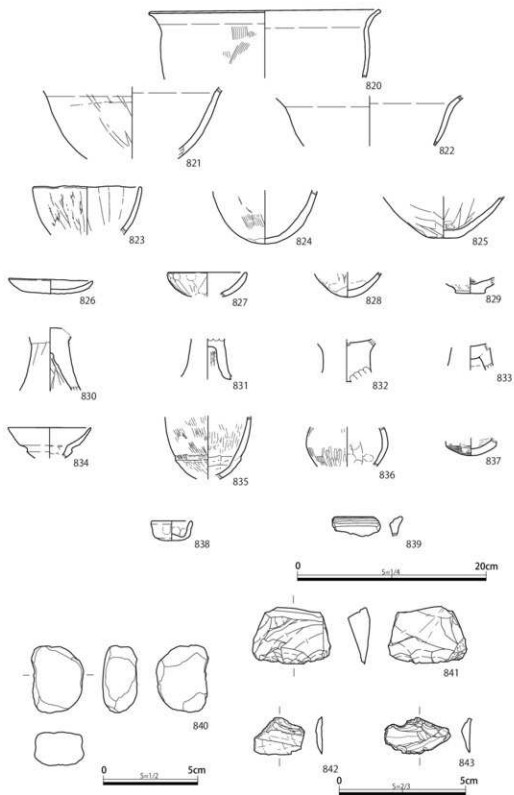
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.40m、短軸は 0.32m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 黄褐色砂質土層が 1 層である。

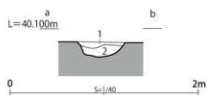
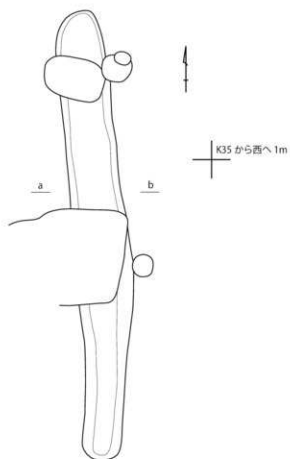
遺物出土状況 遺構上面を中心として、砂岩礫と伴に土器が出土している。

出土遺物 865 は弥生土器の甕の体部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の時期が想定される。

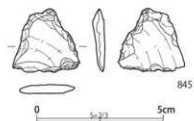


第419图 2区SB1004出土遗物③

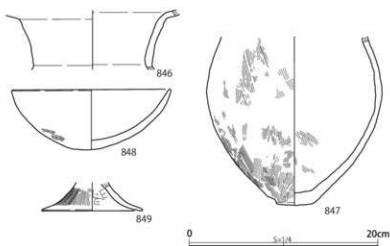


- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 L10(埋没層)厚約1.00m、10(遺物)層厚約1.50m、11(埋没層)厚約1.00m、マゼス1-4.50m、埋没層厚約1.00m
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L8(埋没層)厚約1.00m、10(遺物)層厚約1.50m、11(埋没層)厚約1.00m、埋没層厚約1.00m

第 420 図 2 区 SD1002 平断面図 (1/40)



第 421 図 2 区 SD1002 出土遺物



第 423 図 2 区 SD1003 出土遺物

27 号小穴 (SP1027) (第 443・444 図)

検出地点 J34 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.20m、深さは0.17mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも砂質土層で2層に分層される。

遺物出土状況 底部付近に礫が置かれており、その上方から土器が出土している。

出土遺物 866 は弥生土器の広口壺である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

29 号小穴 (SP1029) (第 445・446 図)

検出地点 L35 グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は0.34m、短軸は0.28m、深さは0.44mを測る。断面の形状は長方形である。

土層 何れも砂質土層で3層に分層され、上部は黄褐色砂質土、下部にはオリーブ褐色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 867 は土師器の蓋である。外面に赤色顔料の塗られた痕が残っている。

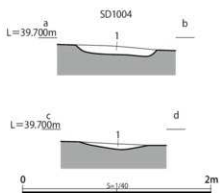
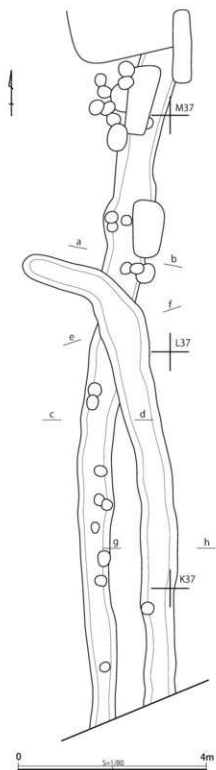
時期 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。

40 号小穴 (SP1040) (第 447・448 図)

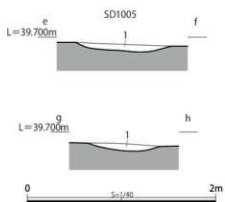
検出地点 K35 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.40m、短軸は0.34m、深さは0.15mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも砂質土層で2層に分層され上部は黄褐色砂質土、下部にはオリーブ褐色砂質土が堆積し

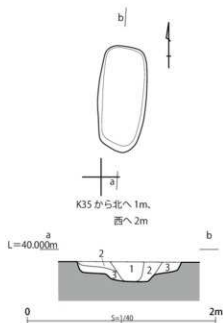


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂质土 (L37) 坑(埋藏物)部; 10.5m x 1.7m 埋藏物(1)部, Ryl-4.2m E, Ryl-2m F 北。



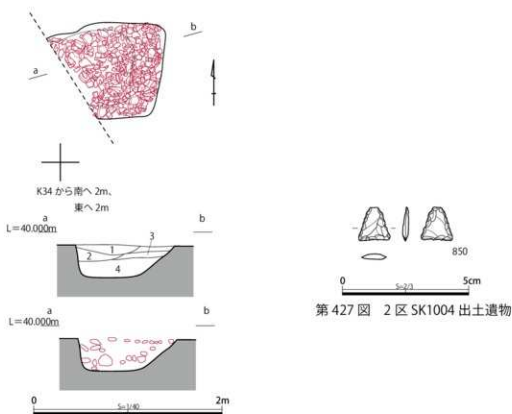
1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂质土 (L37) 坑(埋藏物)部; 10.5m x 1.7m 埋藏物(1)部, Ryl-4.2m E, Ryl-2m F 北。

第 424 图 2 区 SD1004 · SD1005 平断面图 (1/80 · 1/40)



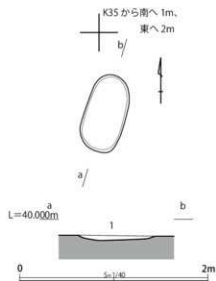
- 1 磁ナリノ地色 2.5Y 3/3 砂質土 L.1000g, 磁鉄中粒, 50μm以下磁鉄 $\mu\text{p}2=4.5\text{m}\%$, 20μm磁鉄 $\mu\text{p}3=1.0\text{m}\%$, $\text{Mq}2=1.0\text{m}\%$ 計。
 2 黄褐色 2.5Y 3/1 砂質土 L.1000g, 磁鉄中粒, 50μm以下磁鉄 $\mu\text{p}2=4.5\text{m}\%$, $\text{Mq}2=1.0\text{m}\%$ 計。
 3 褐色黄色 2.5Y 4/2 砂質土 L.1000g, 磁鉄中粒, 50μm以下磁鉄 $\mu\text{p}2=4.5\text{m}\%$, $\text{Mq}2=1.0\text{m}\%$ 計。

第 425 図 2 区 SK1002 平面図 (1/40)



- 1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 L.1000g, 磁鉄中粒, 土中 $\mu\text{p}3$ 以下磁鉄土 $\mu\text{p}1.5=2.0\text{m}\%$, $\mu\text{p}0.5=2.0\text{m}\%$, $\text{Mq}2=1.0\text{m}\%$ 計。
 2 磁ナリノ地色 2.5Y 3/3 砂質土 L.1000g, 磁鉄中粒, $\mu\text{p}0.5=1.0\text{m}\%$, $\text{Mq}2=1.0\text{m}\%$ 計。
 3 ナリノ地色 2.5Y 4/3 砂質土 L.1000g, 磁鉄中粒, $\text{Mq}2=1.0\text{m}\%$ 計。
 4 褐色黄色 2.5Y 4/2 砂質土 L.1000g, 磁鉄中粒, $\text{Mq}2=1.0\text{m}\%$ 計。土中 $\mu\text{p}3$ 以下磁鉄土 $\mu\text{p}1.5=2.0\text{m}\%$, $\mu\text{p}0.5=2.0\text{m}\%$ 計。

第 426 図 2 区 SK1004 平面図 (1/40)

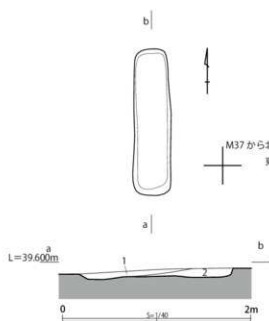


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土、L1(199年)磁片群、1953年11-12月掘削、F1(1991-1992)掘削、F2(1991-1992)掘削、F3(1991-1992)掘削、F4(1991-1992)掘削

第 428 図 2 区 SK1011 平断面図 (1/40)



第 429 図 2 区 SK1011 出土遺物

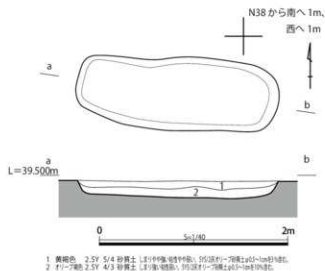


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土、L1(199年)磁片群、1953年11-12月掘削、F1(1991-1992)掘削、F2(1991-1992)掘削、F3(1991-1992)掘削、F4(1991-1992)掘削
2 母打ノズル褐色 2.5Y 3/3 砂質土、L1(199年)磁片群、1953年11-12月掘削、F1(1991-1992)掘削、F2(1991-1992)掘削、F3(1991-1992)掘削、F4(1991-1992)掘削

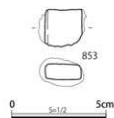
第 430 図 2 区 SK1015 平断面図 (1/40)



第 431 図 2 区 SK1015 出土遺物



第 432 図 2 区 SK1017 平面図 (1/40)



第 433 図 2 区 SK1017 出土遺物

ている。層中に炭化物粒をわずかに含んである。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 868 は弥生土器の広口壺である。869 はサヌカイトの剥片である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

45 号小穴 (SP1045) (第 449・450 図)

検出地点 J35 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.32m、短軸は 0.26m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 870 は弥生土器の広口壺の口縁部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

50 号小穴 (SP1050) (第 451・452 図)

検出地点 J35 グリッド

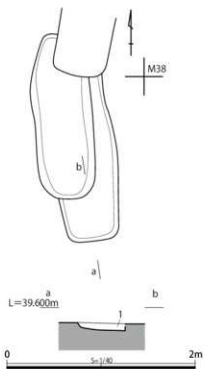
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、東側を SP1049 に切られている。残存値で長軸は 0.32m、短軸は 0.30m、深さは 0.26m を測る。断面の形状は 2 段形である。

土層 どれも砂質土層で 2 層に分層され上部は黄褐色砂質土、下部にはオリーブ褐色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

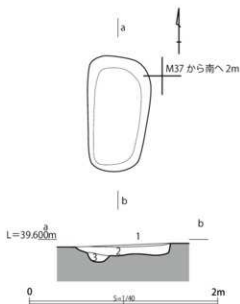
出土遺物 871 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。



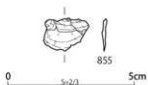
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりや強い粘りや強い、5/3から7/3程度まで粘りや強い、7/3以上は粘りや強い、7/3以上は粘りや強い、7/3以上は粘りや強い

第 434 図 2 区 SK1021 平断面図 (1/40)

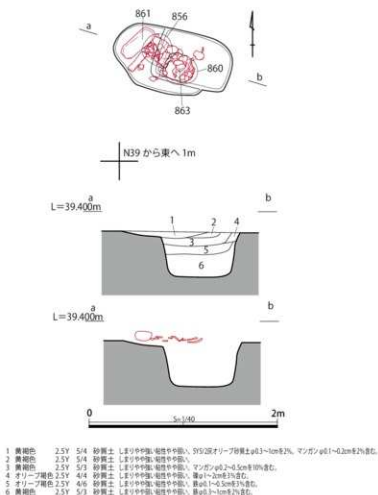


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりや強い粘りや強い、
 2 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまりや強い粘りや強い、
 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりや強い粘りや強い、

第 435 図 2 区 SK1030 平断面図 (1/40)



第 436 図 2 区 SK1030 出土遺物



第 437 図 2 区 SK1039 平面断面図 (1/40)

116 号小穴 (SP1116) (第 453・454 図)

検出地点 K38 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.36m、短軸は 0.32m、深さは 0.26m を測る。断面の形状は丸底形である。

土層 何れも砂質土層で 2 層に分层され上部は暗灰黄色砂質土、下部にはにぶい黄色砂質土が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

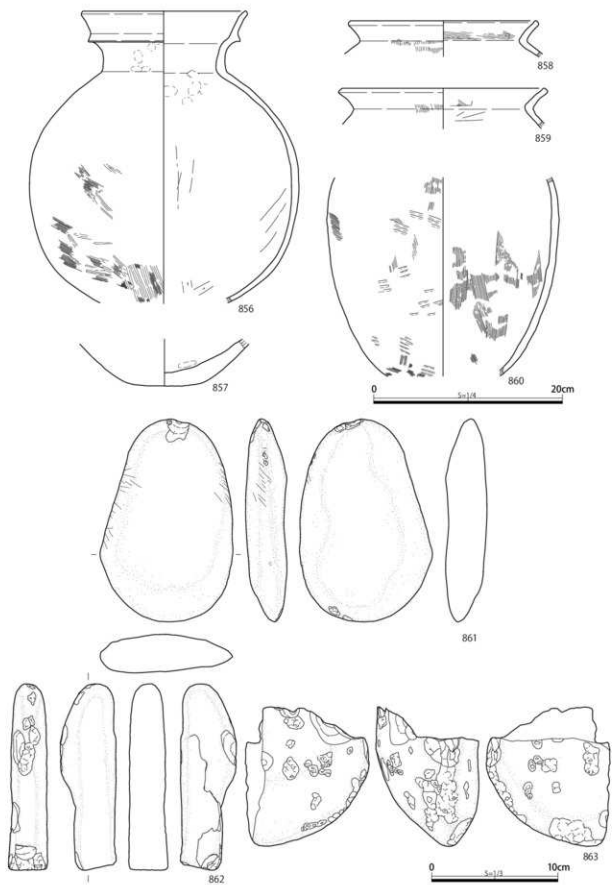
出土遺物 872 は和泉型の瓦器碗である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

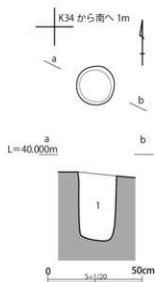
159 号小穴 (SP1159) (第 455・456 図)

検出地点 L36 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、北側を SP1158 に切られている。残存値で長軸は 0.23m、短軸は 0.18m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は舟底形である。



第438图 2区SK1039出土遗物

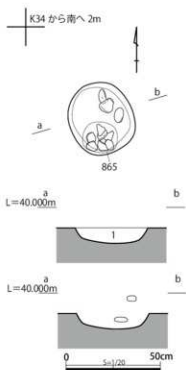


1 暗褐色 10YR 3/3 砂質土 Lより強い酸性中砂質、皮pH2~0.3cm厚、厚pH2~0.5cm厚5%炭。

第 439 図 2 区 SP1014 平面図 (1/20)

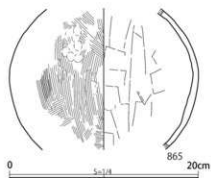


第 440 図 2 区 SP1014 出土遺物

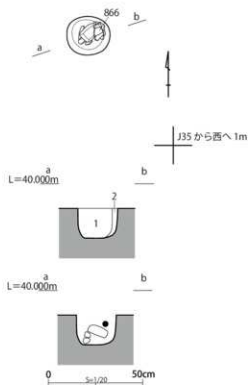


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 Lより強い酸性中砂質、2.5YR3C以下黄砂質土pH~2cm厚10%炭a5cm厚炭。

第 441 図 2 区 SP1015 平面図 (1/20)

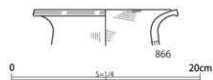


第 442 図 2 区 SP1015 出土遺物



1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 L19層・砂質土 L19層より下層土の色は不明、ワシヤリ・クサヤリ、黒い・7色2層
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L19層・砂質土 L19層より下層土の色は不明

第443図 2区 SP1027 断面図 (1/20)



第444図 2区 SP1027 出土遺物

土層 オリーブ褐色砂質土が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 873は土師質土器の羽釜の底部である。874は管状の土錘である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代の年代が想定される。

206号小穴 (SP1206) (第457・458図)

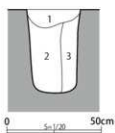
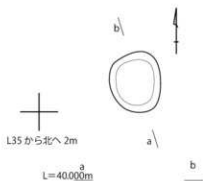
検出地点 M39 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.22m、短軸は0.20m、深さは0.10mを測る。断面の形状は2段形である。

土層 何れも砂質土層で2層に分層される。

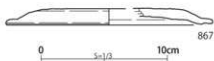
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 875は弥生土器の甕である。

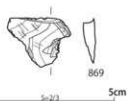
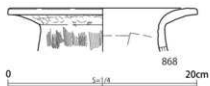
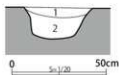
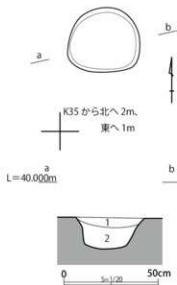


- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 L1層中強、粘性弱、2.0%の明黄褐色土を3.5~15cm厚10%、厚さ2cmを含む。
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L1層中強、粘性中強、S15.2区オリーブ汚泥土を3.5cm厚3%、厚さ1~4.5cm厚3%を含む。
 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土 L1層中強、粘性中強、S15.2区オリーブ汚泥土を3cm厚10%、厚さ2cmを含む。

第445図 2区 SP1029 平断面図 (1/20)



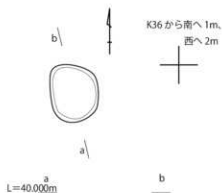
第446図 2区 SP1029 出土遺物



第448図 2区 SP1040 出土遺物

- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 L1層中強、粘性弱、S15.2区オリーブ汚泥土を2~12cm厚、厚さ1~4.5cm厚3%。
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L1層中強、粘性中強、1.0%の明黄褐色土を1.5cm厚3%、厚さ1~4.5cm厚3%を含む。

第447図 2区 SP1040 平断面図 (1/20)

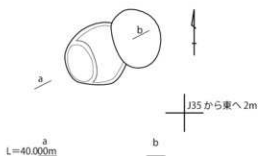


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L1(1)層(砂質土) 15(3)層(1)層(砂質土) 116(埋藏層) 2(砂質土) 1(埋藏層)

第 449 図 2 区 SP1045 平断面図 (1/20)



第 450 図 2 区 SP1045 出土遺物

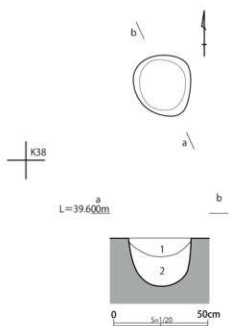


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 L1(1)層(砂質土) 15(3)層(1)層(砂質土) 116(埋藏層) 2(砂質土) 1(埋藏層)
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L1(1)層(砂質土) 15(3)層(1)層(砂質土) 116(埋藏層) 2(砂質土) 1(埋藏層)

第 451 図 2 区 SP1050 平断面図 (1/20)



第 452 図 2 区 SP1050 出土遺物

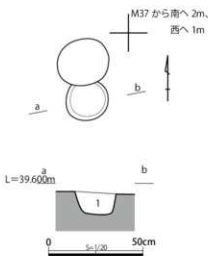


- 1 褐色黄土 2.5Y 4/2 砂質土 L1199層(砂中層); 15区付一溝(北2a1-10mE, 北12-10mE, 北13-10mE)北
2 白土(黄土) 2.5Y 6/3 砂質土 L1199層(砂中層); 15区付一溝(北2a1-10mE)

第453図 2区 SP1116 平断面図 (1/20)

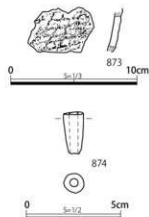


第454図 2区 SP1116 出土遺物

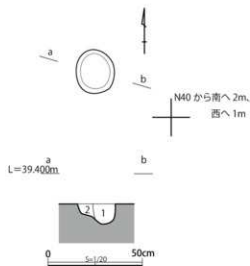


- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L1199層(砂中層); 15区付一溝(北2a1-10mE, 北1-12mE, 北13-12mE)北

第455図 2区 SP1159 平断面図 (1/20)

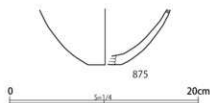


第456図 2区 SP1159 出土遺物

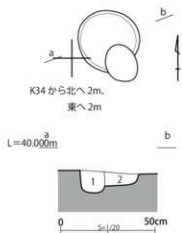


- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 L1999係(絶対年代: 1952年)・埋積土(2-4.5m以内, 埋積土)・埋積土(4.5m以内, 埋積土)
 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 L1999係(絶対年代: 1952年)・埋積土(2-4.5m以内, 埋積土)・埋積土(4.5m以内, 埋積土)

第 457 図 2 区 SP1206 平面図 (1/20)

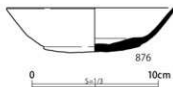


第 458 図 2 区 SP1206 出土遺物



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L1999係(絶対年代: 1952年)・埋積土(2-4.5m以内, 埋積土)・埋積土(4.5m以内, 埋積土)
 2 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 L1999係(絶対年代: 1952年)・埋積土(2-4.5m以内, 埋積土)・埋積土(4.5m以内, 埋積土)

第 459 図 2 区 SP1235 平面図 (1/20)



第 460 図 2 区 SP1235 出土遺物

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

235 号小穴 (SP1235) (第 459・460 図)

検出地点 K34 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、南側を SP1234 に切られている。残存値で径は 0.32m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は 2 段形である。

土層 何れも砂質土層で 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 876 は須恵器の杯である。

時期 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。

236 号小穴 (SP1236) (第 461・462 図)

検出地点 M38 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.47m、短軸は 0.37m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも砂質土層で 2 層に分層され上部は黄褐色砂質土、下部にはにぶいオリーブ褐色砂質土が堆積している。

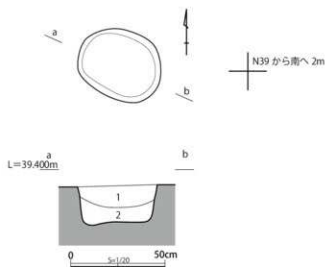
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 877 は弥生土器の甕である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

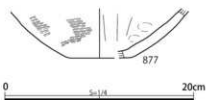
237 号小穴 (SP1237) (第 463・464 図)

検出地点 M39 グリッド

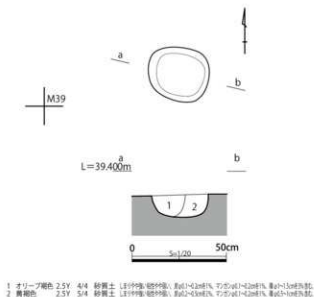


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 (土中層: 磁石層) (1) 30.0cm (2) 40.0cm (3) 50.0cm (4) 60.0cm (5) 70.0cm (6) 80.0cm (7) 90.0cm (8) 100.0cm
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 (土中層: 磁石層) (1) 30.0cm (2) 40.0cm (3) 50.0cm (4) 60.0cm (5) 70.0cm (6) 80.0cm (7) 90.0cm (8) 100.0cm

第 461 図 2 区 SP1236 平面図 (1/20)



第 462 図 2 区 SP1236 出土遺物



第 463 図 2 区 SP1237 平面断面図 (1/20)



第 464 図 2 区 SP1237 出土遺物

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.32m、短軸は 0.28m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも砂質土層で 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 878 は弥生土器の甕の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

241 号小穴 (SP1241) (第 465・466 図)

検出地点 L39 グリッド

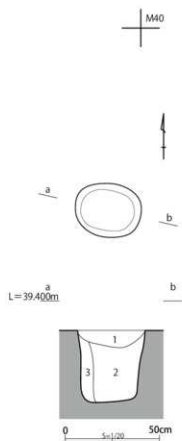
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.35m、短軸は 0.27m、深さは 0.37m を測る。断面の形状は長方形である。

土層 何れも砂質土層で 3 層に分層され、上部 (1 層) は黄褐色砂質土層、下部 (2、3 層) はオリーブ褐色砂質土層が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

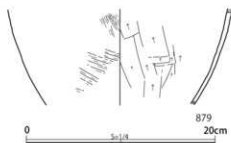
出土遺物 879 は弥生土器の甕の体部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

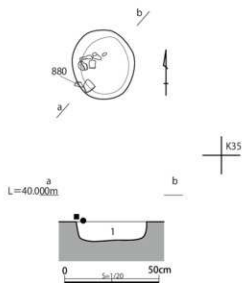


- 1 黄褐色 2.5/ 5/4 砂質土 L:199層(磁片層); 15.5gF+7層土(1-1cm厚), 8g(1-1.5cm厚), 7.5g(1-1.5cm厚), 6g(1.5cm厚);
 2 オリーブ褐色 2.5/ 4/3 砂質土 L:199層(磁片層); 15.5gF+7層土(1-1cm厚), 7.5g(1-1.5cm厚);
 3 オリーブ褐色 2.5/ 4/6 砂質土 L:199層(磁片層); 15.5gF+7層土(1-1cm厚), 8g(1-1.5cm厚), 7.5g(1-1.5cm厚);

第 465 図 2 区 SP1241 平面図 (1/20)

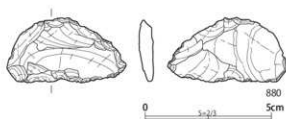


第 466 図 2 区 SP1241 出土遺物

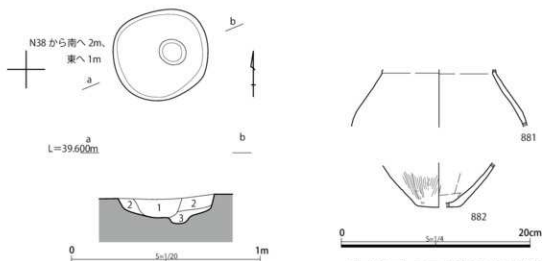


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 [L1119層:磁片層], [1512層]-[埋藏層]~[16層], 7.5m~[L16層]埋藏

第467図 2区 SP1254 平断面図 (1/20)



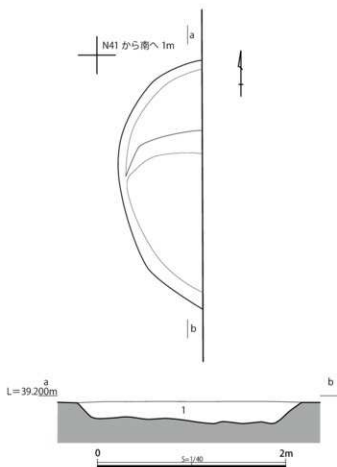
第468図 2区 SP1254 出土遺物



1 褐色黄色 2.5Y 4/2 砂質土 [L1119層:磁片層], [1512層]埋藏層~[L16層], [1512層]-[埋藏層]~[L16層], 7.5m~[L16層]埋藏
 2 灰白~白色 2.5Y 4/4 砂質土 [L1119層:磁片層], [1512層]-[埋藏層]~[L16層], [1512層]埋藏層~[L16層], 7.5m~[L16層]埋藏
 3 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 [L1119層:磁片層]

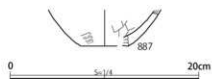
第470図 2区 SP1256 出土遺物

第469図 2区 SP1256 平断面図 (1/20)



1: 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土。上部が中硬～硬質の中硬土。マンガンpH1～0.2m10%、pH0.5～2cm85%含む。

第 473 図 2 区 SX1002 平断面図 (1/40)



第 474 図 2 区 SX1002 出土遺物

1 号性格不明遺構 (SX1001) (第 471・472 図)

検出地点 J36 グリッド

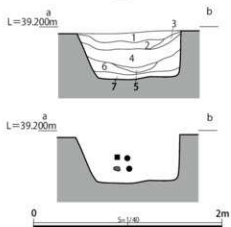
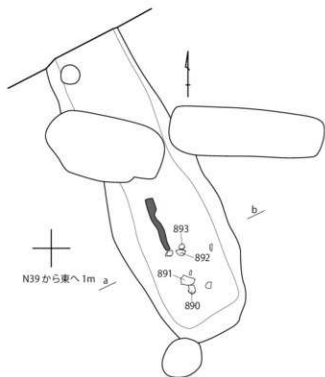
規模・形態 南北方向に延びる溝状の遺構で、南側は攪乱により切られている。残存値で長軸は 0.74m、短軸は 0.36m、深さは 0.06m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 黄褐色砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 883～886 は弥生土器。883 は二重口縁壺で鋸歯文が施される。884 は広口壺で讃岐からの搬入品である。885 は鉢、886 は甕の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。



- | | | | | | |
|---|--------|------|-----|-----|--|
| 1 | 黄褐色 | 2.5V | 5/4 | 砂質土 | しまりや中強い粘性や中強い、2.5%の有機質p0.1~0.5cm厚1%含む。 |
| 2 | オリーブ褐色 | 2.5V | 4/4 | 砂質土 | しまりや中強い粘性や中強い。 |
| 3 | オリーブ褐色 | 2.5V | 4/3 | 砂質土 | しまりや中強い粘性や中強い、マンガンp0.1cm厚2%、窒素p0.5~1cm厚2%含む。 |
| 4 | 黄褐色 | 2.5V | 5/3 | 砂質土 | しまりや中強い粘性や中強い。 |
| 5 | 黄褐色 | 2.5V | 5/3 | 砂質土 | しまりや中強い粘性が強い。 |
| 6 | 黄褐色 | 2.5V | 5/4 | 砂質土 | しまりや中強い粘性や中強い、SIS2層オリーブ層厚土p0.1~0.5cm厚3%含む。 |
| 7 | オリーブ褐色 | 2.5V | 4/6 | 砂質土 | しまりや中強い粘性や中強い。 |

第475図 2区 SX1003 断面図 (1/40)

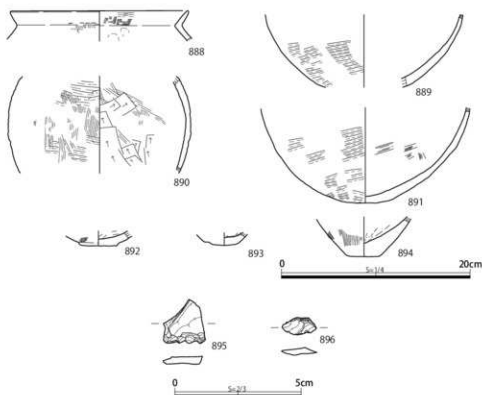
2号性格不明遺構 (SX1002) (第473・474図)

検出地点 M41 グリッド

規模・形態 平面の形状は円形を呈するとみられるが東側は調査区外に延びている。残存値で長軸は2.64m、短軸は0.90m、深さは0.23mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 黄褐色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。



第476図 2区 SX1003 出土遺物

出土遺物 887は弥生土器の甕の底部である。

時期 SB1003、SB1004の埋没後に掘削されているため、弥生時代終末以降の年代が想定される。

3号性格不明遺構(SX1003)(第475・476図)

検出地点 M・N39グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。また中央部分をSK1033、SK1039などに切られている。残存値で長軸は3.38m、短軸は1.20m、深さは0.48mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 どれも砂質土層で7層に分層され、黄褐色砂質土層とオリーブ褐色砂質土層が互層堆積をみせている。

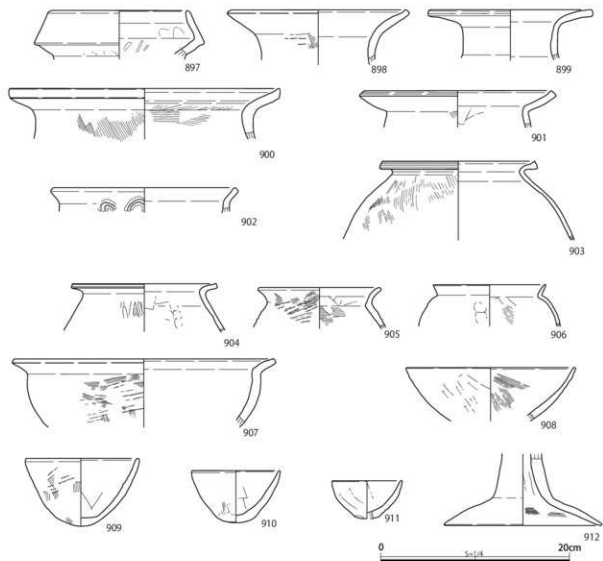
遺物出土状況 南半部の中層部分(4～6層)を中心として土器や炭化材が出土している。

出土遺物 888～894は弥生土器。888～893は甕で体部が球形状に張るものが多い。894は壺の底部である。895はサヌカイト製の削器、896はサヌカイトの剥片である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

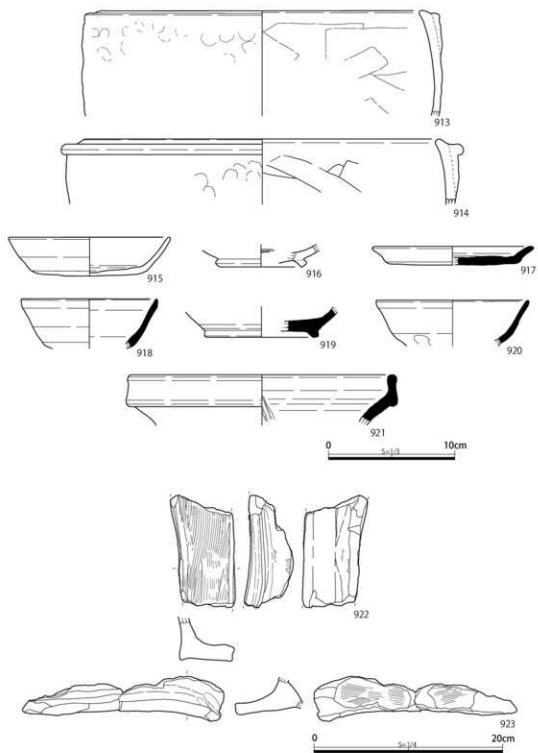
包含層出土遺物(第477・478図)

897～912は弥生時代終末から古墳時代初頭の土器である。897～902は壺、903～906は甕、907～911は鉢、912は高杯の脚部である。903、904は土師質土器の羽釜、915は土師器の杯、916は黒色土器(A類)の椀である。917～920は須恵器。917は皿、918、919は杯、920は椀で

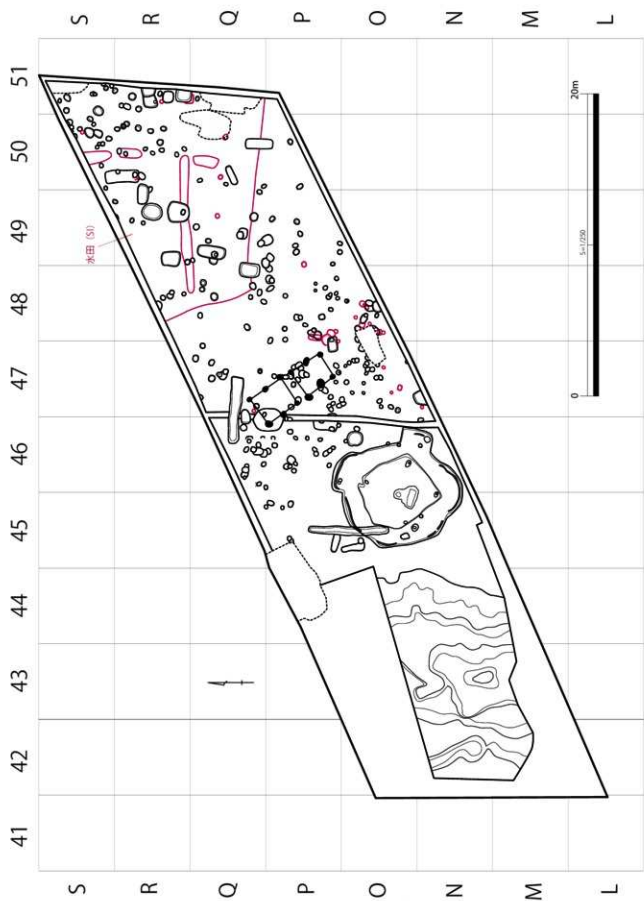


第 477 図 2 区包含層出土遺物①

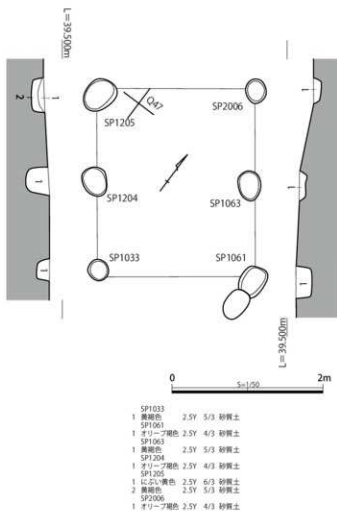
ある。921 は備前焼の播鉢である。922、923 は置き竈である。



第 478 图 2 区包含层出土遗物②



第479图 3-1区平面图 (1/250)



第 480 図 3-1 区 SA1001 平面図 (1/50)

(8) 3-1 区 (第 479 図)

3-1 区から検出された遺構は掘立柱建物 (SA) が 2 軒、竪穴住居 (SB) が 1 軒、水田 (SD) が 3 枚、溝 (SD) が 2 条、土坑 (SK) が 24 基、小穴 (SP) が 275 基、自然流路 (SR) が 1 条、性格不明遺構 (SX) が 10 基となっている。その内水田などの遺構 (第 479 図赤線) は通常の遺構の検出面より下部において検出されている。

1 号掘立柱建物 (SA1001) (第 480 図)

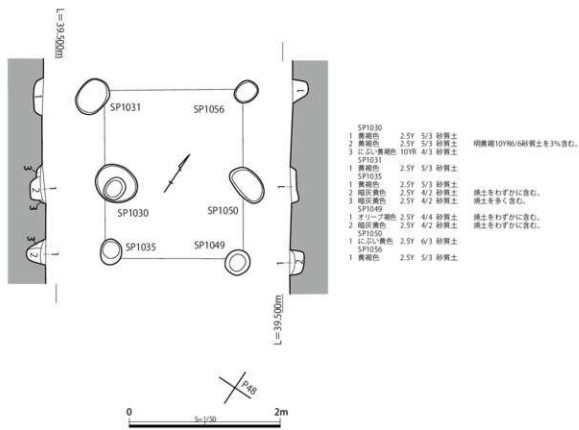
検出地点 P・Q46・47 グリッド

規模・形態 梁間 1 間 (2.10m) × 桁行 2 間 (2.50m)、床面積 5.25m²の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 38° - W である。

土層 黄褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。



第 481 図 3-1 区 SA1002 平面図 (1/50)

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

2号掘立柱建物 (SA1002) (第 481 図)

検出地点 P47 グリッド

規模・形態 梁間1間 (1.80m) × 桁行2間 (2.22m)、床面積 4.00㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 35° - W である。

土層 黄褐色砂質土層を主体として 1 ~ 3 層に分層される。

遺物出土状況 SP1031 から遺物が出土している。

出土遺物 個別遺構で記述。

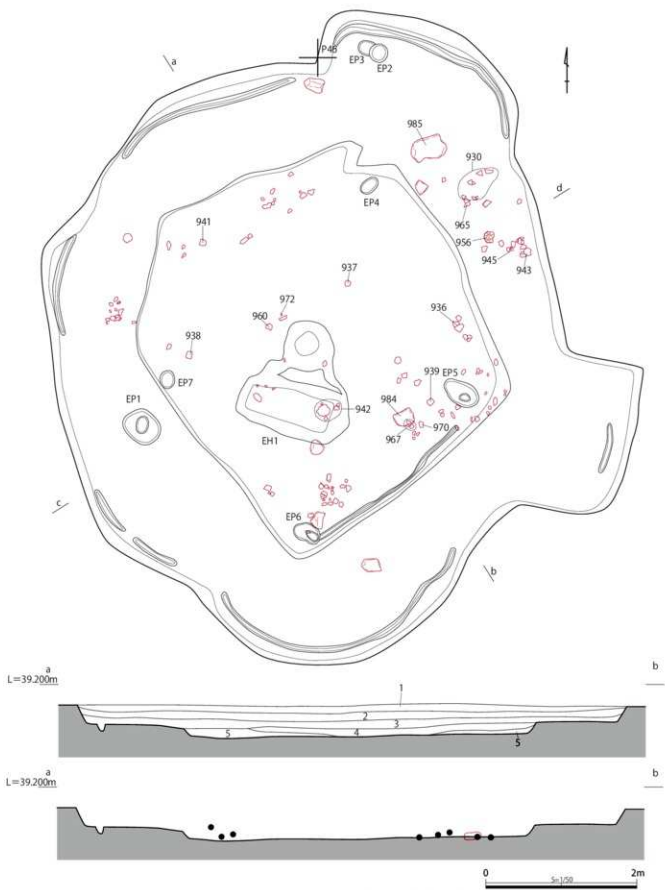
時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

1号竪穴住居 (SB1001) (第 482 ~ 491 図)

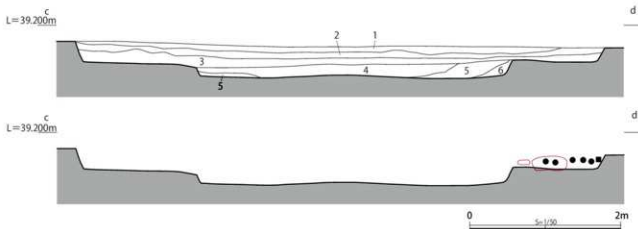
検出地点 N・O45・46・P46 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し北側と西側に方形の張り出しが附属している。規模は南北に 7.98m、東西に 6.65m、深さは 0.39m を測る。断面の形状は周囲にベッド状の高まりを伴う 2 段形となっている。柱穴 (EP) は 7 基検出されており、中央部には炉 (EH) が 1 基存在している。床面の上下両段の壁際には周溝が検出されている。

土層 どれも砂質土で 6 層に分層され、上部から暗灰黄色砂質土、にぶい黄褐色砂質土、灰黄褐色砂



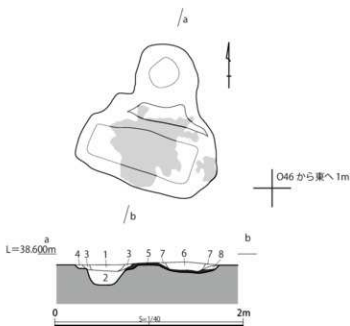
第 482 图 3-1 区 SB1001 平断面图① (1/50)



- 1 陥床黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しより強、粘性弱い。
- 2 広い黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しより強、粘性弱い。
- 3 深黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しより中強、粘性弱い。
- 4 陥床黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しより中強、粘性弱い。
- 5 広い黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しより中強、粘性中強い。厚さ0.3cmを1%含む。
- 6 広い黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しより中強、粘性弱い。厚さ0.3cmを1%含む。厚さ0.3cmを7%含む。

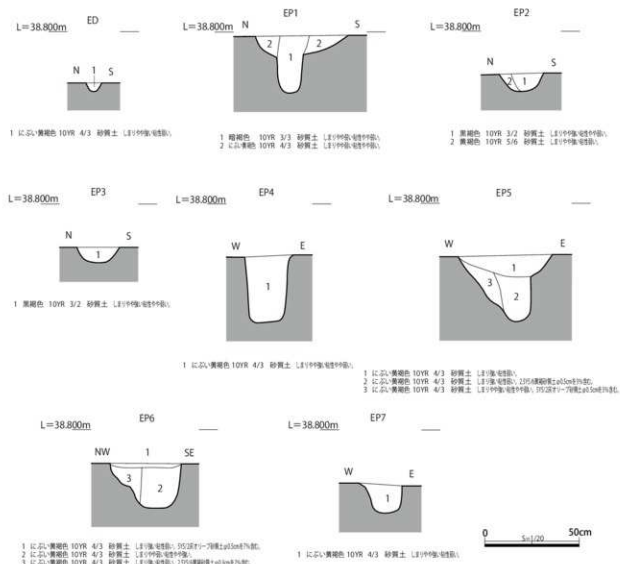
第 483 図 3-1 区 SB1001 平断面図② (1/50)

床面の強い盛り込み範囲



- 1 広い黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しより強、粘性弱い。厚さ0.3cmを2%、厚さ0.1cmを1%含む。
- 2 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しより弱、粘性強い。厚さ0.3cmを2%、厚さ0.1cmを2%含む。
- 3 広い黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しより弱、粘性中強い。厚さ0.3cmを3%、厚さ0.1cmを1%含む。
- 4 反黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しより中強、粘性弱い。厚さ0.3cmを2%含む。
- 5 腐化物層 10YR 4/2 砂質土 しより弱、粘性中強い。
- 6 広い黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しより中強、粘性中強い。厚さ0.3cmを2%、厚さ0.1cmを1%含む。
- 7 灰白色 10YR 7/1 砂質土 しより強、粘性強い。厚さ0.3cmを2%含む。
- 8 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しより中強、粘性強い。厚さ0.1cmを3%含む。

第 484 図 3-1 区 SB1001EH1 平断面図 (1/40)



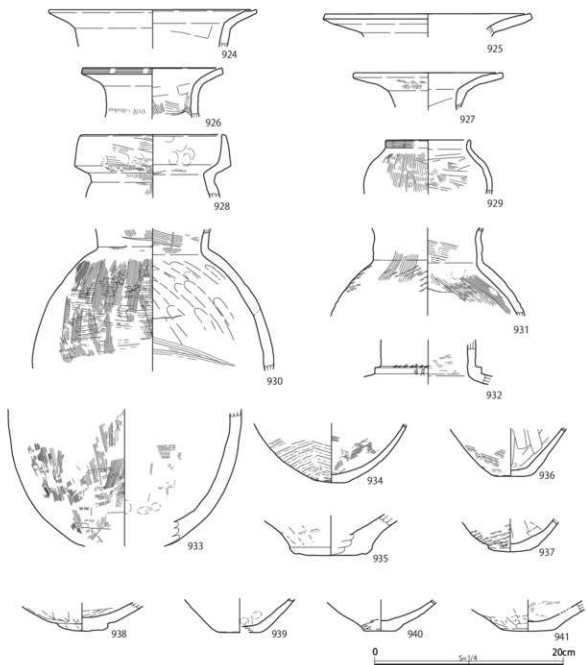
第485図 3-1区 SB1001ED・EP断面図 (1/20)

質土と堆積し、床面部分には下段の斜面部ににぶい黄褐色砂質土が堆積し、床面は暗灰黄色砂質土に覆われている。また中央部に位置するEH1は鍛冶炉と考えられる。検出面上面には焼土が拡がっている。EH1は8層に分層され、5層はカーボンベッドであると考えられる。

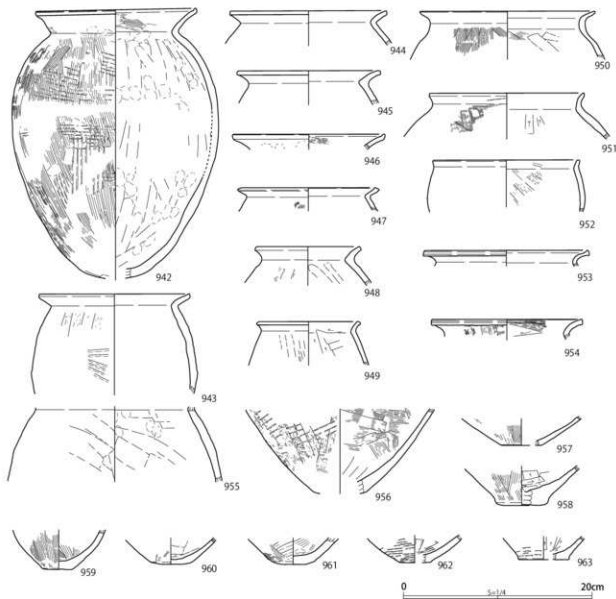
遺物出土状況 床面中央の下段部分及び北側のベッド状部分を中心として遺物が出土している。

出土遺物 924～975は弥生土器。924～927は広口壺、928は二重口縁壺、929は無頸壺である。942～963は甕である。964～970は鉢である。971～975は高杯である。976は土玉である。977は被熱した粘土塊。978はサヌカイト製の平基式土籤。979、980はサヌカイトの剥片である。981は結晶片岩製の石磨丁である。983は砂岩製の敲石。983～985は砂岩製の台石で金床石として利用されたと考えられる。986～993は鉄器。986～990は鉄鍔である。991は刀子、992、993は鉈と考えられる。

時期 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭の年代が想定される。



第 486 图 3-1 区 SB1001 出土遺物①



第487図 3-1区SB1001出土遺物②

1号溝 (SD1001) (第492図)

検出地点 Q46・47グリッド

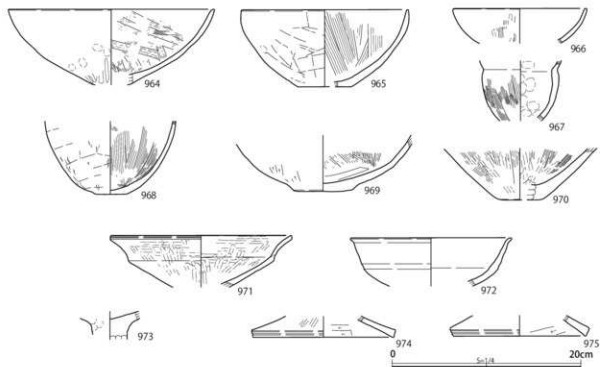
規模・形態 東西方向に延びる溝で、延長距離は4.40m、幅は0.65m、深さは0.38mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 オリーブ褐色砂質土が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。



第 488 図 3-1 区 SB1001 出土遺物③

水田 (SI) (第 479・493 図)

検出地点 Q・R48～51・S49～51 グリッド

規模・形態 調査区の北東部に位置しており、残存値で東西約 13m、南北約 13m の範囲から水田土壌が検出されている。畦は東西約 9m のものが 1 か所と、南北方向のものが島状に検出されている。方位はほぼ正方位を指向するとみられる。

土層 —

遺物出土状況 —

出土遺物 994 は土師器の杯で、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。995～998 は須恵器。995 は古墳時代の杯身である。996、997 は須恵器の杯、998 は壺である。何れも平安時代と考えられる。999～1001 は管状の土鍾である。1002～1013 は弥生土器。1002～1004 は広口壺、1006 は無頸壺である。1010～1013 は高杯である。

時期 出土した遺物や上部の遺構の時期などから平安時代～室町時代頃と考えられる。

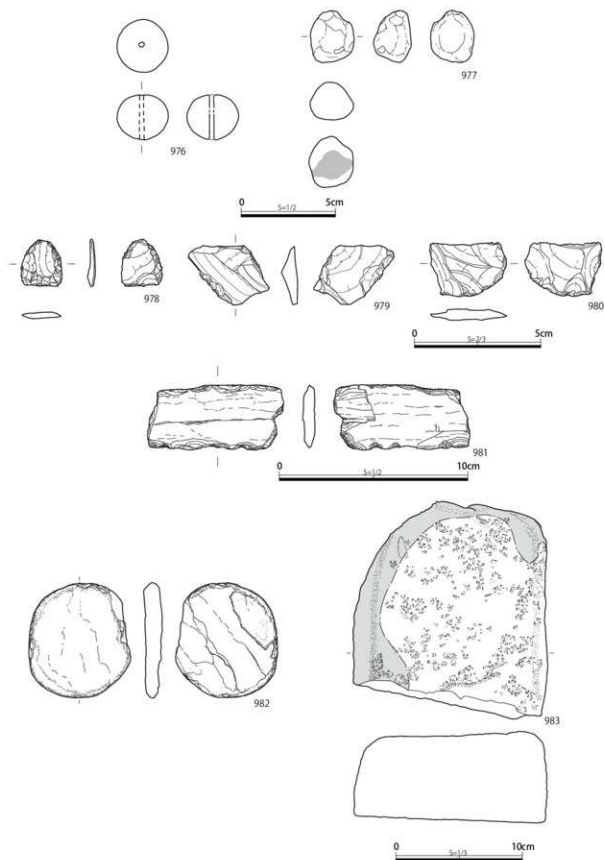
4 号土坑 (SK1004) (第 494・495 図)

検出地点 O48 グリッド

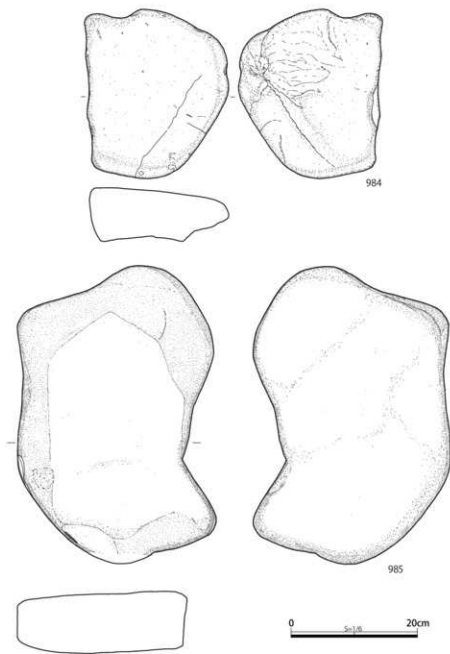
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.37m、深さは 0.14m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れにもふい黄褐色砂質土層で 2 層に分層される。

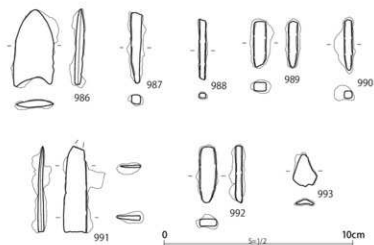
遺物出土状況 図化できるものはない。



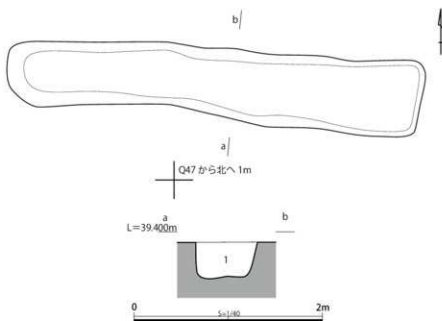
第 489 图 3-1 区 SB1001 出土遗物④



第 490 图 3-1 区 SB1001 出土遺物③

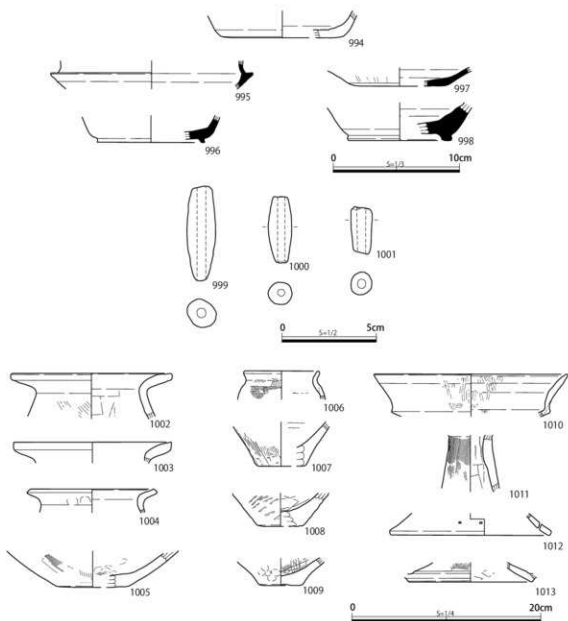


第491図 3-1区SB1001出土遺物⑥



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L1(199cm)埋付深1.15mナール層土の埋付部、L2(120cm)埋付深1.25mナール層土の埋付部、L3(100cm)埋付深1.35mナール層土の埋付部、L4(100cm)埋付深1.45mナール層土の埋付部

第492図 3-1区SD1001 平断面図 (1/40)



第 493 図 3-1 区 SI 出土遺物

出土遺物 1014 は弥生土器の甕である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

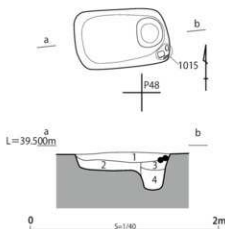
7号土坑 (SK1007) (第 496・497 図)

検出地点 P47・48 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、東端底面にビット状の掘り込みを伴う。長軸は 1.00m、短軸は 0.60m、深さは 0.56m を測る。断面の形状は 2 段形である。

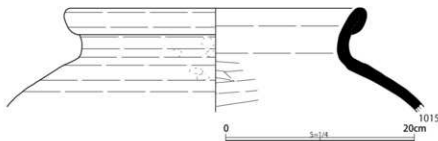
土層 どれも砂質土層で 4 層に分層される。2 層 (黄褐色砂質土層) を切るように 3、4 層 (にぶい黄褐色砂質土層) が堆積しており、その後 1 層 (灰オリーブ色砂質土層) が上面を覆っている。

遺物出土状況 東壁沿いの 1 層下部より土器が出土している。



- 1 灰オリーブ色 5Y 5/2 砂質土 しまり強い粘性弱い、2.5Y5/3黄褐色砂質土φ0.3cmを7%、黒土φ0.2cmを1%含む。
 2 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまりやや強い粘性弱い、5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.3~0.5cmを10%、黒土φ0.1cmを1%含む。
 3 紅土・黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり中強・粘性中強、5Y2/5灰オリーブ褐色土φ0.2cmを3%、2.5Y5/3黄褐色土φ0.2~0.3cmを1%含む。
 4 紅土・黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.2cmを3%含む。

第 496 図 3-1 区 SK1007 平面図 (1/40)



第 497 図 3-1 区 SK1007 出土遺物

出土遺物 1017 は管状の土鍾である。

時期 年代は特定できない。

31 号小穴 (SP1031) (第 502・503 図)

検出地点 P47 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.38m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 黄褐色砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化可能なものはない。

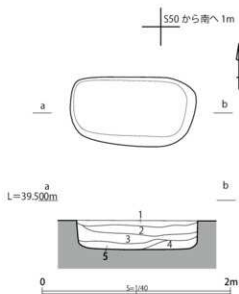
出土遺物 1018 は弥生土器の裏の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

60 号小穴 (SP1060) (第 504・505 図)

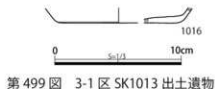
検出地点 P47 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.43m、短軸は 0.29m、深さは 0.22m を測る。断面の形状は丸底形である。

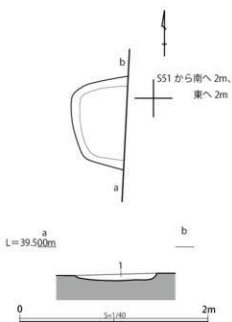


- 1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 L1層(中層・底層)の、S12層(1層)の砂質土(φ2.0mm以下)、S10層(2層)の黄褐色土(φ2.0mm以下)、S11層(3層)の赤褐色土(φ2.0mm以下)の混合体。
 2 灰色(黄褐色) 10YR 4/3 赤褐色土(φ2.0mm以下) L1層(中層・底層)の、S12層(1層)の砂質土(φ2.0mm以下)、S10層(2層)の黄褐色土(φ2.0mm以下)の混合体。
 3 灰色(黄褐色) 10YR 4/3 赤褐色土(φ2.0mm以下) L1層(中層・底層)の、S12層(1層)の砂質土(φ2.0mm以下)、S10層(2層)の黄褐色土(φ2.0mm以下)の混合体。
 4 灰色(黄褐色) 10YR 4/3 赤褐色土(φ2.0mm以下) L1層(中層・底層)の、S12層(1層)の砂質土(φ2.0mm以下)、S10層(2層)の黄褐色土(φ2.0mm以下)の混合体。
 5 灰色(黄褐色) 10YR 5/3 赤褐色土(φ2.0mm以下) L1層(中層・底層)の、S12層(1層)の砂質土(φ2.0mm以下)、S10層(2層)の黄褐色土(φ2.0mm以下)の混合体。

第 498 図 3-1 区 SK1013 出土遺物 (1/40)

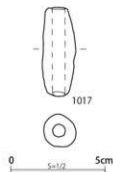


第 499 図 3-1 区 SK1013 出土遺物

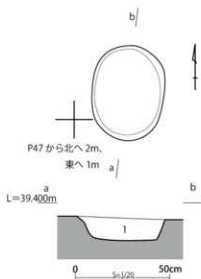


- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 シマリ強い粘性や弱い、S12/S13区オリーブ砂質土φ0.5~1.5mmを10%含む。

第 500 図 3-1 区 SK1017 平面図 (1/40)

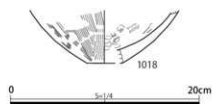


第 501 図 3-1 区 SK1017 出土遺物

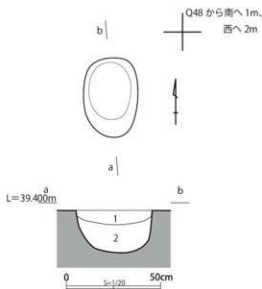


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 L.879(強)・粘性中程度、500(弱)オリーブ斑點±0.5~5mm径3%、100(弱)2黄褐色土a1=1.5mm径3%径0.

第 502 図 3-1 区 SP1031 平面図 (1/20)

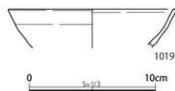


第 503 図 3-1 区 SP1031 出土遺物

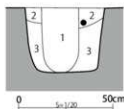
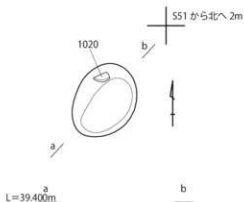


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 L.879(強)・粘性強、2.5(弱)黄斑點±0.2~8mm径20%径0.
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 L.879(中)強・粘性中程度、500(弱)オリーブ斑點±0.5~1mm径3%、黄a0.5~1.5径1%、黄±0.5mm径3%径0.

第 504 図 3-1 区 SP1060 平面図 (1/20)

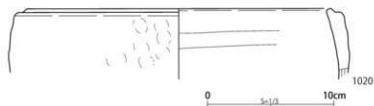


第 505 図 3-1 区 SP1060 出土遺物



- | | | | | | |
|----------|------|-----|-----|--------------|---|
| 1 黄褐色 | 2.5Y | 5/3 | 砂質土 | 上層中層(粘質中層ない) | SP155(オーブ)層±0.5~1.0m85%, 2.5Y7(2)黄褐色層±0.1~2.0m87%, 黄砂5~2.5m20%含む。 |
| 2 黄褐色 | 2.5Y | 5/4 | 砂質土 | 上層中層(粘質中層ない) | SP155(オーブ)層±0.5~1.5m87%, 黄砂5~1.8m%含む。 |
| 3 オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土 | 上層中層(粘質中層ない) | SP155(オーブ)層±0.3~2.0m87%, 黄砂1~1.5m3%, 黄砂1.5m87%含む。 |

第 506 図 3-1 区 SP1173 平面図 (1/20)



第 507 図 3-1 区 SP1173 出土遺物

土層 何れも砂質土層で 2 層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部にはオリーブ褐色砂質土層が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1019 は土師質土器の椀である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

173 号小穴 (SP1173) (第 506・507 図)

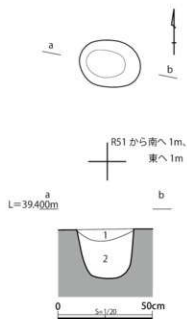
検出地点 S50 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.41m、短軸は 0.32m、深さは 0.34m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れも砂質土層で 3 層に分層され、1 層の黄褐色砂質土層は柱痕と考えられる。

遺物出土状況 2 層中より土器が出土している。

出土遺物 1020 は土師質土器の羽釜である。

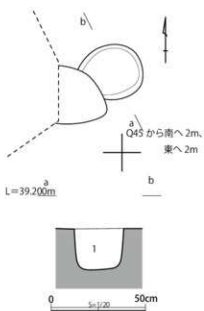


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 L5.0以内(磁石付不取)
 2 グレーゾー褐色 2.5Y 4/4 磁石付不取 L5.0以内(磁石付不取)、5.0以内(1層厚)2.05~4m以内不取。

第508図 3-1区 SP1177 平断面図 (1/20)

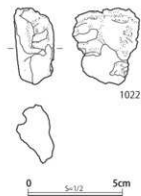


第509図 3-1区 SP1177 出土遺物

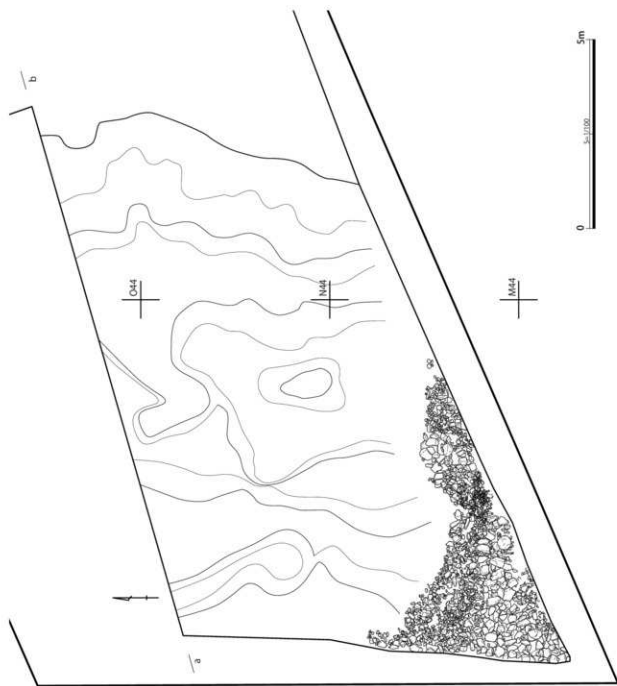


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い(粘性弱い)、厚φ2cm63%、焼土φ0.5~2cm65%含む。

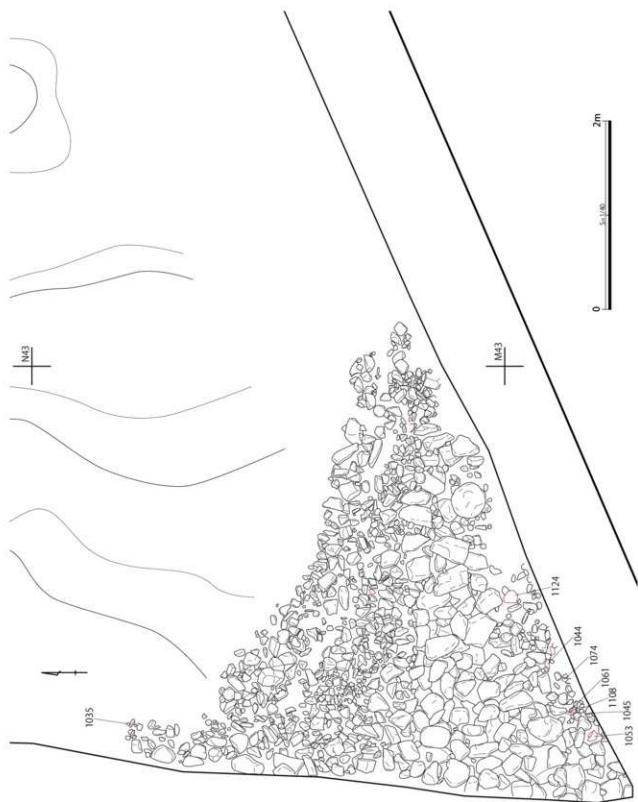
第510図 3-1区 SP1234 平断面図 (1/20)



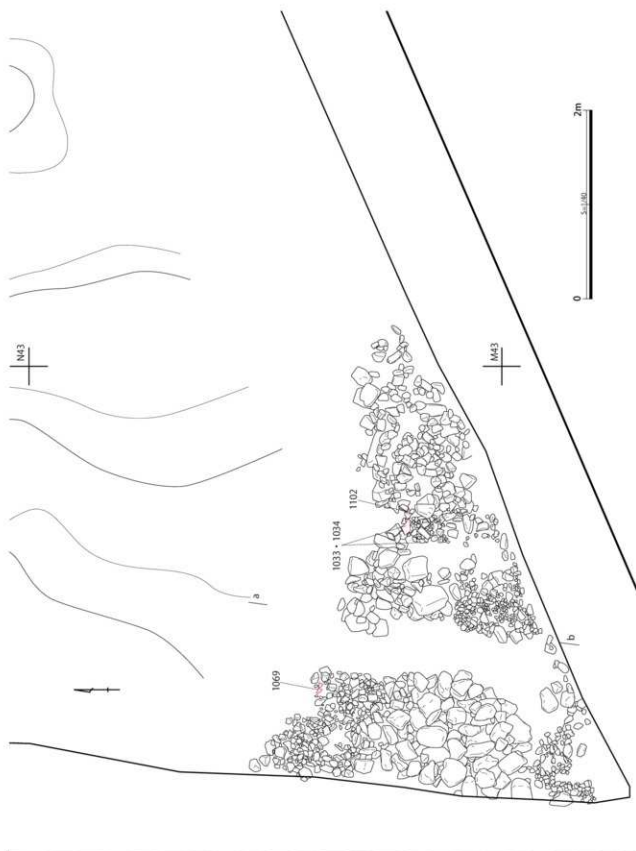
第511図 3-1区 SP1234 出土遺物



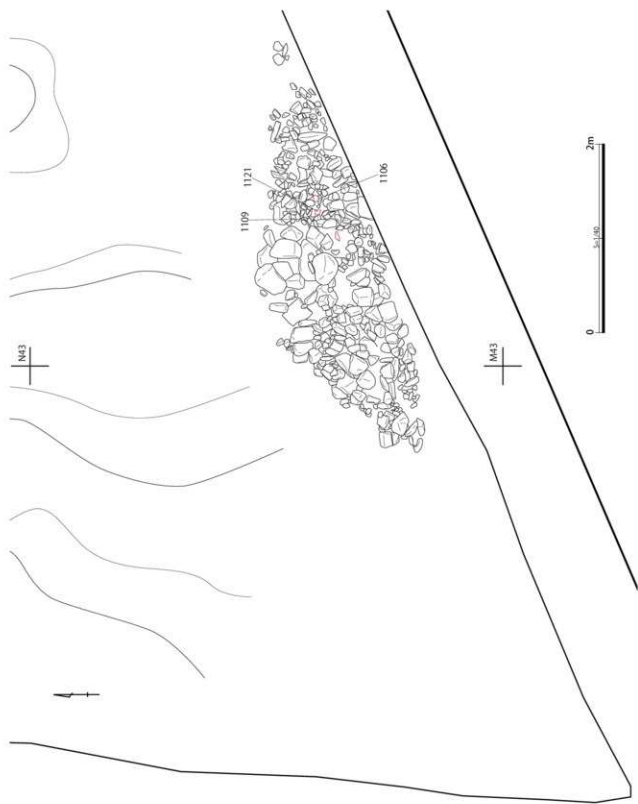
第 512 图 3-1 区 SR1001 平面图 (1/100)



第 514 図 3-1 区 SR1001 石積み平面図① (1/40)



第 515 図 3-1 区 SR1001 石積み平面図② (1/40)



第 516 図 3-1 区 SR1001 石積み平面図③ (1/40)

時期 出土した遺物から室町時代（15～16世紀）以降の年代が想定される。

177号小穴（SP1177）（第508・509図）

検出地点 Q51 グリッド

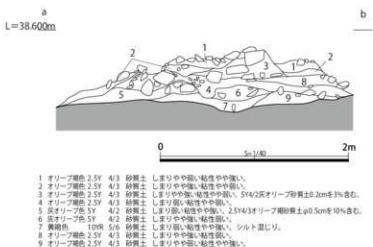
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.32m、短軸は0.25m、深さは0.26mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 何れも砂質土層で2層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部にはオリーブ褐色砂質土層が堆積している。

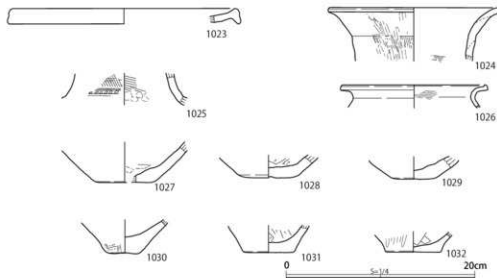
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1021は土師質土器の杯である。

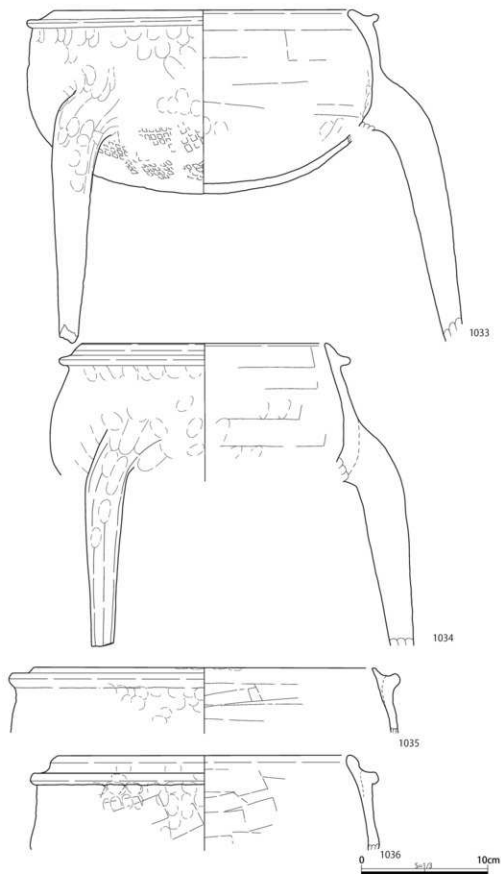
時期 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。



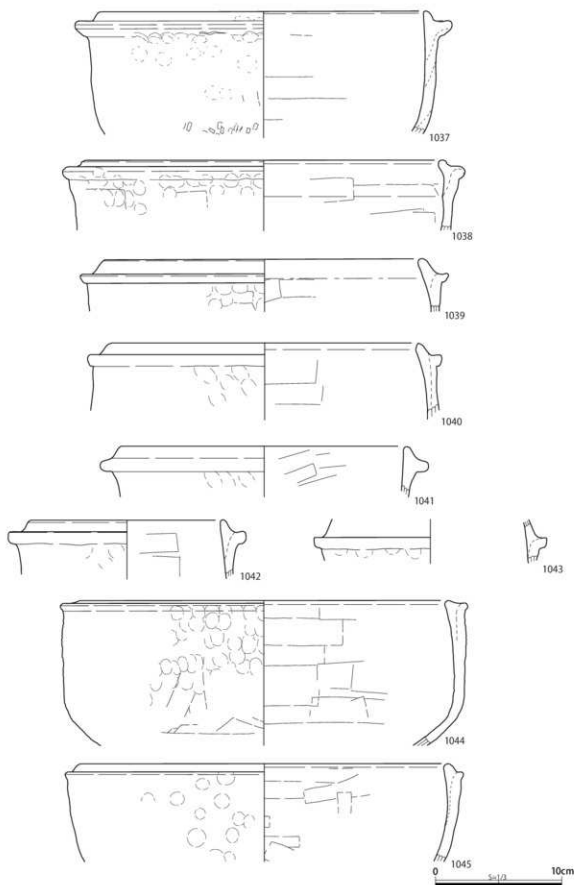
第517図 3-1区SR1001石積み断面図（1/40）



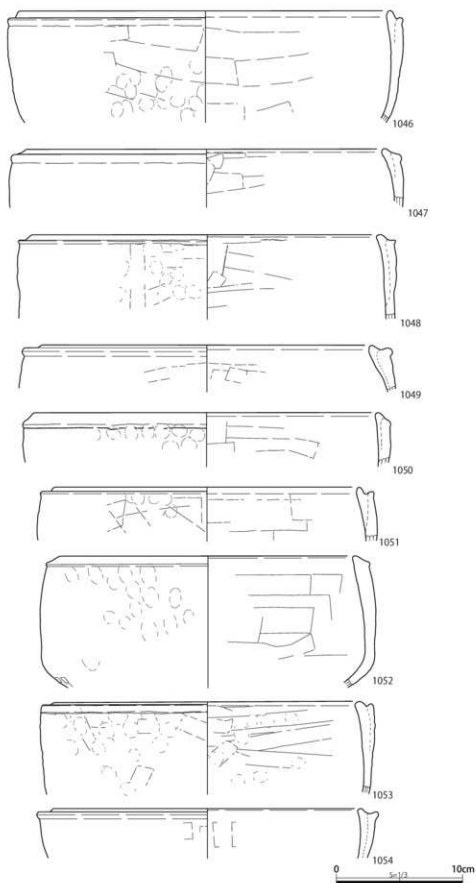
第518図 3-1区SR1001出土遺物①



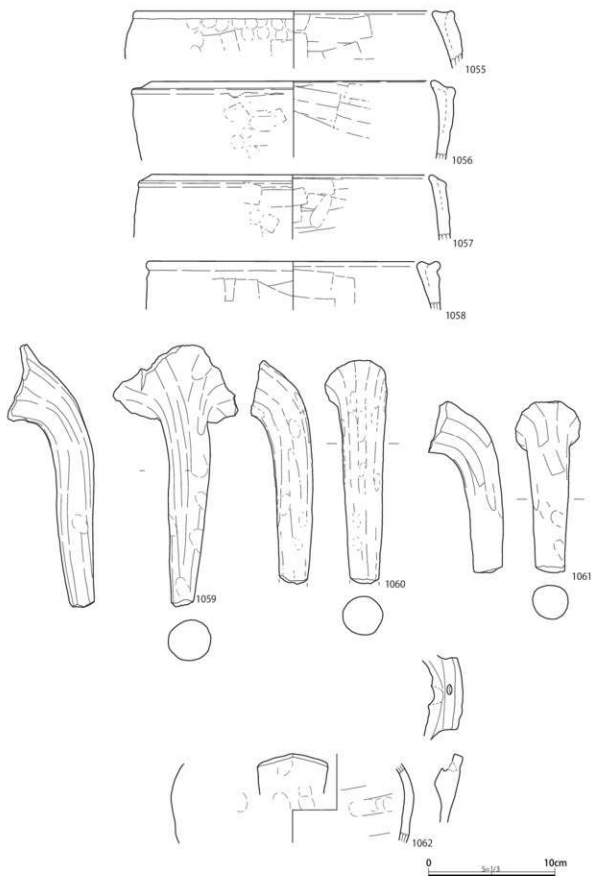
第 519 图 3-1 区 SR1001 出土遗物②



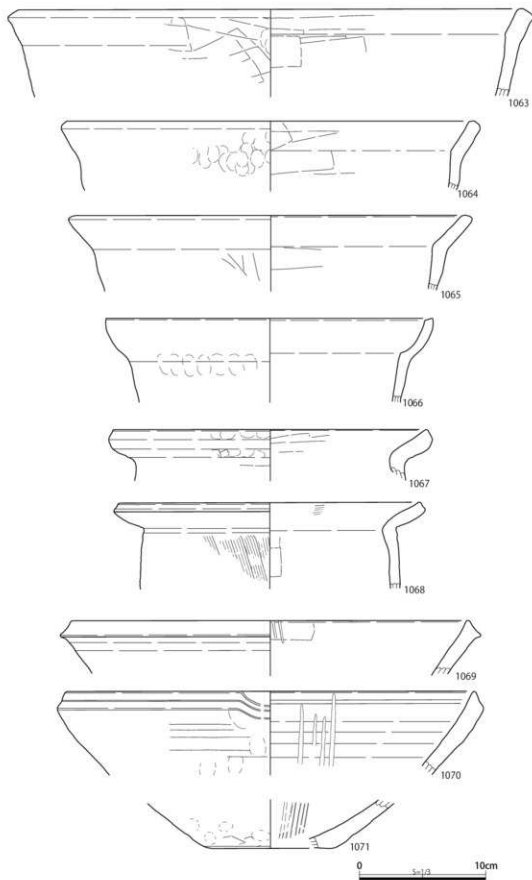
第 520 图 3-1 区 SR1001 出土遗物③



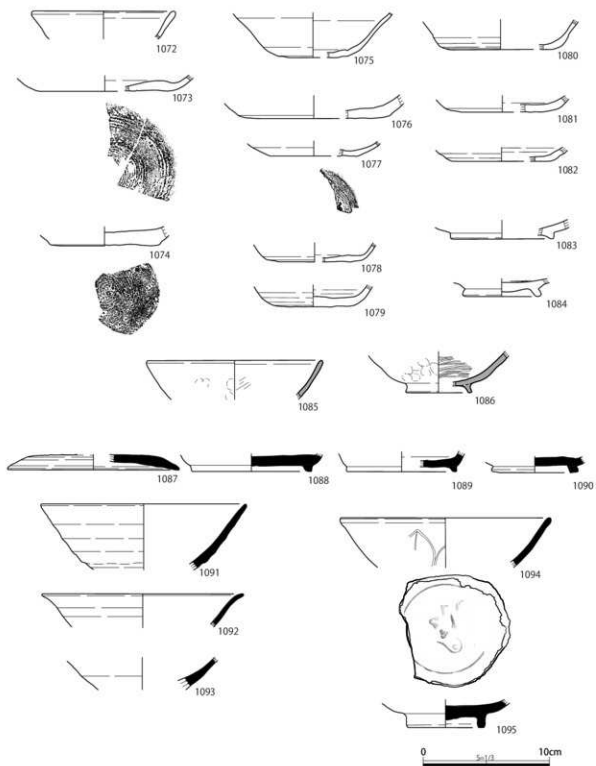
第 521 图 3-1 区 SR1001 出土遗物④



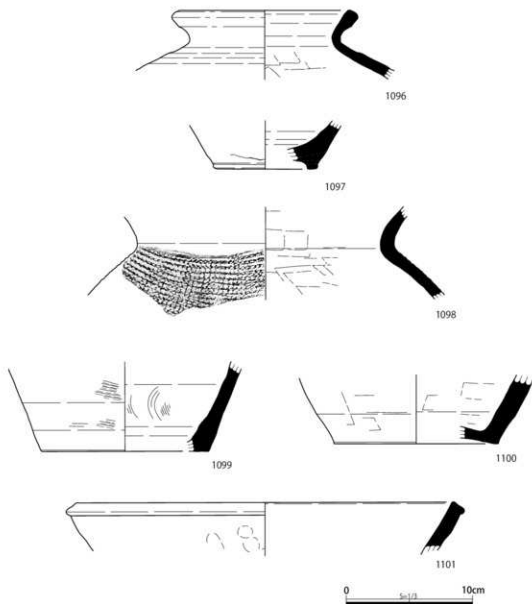
第 522 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑤



第 523 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑥



第 524 图 3-1 区 SR1001 出土遗物②



第 525 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑧

234 号小穴 (SP1234) (第 510・511 図)

検出地点 P45 グリッド

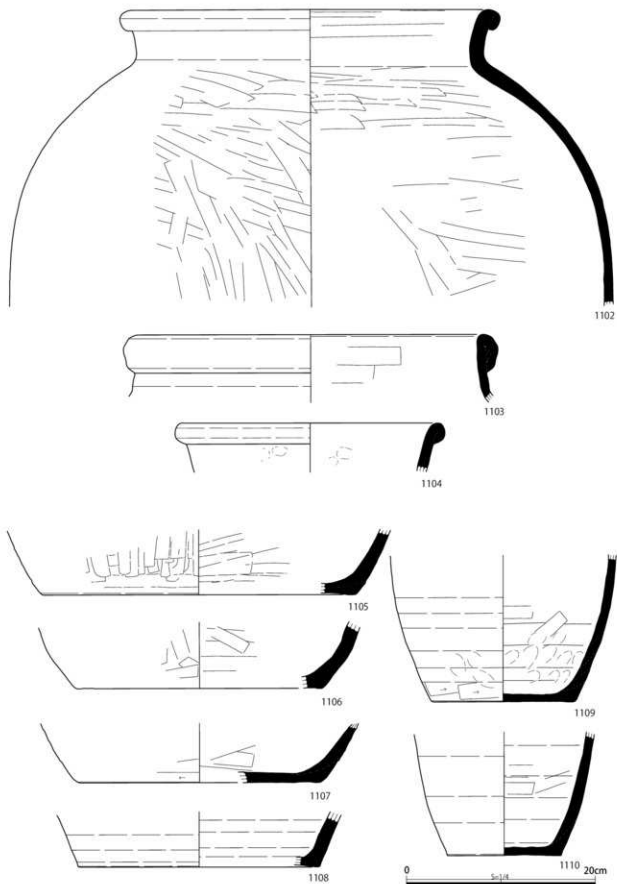
規模・形態 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、西側を SP1235 に切られている。残存値で長軸は 0.30m、短軸は 0.28m、深さは 0.22m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 黄褐色砂質土層が 1 層である。

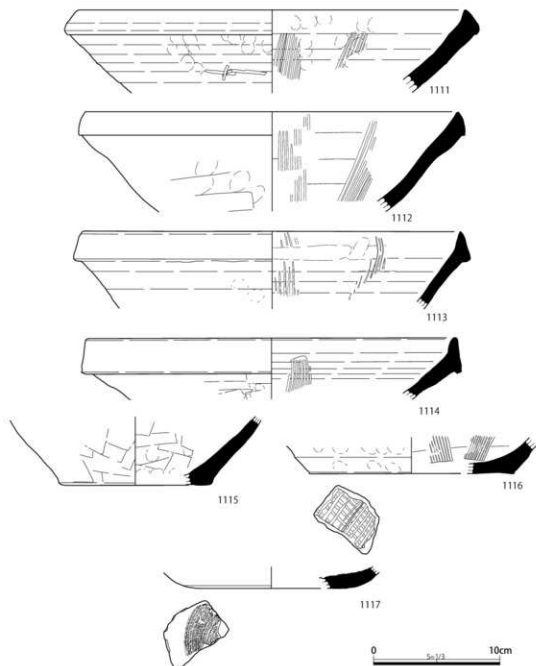
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1022 は羽口である。

時期 年代は特定できない。



第 526 图 3-1 区 SR1001 出土遗物⑨

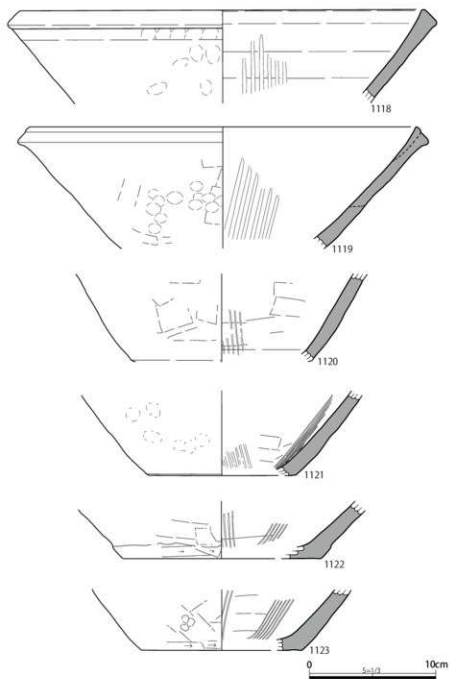


第 527 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑩

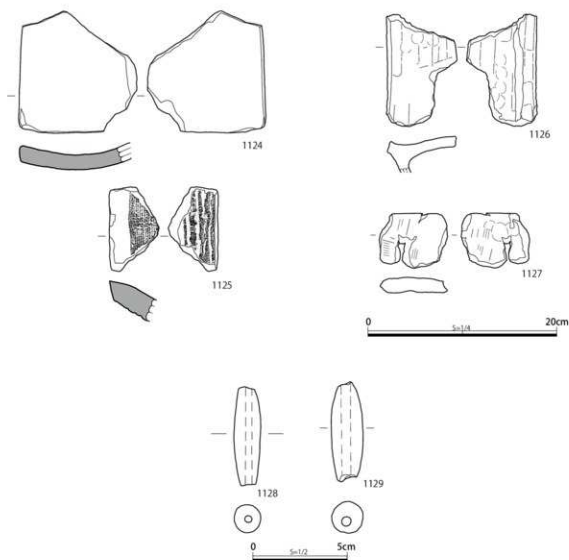
1号自然流路 (SR1001) (第 512 ~ 533 図)

検出地点 M・N・O42 ~ 44 グリッド

規模・形態 南北方向に流れていると考えられる自然流路であり、調査区内での延長距離は 10.30m、幅は 14.30m、深さは 1.70m を測る。断面の形状はほぼ中央部が深く、斜面部と平坦部を交えながら立ち上がっている。また流路内の南側からは流れに直交するように積み上げられた礫の集中の張り出しが検出されている。この張り出し状の部分はまず土を盛り上げ、その上に小礫混じりの土砂を堤状に盛っていき、最後に人頭大の大型の礫を頂部付近を中心に並べて石積み護岸状の突堤を築いているようであ



第 528 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑪



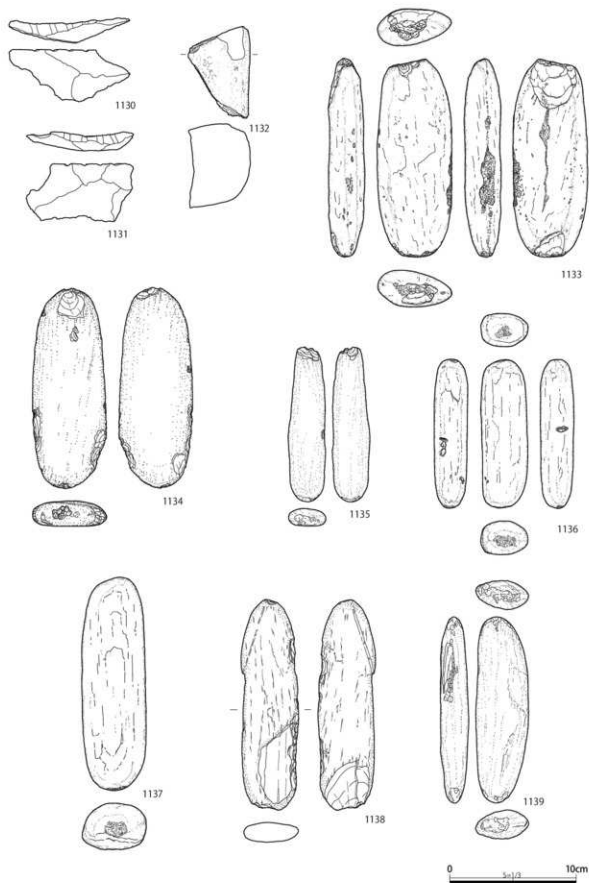
第529図 3-1区SR1001出土遺物⑫

る。基底部部分などに杭などは検出されていない。

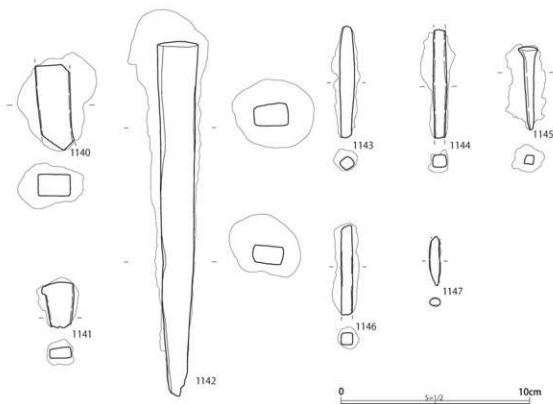
土層 27層に分層されており、上部の1、2層にオリーブ褐色砂質土層、その下の3、4層にぶい黄褐色砂質土層がそれぞれ30～40cm堆積しており、流れの中央部最下層には0.5～1cm程度の小礫を主体とした礫層が厚いところでは60cm近く堆積している。石積み護岸状の遺構の大型礫下の盛土部分は9層に分層されており、基底部は灰オリーブ色砂質土、黄褐色砂質土が存在し、上部の礫が多く混じる部分には主にオリーブ褐色砂質土が盛土として利用されている。

遺物出土状況 盛土上の小型礫の中やその上部の大型礫の隙間などから土器が出土している。また弥生土器や同時代とみられる石器類は流路の埋土中を中心として出土している。

出土遺物 1023～1032は弥生土器である。前期～終末までの複数の時期が存在している。1033～1058は土師質土器の羽釜である。鈷部は短めで端部をやや丸く収めるものと(1033～1043)、鈷部が退化しているもの(1044～1058)の大きく2者が存在している。1059～1061は土師質土器の煮沸具の脚部である。1062は土師質土器の茶釜である。1063～1066は土師質土器の鍋である。



第 530 图 3-1 区 SR1001 出土遗物③



第 531 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑭

1067・1068 は土師質土器の甕である。1069～1071 は土師質土器の搦鉢である。1072～1084 は土師質土器の杯である。1073、1074、1077 は底部の切り離しは回転糸切りである。1085、1086 は瓦器碗である。1086 はやや古く 11 世紀後半～12 世紀前半頃とみられる。1087～1090 は須恵器。1087 は蓋で、1088～1090 は杯である。1091 は瀬戸の灰軸陶器の椀である。1092、1093 は白磁の碗である。1094、1095 は龍泉窯系青磁の碗である。1096、1097 は須恵器の壺、1098～1100 は須恵器の甕である。1101 は東播系須恵器の捏鉢である。1102～1116 は備前焼の陶器。1102～1110 は甕である。1111～1116 は搦鉢である。1117 は瀬戸焼のおろし目皿である。1118～1123 は瓦質土器の搦鉢である。1124、1125 は平瓦である。1126、1127 は置き竈である。1128、1129 は管状土錘である。1130、1131 は砂岩の石臼である。1132 は敲打痕の残る砂岩の台石。1133～1139 は片岩製の敲き石である。1140～1147 は鉄製品。1140～1142 は杭状の大型の鉄器である。1143～1147 は釘と考えられる。1148～1154 は羽口片である。1155～1162 はスラグである。

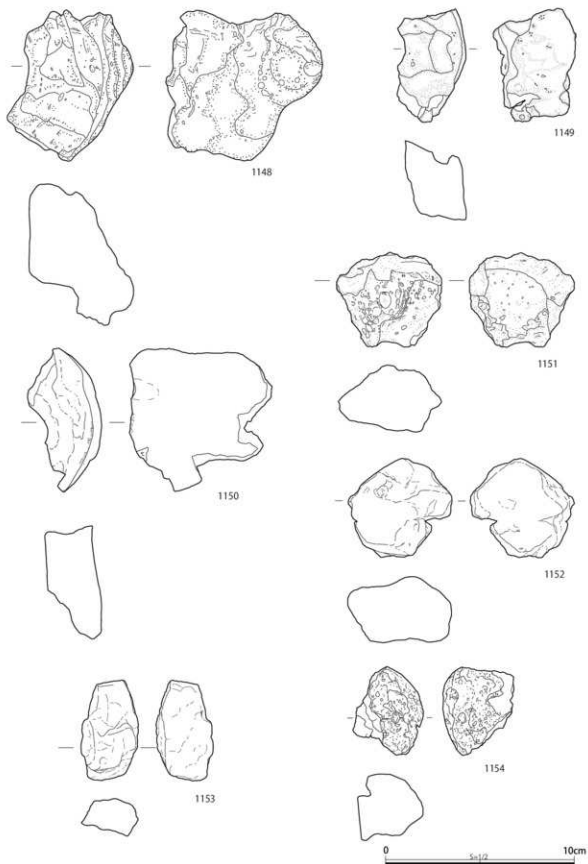
時期 石積み護岸状の礫層内から出土した遺物の年代から室町時代(15 世紀)以降の年代が想定される。

4 号性格不明遺構 (SX1004) (第 534・535 図)

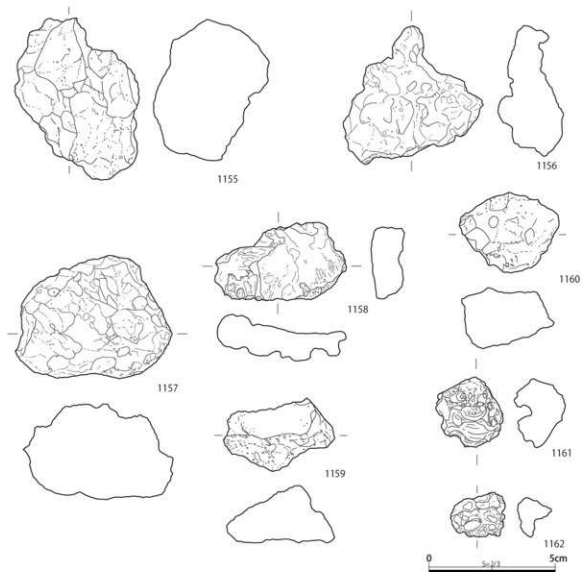
検出地点 Q51 グリッド

規模・形態 平面形状は長楕円形を呈し、長軸は 1.32m、短軸は 0.42m、深さは 0.38m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 上部は砂質土層、下部の 2 層はシルト混じり砂質土層で 3 層に分層される。色調はオリーブ褐色と暗灰黄色の層が互層に堆積している。



第 532 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑮



第533図 3-1区SR1001出土遺物⑩

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1163は土師質土器の裏である。

時期 出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

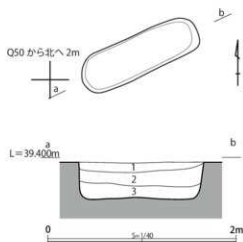
5号性格不明遺構 (SX1005) (第536図)

検出地点 P・Q50グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.94m、短軸は1.48m、深さは0.20mを測る。断面の形状は舟底形である。

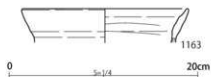
土層 どれも砂質土層で6層に分層され、最下層の6層(暗灰黄色砂質土層)においてはややシルトが混じる。また4層(黄褐色砂質土層)中には若干焼土が含まれている。

遺物出土状況 図化できるものはない。

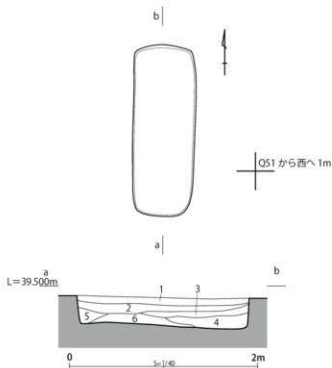


- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 Lより強く磁気中強、SIS2部オリーブ暗黄土pH5~1.5m弱酸性、重g1.5m弱酸性
 2 褐色黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり Lより中強く磁気中強、SIS2部オリーブ暗黄土pH5~2m弱酸性、重g1.5m弱酸性
 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土・シルト混じり Lより中強く磁気中強、SIS2部オリーブ暗黄土pH5~1.5m弱酸性、SIS6(1層)砂質土pH5~2m弱酸性

第 534 図 3-1 区 SX1004 平断面図 (1/40)

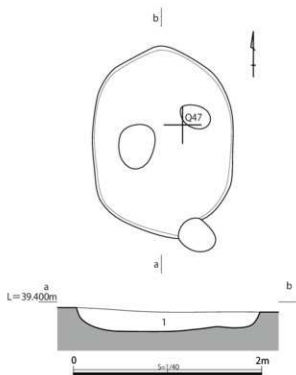


第 535 図 3-1 区 SX1004 出土遺物



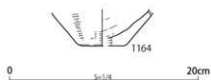
- 1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 Lより強く磁気中強、SIS2部オリーブ暗黄土pH5~1.5m弱酸性
 2 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 Lより中強く磁気中強、SIS2部オリーブ暗黄土pH5~2m弱酸性、重pH2~2m弱酸性
 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 Lより中強く磁気中強、SIS2部オリーブ暗黄土pH5~1.5m弱酸性、SIS6(1層)砂質土pH5~2m弱酸性
 4 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 Lより中強く磁気中強、SIS6(1層)砂質土pH5~2.5m弱酸性、重g1.5~2m弱酸性
 5 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 Lより中強く磁気中強
 6 褐色黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり Lより中強く磁気中強

第 536 図 3-1 区 SX1005 平断面図 (1/40)



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土、L層の下部・底層は強い、SIS深サロー層層±0.45~1.0m以内、厚0.20m程度。

第 537 図 3-1 区 SX1007 平面図 (1/40)



第 538 図 3-1 区 SX1007 出土遺物

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。

7号性格不明遺構 (SX1007) (第 537・538 図)

検出地点 P・Q46 グリッド

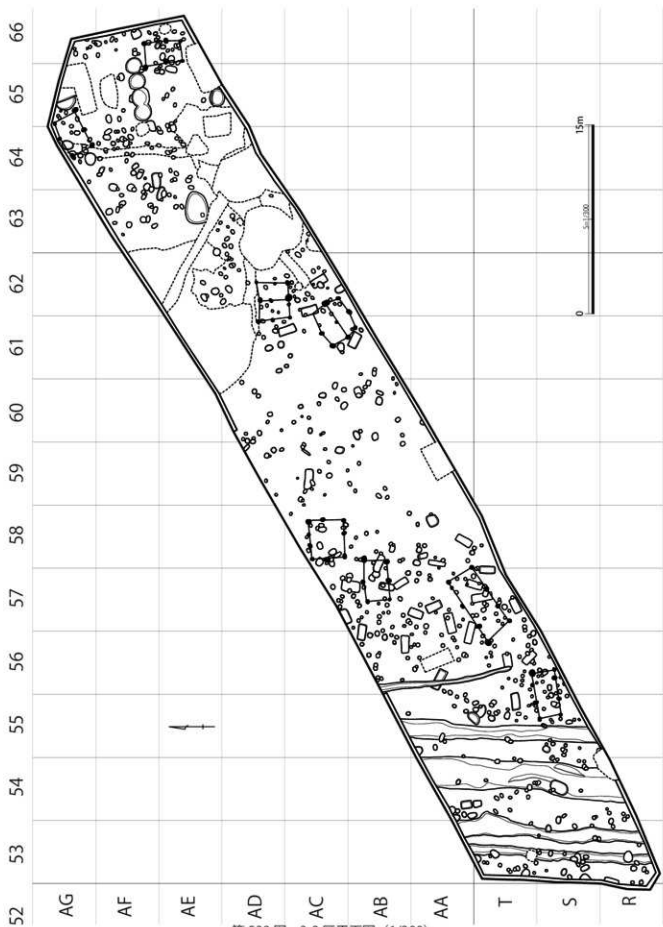
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 1.94m、短軸は 1.48m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

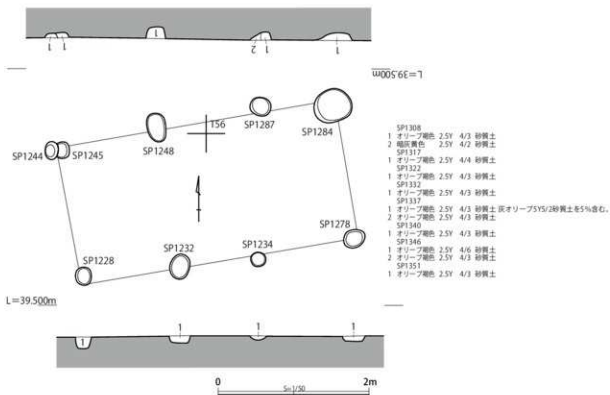
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1164 は弥生土器の裏の底部である。

時期 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。



第539图 3-2区平面图 (1/300)



第 540 図 3-2 区 SA1001 平面図 (1/50)

(9) 3-2 区 (第 539 図)

3-2 区から検出された遺構は掘立柱建物 (SA) が 8 軒、溝 (SD) が 5 条、土坑 (SK) が 78 基、小穴 (SP) が 684 基、性格不明遺構 (SX) が 6 基となっている。

1 号掘立柱建物 (SA1001) (第 540 図)

検出地点 S・T55・56 グリッド

規模・形態 梁間 1 間 (1.83m) × 桁行 3 間 (3.70m)、床面積 6.77㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 80° - E である。

土層 オリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

遺物出土状況 SP1248 から遺物が出土している。

出土遺物 個別遺構で後述。

時期 出土した遺物や建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

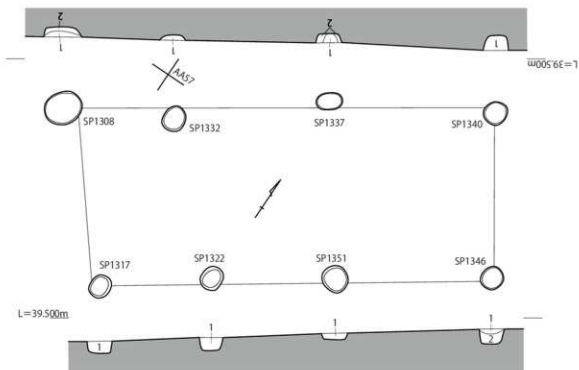
2 号掘立柱建物 (SA1002) (第 541 図)

検出地点 T56・57・AA57

規模・形態 梁間 1 間 (2.25m) × 桁行 3 間 (5.50m)、床面積 12.38㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 55° - E である。

土層 オリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。



- SP1308
 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
 SP1317
 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土
 SP1322
 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
 SP1332
 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
 SP1337
 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
 SP1340
 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
 SP1346
 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
 SP1351
 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- 灰オリーブ5Y5/2砂質土85%含む。

第 541 図 3-2 区 SA1002 平面図 (1/50)

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

3号掘立柱建物 (SA1003) (第 542 図)

検出地点 AB57・58 グリッド

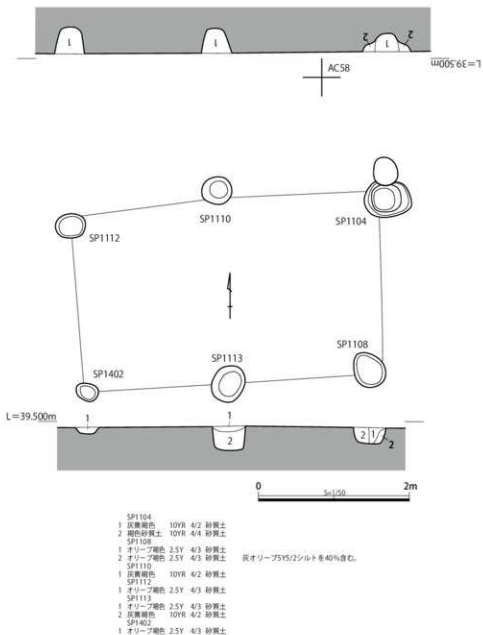
規模・形態 梁間 1 間 (2.40m) × 桁行 2 間 (4.05m)、床面積 9.72㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - E である。

土層 灰黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

遺物出土状況 SP1113 から鉄器が出土している。

出土遺物 個別遺構で後述。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。



第542図 3-2区 SA1003 平面図 (1/50)

4号掘立柱建物 (SA1004) (第543図)

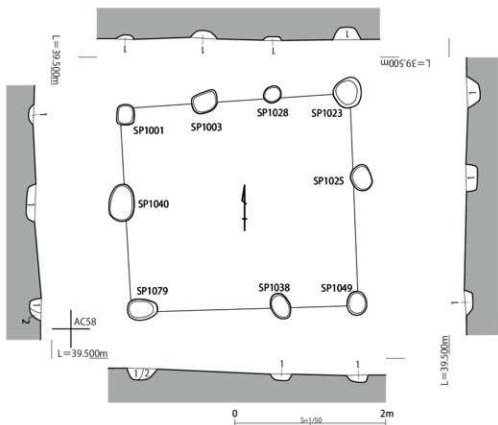
検出地点 AC58 グリッド

規模・形態 梁間2間 (2.85m) × 桁行3間 (3.05m)、床面積 8.69㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - E である。

土層 灰黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。



- SP1001
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- SP1003
- 1 黄褐色 10YR 4/2 砂質土
- SP1023
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- SP1025
- 1 にごい黄褐色 10YR 5/3 砂質土
- SP1028
- 1 黄褐色 10YR 4/2 砂質土
- SP1038
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土
- SP1040
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土
- SP1049
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- SP1079
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土
- 2 褐色 10YR 4/4 砂質土

第 543 図 3-2 区 SA1004 平断面図 (1/50)

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

5号掘立柱建物 (SA1005) (第 544 図)

検出地点 AB・AC61・62 グリッド

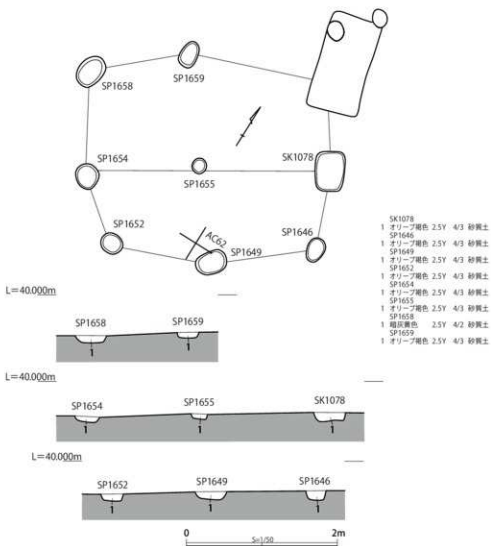
規模・形態 梁間 2 間 (2.70m) × 桁行 2 間 (3.30m)、床面積 8.91 m² の総柱建物である。建物の主軸方向は N - 50° - E である。

土層 暗灰黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。



第 544 図 3-2 区 SA1005 平断面図 (1/50)

6号掘立柱建物 (SA1006) (第 545 図)

検出地点 AC・AD61・62 グリッド

規模・形態 梁間 2間 (2.50m) × 桁行 2間 (3.10m)、床面積 7.75㎡の総柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - E である。

土層 オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

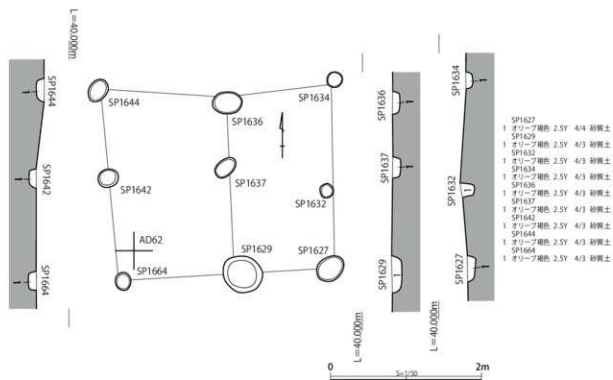
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

7号掘立柱建物 (SA1007) (第 546 図)

検出地点 AG64・65 グリッド



第 545 図 3-2 区 SA1006 平面図 (1/50)

規模・形態 梁間 1 間 (1.95m) × 桁行 2 間 (3.00m)、床面積 5.85㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は $N-62^{\circ}-E$ である。

土層 オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

8 号掘立柱建物 (SA1008) (第 547 図)

検出地点 AE・AF65・66 グリッド

規模・形態 梁間 1 間 (1.73m) × 桁行 2 間 (3.00m)、床面積 5.19㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は $N-4^{\circ}-E$ である。

土層 暗灰黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層を主体として 1～2 層に分層される。

遺物出土状況 図化できるものはない。

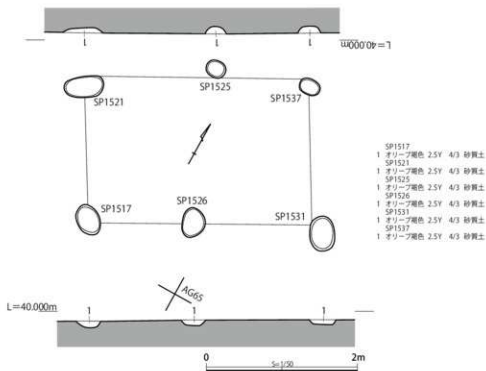
出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 建物の主軸方向から中世以降の年代が想定される。

1 号溝 (SD1001) (第 548 図)

検出地点 R～AA53 グリッド

規模・形態 南北方向に延びる溝で、南北両端部に調査区外に延びている。残存値で延長距離は 14.40m、幅は 0.76m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は皿形である。



第 546 図 3-2 区 SA1007 平面図 (1/50)

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 隣接して存在する溝 (SD1002 ~ 1004) との方位と揃っていることから中世以降の年代が想定される。

2 号溝 (SD1002) (第 548・550 図)

検出地点 R ~ AA53・T・AA54 グリッド

規模・形態 南北方向に延びる溝で、南北両端部に調査区外に延びている。残存値で延長距離は 14.40m、幅は 0.95m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 どれもオリーブ褐色砂質土層で 2 層に分層される。

遺物出土状況 北半部を中心として土器や砂岩礫が出土している。

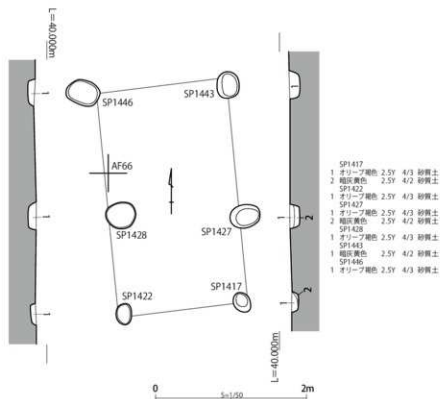
出土遺物 1165 は黒色土器 (A 類) の椀である。1166 は土師質土器の羽釜である。1167 ~ 1170 は鉄製の釘である。1171、1172 はスラグである。

時期 出土した遺物から鎌倉~室町時代 (14 世紀) 以降の年代が想定される。

3 号溝 (SD1003) (第 548・549・551 図)

検出地点 R ~ AA54 グリッド

規模・形態 南北方向に延びる溝で、南北両端部に調査区外に延びている。残存値で延長距離は 15.00m、幅は 1.28m、深さは 0.18m を測る。断面の形状は皿形である。



第 547 図 3-2 区 SA1008 平断面図 (1/50)

- SP1417
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- 2 灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- SP1422
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- SP1427
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- 2 灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- SP1428
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- SP1443
- 1 灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- SP1446
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土

土層 どれもシルト混じり砂質土層で3層に分層され、上部にオリーブ褐色砂質土層、下部には黄褐色砂質土層が堆積している。

遺物出土状況 南半の肩部より土器が出土している。

出土遺物 1173～1175は土師質土器。1173は羽釜、1174は羽釜の脚部、1175は搥鉢である。1176は須恵器の平瓶である。1177、1178は陶器の備前焼。1177は搥鉢、1178は甕である。1179はスラグである。

時期 出土した遺物から鎌倉～室町時代（14世紀）以降の年代が想定される。

4号溝 (SD1004) (第548・549・552図)

検出地点 S～AB55グリッド

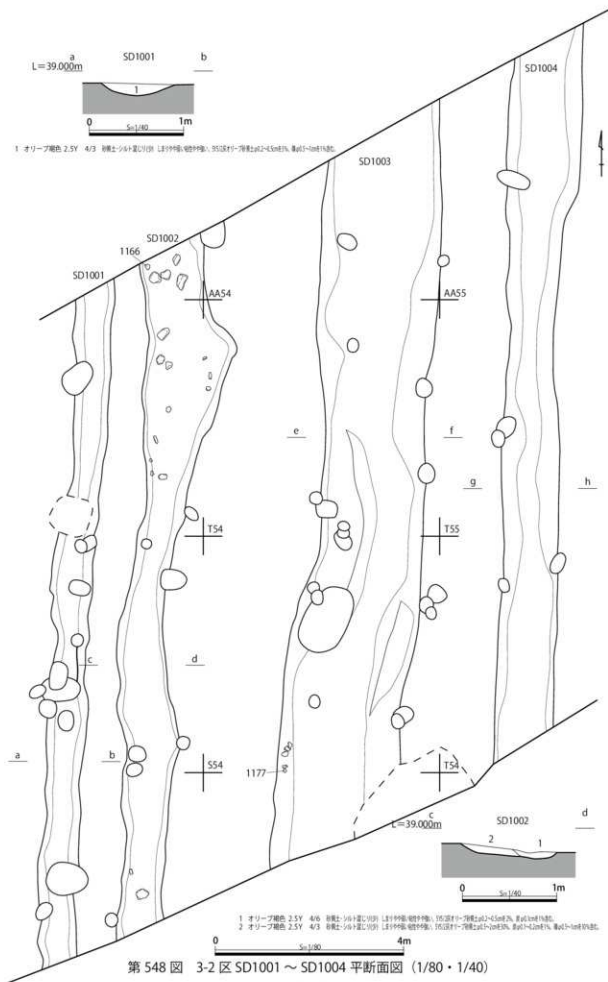
規模・形態 南北方向に延びる溝で、南北両端部に調査区外に延びている。残存値で延長距離は14.80m、幅は0.80m、深さは0.07mを測る。断面の形状は皿形である。

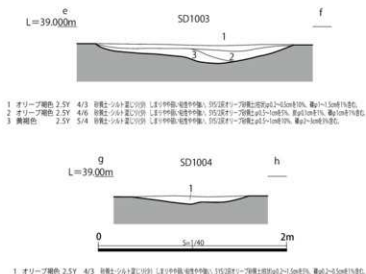
土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

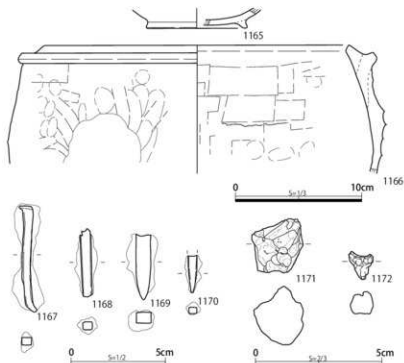
出土遺物 1180、1181はスラグである。

時期 隣接して存在する溝 (SD1001～1003) の方位と揃っていることから中世以降の年代が想定される。





第 549 図 3-2 区 SD1003・SD1004 断面図 (1/40)



第 550 図 3-2 区 SD1002 出土遺物

28号土坑 (SK1028) (第 553・554 図)

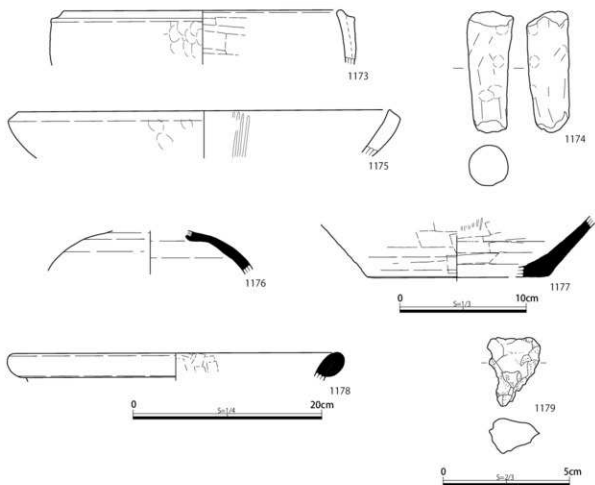
検出地点 AA58 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 0.80m、短軸は 0.43m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は 2 段形である。

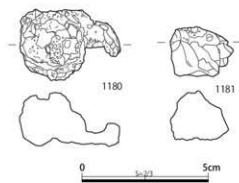
土層 灰黄褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

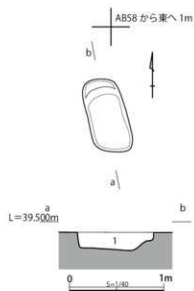
出土遺物 1182 は瓦質土器の挿鉢である。



第 551 图 3-2 区 SD1003 出土遗物

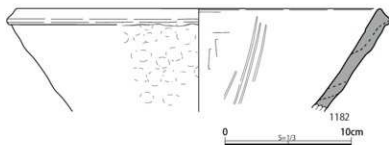


第 552 图 3-2 区 SD1004 出土遗物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 細土・シルト混じり 土層に砂質土層、上部にオリブ褐色土層、下部には暗灰黄色砂質土層が堆積している。

第 553 図 3-2 区 SK1028 平面図 (1/40)



第 554 図 3-2 区 SK1028 出土遺物

時期 出土した遺物から鎌倉～室町時代（14 世紀）以降の年代が想定される。

31 号土坑 (SK1031) (第 555 図)

検出地点 AA58 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.30m、短軸は 0.60m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 どれもシルト混じり砂質土層で 3 層に分層され、上部にオリブ褐色砂質土層、下部には暗灰黄色砂質土層が堆積している。

遺物出土状況 北側底部付近より人頭大の砂岩の扁平な碟が出土している。

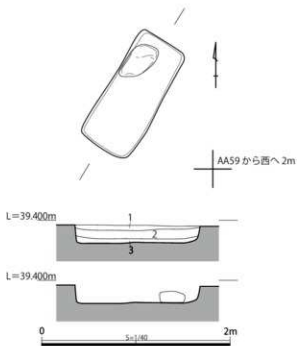
出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。

33 号土坑 (SK1033) (第 556・557 図)

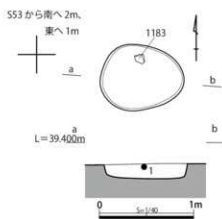
検出地点 R53 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.88m、短軸は 0.70m、深さは 0.16m を測る。断面の



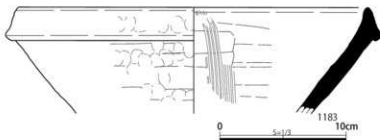
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 肌裏に赤土混じりあり。L部中央部・袖部等にも、50度斜めに深部を沿って同心円状に、黒く染め付いた。
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 肌裏に赤土混じりあり。L部中央部・袖部等にも、50度斜めに深部を沿って同心円状に、黒く染め付いた。
 3 褐色黄色 2.5Y 4/2 肌裏に赤土混じりあり。L部中央部・袖部等にも、50度斜めに深部を沿って同心円状に、黒く染め付いた。

第 555 図 3-2 区 SK1031 平断面図 (1/40)

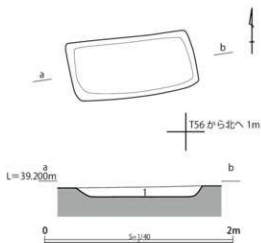


- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 肌裏に赤土混じりあり。L部中央部・袖部等にも、50度斜めに深部を沿って同心円状に、黒く染め付いた。

第 556 図 3-2 区 SK1033 平断面図 (1/40)

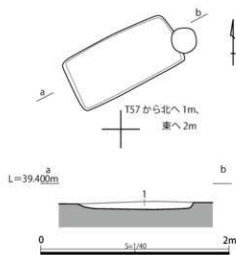


第 557 図 3-2 区 SK1033 出土遺物



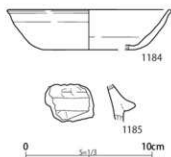
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 弱粘土質(黄褐色) 土質(黄褐色) 50% 50% 50% 50% 50% 50% 50% 50% 50% 50%

第 558 図 3-2 区 SK1048 平断面図 (1/40)



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 弱粘土質(黄褐色) 土質(黄褐色) 50% 50% 50% 50% 50% 50% 50% 50% 50% 50%

第 559 図 3-2 区 SK1053 平断面図 (1/40)



第 560 図 3-2 区 SK1053 出土遺物

形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 遺構上面付近から土器が出土している。

出土遺物 1183 は陶器で備前焼の搦鉢である。

時期 出土した遺物から室町時代 (14 世紀後半) 以降の年代が想定される。

48 号土坑 (SK1048) (第 558 図)

検出地点 T55・56 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.33m、短軸は 0.64m、深さは 0.11m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。

53 号土坑 (SK1053) (第 559・560 図)

検出地点 T57 グリッド

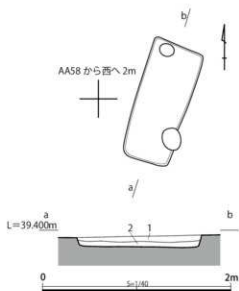
規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、東側を SP1320 に切られている。長軸は 1.18m、短軸は 0.60m、深さは 0.07m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

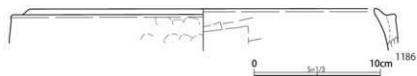
出土遺物 1184、1185 は土師質土器。1184 は杯、1185 は羽釜である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代 (14 世紀) 以降の年代が想定される。



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘土・シルト混じり砂質土層 (L1999粘・粘中層、S552粘1層・粘2層、粘2・粘中層、粘3層・粘中層)
 2 黄褐色 2.5Y 5/4 粘土・シルト混じり砂質土層 (L1999粘・粘中層、S552粘1層・粘2層、L150粘中層・粘2層、粘2層・粘中層)

第 561 図 3-2 区 SK1057 平面図 (1/40)



第 562 図 3-2 区 SK1057 出土遺物

57号土坑 (SK1057) (第561・562図)

検出地点 T・AA57 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、東側を SP1350 に切られている。長軸は 1.27m、短軸は 0.57m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は皿形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、上部にオリーブ褐色砂質土層、下部には黄褐色砂質土層が堆積している。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1186 は土師質土器の羽釜である。

時期 出土した遺物から室町時代 (15～16 世紀) 以降の年代が想定される。

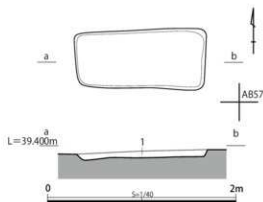
62号土坑 (SK1062) (第563図)

検出地点 AB56 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.37m、短軸は 0.67m、深さは 0.07m を測る。断面の形状は皿形である。

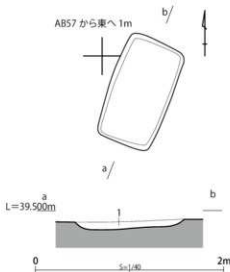
土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。



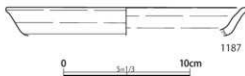
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 硬土・シルト混じり 0.15m厚 磁器類、瓦器類・土器類・土師器類、銅器類・鉄器類

第563図 3-2区 SK1062 平断面図 (1/40)



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 硬土・シルト混じり 0.15m厚 磁器類、瓦器類・土器類・土師器類、銅器類・鉄器類

第564図 3-2区 SK1063 平断面図 (1/40)



第565図 3-2区 SK1063 出土遺物

出土遺物 図化可能な遺物は出土していない。

時期 年代は特定できない。

63号土坑(SK1063) (第564・565図)
検出地点 AA・AB57 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.15m、短軸は0.70m、深さは0.08mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1187は土師質土器の皿である。内外面に赤色顔料の塗布が認められる。

時期 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。

68号土坑(SK1068) (第566・567図)
検出地点 AF64・65 グリッド

規模・形態 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、北側は攪乱に切られている。残存値で長軸は0.90m、短軸は0.48m、深さは0.10mを測る。断面の形状は皿形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

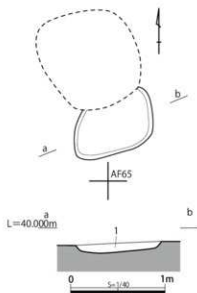
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1188は肥前系磁器の碗である。1189は鉄製の釘である。

時期 出土した遺物から江戸時代(17世紀)以降の年代が想定される。

77号土坑(SK1077) (第568・569図)
検出地点 AB61 グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.20m、短軸は0.72m、深さは0.08mを測る。断面の形状は皿形である。



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 弱粘土質(混じり) L:1199mm(底径) 15.5cm(口径) 5.0cm(高) 5.0cm(底径) 5.0cm(底径)

第 566 図 3-2 区 SK1068 断面図 (1/40)



第 567 図 3-2 区 SK1068 出土遺物

る。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1190 は須恵器の杯である。

時期 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。

69 号小穴 (SP1068) (第 570・571 図)

検出地点 AB60 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.30m、深さは 0.15m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1191 は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の年代が想定される。

99 号小穴 (SP1099) (第 572・573 図)

検出地点 AB・AC57 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.43m、短軸は 0.35m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 灰黄褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1192 は鉄製の釘である。

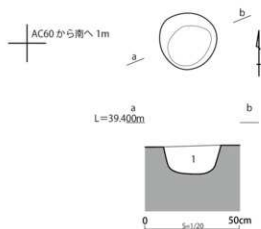
時期 年代は特定できない。

109 号小穴 (SP1109) (第 574・575 図)

検出地点 AB57・58 グリッド

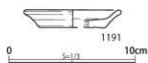
規模・形態 平面形状は円形を呈し、径は 0.25m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は北側に傾斜するような形となっている。

土層 何れもオリーブ褐色シルト混じり砂質土

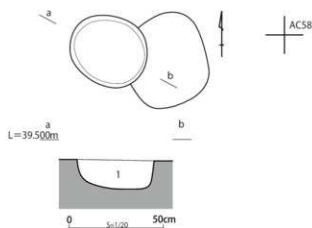


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) 13199(無)磁石付物; 1195(注付)〜1992(注付)〜1047(注付); 1042(注付)〜1043(注付); 1042(注付)〜1043(注付)

第570図 3-2区 SP1069 平断面図 (1/20)

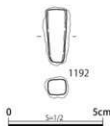


第571図 3-2区 SP1069 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや強い・粘性やや強い。

第572図 3-2区 SP1099 平断面図 (1/20)



第573図 3-2区 SP1099 出土遺物

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.35m、短軸は0.30m、深さは0.12mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1198は陶器で備前焼の播鉢である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(14世紀)以降の年代が想定される。

201号小穴 (SP1201) (第582・583図)

検出地点 S54グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.24m、深さは0.19mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 1199は棒状の鉄製品である。

時期 年代は特定できない。

236号小穴 (SP1236) (第584・585図)

検出地点 S55・56グリッド

規模・形態 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は0.43m、短軸は0.37m、深さは0.22mを測る。断面に形状は舟底形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

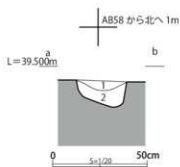
出土遺物 1200は鉄製の釘である。

時期 年代は特定できない。

237号小穴 (SP1237) (第586・587図)

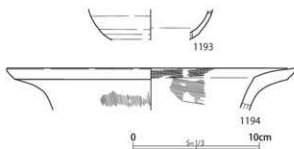
検出地点 S55グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.25m、短軸は0.20m、深さは0.12mを測る。断面の形状は舟底形である。



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘壤土・シルト混じりの砂質土層
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘壤土・シルト混じりの砂質土層

第 574 図 3-2 区 SP1109 平断面図 (1/20)



第 575 図 3-2 区 SP1109 出土遺物

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

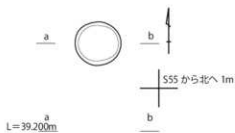
出土遺物 1201、1202 は土師質土器。1201 は皿で、底部の切り離しは回転糸切りである。1202 は羽釜である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代（14～15 世紀）以降の年代が想定される。

248 号小穴 (SP1248) (第 588・589 図)

検出地点 S・T55 グリッド

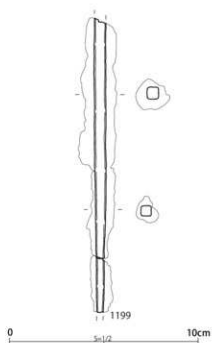
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.38m、短軸は 0.25m、深さは 0.14m を測る。断面の



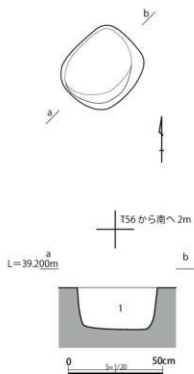
L=39.200m

1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(砂)しまりや中堅い/粘質や中堅い。

第 582 図 3-2 区 SP1201 平面図 (1/20)



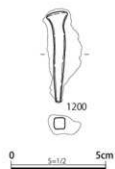
第 583 図 3-2 区 SP1201 出土遺物



L=39.200m

1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(砂)しまりや中堅い/粘質や中堅い。

第 584 図 3-2 区 SP1236 平面図 (1/20)



第 585 図 3-2 区 SP1236 出土遺物

出土遺物 1207、1208 は瓦質の平瓦である。

時期 出土した遺物から江戸時代（17世紀）以降の年代が想定される。

679号小穴（SP1679）（第596・597図）

検出地点 AD・AE62 グリッド

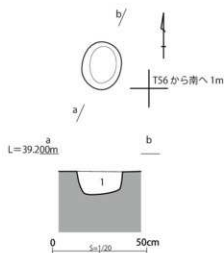
規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.50m、短軸は0.38m、深さは0.08mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

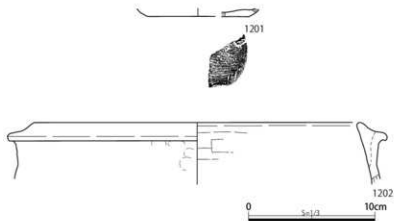
出土遺物 1209 は管状の土鍾である。

時期 年代は特定できない。

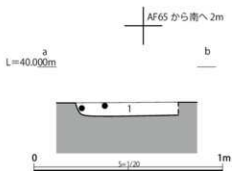
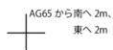
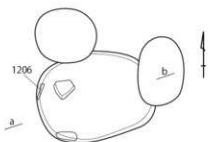


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 粘土・シルト混じり L11998.009.00. 55.0011-7.002(2.0)・2m7.0. 2.0(2.0)mm以内

第586図 3-2区 SP1237 断面図 (1/20)

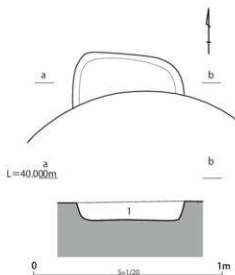


第587図 3-2区 SP1237 出土遺物



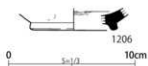
1 オリーブ期色 2.5Y 4/3 粘質土(少)灰(少) L1付(高)粘質砂土、7.5付(少)粘質砂土、黒く(粘)砂土

第 592 図 3-2 区 SP1481 平断面図 (1/20)

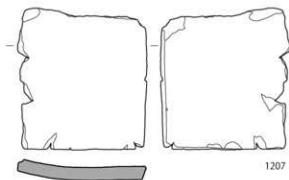


1 オリーブ期色 2.5Y 4/3 粘質土(少)灰(少) しまりやや弱い粘性やや強い

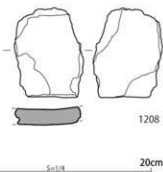
第 594 図 3-2 区 SP1492 平断面図 (1/20)



第 593 図 3-2 区 SP1481 出土遺物



第 595 図 3-2 区 SP1492 出土遺物



IVまとめ

1 弥生時代～古墳時代初頭期

①集落の立地 (第600図)

弥生時代の遺構は大きく見ると2か所に分布の集中が存在している。まず一つめの集中部分は0-2区から1-0区にかけての調査区で西地点と呼ぶことにする。もう一つは1-2区、2区、3-1区にかけての調査区で東地点と呼ぶ。この東西2か所の地点はⅢ章の部分でも触れているが、遺構面が上下2枚に分かれて検出されており、何れも下層の遺構面から弥生時代を中心とした遺構が検出されている。その他の調査区では基本的に古代末～中世の遺構面のみが検出されていることを考えると、東西2地点の部分を中心にそれぞれ幅100m前後、標高は39.5～40.0m前後の微高地が当時は存在しており、それらは扇状地の堆積方向に平行して馬の背状に南北方向に延びていたと考えられる。二つの地点の微高地の東西両側は窪地や流路が存在しており、東西両地点を分けていたと考えられる。

②前期末～中期の遺構の変遷 (第600図)

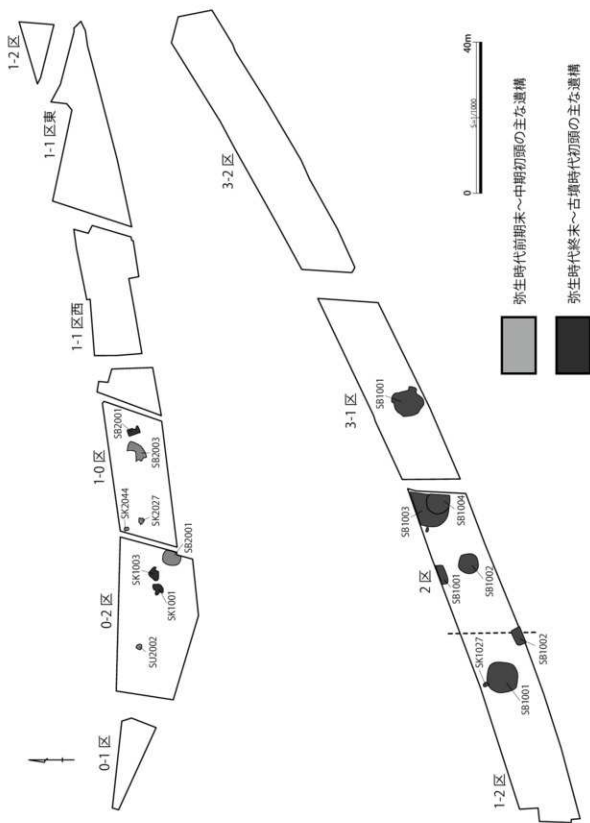
最初に弥生時代の遺構が出現するのは西地点で、その時期は前期末(Ⅰ-3期後半)～中期初頭(Ⅱ-1期)である。0-2区SB2001、SK2044、SU2002、1-0区SB2003、SK2004、SK2019、SK2037などの遺構からは短い頸部に櫛描直線文を施した広口壺や逆L字形や如意形の口縁部を持ち、頸部付近や体部上半に櫛描直線文や列点文を施した甕、口縁部が短くて「く」の字状に外反する鉢などを組成しており、やや古い様相を示している。1-0区SK2027、SK2044などの遺構からは体部の張り球形に近くなり櫛描波状文が施される壺や口縁部は短めで「く」の字状を呈し体部にヘラミガキが多用される甕が見られることから、より中期的な様相の一群と考えられる。遺構は竪穴住居として機能したと考えられるのは、炬や柱穴を備えた0-2区SB2001が1軒のみで、もう一つ的大型遺構である1-0区SB2003は集石状の石のまとまりとそこに土器と一緒に出土しているため窪地状の地形内への廃棄行為であった可能性も考えられる。その他の遺物がまとまって出土している1-0区SK2019、SK2027、SK2037、SK2044、その他含まれる土器は少ないが1-0区SK2034、SK2036なども同時期に砂岩礫と伴に土器を廃棄した土坑と考えられる。

③弥生時代末～古墳時代初頭の遺構の変遷

弥生時代の遺構が再び構築されるようになるのは後期後半～終末期になってのことである。当該期の遺構は東西両地点の微高地で検出されており、集落の規模が西地点のみの範囲であった前期末頃の集落に比べると拡大している事が分かる(第600図)。徳島県内の弥生時代終末～古墳時代前期にかけての土器の変遷については、近年では近藤玲(2002, 2014)、田川憲(2014)によって弥生時代後期Ⅵ期(1・2)～古墳時代初頭の庄内式(0～3)を4期、布留式を(0～4)の5期にそれぞれ分けて分類されている。以下本章では上記の変遷に準拠しながら遺構の床面付近において取り上げを行った土器の形態を基に時期変遷について大きく3時期に分けて記述していくこととする。

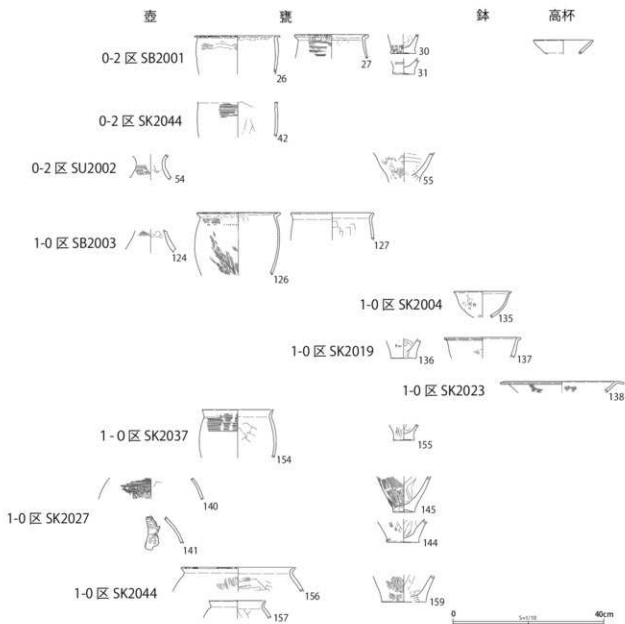
a) 第1期 (第601図)

0-2区SK2001、SK1003などの遺構が該当する。何れも西地点に所在しており、集落の展開が前期末と同様に西側の微高地から始まったものと考えられる。出土している土器の器種組成は壺、甕、鉢類



第 600 図 弥生時代の主な遺構

である。広口壺(4、12、13)は弥生時代後期後半からの系譜を引くものであり、頸部の立ち上がりは短く、口縁部は斜め上方に開いている。体部は倒卵形を呈し、底部は平底部分が明確に残されているためVI-2期に位置づけられる形態である。(6)や二重口縁壺(5)などは体部下半がやや膨らみ気味となり、底部についても丸底化がやや進んでいるため庄内0～2期まで下るものとみられる。甕は体部から口縁部にかけての屈曲が強い形態の甕①(10、16)と屈曲がそれほど強くなく斜め上方に延びる形態の甕②(7、8、15)が存在している。(7)は体部が後期段階のものに比較すると大きく膨らみ始めているが底部は平底部が残されており庄内2期に収まるものと考えられる。鉢は口縁部に屈曲が無く小型の鉢④とされるものしか組成していないが、底部から体部にかけての変換の明確さが無くなり始めているので庄内1～2期頃と考えられる。第1期は明確な遺構の分布が0-2区に限られており、遺構の内容も廃棄土坑と考えられるのもののみに限られているが、弥生後期後半(VI-2期)～庄内2期にかけて



第 601 図 弥生時代前期～中期初頭の土器 (図中の番号は報文番号)

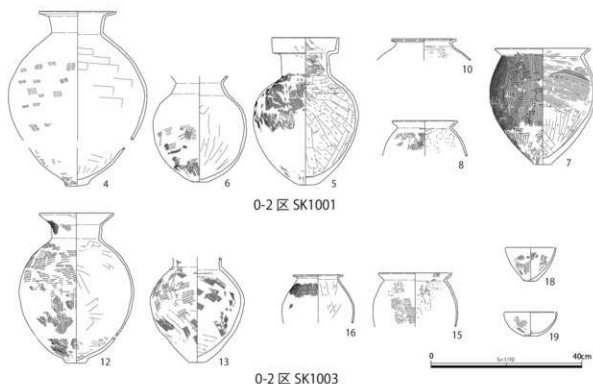
の時期に形成されたと考えられる。

b) 第2期 (第602図)

1-2区SB1002、2区SB1001、2区SB1002、3-1区SB1001などの遺構が該当する。何れも東地点に所在しており、集落の主な機能は西地点から東地点へと移ったと考えられる。出土した土器の器種組成は第1期に引き続き壺、甕、鉢類が中心である。二重口縁壺(590)は体部上半の球形化が進んでいるが、短い頸部が直立気味に残された形態である。(930)についても広口壺の可能性が高いが、(590)と同様に短い頸部が存在しており庄内3期に収まるものと考えられる。また2区SB1002からは細頸壺が出土しているが、底部の丸底化が進んでいるので同時期とみられる。甕については甕①(487、637)とその他の甕②類に分けられるが底部は丸底化が進んでいる(488、942など)。また小型の甕(576、578、967)も組成しており、これらを含めて庄内2～3期に収まると考えられる。鉢は体部から口縁部にかけて屈曲部を持つ鉢①(660、661)と屈曲部を持たずに立ち上がる鉢②(965)、小型の鉢④などが存在している。(661)は口縁部の屈曲がやや強く、底部にも平坦面が残されているためやや古い形態である(庄内1期)が、(660)は口縁部の屈曲が緩やかで、その他の鉢②、鉢④などの形態は庄内2～3期に収まるものとみられる。第2期は竪穴住居が最も多く構築されており、一辺が5m前後の小型方形住居(1-2区SB1002、2区SB1001)が2軒、径が約5mの小型円形住居(2区SB1002)が1軒、径が約8mの張出部付き中型円形住居(3-1区SB1001)が1軒検出されている。時期は庄内2～3期に形成されたと考えられる。

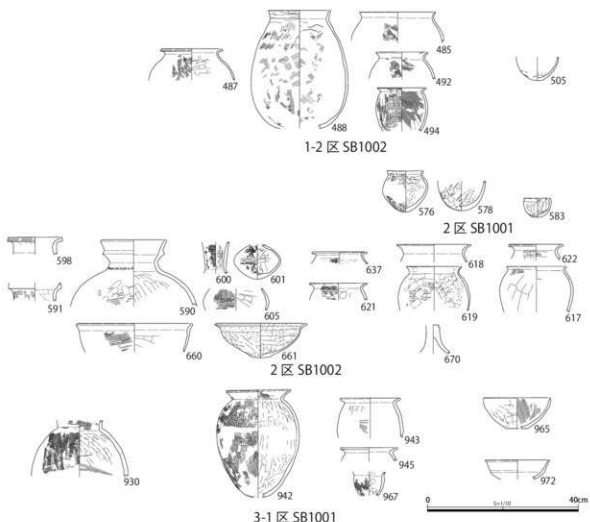
c) 第3期 (第603図)

1-2区SB1001、1-2区SK1027、2区SB1003、2区SB1004などの遺構が該当する。第2期と同様に主な遺構は東地点に所在しているが、西地点においても同期と考えられる遺物が散見されており、東



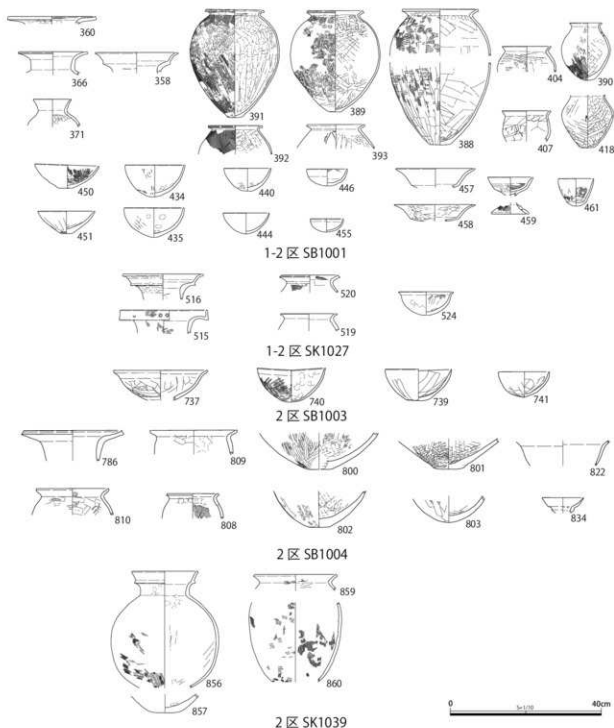
第602図 弥生時代終末～古墳時代初頭の土器① (図中の番号は報文番号)

西両地点に集落域が拡がる可能性も考えられる。出土した土器の器種構成は第1期、第2期に比べると増加する傾向が見られる。まず壺であるが直口壺(371)が組成している。口縁部は斜め上方に延び、体部は球形を呈するとみられる。広口壺(360、366、786)は短い頸部はやや開き気味に延びて、口縁部は大きく外に開いている。二重口縁壺(358、515、516、856)は口縁部が屈曲部から外反気味に開くものが主体となっている。いずれも庄内3～布留0期に収まると考えられる。甕は東阿波型の範疇に入る薄型の甕①(388、389、391、392、393)とやや小型化の進んだ甕②(404、407、809、808、810)が存在しており、それ以外にも体部から口縁部にかけて曲線的に外反する小型の形態(390、418)もみられる。体部から底部の形状などからみて庄内2～3期に収まると考えられる。鉢は最も出土数が増加を見せた器種である。鉢①は口縁部から体部にかけての屈曲が弱い形態が主体となり(737、822)、小型化したもの(524)も現れている。鉢②についても体部の立ち上がりの湾曲が強くなり丸底化が進んでいる(434、435、450、451、739、740)。小型の鉢④についても碗状のもの(440、444、741)とやや嵩が浅いもの(445、456)が存在している。また新たな形態として小型丸底鉢(461、834)が組成してくる。高杯は杯部が外反気味に大きく開くもの(457、458)が主体である。鉢、高杯ともに庄内3～布留0期に収まると考えられる。第3期は径が約6mの中型円形住居(2



第603図 弥生時代終末～古墳時代初頭の土器②(図中の番号は報文番号)

区 SB1004) が 1 軒、径が約 8m の中型円形住居 (1-2 区 SB1001) が 1 軒、推定で径が 10m 前後とみられる大型円形住居 (2 区 SB1003) が 1 軒検出されている。竪穴住居の規模は第 2 期に比べても拡大傾向が見られる。2 軒の切り合い関係が認められた 2 区 SB1003 と SB1004 の時間的な関係であるが、調査中の所見では SB1003 → SB1004 の順で調査が行われているが、床面から出土した遺物から判断するならば SB1004 → SB1003 への時間的な推移が考えられる。また西地点においても SB2001 や O-2 区包含層出土の高杯 (84) など当該期に所属すると考えられる遺物や遺構が散見されることから、集



第 604 図 弥生時代終末～古墳時代初頭の土器③ (図中の番号は報文番号)

落の盛行期と考えられる。時期は庄内3～布留0期頃と考えられる。

④竪穴住居内検出の鍛冶遺構

拝東遺跡からは2軒の竪穴住居から鍛冶炉と考えられる遺構が検出されており、それに伴って加工具や鉄素材、製品類も出土している。出土した遺構は3-1区SB1001(第2期)と2区SB1003(第3期)であり、庄内2期～布留0期にかけて継続的に集落内で鉄器の加工・製作が行われていたと考えられる。3-1区SB1001、2区SB1003に構築された鍛冶炉は何れも竪穴住居内のほぼ中央付近に位置しており、炉の規模も径が1.5～2m近くの大きさを測り大型である。平面のプランも単純な形状では無く、2ないしは3基の長方形土坑が並列したもの(2区SB1003EH1)や円形と長方形の土坑が組み合わせて築かれるもの(3-1区SB1001)が存在している。

拝東遺跡の鍛冶炉の構造は村上恭通氏の分類のⅠ類(堀り方を大きくとり、その内壁、底をよく焼き締め、その中に木炭や土を交互に重ねた防湿施設(地下構造)を備えるタイプ。)またはⅡ類(堀り方のみで、その内壁がわずかに焼けているタイプ。)とされるものである(村上1998)。どちらの住居の鍛冶炉も長方形土坑内には焼け込みの後がみられ(第405図、第484図)、その上の堆積土層にはカーボンペッド(SB1003EH1の10層、3-1区SB1001EH1の5層)が観察されている。拝東遺跡では鍛冶炉として利用された土坑の横に円形や長方形の土坑が附属しており、作業中の灰や不純物の掻き出しが行われていたものと推測される。このような複合形態のⅠ類の鍛冶炉は徳島県下においては矢野遺跡SB2037((財)徳島県埋蔵文化財センター2006)、名東遺跡SB2004((財)徳島県埋蔵文化財センター1995)などの弥生時代中期末(Ⅳ-3期)の竪穴住居内から検出されており、鉄器加工技術の伝播以後より普遍的にみられる形態と言えるかもしれない。また完掘されていないため不明な点もあるが、2区SB1003と切り合い関係にある2区SB1004内から検出されているEH1に関しても土坑内の壁に強い焼け込みが残されており、鍛冶炉として使用された可能性が考えられる。

同時期とみられる周辺地域の例では高知県高知市の西分増井遺跡や兵庫県淡路市の五斗長垣内遺跡などが存在している。西分増井遺跡では後期前葉～古墳時代初頭にいたる各時期の鍛冶遺構や関連遺物が出土しているため、ほぼ継続的に鉄器の生産が行われていたと考えられている。また検出された鍛冶炉についても後期中葉頃には堀り方を伴わないⅣ類中心であったのが、後期末～古墳時代初頭になると堀り方を伴うⅠ類、Ⅱ類が主体へと変化しており、低温操業のみの形態から高温操業を組み合わせた可能性が指摘されている((財)高知県文化財団埋蔵文化財センター2004)。五斗長垣内遺跡では西分増井遺跡と同様に後期前半から終末期にかけて継続的に鍛冶遺構や遺物が検出されている。しかし鍛冶炉に関してはⅣ類のみの操業とされており、低温操業による小規模な鉄器生産であったと考えられている(淡路市教育委員会2011)。拝東遺跡の鉄生産の在り方は前者に近いものと考えられ、周辺の住居でⅣ類鍛冶炉による生産形態を組み合わせながら鉄器の製作が行われていた可能性が高い。

2中世

①集落の立地

拝東遺跡においては弥生時代集落の形成以後、古墳時代、奈良時代などの遺物も散見されるが、再び遺構を伴って集落化が進むのは平安時代後半から終末期以降のことになる。0-2区で検出された炭窯

には黒色土器 A 類を伴出しており、遺跡周辺の開墾・伐採が進む時期と考えられる。しかし遺物は杯、皿類などの破片が少量伴う程度の遺構しか存在しないため、調査区内においては集落の実態は不明である。遺構数の増加がみられるのは鎌倉時代（12～13 世紀）以降の中世段階であり、その後遺構数の増減はみられるが出土遺物から 15 世紀頃まで集落は続いたと考えられる。

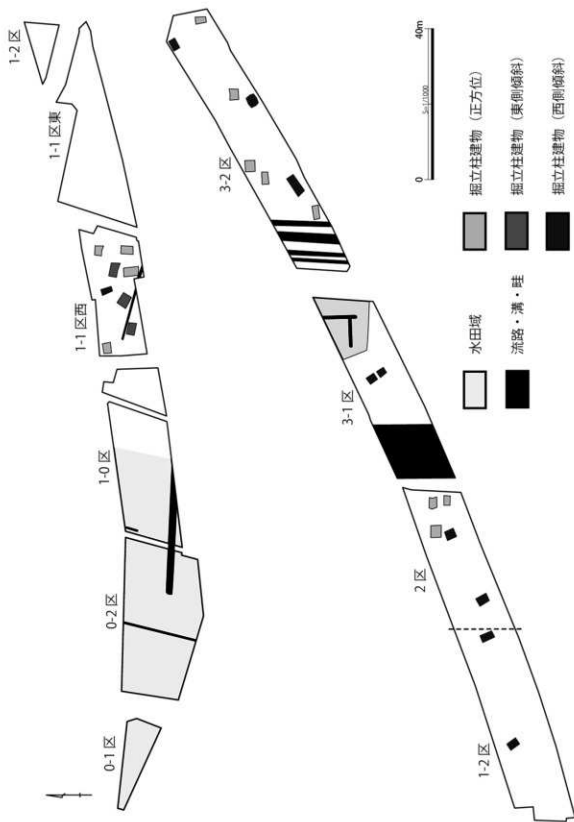
中世段階の遺構の分布は 1-0 区と 1-1 区西の間を境として東西に分けられる。つまり西側の 0-1 区、0-2 区、1-0 区は主に水田が広がっており、東側の 1-1 区西・東、1-2 区、2 区、3-1 区、3-2 区には掘立柱建物などを中心とした集落が存在している。遺構面の標高を比較した場合、西端の 0-1 区においては 40.5m 前後を測り、約 450m 離れた東端の 3-2 区においては 38.6m 前後であり、およそ 2m 近くの比高差が存在している。また微高地としてとらえるならば 0-2 区から 1-2 区にかけては標高 40m 前後の平坦面（上位平坦面）、2 区から 3-2 区にかけては標高 39.5 m 前後の平坦面（下位平坦面）がそれぞれ続いており、2 つの平坦面を利用して集落が形成されていたと考えられる。そのため上位平坦面でも最も標高の高い地点から検出されている西側の水田（0-1 区～1-0 区）の導水は扇状地地形のより高所にあたる調査区外の北西部から行われていたと考えられ、3-1 区の自然流路（SR1001）はその排水路もしくは東側の下位平坦面に開墾された水田の導水に利用されたと考えられる。

②掘立柱建物の分布

拝東遺跡の調査区において集落域とみられるのは 1-1 区西より以東の調査区である。遺構の密度は上位平坦面では 1-1 区西に集中する傾向が認められ、1-1 区東から 1-2 区にかけてはやや空閑地気味となる。また下位平坦面では 2 区と 3-2 区に集中する傾向がみられ、自然流路（SR1001）と並列する溝（3-1 区 SD1001～1004）に挟まれて水田等も存在している 3-1 区はやや空閑地として捉えられる。掘立柱建物は上述の 3 か所の遺構集中地域（1-1 区西、2 区、3-2 区）にほぼまとまって存在しており、集落を形成していたと考えられる。

調査区内において検出された掘立柱建物は計 25 軒である。その内訳は 1-1 区西に 8 軒、1-2 区に 2 軒、2 区に 5 軒、3-1 区に 2 軒、3-2 区に 8 軒となっている。建物の種類では側柱建物が 20 軒、庇付き側柱建物が 1 軒、総柱建物が 4 軒である。建物の床面積は最小の 3-1 区 SA1002 が 4.00m²、最大で 3-2 区 SA1002 が 12.38m² となっており、平均では約 7.1m² である。これは同時期で段丘上に所在する田上遺跡Ⅱの建物 13 軒と比較すると、最小で 9.3m²、最大では 44m²、平均では約 24.6m² となっており（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2000）、拝東遺跡の建物規模は小規模で小屋掛け状のものが主体と考えられる。調査区内が集落として拠点的とは考えにくい事項としては出土した遺物の内容やその量の少なさからも指摘できる。一般的な煮沸具、供膳具の少なさに加えて輸入磁器類、特に青磁の出土量の少なさなどは、この地が生活拠点としては恒常的に利用されたものでは無く、集落の中心は隣接する別地点に所在している可能性を考えるべきだろう。

検出された掘立柱建物は主軸方向から 3 群に分類ができる。以下ではそれらの分布状況についてまとめておく。第 1 群は主軸の方向あるいはそれに直交する壁が正方位（±10°以内）を指向する建物である。これらの建物は西側の 1-2 区に 4 軒、中央の 2 区に 3 軒、東側の 3-2 区に 5 軒の計 12 軒が分布している。第 2 群は主軸の方向あるいはそれに直交する壁が東方向に 10°以上傾いている建物である。このような建物は西側の 1-1 区西のみに 3 軒分布している。第 3 群は主軸の方向あるいはそれに直交する壁が西方向に 10°以上傾いている建物である。このような建物は西側の 1-1 区西に 1 軒、1-2

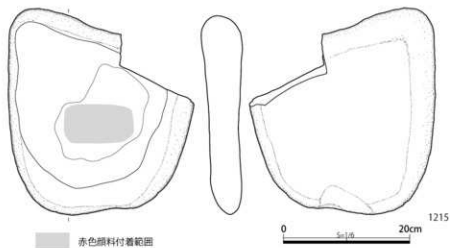


第 605 図 中世の主な遺構

区に2軒、中央の2区に2軒、3-1区に2軒、東端の3-2区に3軒の計10軒がそれぞれ分布している。3つの方位の建物群とその他の遺構、特に水田の畦や水路との方位を比較した場合、第Ⅰ群と同様に正方位を指向している遺構は、3-2区溝SD1001～1004とそれに隣接している3-1区の水田である。また全貌は明らかではないが3-1区SR1001内に築かれた石組み遺構も該当する可能性がある。第Ⅱ群と同様に東方向に傾きを持つ遺構は、0-1区～1-0区にかけて存在する水田の畦及び溝0-2区SD1001と1-1区西の溝SD1001である。第Ⅲ群と同様に西方向に傾きを持つ遺構は大型の遺構では該当するものは見当たらない。しかし長方形の土坑(SK)の中には、正方位や西向きを指向するものが一定数存在しているため、これらの遺構との関連で考える必要がある。それぞれの建物群が時期差を反映するかどうかは共存する遺物が少ないため結論を出すことはできないため、今後の課題としたい。

参考文献

- (財)徳島県埋蔵文化財センター 1995『名東道跡—建設省名東町宿舎建設に伴う発掘調査—』
 村上恭通 1998『倭人と鉄の考古学』青木書店
 (財)徳島県埋蔵文化財センター 2000『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告14 田上道跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』
 (財)徳島県埋蔵文化財センター 2001『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告21 試掘調査総括 下突出道跡 滝ノ宮道跡 佐城道跡(Ⅱ) 鶴射道跡 原道跡(Ⅱ)』
 (財)高知県文化財埋蔵文化財センター 2004『西分増井道跡Ⅱ 新川川広域河川改修に伴う西分増井道跡発掘調査報告書』
 (財)徳島県埋蔵文化財センター 2006『矢野道跡Ⅲ(弥生・古代篇)——一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査—』
 淡路市教育委員会 2011『五斗長畑内遺跡発掘調査報告—経営体育成基盤整備事業 五斗長地区に伴う発掘調査報告書—』



第606図 0-2区SK1001出土遺物②

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第87集

拝東遺跡

緊急地方道路整備事業（鳴門池田線）関連埋蔵文化財発掘調査報告書

〈第1分冊〉

発行日 平成28(2016)年3月25日

編集 公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2
TEL (088) 672-4545

発行 徳島県教育委員会
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社教育出版センター

